

科目名	現代社会学入門	科目名 (英文)	Introduction to contemporary sociology
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	樫田 美雄, 岩井 八郎, 落合 知子, 加戸 友佳子, 小池 高史, 竹中 祐二, 中澤 芽衣, 平山 洋介, 藤井 和佐, 堀田 裕子, 山本 圭三, 好井 裕明
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1001a0		

授業概要・目的	本授業は、受講生が「自分の日常の出来事が社会学での話題に結びついていること」「社会学での重要タームが日常のさまざまな場면을説明できること」などについての「気づき」を体験する、ということの基本コンセプトにする。「知識を定着させる」ことを主眼とする高校までの社会科とは異なり、社会学では知識や視点を得た後それを他の場面に応用したり、知識を活かして未知の現象を解明したりすることに1つの主眼がある。そのため、上記のような「気づき」は社会学の面白さそのものでもあり、社会学的な営為を進める原動力にもなり得るものとなるのである。授業では「日常と他者」「教育と逸脱」「都市と移動・定着」「エイジングと地域」といったテーマに沿って、我々の生活のさまざまな側面をオムニバスの取り扱う。授業の中では教員からの話題提供の後、ディスカッションや報告などを含めた多様なアクティブ・ラーニング形式を取り入れたかたちで学びを進める。こうした作業を通して、受講生が多方面にわたるテーマについて上記のような「気づき」を得て、後の4年間の学びに向けた基本姿勢を確立することが、本授業の狙いである。
到達目標	①社会学での議論が、自分たちの身近な問題をも説明できることがあると分かることができる。 ②身近な身近な出来事が、社会学における問題に結びついていることに気づくことができる。 ③社会のさまざまな現象について、多様に考えることの意義を理解できる。 ④社会学における基本的な概念を理解し、具体的に当てはめて説明できる。
授業方法と留意点	教員による講義の形式と共に、ディスカッションやグループワークなど、社会学的なアクティブシンキングが受講生ごとに達成されるよう多様な方法を実施する。 なお、課題や質問等についてのフィードバックは適宜行う。
科目学習の効果 (資格)	本講義は、「現代社会の諸問題」と並び、現代社会学部での4年間の学びの最も基礎になる科目である。本講義を通して、社会学の入門課程に必須のものとしての、態度変容がなされるのならば、1回生後期からの学習が有意義なものになるだろう。具体的には、授業で取り扱われた社会学の発想になじみつつ、自らが興味を持ったテーマに関してレポートを執筆することで、社会に関して多様に考える知的な基礎体力が身につく効果が得られることだろう。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義の目的と授業の方針、担当者の紹介	事前：教科書は初回授業から利用するので事前に「教科書販売所」にて購入し、目次までは見ておくこと。 事後：授業資料をもとに内容を学習
	2	日常と他者 1	・日常性にかんする話題提供 ・話題に即した受講生相互のディスカッション	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
	3	日常と他者 2	他者性にかんする話題提供 ・話題に即した受講生相互のディスカッション	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
	4	日常と他者 3	相互性にかんする話題提供 ・話題に即した受講生相互のディスカッション	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
	5	日常と他者 4	まとめのディスカッションとアウトプット	事前：アウトプット案を作成 事後：授業資料をもとに内容を学習
	6	教育と逸脱 1	・教育にかんする話題提供 ・話題に即した受講生相互のディスカッション	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
	7	教育と逸脱 2	・逸脱行動にかんする話題提供 ・話題に即した受講生相互のディスカッション	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
	8	教育と逸脱 3	まとめのディスカッションとアウトプット	事前：アウトプット案を作成 事後：授業資料をもとに内容を学習
	9	都市と移動・定着 1	・都市にかんする話題提供 ・話題に即した受講生相互のディスカッション	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
	10	都市と移動・定着 2	・移動・定住にかんする話題提供 ・話題に即した受講生相互のディスカッション	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
	11	都市と移動・定着 3	まとめのディスカッションとアウトプット	事前：アウトプット案を作成 事後：授業資料をもとに内容を学習
	12	エイジングと地域 1	・都市の高齢化にかんする話題提供 ・話題に即した受講生相互のディスカッション	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
	13	エイジングと地域 2	・農山漁村の高齢化にかんする話題提供 ・話題に即した受講生相互のディスカッション	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
	14	エイジングと地域 3	まとめのディスカッションとアウトプット	事前：アウトプット案を作成 事後：授業資料をもとに内容を学習
	15	まとめ	講義のまとめ・今後に向けて	事前：事前配付資料を読んでおく（期末レポートの構想を立ててから授業に臨むことが望ましい） 事後：授業資料をもとに内容を学習

関連科目	「現代社会の諸問題」、現代社会学部のすべての専門基礎科目
------	------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「今、ここ」から考える社会学	好井 裕明	筑摩書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	一橋桐子<76>の犯罪日記	原田 ひ香	徳間書店
	2	Iの悲劇	米澤 穂信	文藝春秋
	3	たんぼぼ団地のひみつ	重松 清	新潮社
評価方法 (基準)	日常のアウトプット (40%)、期末レポート課題 (60%) で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	摂南大学・現代社会学部へようこそ。必修の2つの「オムニバス授業 (現代社会の諸問題、と、現代社会学入門) は、それぞれ、月曜日2限と火曜日2限に設定されています。まずは、起きて学校に来よう。そして、社会学を学ぼう。(火曜日の3限には1年生のゼミナールが開講されています。こちらにも出ましょう)			
担当者の 研究室等	3号館3階には、各担当の先生方の研究室があります。わからなければ、『現代社会学入門』の世話人団教員の樫田または山本または中澤または加戸の各研究室 (中澤先生と加戸先生は助教室) へ。			
備考	事前・事後学習については、15回の合計で、60時間をかけて作業をしてもらおう。			

科目名	現代社会の諸問題	科目名 (英文)	Issues in Contemporary Society
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浅野 慎一, 稲生 勝, 上野山 裕士, 江口 怜, 加戸 友佳子, 後和 美朝, 須藤 遙子, 竹端 佑介, 田中 晶子, 谷めぐみ, 中澤 芽衣, 松本 恭幸
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1002a0		

授業概要・目的	現代社会は、さまざまな解決すべき諸問題に直面している。 本講義ではこれを、①大学生にとって身近な生活上の諸問題（家族と心理、学校と教育、コミュニティと情報）、②一人ひとりの人間の身体や心と社会をつなぐ諸問題（健康と保健・衛生、スポーツと社会、心身とコミュニケーション）、そして③ローカル（地域的）からグローバル（地球的）にまで立ち現れている諸問題（地域社会と「生きづらさ」、戦争とメディア、気候危機と現代世界）という3つの領域で考察する。 現代社会におけるさまざまな諸問題に関する基礎知識を学ぶとともに、社会の構造やその変動、および、個々人の日常生活における解決課題を相互に結びつけて捉える「社会学的想像力」を身につける。
到達目標	①現代社会が直面している諸問題についての基礎知識を得ることができる。 ②現代社会の構造的な諸問題を、個々人の日常生活のレベルに降りた「自分ごと」として認識することができる。 ③個々人の日常生活・身体・心理で起きている諸問題を、現代社会の構造や変動と関連させて考察することができる。 ④これらの基礎知識や認識・考察を、今後の社会の主体的創造・再編について考えるために応用できるようになる。 ⑤幅広い現代社会の諸問題の中で、受講生各自が自身の関心・問題意識を明確にし、今後の学びの方向性・領域について考察することができる。
授業方法と留意点	授業の一部は教員による講義の形式とするが、事前課題をふまえた反転授業、および、受講者相互によるディスカッション、ブレインライティング、ヤーンニングサークル、プレゼンテーション、ワークシート作成など、主体的な学びを重視する。 教科書は指定しないが、各時間の授業内容に即した参考書・参考文献を指示する。授業内容は主にパワーポイントで提示し、適宜、プリント・ワークシート等も配布する。 授業内で出された疑問・質問等に対しては、各授業内で対応するとともに、3つの領域それぞれで総括的に回答・対応する機会をもつ。
科目学習の効果（資格）	本講義は、「現代社会学入門」と並び、現代社会学部での4年間の学びの最も基礎になる科目である。本講義を通して、幅広い現代社会の諸問題について基礎知識を得るとともに、受講生各自が自らの関心・問題意識を明確にし、今後の学びの方向性・領域について考察することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	I. 現代社会の諸問題とは何か ①本講義の課題と方法	現代社会の諸問題についての総論、および、多種多様な社会領域の研究の意義・面白さ・魅力を概説する。また本講義の目的・到達目標、今後の進め方・授業方法などを明示する。	事前：シラバスの理解 事後：授業内で提示する課題への回答
2	I. 現代社会の諸問題とは何か ②私(学生)が考える「現代社会の諸問題」	受講者が考える「現代社会の諸問題」について、特徴・傾向を共有・考察する。ヤーンニングサークルを実施する予定。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答
3	II. 身近な現代社会の諸問題 ①家族と心理	家族という集団の特徴、家族に関する事項、家族を通して浮かび上がる諸問題を心理学の視点から考える。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答
4	II. 身近な現代社会の諸問題 ②学校と教育	学校システムは今、多くの課題を抱えており、学校批判や学校改革が様々な議論されている。本講では「学校」とはそもそも何かを歴史的に振り返りながら、現在の「学校」をどのように考えればよいかを議論する。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答
5	II. 身近な現代社会の諸問題 ③コミュニティと情報	学生にとって身近なサードスペース（居場所）は、地域コミュニティの人の繋がりの希薄化、情報化社会におけるオンラインコミュニティの誕生により、大きく変化しつつある。本講では、より良いサードスペースのあり方を考察する。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答
6	II. 身近な現代社会の諸問題 ④学校・家族・コミュニティを多角的に考える	学校・家族・コミュニティという身近な社会の問題について、受講生相互のディスカッションを行う。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答
7	III. 身体と心をめぐる現代社会の諸問題 ①健康と保健・衛生	生涯のライフステージにはそれぞれに特有の健康課題がある。本講では、それらの発症要因について考え、現代社会における我が国の保健・衛生活動について議論する。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答
8	III. 身体と心をめぐる現代社会の諸問題 ②スポーツと社会	現代社会におけるスポーツの社会的意義や価値、役割について考察する。また、スポーツをめぐる諸問題を多角的に検討し、変化する社会や生活との関連で、今後の望ましいスポーツのあり方を考える。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答
9	III. 身体と心をめぐる現代社会の諸問題 ③心身とコミュニケーション	現代において、我々は多様なストレスを抱えている。私たちを取り巻く「外界」との関わりによって生じる心身のストレスと自己との対話について考え、議論する。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答
10	III. 身体と心をめぐる現代社会の諸問題 ④健康・スポーツ・心理を複眼的に考察する	身体と心をめぐる現代社会の諸問題について、受講生相互のディスカッションならびにプレゼンテーションを行う。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答
11	IV. ローカルからグローバルへ展開する現代社会の諸問題 ①地域社会と「生きづら	地域には、価値観と境遇の多様化に起因する様々な「生きづらさ」が存在する。これを社会で解消していくための方法、一人ひとりができることを、地域福祉の	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答

	さ」	観点から考える。																	
12	IV. ローカルからグローバルへ展開する現代社会の諸問題 ②戦争とメディア	戦争時のメディア報道は、戦争のあり方・行方・世論に大きな影響をもたらす。本講では、戦争での SNS を含むメディアの役割や影響について考察する。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答																
13	IV. ローカルからグローバルへ展開する現代社会の諸問題 ③気候危機と現代世界	深刻さを増す気候危機について、現代世界の政治・経済、科学技術の動向をふまえて考察し、社会や行動のあるべき姿を考える。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答																
14	IV. ローカルからグローバルへ展開する現代社会の諸問題 ④ニュースを多角的視点で読む	グローバルな現代社会の諸問題について、教員によるニュース解説をふまえて、受講生相互のディスカッション、プレゼンテーションを行う。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答																
15	V. 総括：未来社会の創造に向けて	現代社会の諸問題について、受講者による総括的なプレゼンテーション、ディスカッションを行う。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答																
関連科目	「現代社会学入門」、現代社会学部のすべての専門基礎科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	毎回の提出物(事前・事後課題)(60%)、多様な形式でのアクティブラーニングへの主体的参加貢献(30%)、レポート(10%)																		
学生への メッセージ																			
担当者の 研究室等	浅野慎一の研究室																		
備考	60 時間程度の事前・事後学習をすること。																		

科目名	社会学説史	科目名 (英文)	History of Sociology
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	好井 裕明
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1003a0		

授業概要・目的	近代社会を捉えるものの方にはどのようなものがあるのだろうか。社会学ではそれぞれが生きた時代状況を反映した理論の蓄積がある。本授業では、エミール・デュルケーム、マックス・ヴェーバー、ゲオルグ・ジンメル、シカゴ社会学、アーバン・エスノグラフィ、G.H. ミード、R.K. マートン、T. パーソンズ、E. ゴフマン、A. シュッツ、H. ガーフィンを中心として、彼らが創造した理論や概念をわかりやすく説明する。それらは社会を捉える基礎であり、社会学を考える基礎と言える。「資本」「労働」「価値」「合理性」「行為」「構造」「関係性」「自己」「共在」「日常生活世界」「人々の方法」という概念と社会の見方を理解し、自分自身の問題関心に活用できる知として受講生各自が習得することを目的とする。
到達目標	①近代社会のありようと社会学の知を理解することができる。 ②過去概念や理論が現代社会を理解するうえで有効であることを確認することができる。 ③過去の概念や理論を参照しながら、受講生各自が自らの問題関心を洗練させることができる。 ④受講生各自の問題関心に活用できる知として社会学理論と概念を習得することができる。
授業方法と留意点	基本は講義形式で行います。必要な事項は適宜、板書します。さらに適宜、講義内容に関連するワークを授業中に実施します。全体の講義のなかで、5回、小課題を課す予定です。 なお、課題や質問等についてのフィードバックは適宜行う。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	近代社会の成立と社会学の始まり	産業革命後、近代社会がいかに成立したのかを説明し、社会学が近代社会とそこで生きる私たちの自己認識の学として成立したことを説明する。	事前：教科書1第1章を読んでおく(2時間)。 事後：講義内容を整理し、再度教科書1の第1章を読みなおす(2時間)。
2	構造主義と社会的事実：エミール・デュルケームの社会学	「構造」からいかに社会を考えることができるのか。「社会的事実」という重要な概念も含め、『自殺論』という名著を中心にエミール・デュルケームの社会学を概説する。	事前：教科書1第3章を読む(2時間)。 事後：講義内容を整理し、教科書1第3章を再度読み直す(2時間)。	
3	合理化と『プロ倫』：マックス・ヴェーバーの社会学1	社会学の巨人であるマックス・ヴェーバーの社会学1。「呪術からの解放」と合理化という問題。『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』の意味や意義を説明する。	事前：前回の講義内容を復習しておく(2時間)。 事後：講義内容を整理し、教科書1第4章(83-98頁)を読む(2時間)。	
4	支配の3類型と官僚制、社会的行為：マックス・ヴェーバーの社会学2	マックス・ヴェーバーの社会学2：近代社会を捉える重要な道具として「支配の3類型」「官僚制」「社会的行為」の考え方を説明する。	事前：前回の講義内容を復習しておく(2時間)。 事後：講義内容を整理し、教科書1第4章(98-106頁)を読む(2時間)。	
5	形式社会学と疎外：ゲオルグ・ジンメルの社会学	もう一人の巨人であるゲオルグ・ジンメルの社会学。社会や人間関係の形式、「人間的疎外」など現代社会分析に通じる重要な社会学を説明する。	事前：ヴェーバーの社会学を復習しておく(2時間)。 事後：教科書1第5章を読む(2時間)。	
6	社会問題から社会学へ：シカゴ社会学1	シカゴでなぜ社会学が起こったのか。W. I. トマスやズナニエツキの社会学を説明する。	事前：ジンメルの社会学を復習しておく(2時間)。 事後：教科書1第6章(155-171頁)を読む(2時間)。	
7	社会問題から社会学へ：シカゴ社会学2	社会問題の社会学としていかにシカゴ社会学が展開したのか。R.E. パークの社会学を中心に説明する。	事前：1920年代のアメリカの状況を調べておく(2時間)。 事後：教科書1第6章(155-171頁)を今一度読む(2時間)。	
8	社会調査の基礎：アーバン・エスノグラフィ	現在の社会調査(質的・量的)の基礎であるシカゴ社会学のアーバン・エスノグラフィの意味と意義を概説する。	事前：初期のシカゴ社会学を復習しておく(2時間)。 事後：講義内容を整理し、教科書1第6章(171-179頁)を読む(2時間)。	
9	社会的自己論：G.H. ミードの社会学	G.H. ミードの社会学。個人のアイデンティティとは何か。社会に対する個人のありようを捉える基本である「社会的自己論」を説明する。	事前：前回の講義内容を復習しておく(2時間)。 事後：講義内容を整理し、教科書1第6章(179-186頁)を読む(2時間)。	
10	機能主義理論：R.K. マートンの社会学	社会学の基本的な説明概念である「機能」。人類学と社会学の機能主義を説明し、R.K. マートンの機能主義の整理を概説する。	事前：教科書1第7章(218-226頁)を読む(2時間)。 事後：講義内容を整理し、教科書1第7章(218-226頁)を復習し理解する(2時間)。	
11	構造機能主義と均衡：T. パーソンズの社会学	構造-機能主義理論の始祖、T. パーソンズの社会学。AGIL 図式、社会システム論、パターン変数など説明し、社会の「均衡」とは何かを考える。	事前：前回の講義内容を復習しておく(2時間)。 事後：教科書1第7章(187-217頁)を読む(2時間)。	
12	相互行為秩序と共在：E. ゴフマンの社会学	「他者とともに在ること」をテーマとしたE. ゴフマンの社会学。対面的相互行為、印象操作、演劇論的自己、相互行為秩序など他者と自己の関係を捉える考え方を説明する。	事前：パーソンズの社会学を復習しておく(2時間)。 事後：講義内容を整理し、復習しておく(2時間)。	
13	日常生活世界の発見：A. シュッツの社会学	従来の社会学が前提としてきた「日常生活世界」「常識的世界」それ自体を社会学の分析対象とするA. シュッツの現象学的社会学。「日常生活世界論」「多元的現実」などを説明する。	事前：ゴフマンの社会学を復習しておく(2時間)。 事後：講義内容を整理し、復習しておく(2時間)。	
14	人々の方法・人々の社会学：エスノメソドロジー	日常さまざまな場面で私たちはどのように現実をつくりあげているのだろうか	事前：シュッツの「日常生活世界論」を復習しておく(2時間)。	

			か。「実践的社会学者」としての私たちの姿を微細に読み解くエスノメソドロジー。その基本を説明する。	事後:エスノメソドロジーとは何かを講内容をもとに今一度理解しておく(2時間)。
15	現代社会を捉える6つの視点(まとめ):「行為」「構造」「関係性」「自己」「日常生活世界」「人々の方法」	社会学の巨人たちが創造してきたさまざまな理論や概念、分析装置。それらを「今、ここ」から社会を考えるために必要な6つの視点でまとめ直す。		事前:エスノメソドロジーとは何かを復習しておく(2時間)。 事後:教科書2第1章を読み、しっかりと理解する(2時間)。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	社会学の歴史I	奥村 隆	有斐閣
	2	「今、ここ」から考える社会学	好井 裕明	筑摩書房
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	授業中の小課題レポート(800~1000字)5回(50%)と定期試験(50%)で評価し、60%以上を合格とします。			
学生へのメッセージ	これから4年間学ぶ社会学とは何か。先人が考え出した考え方や思いを理解することで、学問としての社会学をまずは理解してほしいと思います。そしてそれは単に学問的な知識ではなく、各自が社会で生きていくうえで社会や自分そして他者を批判的に捉え直す「生きられた道具」としても役立つことをできるだけわかりやすくお伝えしたいと思っています。大学の授業とはこんなものだとことを味わってほしいと思います。			
担当者の研究室等	3号館3階・好井研究室			
備考				

科目名	社会心理学	科目名 (英文)	Social Psychology
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1004a0		

授業概要・目的	社会心理学は、私たちが暮らす社会の中で、人と人で行われるやりとりの法則や生じやすい問題、集団や社会の中での個人の行動について、心理学的観点から明らかにすることを目的としている。幅広い社会心理学の分野の中から本科目では、社会的認知、社会的影響、対人コミュニケーション、集団の中での個人の行動について基礎的なトピックスを取り上げ、概説する。本科目を履修することにより、社会心理学で扱われる事象についての基本的知識を得ること、日常生活における自分や他者の行動について社会心理学的な視点から理解することをめざす。
到達目標	① 社会心理学の基本的知識や考え方を理解することができる。 ② 日常生活における自分の行動や人とのやりとりを、社会心理学的な視点から理解し、説明できる。
授業方法と留意点	配付資料、パワーポイントによって行う。授業内容の理解を深めるため、適宜受講生が相互に考えや意見を共有できる機会を持つ。また、理解の定着を促すため、適宜ミニクイズを実施する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	印象形成①	対人認知を規定する要因、初頭効果、中心特性等に関する知見を概説する。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う。
3	印象形成②	ステレオタイプや偏見の影響、責任帰属等に関する知見を概説する。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う。
4	自己認知・自己評価	自己スキーマや自己評価の維持に関する知見を概説する。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う。
5	社会的比較・自己呈示	社会的比較や自己呈示に関する知見を概説する。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う。
6	攻撃行動	メディアと攻撃行動、個人差に関する知見を概説する。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う。
7	援助行動	援助行動の規定要因、傍観者効果等に関する知見を概説する。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う。
8	同調と少数派の影響①	同調の規定要因に関する知見を概説する。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う。
9	同調と少数派の影響②	少数派の影響、服従の心理に関する知見を概説する。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う。
10	同調と少数派の影響③	合意形成のプロセスについて同調と少数派の影響力の観点から概説する。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う。
11	説得コミュニケーション①	態度形成と説得に関する知見を概説する。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う。
12	説得コミュニケーション②	要請と受諾に関する知見を概説する。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う。
13	集団意思決定	社会的手抜きやリスクシフト、リーダーシップ等に関する知見を概説する。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う。
14	うわさと流言	うわさと流言の規定要因、都市伝説やSNSに関する知見を概説する。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う。
15	まとめ	授業のまとめとふりかえりをする。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「心のクセ」に気づくには - 社会心理学から考える	村山綾	筑摩書房
2	まんがでわかる社会心理学	北村英哉	カンゼン	
3	すばらしきアカデミックワールド	越智啓太	北大路書房	

評価方法 (基準)	定期試験 90%、授業時のミニクイズや授業への参加態度 10%
-----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	3号館3階・田中研究室
----------	-------------

備考	事前学習 (配布資料の確認、事前課題への取り組み等) と事後学習 (授業資料に基づく内容の復習等) をあわせて概ね 60 時間程度の授業外学習時間が必要となる。
----	--

科目名	環境社会学	科目名 (英文)	Environmental and Social Studies
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	稲生 勝
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1005a0		

授業概要・目的	気候危機、生物多様性の喪失、酸性雨、プラスチックごみ問題、森林破壊など、人類の存続が危ぶまれる環境問題について、これらを現代社会の問題として考える。 まず、その本質がよく現れている公害は、過去のものでなく、現在進行中であるのだが、公害をもたらした社会の構造を把握するとともに、それに対する反対運動も見て、基本的な理解を図る。 そのうえで、地球規模となった環境破壊を、やはり、社会の構造の問題としてみていくとともに、それらの解決を求める社会運動の在り方を考える。
到達目標	公害をもたらす社会の構造を理解する。 公害反対運動の意義を理解する。 公害と地球環境問題の連続性を理解する。 それらをめぐる運動の成果と、グリーンウォッシュなどに抵抗する社会勢力を認識する。

授業方法と留意点	講義は、映像を用いたい。 ブレインライティングを取り入れたい。 授業内で出された疑問・質問に対しては、各授業内で対応するとともに、数回に一度、総括的に回答・対応する機会をもつ。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講義の進め方 公害をめぐる3段階の似非科学論争	事後学習；似非科学論争を復習 4時間
2	水俣病	熊本水俣病、新潟水俣病、第3水俣病の原因、認定基準、未認定患者、潜在患者問題など	事前学習；ノーモア水俣裁判などを調べる4時間
3	公害をめぐる3段階の似非科学論争	原因、認定基準、残された問題	事後学習；スモールクイズの準備 4時間
4	イタイタイ病	イタイタイ病の原因、認定基準、未認定患者、潜在患者問題など	事後学習；スモールクイズの準備 4時間
5	四日市ぜんそく	四日市ぜんそくの原因、認定基準、未認定患者、潜在患者問題など	事後学習；スモールクイズの準備 4時間
6	公害反対運動	裁判、住民運動、革新自治体の成立など	事後学習； レポート作成 4時間
7	気候危機①	被害状況、自然科学的な仕組み、正のフィードバック	事前学習；映像などの視聴 4時間
8	気候危機②	国際的な交渉過程 化石賞など	事後学習；スモールクイズの準備 4時間
9	気候危機③	気候危機に取り組む国際的、日本国内の運動	事後学習；ブレインライティングのチェック 4時間
10	生物多様性の喪失①	現状と問題点	事後学習；生物多様性センターの見学？ 4時間
11	生物多様性の喪失②	国際的な取り組み、アメリカの保全条約への未加盟問題、遺伝子組み換え生物の逸出問題	事後学習；スモールクイズの準備 4時間
12	工業的農業による自然破壊	気候危機との関わり 食料自給率の低下 途上国の農地開発による森林破壊	事後学習；スモールクイズの準備 4時間
13	自然農法、有機農業	農薬問題、食の安全	事後学習；スモールクイズの準備 4時間
14	森林破壊	熱帯雨林の破壊、日本における森林破壊	事後学習；植物園の見学？ 4時間
15	まとめ	今日の公害問題、基地公害など	事後学習；期末レポート4時間

関連科目	自然と科学の社会学
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	グレッタさんの訴えと水害列島日本	岩佐 茂ほか	学習の友社
	2	原発汚染水はどこへ	岩佐 茂ほか	学習の友社
	3	環境リテラシー	稲生 勝ほか	リベラ出版

評価方法 (基準)	スモールクイズ30% 中間レポート30% 期末レポート40%
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	学生の理解度なども考慮し、変更もありうる。
-----------	-----------------------

担当者の研究室等	3号館3階・稲生研究室
----------	-------------

科目名	都市計画論	科目名 (英文)	Urban Planning
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	平山 洋介
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1006a0		

授業概要・目的	都市計画の分野では、経済・金融のグローバル化、産業の脱工業化、公共政策の市場重視への転換、人口・家族構造の変容、リスク社会の形成、市民社会・住民コミュニティの台頭など、前世紀末からの社会・経済・政治・イデオロギーの大規模な変化のもとで、先進諸国の多くに共通して、とくに“都市再生”のあり方が論点となってきました。この都市再生に関して、メガプロジェクトの推進、安全・安心の追求、タワーマンションの増大、人びとのライフコースの変化、老朽住宅地の改善、住民参加の街づくりなど、幅広い素材をとりあげ、誰が、誰のために、何のために、どうやって都市をつりかえようとしているのか、それは何を意味しているのか、という問いを立て、検討します。
到達目標	①都市計画の概要について知識を得ることができます。 ②グローバル・エイジの都市再生について、その論理と手法の知識を得ることができます。 ③都市再生の多様なプロジェクトについて、幅広い知見を得ることができます。 ④都市について検討するグループワークの経験を得ることができます。
授業方法と留意点	この授業は、おもに講義とグループワークから構成されます。授業の多くで、学生諸氏は、(1) 短い講義を聴いた上で、(2) グループワークに取り組み、(3) グループごとに、持ち回りのリーダーが中心となってミニレポートを作成・提出する、という手順で学習していきます。なお、受講生の数、授業の進み具合などによって、授業の内容に変更がありえますこと、申し添えます。

科目学習の 効果 (資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業の進め方とグループ分け</td> <td>授業の進め方の説明後に、グループをつくり、グループごとに、自己紹介、連絡網作成などを行います。</td> <td>事前：シラバス通読とそれに関連する学習 事後：授業の進め方の確認とそれに関連する学習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>都市再生について</td> <td>この回のみ、すべての時間を使って講義をします。都市再生の展開がどのような論理にもとづき、どのような状況を生みだしているのかを述べます。</td> <td>事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容の復習と関連学習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ホット/コールドスポット</td> <td>不動産投資が進む「熱い」エリアと脱投資の「冷たい」エリアに都市が分裂するメカニズムと実態を分析します。講義後にグループごとにミニレポートを検討します。</td> <td>事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>安全・安心または監視</td> <td>都市再生の重要課題となった安全・安心ないし監視のための政策と技術を分析します。講義後にグループごとにミニレポートを検討します。</td> <td>事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>都心公園の再生</td> <td>民間投資による都心公園の再生をどう理解・評価するのかを考察します。講義後にグループごとにミニレポートを検討します。</td> <td>事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>地方再生の挑戦</td> <td>地方再生の政策と実践をどう理解・評価するのかを検討します。講義後にグループごとにミニレポートを検討します。</td> <td>事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>若者のライフコース変化</td> <td>社会経済変化のなかで都市に住む若い人たちのライフコースがどう分岐したのかを分析します。講義後にグループごとにミニレポートを検討します。</td> <td>事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>女性のライフコース変化</td> <td>都市のジェンダー化のもとで女性のライフコースがどう分岐したのかを分析します。講義後にグループごとにミニレポートを検討します。</td> <td>事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>高齢者とライフコース変化</td> <td>人びとのライフコース分岐によって、その最終地点である高齢期に、生活条件にきわだった違いが生まれました。この点を、とくに住宅に着目して分析します。講義後にグループごとにミニレポートを検討します。</td> <td>事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>貧困とセーフティネット</td> <td>都市貧困の原因と実態を考察し、セーフティネット政策のあり方を評価します。講義後にグループごとにミニレポートを検討します。</td> <td>事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>人間像の発明</td> <td>都市再生における人間像の再構築の試みを分析します。講義後にグループごとにミニレポートを検討します。</td> <td>事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>もう一つの都市再生</td> <td>高齢年住宅地、オールドニュータウン、空き家地域、スモールビジネス地域などのボトムアップ型再生を検討します。講義後にグループごとにミニレポートを検討します。</td> <td>事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>貧困地区の再生</td> <td>貧困地区の再生について、団地再生の実例などを分析します。講義後にグループごとにミニレポートを検討します。</td> <td>事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>大災害からの住宅・地域復興</td> <td>大災害からの住宅・地域の再生について、実態と課題を検討します。講義後にグループごとにミニレポートを検討します。</td> <td>事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>これまでの授業を振り返り、ミニテスト</td> <td>事前：ここまで提出したグループ・ミニレポート</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業の進め方とグループ分け	授業の進め方の説明後に、グループをつくり、グループごとに、自己紹介、連絡網作成などを行います。	事前：シラバス通読とそれに関連する学習 事後：授業の進め方の確認とそれに関連する学習	2	都市再生について	この回のみ、すべての時間を使って講義をします。都市再生の展開がどのような論理にもとづき、どのような状況を生みだしているのかを述べます。	事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容の復習と関連学習	3	ホット/コールドスポット	不動産投資が進む「熱い」エリアと脱投資の「冷たい」エリアに都市が分裂するメカニズムと実態を分析します。講義後にグループごとにミニレポートを検討します。	事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成	4	安全・安心または監視	都市再生の重要課題となった安全・安心ないし監視のための政策と技術を分析します。講義後にグループごとにミニレポートを検討します。	事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成	5	都心公園の再生	民間投資による都心公園の再生をどう理解・評価するのかを考察します。講義後にグループごとにミニレポートを検討します。	事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成	6	地方再生の挑戦	地方再生の政策と実践をどう理解・評価するのかを検討します。講義後にグループごとにミニレポートを検討します。	事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成	7	若者のライフコース変化	社会経済変化のなかで都市に住む若い人たちのライフコースがどう分岐したのかを分析します。講義後にグループごとにミニレポートを検討します。	事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成	8	女性のライフコース変化	都市のジェンダー化のもとで女性のライフコースがどう分岐したのかを分析します。講義後にグループごとにミニレポートを検討します。	事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成	9	高齢者とライフコース変化	人びとのライフコース分岐によって、その最終地点である高齢期に、生活条件にきわだった違いが生まれました。この点を、とくに住宅に着目して分析します。講義後にグループごとにミニレポートを検討します。	事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成	10	貧困とセーフティネット	都市貧困の原因と実態を考察し、セーフティネット政策のあり方を評価します。講義後にグループごとにミニレポートを検討します。	事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成	11	人間像の発明	都市再生における人間像の再構築の試みを分析します。講義後にグループごとにミニレポートを検討します。	事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成	12	もう一つの都市再生	高齢年住宅地、オールドニュータウン、空き家地域、スモールビジネス地域などのボトムアップ型再生を検討します。講義後にグループごとにミニレポートを検討します。	事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成	13	貧困地区の再生	貧困地区の再生について、団地再生の実例などを分析します。講義後にグループごとにミニレポートを検討します。	事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成	14	大災害からの住宅・地域復興	大災害からの住宅・地域の再生について、実態と課題を検討します。講義後にグループごとにミニレポートを検討します。	事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成	15	まとめ	これまでの授業を振り返り、ミニテスト	事前：ここまで提出したグループ・ミニレポート
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	授業の進め方とグループ分け	授業の進め方の説明後に、グループをつくり、グループごとに、自己紹介、連絡網作成などを行います。	事前：シラバス通読とそれに関連する学習 事後：授業の進め方の確認とそれに関連する学習																																																														
2	都市再生について	この回のみ、すべての時間を使って講義をします。都市再生の展開がどのような論理にもとづき、どのような状況を生みだしているのかを述べます。	事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容の復習と関連学習																																																														
3	ホット/コールドスポット	不動産投資が進む「熱い」エリアと脱投資の「冷たい」エリアに都市が分裂するメカニズムと実態を分析します。講義後にグループごとにミニレポートを検討します。	事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成																																																														
4	安全・安心または監視	都市再生の重要課題となった安全・安心ないし監視のための政策と技術を分析します。講義後にグループごとにミニレポートを検討します。	事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成																																																														
5	都心公園の再生	民間投資による都心公園の再生をどう理解・評価するのかを考察します。講義後にグループごとにミニレポートを検討します。	事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成																																																														
6	地方再生の挑戦	地方再生の政策と実践をどう理解・評価するのかを検討します。講義後にグループごとにミニレポートを検討します。	事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成																																																														
7	若者のライフコース変化	社会経済変化のなかで都市に住む若い人たちのライフコースがどう分岐したのかを分析します。講義後にグループごとにミニレポートを検討します。	事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成																																																														
8	女性のライフコース変化	都市のジェンダー化のもとで女性のライフコースがどう分岐したのかを分析します。講義後にグループごとにミニレポートを検討します。	事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成																																																														
9	高齢者とライフコース変化	人びとのライフコース分岐によって、その最終地点である高齢期に、生活条件にきわだった違いが生まれました。この点を、とくに住宅に着目して分析します。講義後にグループごとにミニレポートを検討します。	事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成																																																														
10	貧困とセーフティネット	都市貧困の原因と実態を考察し、セーフティネット政策のあり方を評価します。講義後にグループごとにミニレポートを検討します。	事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成																																																														
11	人間像の発明	都市再生における人間像の再構築の試みを分析します。講義後にグループごとにミニレポートを検討します。	事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成																																																														
12	もう一つの都市再生	高齢年住宅地、オールドニュータウン、空き家地域、スモールビジネス地域などのボトムアップ型再生を検討します。講義後にグループごとにミニレポートを検討します。	事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成																																																														
13	貧困地区の再生	貧困地区の再生について、団地再生の実例などを分析します。講義後にグループごとにミニレポートを検討します。	事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成																																																														
14	大災害からの住宅・地域復興	大災害からの住宅・地域の再生について、実態と課題を検討します。講義後にグループごとにミニレポートを検討します。	事前：資料通読と関連学習 事後：講義内容復習とグループのミニレポート作成																																																														
15	まとめ	これまでの授業を振り返り、ミニテスト	事前：ここまで提出したグループ・ミニレポート																																																														

			を実施します。このテストは「自筆ノートのみ持ちこみ可」です。	全体の復習 事後：授業全体の復習
関連科目	都市住宅論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	生活の視点でとく 都市計画	葉袋奈美子ほか	彰国社
	2	「仮住まい」と戦後日本	平山洋介	青土社
	3			
評価方法 (基準)	授業参加状況、ミニレポート作成への参加状況、ミニレポートの内容、ミニテストの結果などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。			
学生への メッセージ	グループワーク中心の授業を通じて、問いの立て方、受講生同士の議論の仕方、ミニレポートのまとめ方などを工夫する力を身につけ、都市づくりの面白さを知っていただければ、と願っています。			
担当者の 研究室等	3号館3階・平山研究室			
備考	事前学習、事後学習には、合わせて60時間が必要になる。			

科目名	メディア社会学	科目名 (英文)	Media Sociology
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	須藤 遙子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1007a0		

授業概要・目的	本講義は、マス・メディアの歴史や理論、近年のインターネット状況について学ぶことが目的である。 また、メディアが人間行動に与える影響についても考察していく。
到達目標	この授業は以下の目標を達成することを目指す。 ①マスコミュニケーションの歴史を理解することができる。 ②マスコミュニケーションの概念とモデルを理解することができる。 ③マスコミュニケーションが文化に与える影響について理解することができる。 ④マスコミュニケーションとニューメディアに関する理論を理解することができる。 ⑤メディアの経済とガバナンスについて理解することができる。 ⑥グローバルなコミュニケーションについて理解することができる。 ⑦マスメディアの組織について理解することができる。 ⑧メディア文化について理解することができる。 ⑨マスメディアの内容について理解することができる。 ⑩マスコミュニケーションの効果について理解することができる。

授業方法と留意点	本講義は、マス・メディアを中心とする基礎的なメディア理論を扱うため、講義形式が主となる。 アクティヴ・ラーニングとしては、毎回決められたグループによる「今週のニュース発表」を行う（全員必須）。 なお、課題や質問等についてのフィードバックは適宜行う。
----------	--

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、メディア、コミュニケーション、情報とは	事前：教科書『コミュニケーション研究 第5版』1-1、1-3を熟読のこと。 事後：授業内で提示する課題への回答
2	マスコミュニケーションとは	マスコミ4媒体、大衆（マス）、インターネットとの比較	事前：教科書『コミュニケーション研究 第5版』1-4、1-5、3-5（1）熟読のこと。 事後：授業内で提示する課題への回答
3	近代社会の誕生	都市化、市民（ブルジョア）的公共圏、コーヒーハウス	事前：教科書『コミュニケーション研究 第5版』3-1、3-2熟読のこと。 事後：授業内で提示する課題への回答
4	新聞	グーテンベルクの活版印刷、民主化、ジャーナリズム	事前：教科書『コミュニケーション研究 第5版』3-3（2）、3-4（1）熟読のこと。 事後：授業内で提示する課題への回答
5	出版	日本における出版の歴史	事前：教科書『コミュニケーション研究 第5版』3-3（1）熟読のこと。 事後：授業内で提示する課題への回答
6	ラジオ	電波、場所感の喪失、国民化	事前：教科書『コミュニケーション研究 第5版』3-3（3）、3-4（2）熟読のこと。 事後：授業内で提示する課題への回答
7	テレビ	「三種の神器」、衛星放送、テレ・ポリティクス	事前：教科書『コミュニケーション研究 第5版』3-3（4）、3-4（3）、3-5（2）、3-6熟読のこと。 事後：授業内で提示する課題への回答
8	写真、映画、メディア・イベント	複製技術時代、ハリウッド、擬似イベント	事前：教科書『コミュニケーション研究 第5版』6-6（2）（3）熟読のこと。 事後：授業内で提示する課題への回答
9	ビデオ学習	「デジタル監視と人権：エドワード・スノーデン氏インタビュー」	事前：スノーデン事件について調べる 事後：授業内で提示する課題への回答
10	マス・コミュニケーションの効果研究（1）	弾丸理論、プロパガンダ、世論	事前：教科書『コミュニケーション研究 第5版』2-2（4）、4-2、4-3熟読のこと。 事後：授業内で提示する課題への回答
11	マス・コミュニケーションの効果研究（2）	議題設定機能、沈黙の螺旋理論、オピニオン・リーダー	事前：教科書『コミュニケーション研究 第5版』4-4、4-5（3）、5-3、5-5（2）（3）（4）熟読のこと。 事後：授業内で提示する課題への回答
12	デジタル・デバイド	世代格差、地域格差、国家間格差	事前：教科書『コミュニケーション研究 第5版』8-2（3）（4）、8-5 事後：授業内で提示する課題への回答
13	インターネット	WWW、地球村、SNS	事前：教科書『コミュニケーション研究 第5版』4-6、6-3（4）、6-7（2）熟読のこと。 事後：授業内で提示する課題への回答
14	ファクトチェック	フェイクニュース、「いいね!」、AI	事前：教科書『コミュニケーション研究 第5版』7-1、7-2、8-4熟読のこと。 事後：授業内で提示する課題への回答
15	まとめ	フィルターバブル、集合的記憶	事前：教科書『コミュニケーション研究 第5版』9-1、9-6熟読のこと。 事後：授業内で提示する課題への回答

関連科目	広報メディア論
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		コミュニケーション研究 第5版:社会の中のメディア	大石 裕
2				

	3			
参考書	番号	書名	著者名	出版社名
	1	現代メディア史 新版 (岩波テキストボックス)	佐藤 卓己	岩波書店
	2	よくわかるメディア・スタディーズ[第2版]	伊藤 守	ミネルヴァ書房
	3			
評価方法 (基準)	事前・事後課題 (30%) ニュース発表 (5%、ただし発表しない場合は単位なし) 出席を加味した授業参加度 (15%) レポート (手書き) (50%)			
学生への メッセージ	理論をふまえて批判的にメディアを分析できるようにしましょう！			
担当者の 研究室等	3号館3階・須藤研究室			
備考	事前事後学習については、計60時間を目安として取り組むこと。			

科目名	文化社会学	科目名 (英文)	cultural sociology
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	樫田 美雄
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1008a0		

授業概要・目的
文化社会学は、社会学の一部であると同時に全体でもある。既存の文化を分析対象とするとき、それは「文芸社会学」や「演劇社会学」や「映画社会学」や「音楽社会学」等の諸・連字符社会学の集合体として、社会学の一部である。しかし、「文化現象として扱えるすべてのもの」を分析対象とするとき、それは社会学のフロンティアを切り開く活動そのものであり、「人々の世界認識」を扱う点で、社会学全体であるとも言えよう。本講義では、「現代社会学部的文化社会学」を講じる。すなわち、前者の狭義の文化社会学から入って後者の広義の文化社会学までの展望を内在的に呈示してみせる。そうやって「社会的思考の発展を体験しつつ、社会学が、人々を説明する社会学から、人々から学ぶ社会学に自己革新している現況」を実感してもらおう。具体的には、諸君の生活経験のあり方そのものが現代文化の実相である、ということを感じてもらいたい。そのために、学生諸君の日常的な生活経験をも「表現として鑑賞する」「読むべき物として発見する」作業をおこなう。15回終わるとき、書物や日常が自分に語りかけてくるように見え、そのように日常が違ったものに見えるようになる。これが本講義の目標である。

- 到達目標**
- ① 文化社会学の下位領域である小説や伝記や評論を扱う「文芸社会学」での議論の仕方と概要を説明できるようになる。
 - ② 文化社会学の下位領域である漫才や文楽やミュージカルやオペラを扱う「舞台芸術社会学」での議論の仕方と概要を説明できるようになる。
 - ③ 文化社会学の下位領域である写真やアニメや映画を扱う「映像社会学」での議論の仕方と概要を説明できるようになる。
 - ④ 広義の文化社会学が、推論実行機械としての人間の行為全般を扱うものであることを、例示しながら説明できるようになる。
 - ⑤ 授業内で創作発表をする学生は、自らの創作活動が文化活動であるとうじに、社会的活動でもあるということが多面的に理解できるようになる。
 - ⑥ 創作活動に対する簡単な評論ができるようになる。
 - ⑦ 読書論/批判理論の初歩が理解できるようになる。

授業方法と留意点
本講義は、部分的反転学習の形式でおこなう。文化体験なくして文化社会学を実践することはできないからだ。まず授業の前半では、作品の呈示と分析の両方を行う。しかし、授業期間の中盤以降では、学生各自が、自力で「文化作品/文化現象」を鑑賞/体験すること、と、その鑑賞/体験を授業内で級友にプレゼンすることが重要となる。授業期間末においては、グループ・ワークを活用して、評論系の作品を作るか、作品鑑賞をするか、いずれにしろ、文化に参与させる地点にまで諸君を促すことが、本授業の方法となる。課題や質問等についてのフィードバックの機会は適宜設ける予定である。

科目学習の効果 (資格)
本講義は社会学の分野としての「文化社会学」について学ぶ科目であるとともに、「社会現象を文化現象として研究する」という「社会学方法論」の授業でもある。したがって、「文化社会学」の領域的知識が身につくとともに、「社会学」の方法 (あるいは、視角=パースペクティブ=も身につく科目になっている。結果的に、1年前期配当科目にふさわしく、1年後期以降の社会学の学習の基盤となる科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	文化社会学概論	文化社会学は、社会学の一部であると同時に全体でもある。 (※『現代文化を学ぶ人のために』&『当事者宣言』の社会学) ※今後の授業の進め方の解説もする。	事前：シラバスの理解 (何が課題となっている授業なのか、考えてくる) 事後：<当事者宣言>に相当するものを社会の中から探す。『全訂新版現代文化を学ぶ人のために』の中のひとつの章のみを読んで考える
2	文芸社会学 1	「走れメロス」と「山月記」の「裏の物語」は裏なのか? (出口智之 2021in 渡部他『国語をめぐる冒険』岩波書店)	事前：「走れメロス」と「山月記」を読む 事後：学習課題の学習	
3	文芸社会学 2	『羅生門メソッド』という発想と「人々から学ぶ生活社会学」 (※黒澤明『羅生門』、オスカー・ルイス、『大杉栄自伝』)	事前：映画『羅生門』をみる (推奨) 事後：学習課題の学習	
4	文芸社会学 3	「社会を説明する社会学」と「社会から学ぶ社会学」の対比。啓蒙主義社会学批判。森鷗外の『寒山拾得』論 (近森高明「タグづけされる世界と「くくり」の緩やかな秩序」)	事前：青空文庫で、2つの「寒山拾得」(森鷗外のもの、芥川龍之介のもの)を読んでこよう。余裕があれば、井伏鱒二の「寒山拾得」も読もう (新潮文庫の『山椒魚』内にあり) 事後：学習課題の学習	
5	小括	各自の「文学体験」を語り合おう。 各人の「創作体験」を語り合おう。 「社会を表象するものとしての文化」と「文化によって創られる社会」の相互反映性を語り合おう。	事前：各自の文学体験/創作体験を纏め直してこよう 事後：学習課題の学習..『全訂新版現代文化を学ぶ人のために』の中の文学系の章を読んでこれまでの教室での学習と比較して考えよう	
6	舞台芸術社会学 1	吃音の可能性を拓く (言い難そうにする効果としての真実性) (※井上ひさし『日本人のへそ』、吃音と東北弁の類同性)	事前：言いにくそうにする意味について考えてくる 事後：とにかく「舞台」を見に行く。繁昌亭でもいいし、吉本系でもいいし、宝塚歌劇でもいいし、劇団四季でも、東宝オペラでも文楽でもいいがどれかには行く。	
7	舞台芸術社会学 2	落語と漫才と文楽と暗黒舞踏の社会学。誰が誰を笑っているのか。再帰性問題。そこにあるのは体か。舞踏表現論 (『障子をへだてて』における聴衆の位置)	事前：落語はなぜ1人の演者なのに対話に聞こえるのか考えてくる 事後：とにかく「舞台」を見に行く。繁昌亭でもいいし、吉本でもいいし、宝塚歌劇でもいいし、オペラでもいいがどれかには行く。	
8	映像社会学 1	訴えるべきものがあった時代の映画、映画を否定する映画。行為としての映画。 (※寺山修司第1回監督映画『書を捨てよ町に出よう』)	事前：『書を捨てよ町に出よう』(アマゾンプライムにあり)の事前視聴を強く推奨する 事後：諸映画作品の複数の視聴を強く推奨する (たとえば『ブレードランナー』)	
9	映像社会学 2	『死の棘』と『東京物語』と批評の現在。前を向きながら語り合う夫婦。	事前：40年以上の前に撮影された映画を探して、現在の映画とどこが同じでどこが違うのか、何が読み取れるか考えてくる 事後：学習課題の学習	
10	文化社会学の現在	ファン参加型文化としての『マトリックス』と『コミケ』。創作体験のある学生による作品のプレゼンテーション (※ジェンキンス『コンヴァージェンス・カルチャー』)	事前：自分の「推し」について、いつごろからか、なぜなのか、考えてくる。創作体験のある学生は、プレゼンテーションの準備をしてこよう。 事後：学習課題の学習	
11	創作・批評発表会	学友の中の創作者・批評家による創作と	事前：桑原武夫「第二芸術論」について調べてくる	

			批評を鑑賞／評価する。c.f. 鶴見俊輔 1980「古いへの視野」におけるカルチャー論（ハイカルチャー批判）を元に考える	事後：学習課題の学習
	12	読み物としての社会 1	能動的に読むべき対象として「本／文章」を考える（良知力「猫塚」, 須藤久『右に傾くとはどういうことか』, 加藤典洋「言葉について」(in 参考文献3). 実用文の一種である「評論文」を表現作品として読む態度を身につけて、その態度で社会を読む。	事前：実用文とはどのような文章か調べてくる 事後：学習課題の学習
	13	読み物としての社会 2	社会を読む練習：診察コミュニケーションを相互配慮実践として読む。 (※ヘリテージ&メイナード『診療場面のコミュニケーション』, クリスチャン・ヒース、オンラインコメント)	事前：患者の目をみて話さない医師の行動の適否について考えてくる 事後：学習課題の学習
	14	社会を読む実践 1	街歩きをしよう。NHK『プラタモリ』と『路上観察学入門』。あるいは『座席取りの社会学』（※新之介『地形散歩のすすめ』での自然変化の人間物語化）	事前：電車の座席に座る人が入れ替わるメカニズムを観察してみよう。その観察結果を、作品＝映像、文芸、イラスト等々ジャンルは自由＝にまとめて報告できるようまとめてみよう。 事後：学友のプレゼンテーション結果に感想を書こう。
	15	社会を読む実践 2	日常を刺激的にする境界横断的学問としての文化社会学。 (※木村朗子ほか編『世界文学としての<震災後文学>』)	事前：これまでの学習と社会学の関係について考えてこよう 事後：定期試験の復習

関連科目 「現代社会学入門」（1年前期）、「日常生活世界論」（2年後期）、「ビデオ・エスノグラフィー」（3年前期）

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	<当事者宣言>の社会学 - 言葉とカテゴリー -	樫田美雄・小川伸彦（編）	東信堂
2	全訂新版 現代文化を学ぶ人のために	井上俊（編）	世界思想社
3	定本 言語にとって美とは何か I	吉本隆明	角川ソフィア文庫

評価方法（基準） 授業理解度把握の定期試験（60%）と複数回の小テスト（40%、プレゼンテーションを含む、但し加点法）で評価し、60%以上で合格とする

学生へのメッセージ 世界は意味に満ちあふれている。そのことに気づくところから「文化社会学」は始まるし、じつは「社会学」も始まるのである。したがって、この「社会学」というものの実践形態と、文芸評論や映画評論の実践形態はたいへん似てくることになる。ということは、次のようなやり方で、あなたの「社会学」を始動できる、ということだ。まず、自分の「推し」にかんする「ディープな評論」を読んで「社会的に」考えることをしよう。具体的には、当該の「評論」が成り立つ仕組みを考えよう。どんな推論が「評論」の背後にあるのか、そして、その「推論」がどのように妥当なものとしてあつかわれているのか、考えよう。ついで、「推し」ではないけれども、関心の持てる範囲の「文化現象」について「ディープな評論」を読んで、同じように考えよう。そうすれば、そこで取られている身振り（過去や他事例との比較の仕方）や、論理操作のやり方（説得力の持たせ方）はほぼそのまま、社会学の身振りや論理操作のやり方なので、あなたは、「(文化)社会学」の学習の入り口に立ったといえるだろう。とにかくやってみよう。うまくいかなかったら、担当教員に報告して助言をもらおう（こそっと自学自習するなら、エスノメソドロジーという用語をしらべて考えよう）。

担当者の研究室等 3号館3階の樫田研究室（第8研究室）

備考 60時間程度の事前・事後学習をすること。
10回目ごろの授業では、創作体験のある学生による作品のプレゼンテーションをしよう。その準備に各回の授業の後半30分程度を利用する。発表会では図書館3階の「プチアトル」を借りてプレゼンテーションが本格的なものになるよう環境整備をする。また、グループワークも積極的に行う。授業において創作発表する場合には、資材や機材（撮影機材等）を援助できる可能性もあるので、教員に相談すること。授業外への発表（HP等）の仲介もできる可能性があるため、そのような希望がある場合は、教員に相談すること。

科目名	日本社会変動史	科目名 (英文)	History of Japanese Social Change
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浅野 慎一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1009a0		

授業概要・目的	<p>本講は、「日本/日本人」を主な対象として、「国家・国民・民族 (nation)」の歴史・現状、そして未来を考える。20世紀半ば、人類は帝国主義・植民地支配を克服し、ほとんどの国・地域で「国民主権/民族解放」を達成した。これはもちろん、人類社会の大きな進歩ではある。</p> <p>しかし、その後も人類は、さまざまな困難に直面し続けている。地球規模の自然環境破壊や経済格差、国境を越えた難民・移民の移動、政治的独裁や民族紛争、排他的ナショナリズムや民族差別、国家が引き起こす戦争などである。多くの「国民/民族」の生活も、貧困や格差、差別やいじめ、人間関係の悩みなど、「生きづらさ」を抱え続けている。世界は、「国民主権/民族解放」の達成だけでは解決できない諸課題に満ちている。「国家・国民・民族 (nation)」がもつ意義と限界とは何か。人類は、その限界を克服した新たな未来社会を実現できるのか。本講は、このことを「日本/日本人」に即して考える。</p>
到達目標	<p>①「日本/日本人」という「国家・国民・民族 (nation)」の歴史的な形成過程、現代の特徴、未来の展望について、基礎的な知識を身につけることができる。</p> <p>②現代日本の社会構造や日常生活を、歴史的な社会変動の一環として広い視野から認識することができる。</p> <p>③日本社会を形成し、歴史的に大きく変動させてきた人々の主体性と創造力を理解することができる。</p> <p>④これらの基礎知識・認識・理解を、今後の日本社会の創造・再編について考えるために応用できるようになる。</p> <p>⑤「日本/日本人」と、それ以外の多様な「国家・国民・民族」との共生の道筋について考えることができる。</p>
授業方法と留意点	<p>授業の一部は教員による講義の形式とするが、事前課題をふまえた反転授業、および、受講者によるプレゼンテーション、ディスカッションなど、主体的な学びを重視する。</p> <p>教科書は、浅野慎一『シン・日本外史』昭和堂(社会構造変動史と共通テキスト)。授業内容は主にパワーポイントで提示し、適宜、資料等も配布する。</p> <p>授業内で出された疑問・質問に対しては、毎回の授業内で対応する。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>本講は、「日本/日本人」の歴史的な形成過程、および、現代の特徴について考察する。したがって、現代日本のさまざまな社会的領域 (学校教育、家族、企業、地域、福祉、政治など) に関する他の授業科目の学修に際しても、それらを通底する「日本/日本人」に固有の特徴を、より深く理解できるようになる。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	「日本人」とはだれか?	「私は何人ですか?」 「暗黙のナショナリストとしての私たち」 「ネイション(国家・国民・民族)は、いつ生まれ、いつまで続くのか?」 「基本的人権と国民主権の矛盾」	事前: シラバスの理解 事後: 授業内で提示する課題への回答
2	「単一民族神話」の幻想と現実	「二つの『単一民族神話』」 「国籍・移民制度にみる日本国」 「日本における外国人労働者」	事前: 提示課題への回答 事後: 授業内で提示する課題への回答	
3	旧石器時代・縄文時代の「日本・日本人」は存在したか?	「ホモサピエンスの誕生と『日本列島』への流入」 「『日本列島』におけるホモサピエンスの生活」 「『日本列島』における社会の諸特質」	事前: 提示課題への回答 事後: 授業内で提示する課題への回答	
4	「日本列島」における国家の誕生	「水稻・農耕革命の衝撃」 「『日本列島』における国家形成の特徴」 「『倭人』とはだれか?」	事前: 提示課題への回答 事後: 授業内で提示する課題への回答	
5	「日本国/日本人」の誕生	「東アジア世界の激動と日本国の誕生」 「日本国と天皇の独自性」 「律令制としての日本国の矛盾と崩壊」	事前: 提示課題への回答 事後: 授業内で提示する課題への回答	
6	「日本国/日本人」の多元化と分裂・流動化	「荘園-権門体制としての日本国」 「東アジア世界における荘園-権門体制」 「権門体制としての日本国の矛盾と崩壊」	事前: 提示課題への回答 事後: 授業内で提示する課題への回答	
7	世界資本主義システムと「日本」の再結集	「世界システムと『天下統一』」 「黄金の国・ジパングの終焉と幕藩体制」 「市場経済の発展と『日本国』の衰退」	事前: 提示課題への回答 事後: 授業内で提示する課題への回答	
8	帝国主義世界システムへの包摂と「日本国/日本人」の構築	「黒船開国と近代国家としての日本」 「国民国家の形成: 天皇と国民」 「『日本国民』化への抵抗」	事前: 提示課題への回答 事後: 授業内で提示する課題への回答	
9	多民族帝国の「日本国/日本人」	「帝国主義・植民地支配」 「臣民とその成熟」 「大東亜に開かれた『日本民族』」 「大日本帝国の崩壊」	事前: 提示課題への回答 事後: 授業内で提示する課題への回答	
10	敗戦と象徴天皇制にみる「日本国/日本国民」	「敗戦と『日本国/日本人』の変貌」 「『単一民族神話』の背景」 「アメリカの単独占領」 「象徴天皇制とその受容」 「象徴天皇制の矛盾」	事前: 提示課題への回答 事後: 授業内で提示する課題への回答	
11	敗戦と平和主義にみる「日本国/日本国民」	「平和主義とその受容」 「憲法平和主義の国民的制約」 「憲法平和主義の普遍的可能性」 「東西冷戦の激化と平和主義の変質」	事前: 提示課題への回答 事後: 授業内で提示する課題への回答	
12	高度経済成長時代の「日本国/日本国民」	「国際的基盤/国内的基盤」 「国民生活にみる『恩恵』と矛盾」 「高度経済成長期の『単一民族神話』」	事前: 提示課題への回答 事後: 授業内で提示する課題への回答	
13	「国際化」する「日本国/日	「高度経済成長の破綻と『国際化』」	事前: 提示課題への回答	

	本人	「外国人労働者の流入、日本の多民族化」 『単一民族神話』の崩壊と日本社会の変貌	事後：授業内で提示する課題への回答																
14	「失われた30年」と「日本国/日本人」	「失われた30年」 「アメリカの地位低下と中国の躍進」 「ナショナル・ミニマムの空洞化」	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答																
15	「日本/日本人」の未来を考える	「我々はどこからきたのか?」 「我々とは誰なのか?」 「我々はどこへ行くのか?」	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答																
関連科目	社会構造変動史																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>シン・日本外史</td> <td>浅野慎一</td> <td>昭和堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	シン・日本外史	浅野慎一	昭和堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	シン・日本外史	浅野慎一	昭和堂																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>日本社会の歴史（上中下）</td> <td>網野善彦</td> <td>岩波新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>単一民族神話の起源</td> <td>小熊英二</td> <td>新曜社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>新版 現代日本社会の構造と転換</td> <td>浅野慎一</td> <td>大学教育出版</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	日本社会の歴史（上中下）	網野善彦	岩波新書	2	単一民族神話の起源	小熊英二	新曜社	3	新版 現代日本社会の構造と転換	浅野慎一	大学教育出版
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	日本社会の歴史（上中下）	網野善彦	岩波新書																
2	単一民族神話の起源	小熊英二	新曜社																
3	新版 現代日本社会の構造と転換	浅野慎一	大学教育出版																
評価方法（基準）	毎回の提出物（事前・事後課題）（60%）、アクティブラーニングへの主体的参加貢献（40%）																		
学生へのメッセージ	本講は歴史（日本史）的要素を多く含みますが、受講に際して、高校までの日本史・世界史等の知識は必要ありません。教科書・授業で、基礎から講義します。また本講は、歴史を「暗記物」ではなく、現代社会の成り立ちと未来の展望を理解するための「知」として学びます。																		
担当者の研究室等	3号館3階・浅野研究室																		
備考	60時間程度の事前、事後学習をすること。																		

科目名	自我と関係の社会学	科目名 (英文)	Sociology of Self and Relationships
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	堀田 裕子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1010a0		

授業概要・目的
 私たちはさまざまな具体的な関係のなかで、他者やモノとの相互行為を通じて社会とつながると同時に、自我を形成していく。本授業では、相互行為論の考え方を軸に、関係のなかで生じる社会化と自我の形成、アイデンティティをめぐる問題、地位-役割の働きについて学び、自我と関係についての理解を深める。また、日常生活における出来事や行為を関係のなかでまなぐ視点も学習していく。差別と排除、逸脱、孤独と孤立といった諸問題や、日常生活の一部となったインターネットにおける関係について、そこでおこわれている相互行為を事例とともに考えていく。これらの学びによって、自己を理解するということは関係を理解することであり他者を理解することである、という視点を獲得することが目的である。

- 到達目標**
- ①自我の成り立ちについての知識と考え方を得ることができる。
 - ②他者との関係の中で形成される人間の性質や行為に関する知識と考え方を得ることができる。
 - ③社会問題の要因を関係の在り方からまなぐための知識と考え方を得ることができる。
 - ④これらの知識と考え方をもち、日常生活で生じる諸問題に気づき、それについて関係の観点から自分自身で考え説明することができる。

授業方法と留意点
 授業は、基本的には事前学習に基づく講義形式でおこなう。講義では、テキスト兼ノートとしての「配布資料」を活用する。理解を深めるために、個人で課題に取り組んだり、グループディスカッションをおこなったりする。
 また、内容を読んでくる、もしくは、用語の意味や社会事象について調べてくる事前課題と、授業の理解度を確認するための事後課題（確認シート）を課す。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション —個人・相互行為・社会—	※ガイダンスと授業計画・授業方法の説明 二者関係と三者関係のモデルを用いて、個人・相互行為・社会の関連性を概観する。 キーワード：自我、結合／排除、社会の創発特性	事前：シラバスの閲読 (1時間) 事後：確認シートへの取り組み、資料整理 (2時間)
2	社会化と自我の形成 (1) 人「間」になるということ	社会学における社会化と自我の考え方について、その意義と問題点を理解する。 キーワード：Interaction、自他未分、鏡に映った自己、ホモ・ソシオロジクス	事前：資料の閲読、語句調べなど (2時間) 事後：確認シートへの取り組み、資料整理 (2時間)
3	社会化と自我の形成 (2) 自我形成過程	自我形成過程と、そこでの他者、自己の身体、モノの働きについて理解する。 キーワード：ゲーム期／プレイ期、主我 (I)／客我 (me)、問題的状况	事前：資料の閲読、語句調べなど (2時間) 事後：確認シートへの取り組み、資料整理 (2時間)
4	社会化と自我の形成 (3) 近代的自我	「我思うゆえに我あり」における「我」などを例に、自己についての考え方自体の社会性を理解する。 キーワード：近代的自我、独我論、我-汝関係／我-ソレ関係、アイデンティティ	事前：資料の閲読、語句調べなど (2時間) 事後：確認シートへの取り組み、資料整理 (2時間)
5	地位-役割・シンボル・相互行為 (1) 社会と集団のなかの自我	社会や集団のなかの自己の位置づけと自我との関連性について理解する。 キーワード：地位-役割、役割葛藤、役割距離	事前：資料の閲読、語句調べなど (2時間) 事後：確認シートへの取り組み、資料整理 (2時間)
6	地位-役割・シンボル・相互行為 (2) ドラマトウルギーと自己物語	日常生活をドラマになぞらえて考える社会学的手法、および、自己が物語りを通じて形成されるという考え方を学ぶ。 キーワード：ドラマトウルギー、表局域／裏局域、自己呈示 (印象操作)、自己物語論	事前：資料の閲読、語句調べなど (2時間) 事後：確認シートへの取り組み、資料整理 (2時間)
7	地位-役割・シンボル・相互行為 (3) 発話とジェスチュアの意義	シンボルの意味と働き、および、相互行為における言語や身振りの働きについて学ぶ。 キーワード：シンボル、発話、ジェスチュア	事前：資料の閲読、語句調べなど (2時間) 事後：確認シートへの取り組み、資料整理 (2時間)
8	関係の中の行為 (1) 社会的行為	何気なくおこなう行為や感情のあり方に含まれる社会性について理解する。 キーワード：行動／行為、行為の四類型、ハビトゥス	事前：資料の閲読、語句調べなど (2時間) 事後：確認シートへの取り組み、資料整理 (2時間)
9	関係の中の行為 (2) 権力と支配	さまざまなかたちで関係や行為のなかに入り込む権力 (power) についての考え方を学ぶ。 キーワード：支配／服従、支配の三類型、	事前：資料の閲読、語句調べなど (2時間) 事後：確認シートへの取り組み、資料整理 (2時間)

			象徴的暴力、パノプティコン																	
	10	関係の中の行為 (3) 群れとしての行為・行動	見ず知らずの人が含まれることもある、複数人との関係性のなかでの行為・行動について考える。 キーワード: 集合体/集団、集合行動、意図せざる帰結、予言の自己成就	事前: 資料の閲読、語句調べなど (2 時間) 事後: 確認シートへの取り組み、資料整理 (2 時間)																
	11	人間関係の諸問題 (1) 差別と排除	差別と排除のメカニズムを理解するとともに、社会的マイノリティにとっての自我の問題を考える。 キーワード: マイノリティ/マジョリティ、内集団/外集団、障害の社会モデル	事前: 資料の閲読、語句調べなど (2 時間) 事後: 確認シートへの取り組み、資料整理 (2 時間)																
	12	人間関係の諸問題 (2) つくられる逸脱現象	逸脱現象に関するさまざまな考え方をたどるとともに、逸脱がつくられる過程を学び、レッテルを貼られる人びとの生きづらさを考える。 キーワード: 逸脱、ラベリング、スティグマ、パッシング (通過作業)、LGBTQ	事前: 資料の閲読、語句調べなど (2 時間) 事後: 確認シートへの取り組み、資料整理 (2 時間)																
	13	人間関係の諸問題 (3) 連帯の変容と孤独・孤立	社会環境の変化に伴う人間関係および自我への影響、とりわけ現代の孤独と孤立がもたらす問題について考える。 キーワード: 孤独/孤立、引きこもり、自殺論	事前: 資料の閲読、語句調べなど (2 時間) 事後: 確認シートへの取り組み、資料整理 (2 時間)																
	14	人間関係の諸問題 (4) インターネット上の関係性と自我	インターネットなどのメディアを介した人間関係とそこでの自我のあり方について考える。 キーワード: プロシューマー、弱い紐帯、橋と扉	事前: 資料の閲読、語句調べなど (2 時間) 事後: 確認シートへの取り組み、資料整理 (2 時間)																
	15	まとめ ー自己理解と他者理解のためにー	※講義内容のまとめと質疑応答 自己理解の意義を振り返り、他者理解について社会学的想像力と共感の観点から考える。 キーワード: 社会学的想像力、共感	事前: 資料の閲読、語句調べ、質問事項の整理など (3 時間) 事後: 確認シートへの取り組み、資料整理 (2 時間)																
関連科目	社会心理学、臨床社会学、社会学説史、文化社会学、ジェンダー論																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マイノリティ問題から考える社会学・入門ー差別をこえるために</td> <td>西原和久・杉本学 (編)</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>自己と他者の社会学</td> <td>井上俊・船津衛 (編)</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マイノリティ問題から考える社会学・入門ー差別をこえるために	西原和久・杉本学 (編)	有斐閣	2	自己と他者の社会学	井上俊・船津衛 (編)	有斐閣	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	マイノリティ問題から考える社会学・入門ー差別をこえるために	西原和久・杉本学 (編)	有斐閣																	
2	自己と他者の社会学	井上俊・船津衛 (編)	有斐閣																	
3																				
評価方法 (基準)	事前・事後課題 (20%)、授業内課題 (20%)、定期試験 (60%) で評価し、60%以上で合格とする。																			
学生へのメッセージ	自己について考えることは、関係や他者について考えることとつながっています。そして、自己・関係・他者について考えるためには、おのずと哲学や心理学などの知見も必要となります。でも、他分野の知見も採り入れながら考えていくのは、社会学という学問の特徴であり、強みでもあるのです。本講義を通じて、社会的な考え方の基礎をしっかりと身につけて、多角的な視点を獲得していきましょう。																			
担当者の研究室等	3号館3階・堀田研究室																			
備考																				

科目名	スポーツ社会学	科目名 (英文)	Sport Sociology
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	後和 美朝
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1011a0		

授業概要・目的	現代社会におけるスポーツはそれ自体を楽しむだけでなく、他の様々な社会的事象に影響を与えている。例えば、オリンピック一つをみても本来はスポーツの祭典として始まったが、現代では開催国の経済的影響を強く受けるだけでなく、政治や人権問題等の様々な要因が関わりながら開催されている。また、スポーツや運動は本来自身が行うものであったが、メディアの発展により「観る」スポーツが生まれ、最近ではゲームの中で行われる「eスポーツ」の各種大会が開催されている。本講義では、遊びや運動、スポーツと人間との関わりについて解説するとともに、現代社会におけるスポーツと社会的な事象との関わりについて理解を深める。
到達目標	①遊び・運動・スポーツに関する基礎的知識を得ることができる。 ②スポーツの歴史的発展に関する知識を得ることができる。 ③現代社会におけるスポーツの役割、価値について理解することができる。 ④スポーツに関連する事象を社会的な観点から多角的に議論することができるようになる。
授業方法と留意点	配付資料、パワーポイント、板書によって行う。授業内容の理解を深めるために、アクティブラーニングを適宜実施する。授業内で出された疑問・質問に対しては、各授業内で対応するとともに、数回に一度、総括的に回答・対応する機会をもつ。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	スポーツ社会学とは	ガイダンスと授業計画・授業方法・評価方法についての説明、スポーツ社会学の概要を理解する。	事前：シラバスの理解 (1時間) 事後：授業資料をもとに内容の復習と課題への取り組み (3時間)
2	スポーツとは	スポーツの語源や古代スポーツについて議論する。	事前：事前配布資料をもとに、事前学習に取り組む (1時間) 事後：授業資料をもとに内容の復習と課題への取り組み (3時間)
3	スポーツの発祥	各種スポーツの発祥、歴史的背景について議論する	事前：事前配布資料をもとに、事前学習に取り組む (1時間) 事後：授業資料をもとに内容の復習と課題への取り組み (3時間)
4	スポーツの社会問題と社会的機能	スポーツに関わる今日的な社会問題から、スポーツの社会的機能について議論する。	事前：事前配布資料をもとに、事前学習に取り組む (1時間) 事後：授業資料をもとに内容の復習と課題への取り組み (3時間)
5	遊び・運動・スポーツ	ヒトの発育発達と運動機能の獲得過程から、ヒトと遊び・運動・スポーツとの関わりについて考える。	事前：事前配布資料をもとに、事前学習に取り組む (1時間) 事後：授業資料をもとに内容の復習と課題への取り組み (3時間)
6	余暇と運動・スポーツ	わが国の世代別にみた余暇の過ごし方から、人々の運動やスポーツの関わり方について考える。	事前：事前配布資料をもとに、事前学習に取り組む (1時間) 事後：授業資料をもとに内容の復習と課題への取り組み (3時間)
7	スポーツと学校体育	小学校から高等学校までの体育科の学習指導要領の目的と内容から生涯スポーツを見据えた学校体育の役割について議論する。	事前：事前配布資料をもとに、事前学習に取り組む (1時間) 事後：授業資料をもとに内容の復習と課題への取り組み (3時間)
8	プロスポーツとアマチュアスポーツ (1)	わが国のプロスポーツとアマチュアスポーツの違いや関わり方について議論する。	事前：事前配布資料をもとに、事前学習に取り組む (1時間) 事後：授業資料をもとに内容の復習と課題への取り組み (3時間)
9	プロスポーツとアマチュアスポーツ (2)	わが国のプロスポーツとアマチュアスポーツの今日的課題について議論する。	事前：事前配布資料をもとに、事前学習に取り組む (1時間) 事後：授業資料をもとに内容の復習と課題への取り組み (3時間)
10	わが国のスポーツ施策とスポーツ振興	わが国のスポーツが発展してきた背景要因について議論する	事前：事前配布資料をもとに、事前学習に取り組む (1時間) 事後：授業資料をもとに内容の復習と課題への取り組み (3時間)
11	オリンピック・パラリンピックと世界選手権・ワールドカップ	オリンピック・パラリンピックや各種スポーツの世界選手権・ワールドカップの成り立ちから、今日の世界規模の大会の在り方について議論する。	事前：事前配布資料をもとに、事前学習に取り組む (1時間) 事後：授業資料をもとに内容の復習と課題への取り組み (3時間)
12	スポーツとメディア	各種スポーツ大会を事例にしてスポーツとメディアの関わり方について議論する。	事前：事前配布資料をもとに、事前学習に取り組む (1時間) 事後：授業資料をもとに内容の復習と課題への取り組み (3時間)
13	スポーツと商業主義	各種スポーツ大会を事例にしてスポーツ大会の開催に関わる経費やスポンサーの関わり方について議論する。	事前：事前配布資料をもとに、事前学習に取り組む (1時間) 事後：授業資料をもとに内容の復習と課題への取り組み (3時間)
14	eスポーツを考える	eスポーツが生まれた歴史的背景から、eスポーツに今日的課題やその在り方について議論する。	事前：事前配布資料をもとに、事前学習に取り組む (1時間) 事後：授業資料をもとに内容の復習と課題への取り組み (3時間)
15	本講義のまとめと振り返り	第1回～第14回の講義をまとめ、振り返る	事前：第1回～14回の資料をもとに、本講義をまとめる (1時間) 事後：本授業を振り返りと課題への取り組み (3時間)

				間)
関連科目	地域スポーツ論、生涯スポーツ論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	レジャー白書	日本生産性本部	生産性出版
	2	スポーツ白書 2020	笹川スポーツ財団	日経印刷
	3	スポーツ社会学研究	日本スポーツ社会学会	創文企画
評価方法 (基準)	平常点 (10%)、第 1 回～第 14 回での課題 (70%)、第 15 回のまとめ課題 (20%)			
学生への メッセージ	本講義では毎授業の事前学習と事後学習の課題への取組みによって評価しますので、課題は必ず提出するようにしてください。			
担当者の 研究室等	3 号館 3 階・後和研究室			
備考				

科目名	地域福祉論	科目名 (英文)	Community Welfare
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1012a0		

授業概要・目的	地域に存在するさまざまな生きづらさを地域で暮らす、活動する、働く人びとの手で解決するための手法を地域福祉の概念から検討する。本講義では、地域福祉および地域の課題解決に関連する諸分野に関する考え方とともに、地域福祉の実践事例を紹介する。また、それらの理論と実践の知見を踏まえ、受講者自身が身近な地域に存在する生きづらさとその解消方法について考える機会を設ける。これらの学びを通じて、受講生は、地域福祉について理解するとともに、自分なりの地域との向き合い方を明確にすることが期待される。
到達目標	①地域福祉の概念について、その基本を理解し、説明することができる。 ②地域が抱える課題を解決するための方法について、自分なりに説明することができる。 ③地域の担い手としての自覚を持ち、自身と地域との今後の関わり方を具体的に描くことができる。 ④これからの地域、社会の担い手に求められる知識、技能、思考、態度を身につける。
授業方法と留意点	配付資料、パワーポイント、板書などによる講義と、教員と学生、学生間の活発な対話に基づき、授業を実施する。 また、少人数でのプレゼンテーション、フィードバック、ふりかえりを積極的に取り入れ、学生は、これらの学びの機会に主体的に参画することが求められる。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	地域福祉から考える現代社会	オリエンテーション・授業計画および授業方法の説明・地域を取り巻く状況について理解する	事前：シラバスの確認 (1時間) 事後：講義で提示する事後学習課題に取り組む (3時間)
2	社会福祉から地域福祉へ	諸外国および日本における社会福祉の展開過程について概観し、地域福祉の主流化にいたるプロセスを理解する	事前：テーマに関する予習 (1時間) 事後：講義で提示する事後学習課題に取り組む (3時間)
3	地域福祉の考え方について理解する	地域福祉の基本理念と方法、担い手について理解する	事前：テーマに関する予習 (1時間) 事後：講義で提示する事後学習課題に取り組む (3時間)
4	「地域生活課題」への取り組み方	地域に存在するさまざまな「生きづらさ」と専門職としてそれらに向き合うための手法を理解する	事前：テーマに関する予習 (1時間) 事後：講義で提示する事後学習課題に取り組む (3時間)
5	地域福祉の実践事例 (国内編)	日本国内における地域福祉の実践事例を紹介し、地域福祉についてより深く理解する	事前：テーマに関する予習 (1時間) 事後：講義で提示する事後学習課題に取り組む (3時間)
6	地域福祉の実践事例 (外国編)	スウェーデンにおける地域福祉の実践事例を紹介し、地域福祉についてより深く理解する	事前：テーマに関する予習 (1時間) 事後：講義で提示する事後学習課題に取り組む (3時間)
7	地域福祉の実践事例 (居場所づくり編)	地域福祉の実践のうち、居場所づくりに取り組む事例に焦点をあてて紹介し、地域福祉についてより深く理解する	事前：テーマに関する予習 (1時間) 事後：講義で提示する事後学習課題に取り組む (3時間)
8	社会保障のしくみと担い手	社会保障のしくみと担い手、さらに地域福祉の関連について理解する	事前：テーマに関する予習 (1時間) 事後：講義で提示する事後学習課題に取り組む (3時間)
9	高齢者の地域生活	高齢者を取り巻く社会福祉の現状と課題、地域生活の状況について理解する	事前：テーマに関する予習 (1時間) 事後：講義で提示する事後学習課題に取り組む (3時間)
10	障がいのある人たちの地域生活	障がいのある人たちの地域生活の現状と課題、地域生活の状況について理解する	事前：テーマに関する予習 (1時間) 事後：講義で提示する事後学習課題に取り組む (3時間)
11	子ども、子育て家庭の地域生活	子ども、子育て家庭を取り巻く社会福祉の現状と課題、地域生活の状況について理解する	事前：テーマに関する予習 (1時間) 事後：講義で提示する事後学習課題に取り組む (3時間)
12	「地域」に関する文献を読む	事前学修課題として提示する文献講読ワークの成果をグループおよび教室内で共有する	事前：文献講読ワーク (3時間) 事後：講義で提示する事後学習課題に取り組む (1時間)
13	地域の課題解決/魅力磨きプロジェクト	事前学修課題として提示する地域課の課題解決/魅力磨きプロジェクトの成果をグループおよび教室内で共有する	事前：地域課の課題解決/魅力磨きプロジェクト 事後：講義で提示する事後学習課題に取り組む (1時間)
14	地域の担い手として大学生にできること	地域福祉を推進していくために大学生という立場でなにができるかを考える	事前：テーマに関する予習 (1時間) 事後：講義で提示する事後学習課題に取り組む (3時間)
15	あらためて、地域社会について考える	本講義の内容をふりかえるとともに、よりよい地域のために私たちにできることを考える	事前：テーマに関する予習 (1時間) 事後：講義で提示する事後学習課題に取り組む (3時間)

関連科目	観光地域福祉論
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新装版 地域福祉論	岡村重夫	光生館
	2	自治型地域福祉の理論	右田紀久恵	ミネルヴァ書房

	3		
評価方法 (基準)	期末レポート (20%) とワーク成果物 (20%)、毎回の小レポート (60%) で評価し、60%以上で合格とする。		
学生への メッセージ	みなさんの身近な地域について考え、できることに取り組むきっかけとなれば幸いです。		
担当者の 研究室等	3号館3階 上野山研究室		
備考			

科目名	地域社会学	科目名 (英文)	Regional and Community Studies
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤井 和佐
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1013a0		

授業概要・目的	「地域社会」は、私たちにとって当たり前のものだろうか。公園を掃除する人、子どもたちを横断歩道で見守る人、お祭りの準備をする人。その人たちは、何故それを行っているのだろうか。それは何を意味するのだろうか。自明であると思われるようなことがらをあらためて考えるためのひとつの方法として社会学はある。普段は考えることのないような地域社会や地方社会に目を向け、多角的にアプローチするために地域社会学における概念や方法論、理論を学び新たな認識の視座を獲得する。
到達目標	①抽象と具体との往復的思考ができる。 ②地域社会という対象/方法論の意味・意義を把握する。 ③地域社会学の基本的概念・理論についての知識を獲得する。 ④地域社会をめぐる現象や問題について説明することができる。
授業方法と留意点	授業は、大きく2種類のフレームによって進行する。 〔フレーム1〕教科書における指定した項目に関する事前学習、教員側からの問いかけとそれに対する学生の発言内容を深める形での講義、講義テーマに関する問いを考えてくる事後学習。 〔フレーム2〕各テーマにおいて事後学習で考えた問いの中から1つを選び、探索した根拠資料に基づいて問いの答えを考えてくる事前学習、授業における事前学習に基づいたグループディスカッションと発表、教員からのフィードバックコメントを踏まえ、問いの答えを根拠資料に基づいて説明する事後学習。 *各回において、ネット接続可能なモバイルPCの持参が望ましい。 *なお受講者数に応じて、若干の授業方法の変更があるかもしれないことを承知しておいてほしい。
科目学習の効果 (資格)	地域社会とかかわる職業 (公務員、NPO等の法人職員、一般企業のCSR担当等のほか、たいいていの職業は地域社会と関係します) において、当然知っておくべき事象・考え方の基礎を学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	地域を社会学で考える	・ガイダンス：シラバス内容の詳細な説明 ・講義キーワード：「考える」とは、資料探索	事前：シラバスの確認 事後：教科書に書かれている項目を確認・「はじめに」を読む
2	1.1 地域とは何か	(フレーム1) ・講義キーワード：町内会、NPO、地域、社会、コミュニティ	事前：教科書 pp.88-89 を読み、用語の意味・定義を調べてくる 事後：問いの導出
3	1.2 コミュニティとは何か	(フレーム1) ・講義キーワード：世代、WEB コミュニティ・ネットコミュニティ、バーチャルコミュニティ、地域コミュニティ、共同体	事前：教科書 pp.89-91 を読み、用語の意味・定義を調べてくる 事後：問いの導出
4	1.3 地域とコミュニティで考える	(フレーム2) ・グループディスカッション ・発表 ・フィードバックコメント	事前：根拠資料の探索と問いの答えの導出 事後：問いの答えを説明
5	2.1 行政によるコミュニティづくり	(フレーム1) ・講義キーワード：高度経済成長、都市化、過疎・過密、離農・離村、兼業農家、ライフスタイル、昼夜間人口差、ベッドタウン	事前：教科書 pp.91-92 を読み、用語の意味・定義を調べてくる 事後：問いの導出
6	2.2 コミュニティとアソシエーション	(フレーム1) ・講義キーワード：地域コミュニティ、サブ・コミュニティ、地域住民組織、地域資源	事前：教科書 pp.92-94 を読み、用語の意味・定義を調べてくる 事後：問いの導出
7	2.3 日本におけるコミュニティを考える	(フレーム2) ・グループディスカッション ・発表 ・フィードバックコメント	事前：根拠資料の探索と問いの答えの導出 事後：問いの答えを説明
8	3.1 町内会の範疇	(フレーム1) ・講義キーワード：政治的支持調達、利益誘導、地縁組織、連合町内会、まちづくり協議会・コミュニティ協議会、地区公民館	事前：教科書 pp.94-95 を読み、用語の意味・定義を調べてくる 事後：問いの導出
9	3.2 町内会の役割と特徴	(フレーム1) ・講義キーワード：自治、寄り合い、共同管理、行政末端機構	事前：教科書 pp.95-96 を読み、用語の意味・定義を調べてくる 事後：問いの導出
10	3.3 町内会の課題	(フレーム1) ・講義キーワード：協働、パートナーシップ、男女共同参画	事前：教科書 pp.96-97 を読み、用語の意味・定義を調べてくる 事後：問いの導出
11	3.4 町内会を考える	(フレーム2) ・グループディスカッション ・発表 ・フィードバックコメント	事前：根拠資料の探索と問いの答えの導出 事後：問いの答えを説明
12	4.1 平成の大合併	(フレーム1) ・講義キーワード：地方分権、地域間格差、テーマ型コミュニティ、エリア型コミュニティ、フォーラム型組織、「新しい公共」宣言	事前：教科書 pp.97-99 を読み、用語の意味・定義を調べてくる 事後：問いの導出
13	4.2 限界集落化する中山間地域	(フレーム1) ・講義キーワード：高齢化、条件不利地域、字・区、共有財産、移住者、Iターン・Jターン・Uターン	事前：教科書 pp.99-100 を読み、用語の意味・定義を調べてくる 事後：問いの導出

	14	4.3 ソーシャルキャピタル	(フレーム1) ・講義キーワード:定住者、二地域居住、 関係人口、ネットワーク、弱い紐帯	事前:教科書 pp.100-101 を読み、用語の意味・定 義を調べてくる 事後:問いの導出
	15	4.4 地域社会をめぐる問題 とその背景	(フレーム2) ・グループディスカッション ・発表 ・フィードバックコメント	事前:根拠資料の探索と問いの答えの導出 事後:問いの答えの説明
関連科目	「考える」にあたって材料は多いほどよい。すべての科目が関連する。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	社会学と社会システム	(一社)日本ソーシャルワーク教 育学校連盟編	中央法規出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への貢献(発言、ディスカッション、課題への回答内容)(50%)、定期試験(50%)による総合評価とする。			
学生への メッセージ	教科書は、社会学全般に関する理解を深める内容となっているので、当該授業の関連部分を参照するだけでなく、4年間、活用してほしい。			
担当者の 研究室等	3号館3階12(研究室)			
備考	事前・事後学習に要する時間数の目安:フレーム1に関する学習時間は3.5時間程度、フレーム2に関する学習時間は5.5時間程度。			

科目名	産業労働社会学	科目名 (英文)	Sociology of Labor and Industry
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本 圭三
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1014a0		

授業概要・目的	本科目では、産業や労働に関する現象について社会学的分析視点に基づいた講義がおこなわれる。基礎科目として、産業・労働分野における古典的研究などが紹介されるとともに、労働に関わる基本的な制度や構造、人びとの働き方の現状といった話題が取り上げられる。また若者、ジェンダーといった個別のトピックについて、その領域での重要事項と現状についても取り上げられる。こうした内容を通して受講生が産業・労働分野における基礎事項を理解すること、今日の労働世界の実情・問題とその背景について社会学的な観点で把握できるようになることが、本講義のねらいである。
到達目標	①産業・労働分野の古典的研究が説明できる。 ②労働に関わる諸制度が説明できる。 ③働き方の多様なさまや、若者・ジェンダーに関連する労働の現状について説明できる。 ④労働世界の実情について、理論やデータを用いて説明できる。
授業方法と留意点	授業は、(1) 資料に基づく講義形式、(2) 講義内容に関連する受講生相互のディスカッション、(3) 映像等を含む教材を用いた学習と学習内容の発表と教員からのフィードバック、といった種々の方法を織り交ぜて実施される。
科目学習の効果 (資格)	産業・労働分野の社会学的知識の獲得、自身の働くイメージの形成

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	仕事・労働・職業のとらえ方	事前：シラバスの理解 (0.5時間) 事後：資料を基にした復習 (1.5時間)
	2	古典的研究の視座 1	社会学的研究の視点	事前：当該回の資料を読む (1.5時間) 事後：資料を基にした復習 (1.5時間)
	3	古典的研究の視座 2	人間関係論・科学的管理法	事前：当該回の資料を読む (1.5時間) 事後：資料を基にした復習 (1.5時間)
	4	古典的研究の視座 3	社会分業論	事前：当該回の資料を読む (1.5時間) 事後：資料を基にした復習 (1.5時間)
	5	労働に関わる諸制度 1	日本的雇用慣行 1：主たる特徴	事前：当該回の資料を読む (1.5時間) 事後：資料を基にした復習 (1.5時間)
	6	労働に関わる諸制度 2	日本的雇用慣行 2：しくみとその背景	事前：当該回の資料を読む (1.5時間) 事後：資料を基にした復習 (1.5時間)
	7	労働に関わる諸制度 3	キャリアと地位達成	事前：当該回の資料を読む (1.5時間) 事後：資料を基にした復習 (1.5時間)
	8	労働に関わる諸制度 4	労使関係	事前：当該回の資料を読む (1.5時間) 事後：資料を基にした復習 (1.5時間)
	9	働き方のありよう 1	キャリアの多様化	事前：当該回の資料を読む (1.5時間) 事後：資料を基にした復習 (1.5時間)
	10	働き方のありよう 2	転職	事前：当該回の資料を読む (1.5時間) 事後：資料を基にした復習 (1.5時間)
	11	働き方のありよう 3	非正規雇用	事前：当該回の資料を読む (1.5時間) 事後：資料を基にした復習 (1.5時間)
	12	労働と若者・ジェンダー1	若年層の就業実態	事前：当該回の資料を読む (1.5時間) 事後：資料を基にした復習 (1.5時間)
	13	労働と若者・ジェンダー2	性別職域分離	事前：当該回の資料を読む (1.5時間) 事後：資料を基にした復習 (1.5時間)
	14	労働と若者・ジェンダー3	格差の実情	事前：当該回の資料を読む (1.5時間) 事後：資料を基にした復習 (1.5時間)
	15	まとめ	働くことを社会学する視点	事前：当該回の資料を読む (1.5時間) 事後：資料を基にした復習 (1.5時間)

関連科目	仕事とくらしの社会学
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	受講態度 (10%)、複数回設定される課題および試験等 (90%) で評価する
-----------	---

学生へのメッセージ	やや難しい議論もありますが、興味のある学生にはぜひ受講してもらいたと思っています。
-----------	---

担当者の研究室等	3号館3階・山本研究室
----------	-------------

備考	【事前・事後学習についての追記】(上記授業計画に記載している内容とは別に) 複数回設定される課題に関連する学習と課題作成：計16時間程度
----	--

科目名	情報社会論	科目名 (英文)	Introduction to Information Society
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松本 恭幸
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1015a0		

授業概要・目的

情報社会におけるネットメディアの普及の中で起きた人々のコミュニケーションやライフスタイルの変化の歴史について学び、これからの情報社会の展望とそこで生活する市民にとって必要なメディア情報リテラシー（特にITやメディアを活用して社会の様々なコミュニティの人達とパブリックコミュニケーションを行う能力）と、それを活用した防災・関係人口の拡大といった地域社会の課題解決、そして持続可能な地域社会のデザインについて考察する。

そのためネットメディアの発展の歴史やそれを活用したコミュニケーションの仕組みの変遷、そして東日本大震災をきっかけとした新たな展開について理解した上で、コロナ以降の将来の方向について展望することが必要で、本講義では記録映像を利用して概説するとともに、全国各地で展開している様々な取り組み（防災システムの構築、オープンデータの活用、コミュニティアーカイブの構築等）について、個別の事例研究を通して理解を深めることを目的とする。

到達目標

① ネットメディアの誕生から今日までの大まかな歴史について理解することができる。
 ② ネットメディアが普及する中で起きた人々のコミュニケーションやライフスタイルの変化について理解することができる。
 ③ これからの社会に必要なメディア情報リテラシーについて考え、身に付けることができる。
 ④ 東日本大震災をきっかけに顕在化した地域社会の課題（防災、関係人口の拡大等）の解決に向けて、ITやメディアを活用して全国各地でどのような取り組みが行われているのか、個別の事例研究をもとに理解を深めることができる。
 ⑤ これからのコロナ以降の地域社会におけるITやメディアを活用した課題解決のための様々な取り組みについて、将来の方向を展望し、その中で学生個々人が自らの関わり方について考える。

授業方法と留意点

必要に応じてテキストに目を通して事前学習をもらった上、配布資料、プレゼン資料の投影、記録映像の上映と解説によって行う。また授業の後半には、可能な範囲でアクティブラーニングを行う。授業内容についての理解を確認するため、毎回、授業の終わりに出席を兼ねてリアクションペーパーにコメントを書いてもらい、教員側でフィードバックするため、必要に応じて翌週にコメントする。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	市民参加型のネットメディアの誕生	授業全体の内容についてのガイダンス パソコン通信からインターネットへの移行と匿名電子掲示板、インターネット新聞、ブログ、SNSの登場の歴史 授業の後半で行うシンプリオバトルについての説明	事前：シラバスで授業内容の確認	1時間 事後：授業の中で指示 2時間
2	ネットメディアが担った新たな役割	地方自治への市民参加、ジャーナリズムへの市民参加（当事者ジャーナリズムの誕生）	事前：前回の授業の中で指示	1時間 事後：授業の中で指示 2時間
3	ブロードバンドが実現した映像配信	CATVへの影響、市民による映像祭・上映会からネットや放送番組（パブリックアクセス）での配信への移行	事前：前回の授業の中で指示	1時間 事後：授業の中で指示 2時間
4	ネット上での市民映像の普及と作り手の裾野拡大	NPO/NGOによる映像制作、学校教育での映像制作	事前：前回の授業の中で指示	1時間 事後：授業の中で指示 2時間
5	東日本大震災での被災地からの情報発信	ネット、CATV、エリア放送が果たした役割	事前：前回の授業の中で指示	1時間 事後：授業の中で指示 2時間
6	被災地の外から東日本大震災を伝えた市民メディア	東日本大震災を伝えたブロガー、市民映像	事前：前回の授業の中で指示	1時間 事後：授業の中で指示 2時間
7	学生による東日本大震災の被災地での市民メディア活動	「学生による被災地支援のための市民メディアプロジェクト」の取り組み	事前：前回の授業の中で指示	1時間 事後：授業の中で指示 2時間
8	東日本大震災後の被災地における情報発信を振り返る課題	大規模災害時の地域メディア支援、新たな防災システム構築	事前：前回の授業の中で指示	1時間 事後：授業の中で指示 2時間
9	ネットのOTTサービスと競合するCATVの向かう方向	業界再編と地域密着志向、インフラビジネスからコンテンツビジネスへの回帰	事前：前回の授業の中で指示	1時間 事後：授業の中で指示 2時間
10	SNS全盛期における自治体広報と市民メディア活動の現状	シティプロモーション、商店街等の地域コミュニティからの発信	事前：前回の授業の中で指示	1時間 事後：授業の中で指示 2時間
11	地域の情報環境整備	官民連携による地域情報化（地域のコミュニケーションデザイン）、オープンデータの活用	事前：前回の授業の中で指示	1時間 事後：授業の中で指示 2時間
12	地域の情報を発信する地域情報サイトの動向と展望	地域の外に地域の魅力を伝えるサイト、地域の中で必要な生活情報を伝えるサイト、地域ジャーナリズムを目指すニュースサイト	事前：前回の授業の中で指示	1時間 事後：授業の中で指示 2時間
13	地域の記録と記憶の継承に向けたコミュニティアーカイブの構築	地域に眠る写真や映像のデジタルアーカイブ化、東日本大震災の被災地での震災アーカイブ構築	事前：前回の授業の中で指示	1時間 事後：授業の中で指示 2時間
14	防災と関係人口拡大に向けて	コロナ以降の市民、自治体による地域メディア、地域アーカイブを活用した情報発信	事前：前回の授業の中で指示	1時間 事後：授業の中で指示 2時間
15	持続可能な地域社会のデザインに向けて	将来に向けた地域からの情報発信と交流の場づくりの課題の整理	事前：前回の授業の中で指示	1時間 事後：授業の中で指示 2時間

関連科目 地域メディア論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	市民が育む持続可能な地域づくり 地域メディアの役割と文化拠点としてのミュージアム	松本恭幸 (編)	同時代社

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地域でつくる・地域をつくる メディアとアーカイブ	松本恭幸（編）	大月書店
	2	令和のローカルメディア 防災・関係人口拡大に向けた課題	松本恭幸、佐藤和文、佐藤博昭	あけび書房
	3	コミュニティメディアの新展開 東日本大震災で果たした役割をめぐって	松本恭幸	学文社
評価方法 (基準)	授業内のアクティブラーニングで50%、期末レポートで50%評価する。			
学生への メッセージ	将来、IT関係やメディア関係の業界、自治体の広報部門で仕事したい学生、ITやメディアを活用した地域づくり活動に関心のある学生に、必要な知識をレクチャーする。			
担当者の 研究室等	3号館3階・松本研究室			
備考	授業内で行うシンプリオバトルのプレゼンで、各自、15時間程の準備作業が必要となります。 授業で最後に課題レポートを書いてもらうため、毎回、必ずノートをとってください。			

科目名	福祉社会学	科目名 (英文)	Welfare Sociology
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小池 高史
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG2016a0		

授業概要・目的	福祉社会学は、広い意味での福祉を対象とする社会学である。現代社会では、人口の高齢化や人口減少が進むなか、福祉や生活の質の考え方がますます重要なものになってきている。そのため、福祉という側面から、現代社会をとらえる視点を持つことの重要性も高まっている。この授業では、福祉社会学の基本概念や現代の社会課題について学び、私たちが他者をケア（支援）すること、他者からケア（支援）を受けることがどういったことなのか、理解することを目的とする。
到達目標	社会保障制度について説明できるようになる。 福祉や生活の質の考え方が重要になってきている背景について説明できるようになる。 高齢社会における福祉の課題について説明できるようになる。 自立とケアの関係について説明できるようになる。
授業方法と留意点	配布資料、パワーポイント、板書によって行う。映像資料も活用する。授業内でディスカッションを行う。授業の最後にその回の内容に関連した質問をし、回答を記入してもらう。授業の冒頭に、前回の回答の結果を共有し、議論する。
科目学習の効果 (資格)	ケアの視点から人間関係を考えることが、卒業研究の企画、分析、考察につながる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の方法 講義への導入	(事前) シラバスの理解 (1時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (1時間)
2	人口変動	高齢化、人口減少、従属人口割合、シングル化	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (1時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (1時間)
3	日本の社会保障 (1)	日本の社会保障の体系、社会保険、公的扶助、社会福祉	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (1時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (1時間)
4	日本の社会保障 (2)	社会保障の歴史、恤救規則、救護法、福祉元年、介護保険	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (1時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (1時間)
5	日本の社会保障 (3)	年金、生活保護、医療保険、介護保険制度、障害者施策、児童福祉	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (1時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (1時間)
6	障害の社会モデル	障害学、個人モデル、社会モデル、依存、障害者差別、合理的配慮	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (1時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (1時間)
7	インフォーマルケア	家族、地域社会、被援助志向性、有償ボランティア	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (1時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (1時間)
8	障害者の自助・自立 (1)	障害当事者運動、自己決定、地域生活、生活の質	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (0.5時間)
9	障害者の自助・自立 (2)	障害者支援の映像資料の視聴	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (1時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (1時間)
10	地域包括ケア	高齢者介護、サードセクター、健康観の変遷、互助活動	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (1時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (1時間)
11	課題レポートについて	課題レポートのフィードバック	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (1時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (1時間)
12	認知症ケア (1)	認知症高齢者の施設でのケア、地域での生活、権利擁護	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (1時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (1時間)
13	認知症ケア (2)	認知症ケアの映像資料の視聴	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (0.5時間)
14	高齢者の社会的孤立	孤独死、居住形態の変遷、ジェンダー差、孤立の要因と結果	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (1時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (1時間)
15	まとめ	課題の振り返り 援助拒否問題	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (1時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (1時間)

関連科目	ジェロントロジー
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	授業内で提示する		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	レポート (50%)、授業内課題 (50%) で評価する。
学生への メッセージ	人を助けること、人に助けられることとはどういうことかをテーマにした授業です。
担当者の 研究室等	3号館3階 小池准教授室
備考	【事前事後学習】 レポート作成、課題にかんする作業時間：30時間程度

科目名	ジェンダー論	科目名 (英文)	Gender Studies
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀田 裕子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG2017a0		

授業概要・目的	男女の人口はほぼ同じなのに、なぜ女性は社会的マイノリティであり続けるのか。なぜそもそも人間の性は二つと決められているのか。性にとらわれない生き方はどのようにしたら可能になるのか。本授業では、以上の問題意識に基づき、まず性を社会問題として扱う出発点として、フェミニズムという思想および社会運動の歴史と争点を概観する。そして、私たちがライフコースの中で経験する性に関わる諸問題について、国際比較を交えて考えていく。また、性の観点からさまざまな身体が経験する、性の商品化、性暴力、身体変工への指向に関する諸議論を見ていく。これらに基づき、セックス、ジェンダー、セクシュアリティにおいて自分と異なる立場にある人々を理解することを目的としている。
到達目標	①性およびその在り方をめぐる差別の歴史についての知識を得ることができる。 ②ライフコースの中で生じる性をめぐる諸問題に関する知識と考え方を得ることができる。 ③多様な性およびその在り方についての知識と考え方を得ることができる。 ④これらの知識と考え方をもとに、性をめぐるさまざまな社会問題について自分自身で考え批評することができる。
授業方法と留意点	配付資料 (テキスト兼ノートとして使用) とパワーポイントによって行う講義を中心とするが、受講生があらかじめ調べてきた内容に基づいてグループワークを行ったり発表したりする反転授業も実施する。 また、授業内容の理解を深めるために、内容を読んでも、もしくは、用語の意味や社会事象について調べてくる「事前課題」と、授業の理解度を確認するための「確認シート」を課す。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション ー性をめぐる現状ー	SDG s 目標「ジェンダー平等を実現しよう」を軸に、日本における性をめぐる現状について理解する。 キーワード: SDGs、ジェンダーギャップ指数	事前: シラバスの閲読 事後: 確認シートへの取り組み、資料の整理
2	ジェンダー・セックス・セクシュアリティ	性を考えるための諸概念や生物学的/社会学的観点を学びながら、さまざまな領域にわたる性別役割分担意識の問題を知る。 キーワード: ジェンダー/セックス、セクシュアリティ、生物学決定論	事前: 資料の閲読、語句調べなど 事後: 確認シートへの取り組み、資料の整理
3	フェミニズムの歴史と争点 (1) 公的領域での平等を目指して	性を「社会問題」として考える出発点として、第一波フェミニズム、および、日本のフェミニズムの黎明期をたどる。 キーワード: 参政権、リベラル・フェミニズム、青鞥、母性保護論争	事前: 資料の閲読、語句調べなど 事後: 確認シートへの取り組み、資料の整理
4	フェミニズムの歴史と争点 (2) 私的領域での平等を目指して	思想が多様化した第二派フェミニズムとそれぞれの立場の主張について概観する。 キーワード: ウーマン・リブ、マルクス主義フェミニズム、ラディカル・フェミニズム	事前: 資料の閲読、語句調べなど 事後: 確認シートへの取り組み、資料の整理
5	フェミニズムの歴史と争点 (3) 性は解放された?	アンチフェミニズムの動き、およびポストフェミニズムの動きについて考える。 キーワード: ミソジニー、バックラッシュ、ポストフェミニズム、MeToo	事前: 資料の閲読、語句調べ、プレゼンテーマの検討など 事後: 確認シートへの取り組み、資料の整理
6	フェミニズムについてもっと知ろう	多様に分岐してきたフェミニズムの思想について、グループごとに調べ、発表をおこなう。	事前: プレゼン準備 事後: プレゼン振り返り、資料整理
7	ライフコースに見るジェンダー (1) 社会化と教育	社会化と教育の過程で身体化されるジェンダー意識と、それがもたらすジェンダー格差について学ぶ。 キーワード: 社会化、遊び、かくれたカリキュラム、進路	事前: 資料の閲読、語句調べなど 事後: 確認シートへの取り組み、資料の整理
8	ライフコースに見るジェンダー (2) 社会生活	社会生活、とくに仕事をめぐる状況に見いだせるジェンダー不平等について学ぶ。 キーワード: 就労曲線、ワーク・ライフ・バランス、ポジティブ・アクション	事前: 資料の閲読、語句調べなど (1.5 時間) 事後: 確認シートへの取り組み、資料の整理 (1.5 時間)
9	ライフコースに見るジェンダー (3) 家庭生活	“家族すること”をめぐるジェンダー不平等について学ぶ。 キーワード: キーワード: 家父長制、ロマンティック・ラブ・イデオロギー、主婦、アンペイド・ワーク	事前: 資料の閲読、語句調べなど 事後: 確認シートへの取り組み、資料の整理
10	日常的なかのジェンダーを考える	広告やポップカルチャーなど、日常生活のなかで何気なく見たり聞いたりしているジェンダーの今について調べ、考察し、発表をおこなう。	事前: プレゼン準備 事後: プレゼン振り返り、資料整理

	11	ジェンダー化される身体(1) 性の商品化と性暴力	身体の商品化と身体に向けられるさまざまなレベルの「暴力」について考える。 キーワード:セックス・ワーク、DV、リプロダクティブ・ライツ	事前:資料の閲読、語句調べなど(1.5時間) 事後:確認シートへの取り組み、資料の整理(1.5時間)
	12	ジェンダー化される身体(2) 身体変工とファッション	身体を加工することおよび身体への意識と性との関係性を考える。 キーワード:身体変工、自然/文明、ルッキズム	事前:資料の閲読、語句調べなど 事後:確認シートへの取り組み、資料の整理
	13	性の多様性を理解するために(1) 男性性	「男性性」および男性の生きづらさについて考える。 キーワード:男性学、マスキュリズム、イクメン/ケアメン	事前:資料の閲読、語句調べなど 事後:確認シートへの取り組み、資料の整理
	14	性の多様性を理解するために(2) LGBTQ/SOGI	多様な性のあり方をめぐる諸問題を理解する。 キーワード:同性婚、LGBTQ/SOGI、性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律	事前:資料の閲読、語句調べなど 事後:確認シートへの取り組み、資料の整理
	15	性にとらわれない生き方はいかにして可能か	授業内容をまとめ、多様な性のあり方を認めよう社会の実現のために必要なことについて、グループごとに発表をおこなう。	事前:プレゼン準備 事後:プレゼン振り返り、資料整理
関連科目	家族社会学、文化社会学、地域社会学、産業労働社会学、子どもと教育の社会学、福祉社会学、社会運動・ボランティア論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	フェミニズム入門	大越愛子	筑摩書房
	2	よくわかるジェンダー・スタディーズ—人文社会科学から自然科学まで	木村涼子・熊安喜美江・伊田久美子(編著)	ミネルヴァ書房
	3			
評価方法(基準)	小レポート(45%)、事前・事後課題(45%)、グループワーク・プレゼン等の受講態度(10%)で評価し、60%以上で合格とする。			
学生へのメッセージ	「ジェンダー」は、女性や性的マイノリティだけでなく、男性や性的マジョリティにとっての問題でもあります。また、性を考えることは、おのずと自己や身体について考えることにもつながってきます。そして、目の現象だけでなく、その背後に隠れている社会構造を考えることも重要です。未来を見据えながら、一緒に考えていきましょう。			
担当者の研究室等	3号館3階・堀田研究室			
備考	【事前・事後学習に要する時間数の目安】 事前学習 資料の閲読・事前の調べものなど(計12回):各1.5時間程度、プレゼン準備(計3回):各3時間程度 事後学習 確認シートの実施・振り返りなど(計15回):各1.5時間程度 ※別途、小レポート作成時間として、計10.5時間程度を要する。			

科目名	家族社会学	科目名 (英文)	Sociology of Families
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩井 八郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG2018a0		

授業概要・目的	家族は親密な人間関係の礎であり、次世代の再生産を担う基盤とみなされてきた。そのため家族は社会政策の主要な対象でもあり、家族の変化には常に大きな社会的関心が寄せられてきた。現在の日本の家族は大きな転換期を迎えている。少子化、高齢化、晩婚化、雇用機会均等、格差拡大など現在の日本社会を特徴づける多くの現象は家族に関係する。本授業では、家族に関係する様々な現象を読み解き、分析するための社会的視点を講義する。日本の家族の姿について、統計データから浮かび上がる特徴、歴史的な変化の中での位置付け、国際比較から見た共通性とユニークさについて知識を深めることができるように授業を構成する。
到達目標	① 家族に関係する身近な経験を社会的な視点から分析し説明できる力をつけること ② 現代社会で生じている家族に関する現象を客観的なデータを用いて説明できる力をつけること ③ 現代社会で生じている家族に関する現象を歴史的な文脈と国際比較の観点から読み解く力を養うこと ④ 現在また将来、自分が家族生活を営む上で、重視する点、注意する点について理解を深めること
授業方法と留意点	配布資料、パワーポイントによって行う。授業内容の理解を深めるために、複数回 (3 回程度) 小レポートを実施する。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	家族をどうとらえるか	The Family と Families、Public Families と Private Families という対比を用いて、家族を社会的にどうとらえるかを考える	事前：シラバスの理解 (1 時間) 事後：授業資料の学習 (1 時間)
2	基本用語の説明	家族現象を社会的に理解するための基本用語について説明する	事前：事前配布資料の予習 (1 時間) 事後：授業資料の学習 (1 時間)
3	統計データからみる日本の家族	人口動態や社会調査データ、国際比較データを用いて現在の日本の家族の姿を説明する	事前：事前配布資料の予習 (1 時間) 事後：授業資料の学習 (1 時間)
4	戦後日本型家族モデル	戦後日本社会における性別役割分業型の夫婦家族の定着について説明する	事前：事前配布資料の予習 (1 時間) 事後：授業資料の学習 (1 時間)
5	福祉レジームと家族	福祉レジームの 3 類型 (社会民主主義、保守主義、自由主義) における家族の特徴と比較して日本のユニークさを説明する	事前：事前配布資料の予習 (1 時間) 事後：授業資料の学習 (1 時間)
6	ポスト近代社会と家族の変容	1970 年代以降の欧米諸国の家族の変化と比較して、日本の変化の特徴を説明する	事前：事前配布資料の予習 (1 時間) 事後：授業資料の学習 (1 時間)
7	配偶者選択と恋愛・性	恋愛結婚の誕生から、現在の晩婚化、婚活、草食化などの現象、現在の結婚戦略などのトピックを取り上げる	事前：事前配布資料の予習 (1 時間) 事後：授業資料の学習 (1 時間)
8	仕事と家族	性別役割分業型家族における夫婦関係からの変化、とくに女性の就業拡大とワーク・ライフバランスの現状を取り上げる	事前：事前配布資料の予習 (1 時間) 事後：授業資料の学習 (1 時間)
9	社会階層と家族	階層による夫婦関係、子育て、家族に対する期待の差を説明し、日本の中流階級家族の分化、貧困の問題を取り上げる	事前：事前配布資料の予習 (1 時間) 事後：授業資料の学習 (1 時間)
10	離婚とその後	日本の離婚率の変化、世界の動向、離婚理由と離婚観の現在、離婚と子ども、再婚事情などのトピックを取り上げる	事前：事前配布資料の予習 (1 時間) 事後：授業資料の学習 (1 時間)
11	子育てと親子関係	子ども観の変遷、就学前教育、母子関係と父子関係の現状について、母親の就業と父親の育児参加を背景に検討する	事前：事前配布資料の予習 (1 時間) 事後：授業資料の学習 (1 時間)
12	家族と暴力 体罰、児童虐待、DV などについて現状、理論的説明、課題について検討する	体罰、児童虐待、DV などについて現状、理論的説明、課題について検討する	事前：事前配布資料の予習 (1 時間) 事後：授業資料の学習 (1 時間)
13	家族と高齢者	高齢者の家族形態に関して近年の単独世帯の増加に着目して、高齢者援助の問題を考える。	事前：事前配布資料の予習 (1 時間) 事後：授業資料の学習 (1 時間)
14	家族とコミュニティ	ケアの外部化とコミュニティの役割について、現状と課題を検討する	事前：事前配布資料の予習 (1 時間) 事後：授業資料の学習 (1 時間)
15	家族政策と家族の未来	親密な人間関係への政策的な介入が進む時代である。パートナー関係の多様化を踏まえて、家族の未来を考える	事前：事前配布資料の予習 (1 時間) 事後：授業資料の学習 (1 時間)

関連科目	ジェンダー論、福祉社会学
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	家族社会学事典	日本家族社会学会編	丸善出版株式会社
	2	21 世紀家族へ	落合恵美子	有斐閣

	3	家族社会学を学ぶ人のために	井上眞理子編	世界思想社
評価方法 (基準)	小レポート3回(60%)、定期試験(40%)、			
学生への メッセージ	身近な親密な人間関係のあり方とその将来をマクロな社会学的視点から考えてみましょう。			
担当者の 研究室等	3号館3階15号室(岩井研究室)			
備考	事前学習(配布資料を読む、前回の復習など)と事後学習(授業資料を基に内容を学習、課題への取り組みなど)を合わせて、概ね30時間程度、小テストやレポート準備のために概ね30時間程度			

科目名	社会運動・ボランティア論	科目名 (英文)	Studies of Social Movement and Volunteerism
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	江口 怜
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG2019a0		

授業概要・目的	近代以降、人々は「社会問題」を発見し、その問題を解決するための様々な営為が行なわれ、それらは「社会運動」や「ボランティア」と呼ばれるようになった。本講義では、近現代日本、特に戦後日本の社会運動やボランティアの歴史を取り上げ、両者の違いよりも共通性に着目しながら、「社会を変える」ことを目指した様々な取り組みの概要や特徴や学ぶ。そのことにより、現代の社会運動やボランティアを社会科学的に認識・考察するための基本的視座を獲得することを目的とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・近現代日本における社会運動・ボランティアの歴史的展開過程の概要を理解する。 ・さまざまな社会運動・ボランティアの共通点や違いを理解する。 ・現代の社会運動・ボランティアに対して、社会科学的見地から自分なりの考察を行うことができる。
授業方法と留意点	配布資料、パワーポイント、板書等を用いた講義を基本とする。授業内容の理解を深めるために、概ね毎回の授業時に小レポート作成、討論等を行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	社会運動・ボランティアとは何か	近代社会において社会問題が発見され、社会運動やボランティア活動が誕生した歴史と現代的動向を理解する。	事前：シラバスの理解 事後：小レポート
2	近代日本における社会運動とボランティア	明治期以降の近代日本で社会運動やボランティア・セツルメントが誕生した歴史的経緯を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：小レポート
3	現代日本における社会運動とボランティア	第二次大戦後の日本の社会運動やボランティアの展開過程を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：小レポート
4	教育運動①—反差別の教育運動	戦後日本の教育運動の事例として、部落問題や在日朝鮮人問題等に取り組んだ反差別の教育実践について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：小レポート
5	教育運動②—自主夜間中学運動・識字運動	戦後日本の教育実践の事例として、自主夜間中学や識字学級における成人学習とそれを支えた市民運動について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：小レポート
6	教育運動③—障害児の共生教育運動	戦後日本の教育運動の事例として、障害児が普通学校・学級で共に学ぶことを目指した教育運動について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：小レポート
7	教育運動④—不登校・フリースクール・居場所	戦後日本の市民教育運動の事例として、不登校の子どものためのフリースクールや居場所づくりの運動について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：小レポート
8	障害者運動①—自立生活運動が問うたもの	戦後日本において施設ではなく地域での生活を求めた障害者らの自立生活運動について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：小レポート
9	障害者運動②—青い芝の会と学生ボランティア	戦後日本の代表的な障害者運動団体である脳性麻痺者のグループ青い芝の会を取り上げ、学生ボランティアとの関わりを中心に学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：小レポート
10	障害者運動③—強制不妊手術問題と優生思想	戦後日本の優生保護法下で行われた強制不妊手術に関する裁判を取り上げ、優生思想の問題について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：小レポート
11	反貧困運動とホームレス生活者支援	戦後日本における反貧困を目指した運動やホームレス生活者支援の実践について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：小レポート
12	在日コリアンの民族運動・市民権獲得運動	戦後日本において在日コリアン当事者らが展開した民族運動や市民権獲得運動について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：小レポート
13	フェミニズム・ウーマンリブと女性支援	戦後日本のフェミニズムや女性の自律を求めたウーマンリブの運動、その後の女性支援活動等について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：小レポート
14	大学生の政治運動と社会運動	戦後日本の大学生による自治会活動、セツルメント活動を始めとする社会運動・政治運動とのかかわりについて学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：小レポート
15	社会運動・ボランティアの現在	これまでの授業を振り返り、社会運動・ボランティアの現在について考察する。	事前：授業全体の振り返り 事後：最終レポート作成

関連科目 日本社会変動史、ジェンダー論、エスニシティ論、差別の社会学、教育の歴史社会学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキスト市民活動論 [第2版]	大阪ボランティア協会	大阪ボランティア協会
2	社会運動の社会学	大畑 裕嗣ほか編	有斐閣	
3	ボランティアの誕生と終焉	仁平典宏	名古屋大学出版会	

評価方法 (基準)	毎回の小レポート 55%、最終レポート 45%
学生への メッセージ	この社会について違和感がある、社会を変えることに興味がある、といった学生の受講を歓迎します。
担当者の 研究室等	江口怜の研究室 (3号館 3階)
備考	事前事後学習に要する時間は計 60 時間程度

科目名	子どもと教育の社会学	科目名 (英文)	Sociology of child development and education
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	竹中 祐二
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG2020a0		

授業概要・目的	生物としてのヒトが社会の一員としての人間になる過程を理解する上で欠くことのできない、極めて重要な概念が「社会化」であるが、E.デュルケムは方法的社会化・系統的社会化作用として教育を位置付けている。人間にとって、「社会化としての教育」が本質的なものである一方、「制度としての教育」は、時代や文化による影響を色濃く受けるものでもある。この授業では、教育というものの、そもそも、あるいは今、「あるべき姿」というものについて、社会との関わりから捉え直すことを目的とする。
到達目標	①「近代化」との関わりから、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。 ②時代や文化を超えて普遍的である特徴を押さえて、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。 ③今日のな特徴を押さえて、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。 ④教育制度の歴史の変遷や、今日の学校と地域社会や関係機関との連携を踏まえつつ、教育に関わる主体の役割や特徴を、文章によって説明することができる。
授業方法と留意点	・配付資料ならびにスライドを活用した講義を展開する。 ・授業内容の理解を深めるために、小テストないし小レポートを実施する。 ・受講生の要望に応じて、グループディスカッション等のワークを実施する場合もある。 ・各回授業の初めに、復習課題と前回授業に対する振り返り・質疑応答を行う。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	社会的に考えるということ、および教育を社会的に捉え直すことについての基本的な視点を提供し、本科目で学ぶ内容、その意義について整理する。	事前課題:教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
2	制度としての教育①	教育内容や教育方法の変遷を学び、それらが社会と深く関わっていることについて学習する。	事前課題:教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
3	制度としての教育②	階層再生産のメカニズムといった、近代化の所産と教育のあり方について学習する。	事前課題:教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
4	制度としての教育③	主に義務教育課程について、その概要について学ぶと共に、教育をめぐる平等について学習する。	事前課題:教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
5	制度としての教育④	高校ならびに大学への進学率上昇と、その背後に潜む諸問題について学習する。	事前課題:教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
6	社会における教育者の意義①	重要な他者/一般化された他者としての教育者の役割、あるいはそのオルタナティブについて学習する。	事前課題:教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
7	社会における教育者の意義②	今日の子どもの権利をめぐる諸議論に関わって教育が果たすべき役割について考察すると共に、非対称的な関係が構造的にもたらす教育の逆機能についても学習する。	事前課題:教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
8	社会における教育者の意義③	子どもにとっての学校が持つ意味を踏まえながら、教師と子どもの関係および学校現場における両者の相互作用について学習する。	事前課題:教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
9	日本における教育環境の変遷①	学校現場への理解から、非行・不登校・いじめ問題について学習する。	事前課題:教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)

	10	日本における教育環境の変遷②	トラッキングやメリトクラシーの問題から、日本におけるキャリア教育について学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。（1時間） 事後課題：配信する復習課題に回答する。（1.5時間） 授業内で気になった点について追加学習をする。（1.5時間）
	11	日本における教育環境の変遷③	特別活動や部活動の検討を通して、教師と子どもそれぞれが今日置かれている教育環境について学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。（1時間） 事後課題：配信する復習課題に回答する。（1.5時間） 授業内で気になった点について追加学習をする。（1.5時間）
	12	日本における教育環境の変遷④	今日的な課題のうち、マイノリティ教育に対する教育の意義や実践例について考察する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。（1時間） 事後課題：配信する復習課題に回答する。（1.5時間） 授業内で気になった点について追加学習をする。（1.5時間）
	13	日本における教育環境の変遷⑤	今日的な課題のうち、ジェンダー教育に対する教育の意義や実践例について考察する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。（1時間） 事後課題：配信する復習課題に回答する。（1.5時間） 授業内で気になった点について追加学習をする。（1.5時間）
	14	総括①	社会との関わりから教育を理解するための方法論的基礎知識について学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。（1時間） 事後課題：配信する復習課題に回答する。（1.5時間） 授業内で気になった点について追加学習をする。（1.5時間）
	15	総括②	本科目を通じて学習した内容について振り返り、専門職をはじめとするそれぞれの立場から社会の中で教育を達成することの意義について再考し、理解を深める。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。（1時間） 事後課題：配信する復習課題に回答する。（1.5時間） 授業内で気になった点について追加学習をする。（1.5時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現場で使える教育社会学	中村高康・松岡亮二	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代教育社会学	岩井八郎・近藤博之	有斐閣
2	新・教育の社会学	荻谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗	有斐閣
3	これからの教育社会学	相澤真一・伊佐夏実・内田良・徳永智子	有斐閣

評価方法
(基準)

期末試験（55%）と複数回の小テストないし小レポート（45%）で評価し、60%以上で合格とする。なお、グループディスカッション等のワークを実施する場合、それに係る提出物は小レポートに含まれるものとする。

学生への
メッセージ

担当者の
研究室等

3号館3階・竹中研究室

備考

科目名	国際社会学	科目名 (英文)	Global Sociology
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	落合 知子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG2021a0		

授業概要・目的	<p>グローバル化する世界で人間・情報・物資・資本の国境を越えた移動が激しさを増している。そのなかで起こるさまざまな問題についてまなび、私たちに何ができるのか考え、行動する(あるいはその行動の準備をする)ことをめざす。グローバル化に関わる諸課題のなかでも特に以下の3つの論点を本講義では取り上げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 南北問題とは何か。南北問題改善のために、市民にできることはなんだろう。 2) 開発・発展とは何か、私たちはどのように関わっているのだろうか。 3) 人の国際移動はなぜ起こるのか。私たちの日常とのかかわりは何か。
---------	--

到達目標	<p>到達目標として下記の4点をあげる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①南北問題を北側の視点のみならず、南側からの視野についても理解し、市民としてできることを考え行動に移せるようにする。 ②国際開発に取り組むNPO/NGO、国連、各国政府機関について理解し、市民として、あるいは将来のキャリアとしてどう取り組むことができるのかを考察し、行動する(あるいはその準備をする) ③人の国際移動について、いくつかの地域で起こっていることを理解し、自分がどう関わっているかを考察を深める。 ④自分自身の取り組むべきテーマを見つけ、そのテーマを理解し、考察を深め、行動を起こすための準備を始める。
------	---

授業方法と留意点	授業は基本講義によって行う。ディスカッションやシュミレーションゲームなど参加型のアクティビティを取り入れる。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	<p>地域の問題や国際問題にアクセスする方法を知る。 世界のニュースと自分のかかわりを理解する。 よりよい社会を作るために自分たちにできることを思い描けるようになる。</p>
--------------	---

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	自己紹介ゲーム 講義：グローバルゼーションとは何か 次回のアクティビティのための班分け	事前学修：自分の関心事と授業への要望を考えてくる。 事後学修：講義への要望と自分の関心事を200字程度にまとめてMOODLEに投稿する。
2	南北問題を南から見つめる1	シュミレーションゲーム：コーヒーを作る村から	事前学修：コーヒーについて知っていることをまとめてMOODLEに投稿 事後学修：今日の活動で分かったことをMOODLEに投稿	
3	南北問題を南から見つめる2	映画視聴「おいしいコーヒーの真実」	事前学修：世界のコーヒー消費量について調べてくる 事後学修：映画の感想をMOODLEに投稿する	
4	南北問題を南から見つめる3	講義とディスカッション 映画「おいしいコーヒー」を受けてのスターバックスの奮闘	事前学修：近所のスーパーのコーヒー売り場を見てどんなものが売っているか見てくる。 事後学修：講義の感想と自分自身の活動計画をMOODLEに投稿する	
5	私たちの生活と南の国つながりを知る1	熱帯林喪失と私たちの暮らし サラワクの先住民になって開発問題を考える	事前学修：コーヒー以外の南北をつなぐ産品をMOODLEに投稿する 事後学修：講義の感想と講義内での質問への答えをMOODLEに投稿する	
6	私たちの生活と南の国つながりを知る2	児童労働と私たちの暮らし パームオイルツリープランテーションに生きる少女ミーナの人生を経験してみる	事前学修：指定の文献を読んでくる 事後学修：講義の感想と講義内の質問への答えをMOODLEに投稿する。	
7	国際開発とは何か1 概論	講義：開発の目的の変遷と多様なアクターについて	事前学修：国際開発・国際援助寄付活動などについての経験の共有 事後学修：講義の感想をMOODLEに投稿する	
8	国際開発とは何か2	援助協調と万人のための教育	事前学修：指定の文献を読んでくる 事後学修：講義の感想をMOODLEに投稿する	
9	国際開発とは何か3 参加者(受益者)主体の開発ってどういうこと?	学生(受益者)としてキャンパス改善計画を立ててみる。	事前学修：指定の文献を読んでくる 事後学修：講義の中の成果物を仕上げてTEAMSで提出する	
10	国際開発とは何か4 当事者運動のグローバルな展開を考える	先住民の権利運動・消費者運動など	事前学修：世界の当事者運動・国境を越えた連帯運動などで知っているものを探してくる。 事後学修：講義の感想をMOODLEに投稿する	
11	人の国際移動1	生産の国際化と人の移動についてタイの農村から考える。タイ東北地方ーバンコクー日本の関係から考察する。	事前学修：タイについて知っていることをまとめてくる 事後学修：本日の講義の感想をMOODLEに投稿する	
12	人の国際移動2	サスキア・サッセンの新ブルーブッシュ理論を学び、人は何故国境を越えるのか理解する。	事前学修：人はなぜ国境を超えるのか考えてくる 事後学修：講義の感想をMOODLEに投稿する	
13	日本の外国人受け入れ 概論	講義：在日外国人受け入れの歴史と今ある課題	事前学修：日本の移民受け入れについて知っていることをMOODLEに投稿する	

				事後学修：国際的な課題（地球規模の足元の課題も含める）に取り組むために何ができるか行動計画を考える
	14	日本にいてできる国際的な取り組み	学生発表とそれへのコメント	事前学修：日本にいて参加可能な開発問題への取り組みを MOODLE に投稿する（優秀者は講義内で発表）。 事後学修：今後の活動プランを策定して MOODLE に投稿する
	15	将来のキャリアについて「国際的な取り組みを仕事にする」ことを考える	南北問題、人の国際移動、その他に関わる仕事にはどんなものがあるのか、そうした就職をするためにはどのような準備が必要か理解する。	事前学修：自分自身のキャリアプランを考えてくる 事後学修：キャリアプランを実現するための方法を考える
関連科目	エスニシティ論 社会運動・ボランティア論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	続・入門社会開発—PLA:住民主体の学習と行動による開発	プロジェクト PLA	国際開発ジャーナル社
	2	「コーヒー危機の原因とコーヒー収入の安定・向上策をめぐる神話と現実」 https://opac.11.chiba-u.jp/da/curator/900066951/13482084_57_203.pdf	妹尾裕彦	千葉大学
	3			
評価方法 (基準)	<p>期末レポート：講義のテーマの中から選んであなたが学術書を書いたとします。その本のタイトルと概要を約 400 文字で、6 章構成で各章題と各章の概要を各 300 文字で、合計 2200 文字前後レポートを提出しなさい(50 点)</p> <p>平常点(参加型学習への参加度、チームメンバーからの評価、事後学習課題の小レポートなど) (40 点)</p> <p>事前事後課題の講義内での採択 (10 点)</p>			
学生への メッセージ	<p>主体的な参画を期待しています。</p> <p>国際問題を遠い国の他人事ではなく、あなたの生活とつながった足元の問題としてとらえるセンスが身につくことを期待しています。</p>			
担当者の 研究室等	3 号館 3 階 (落合研究室)			
備考	<p>【事前事後学修】</p> <p>発表準備、レポート作成、予習復習の時間 60 時間程度</p>			

科目名	臨床心理学	科目名 (英文)	Clinical Psychology
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	竹端 佑介
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG2022a0		

授業概要・目的	<p>複雑な世の中にある昨今において、悩みや不安を抱えることが多くなる。また、複雑な現代にあつては、人と人との関わりはますます重要になってくるように思われる。そのような中で、他者を支援するものに臨床心理学という学問から学べることは多々ある。</p> <p>では、臨床心理学とは、実際にどのような学問なのだろうか。臨床心理学の知識や技法は他者との関わる際に私たちにヒントを与えてくれる。本講義は、臨床心理学の基礎知識をもとに様々な臨床心理学における技法を実際に行いながら、臨床心理学の基礎的な理論およびその具体的な基礎技法の習得を目的とする。</p>
到達目標	<p>① 臨床心理学の成り立ちを理解し、基本的な概念についての知識を得ることができる。</p> <p>② 臨床心理学における「アセスメント」の理論を理解することができる。</p> <p>③ 臨床心理学における代表的な理論を理解することができる。</p> <p>④ 臨床心理学における「傾聴」等の基本技法を理解し、活用できる。</p>
授業方法と留意点	<p>講義はパワーポイントにて行い、文字情報および静止画・動画の資料などを提示する講義形式となるが、単に臨床心理学の理論を学ぶだけでなく、他者との関わりを通して臨床心理学における基礎技法について習得することも求められる。</p> <p>そのため、事前学習では授業テーマに関するキーワードを調べ、前週のノートを復習すること、事後学習では講義で提示された資料や紹介された図書あるいは論文をもとに自身のノートに加筆すること、などの主体的学習が必要となる。</p>
科目学習の効果 (資格)	他者との関わり方の技法について具体的に学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	本講義の概要および授業計画・方法についての説明、臨床心理学の知識が現代において何故必要かを考える。	事前：シラバス確認と理解 事後：基礎心理学と応用心理学の違いを調べておく。
2	臨床心理学とは？	そもそも“臨床心理学”とは何か、その「定義」や「歴史」を辿る。	事前：学習範囲の予習 事後：課題実施と学習のまとめ
3	心理アセスメント①	「心理アセスメント」について概観し、具体的な心理アセスメントの方法について調べ、どのように活用されているかを知る。	事前：学習範囲の予習 事後：課題実施と学習のまとめ
4	心理アセスメント②	第3回の心理アセスメント①の学習からさらに、実際の心理アセスメントにおける一部技法（風景構成法）を使い、自身を臨床心理学的にアセスメントし、自己理解を深める。	事前：学習範囲の予習 事後：課題実施と学習のまとめ
5	臨床心理学の理論	臨床心理学における代表的な3つの理論（精神分析学、行動理論、自己理論）とその技法（精神分析療法、認知行動療法、来談者中心療法）について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：課題実施と学習のまとめ
6	臨床心理学技法の活用	臨床心理学における芸術療法について知り、実際の芸術療法の一つ（コラージュ療法）を実施する。	事前：学習範囲の予習 事後：課題実施と学習のまとめ
7	臨床心理学の実際①	前半のまとめを行う。その後、臨床心理学の理論や技法がどのように活用されているのか、実際の心理臨床場面で確認し、臨床心理学における「倫理」について考え、理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：課題実施と学習のまとめ
8	臨床心理学の実際②	子どもの心理療法について学ぶ。具体的には遊戯療法の事例を紹介するとともに、アクスラインの8原則を学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：課題実施と学習のまとめ
9	集団療法について	個人を対象とした臨床心理学技法だけでなく、集団（グループ）療法について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：課題実施と学習のまとめ
10	臨床心理学基礎技法①	臨床心理学基礎技法における「傾聴」や「受容」とは何を考え、実際に他者との関わりながら傾聴、受容を技法的に活用する。	事前：学習範囲の予習 事後：課題実施と学習のまとめ
11	臨床心理学基礎技法②	ヴァーバルなコミュニケーションとノン・ヴァーバルなコミュニケーションの違いについて理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：課題実施と学習のまとめ
12	臨床心理学基礎技法③	第10、11回をベースにして、「ラポール」について理解し、他者との実際の関わりから「ラポール形成」について考える。	事前：学習範囲の予習 事後：課題実施と学習のまとめ
13	臨床心理学応用技法①	第10回～第12回をベースにして、開いた質問、閉じた質問、ペーシングなどの臨床心理学応用技法を知り、活用する。	事前：学習範囲の予習 事後：課題実施と学習のまとめ
14	臨床心理学応用技法②	第10回～第13回をベースにして、「面接記録」の意味やその活用について考えるとともに、「守秘義務」の意味について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：課題実施と学習のまとめ
15	臨床心理学の基礎理論と技法の確認	授業のまとめ	事前：学習範囲の予習 事後：課題実施と学習のまとめ

関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
----	-----	-----	------

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	臨床心理学入門 -- 多様なアプローチを越境する	岩壁 茂他	有斐閣アルマ
	2	臨床心理学原論	大塚義孝	誠信書房
	3			
評価方法 (基準)	受講態度 (10%)、小テストおよび課題 (90%)			
学生への メッセージ	本授業は、臨床心理学の基本的な理論や技法を学ぶだけでなく、実際に他者と関わりながらコミュニケーション力を培う。したがって、本科目においては、グループワークなど他者との関わりが多くなる。			
担当者の 研究室等	3号館3階【竹端研究室】			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・受講生の学習の進捗状況により、シラバスの内容を一部変更する場合がある。 ・事前事後学習 次回の学習の準備および事前課題作成、毎回の学習のまとめ作業、授業後の課題など60時間以上確保する必要がある。 特に事前の授業準備を十分に行う必要がある。なぜなら、授業時に自身が学習したことを他者に教え、伝えていくことが必要になるからである。			

科目名	地域スポーツ論	科目名 (英文)	Community Sport
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷 めぐみ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	GDG2023a0		

授業概要・目的	地域には、人口減少や少子高齢化、コミュニティの希薄化など喫緊に対応が必要である問題が山積しているが、これらの課題の解決策の一つとして期待されているのが、地域におけるスポーツの持つチカラである。地域住民がスポーツに関わることで得られる個人的な効用はもとより、地域の賑わいや人々のつながりなど地域社会全体へ与える効用が期待されている。本講義では、このような相互の関係性を持つ地域とスポーツに焦点を当て、スポーツ活動を支える地域の担い手や、地域課題を解決するためのスポーツの役割に目を向け、地域とスポーツについての理解を深める。そして、その理解をもとに地域社会をめぐる現象や問題を解決するためのスポーツの活用策を考察する力を養うことを目的とする。
到達目標	①地域におけるスポーツを取り巻く諸側面についての知識を得ることができる。 ②地域のスポーツに見られる課題を発見し、解決する基礎的な能力を身につける。 ③地域のスポーツを推進するための技能や方法を表現することができる。 ④これらの知識をもとに、スポーツを活用した地域課題の解決方法を立案できるようになる。
授業方法と留意点	資料配布、パワーポイント、板書などによる講義と、教員と学生による対話や学生間のディスカッション、グループワークに基づき授業を実施します。また、個人やグループによるプレゼンテーションや学生同士のフィードバック、ふりかえりの機会を積極的に取り入れることから、受講生には授業への主体的な参画を求めます。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	地域とスポーツ	オリエンテーションと授業計画・授業方法の説明、地域とスポーツの関係性について理解する	事前：シラバスの確認 事後：講義のふりかえり
2	スポーツの社会的機能	スポーツが個人や地域社会に及ぼす影響や効用について考え、グループで対話を行う	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
3	地域スポーツとコミュニティ	社会体育やコミュニティ・スポーツの文脈から「スポーツで地域の絆を繋ぐ」の意味合いを理解する	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
4	公共スポーツ施設の整備とマネジメント	日常生活圏域における運動・スポーツ施設の設置と整備の歴史を捉え、マネジメントの現況について理解する	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
5	公共スポーツ施設の経営形態	住民の日常的なスポーツ実践の基礎となる場やサービスについて、提供する組織や団体の経営形態を中心に考える	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
6	学校体育施設の有効活用	地域資源として捉える学校体育施設の有効活用について、「場の共有（共同利用化）」に着目して考える	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
7	地域スポーツ推進の財源	国や地方公共団体のスポーツ関連予算に注目し、地域におけるスポーツ推進事業の新しい財源の活用について考える	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
8	地域スポーツクラブ育成政策	過去のスポーツに関する施策への理解を深め、これからの地域スポーツクラブの姿について考える	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
9	総合型地域スポーツクラブの育成	総合型地域スポーツクラブの特徴と事業の多様性を理解し、文化としてのスポーツを担う新しい公共のあり方を考える	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
10	地域スポーツとスポーツNPO	公益性の高い組織としてのクラブの活動事例を紹介し、総合型クラブのNPO法人化を推進する背景についての理解を深める	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
11	スポーツによる地域イノベーション	スポーツがもたらす地域社会への影響に注目し、地域社会にとってのスポーツの様々な価値と可能性について考える	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
12	地域におけるスポーツ推進の担い手	地域のスポーツを取り巻く環境や地域スポーツの推進を担う組織や団体を知り、自分たちが取り組めることを考える	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
13	地域資源を活用したスポーツ推進	地域の魅力について調べたことを共有し、スポーツ資源としての可能性を考える	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
14	地域課題を解決するためにスポーツができること	グループで具体化した解決策を発表し、フィードバックを受ける	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
15	地域におけるスポーツプロモーション	講義での学びをふりかえり、スポーツによる地域づくりについて考える	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり

関連科目	スポーツ社会学、生涯スポーツ論
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スポーツ地域マネジメント：持続可能なまちづくりに向けた課題と戦略	原田 宗彦	学芸出版社

	2	スポーツ白書 2020-2030 年のスポーツのすがた	笹川スポーツ財団	笹川スポーツ財団
	3			
評価方法 (基準)	毎回の小レポート (45%) と期末レポート (40%)、ワーク成果物 (15%) で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	身近な地域の動向に関心を寄せながら「スポーツのチカラ」を実感してください。			
担当者の 研究室等				
備考	60 時間程度の事前・事後学習をすること			

科目名	社会調査入門	科目名 (英文)	Introduction to Social Research
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後和 美朝
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1024a0		

授業概要・目的	<p>本授業は、社会調査全般に関する基本事項について学習するものである。授業では社会調査の意義やその歴史、および調査倫理についての解説とともに、さまざまな種類の社会調査によってなされた代表的研究についての解説も行われる。</p> <p>これらの内容とおして、受講生は、種々の調査におけるデータの収集から分析までのプロセス、その特徴と相違点について理解し、社会調査の全体的な知識と倫理観を身につける。こうした過程を経て、調査する側として必要となる基本事項とともに、社会で氾濫するデータに翻弄されないための調査リテラシーの土台を獲得することが本授業のねらいである。</p>
到達目標	<p>① さまざまな社会調査の特徴とその違いを理解している。</p> <p>② 調査の実例、歴史について理解している。</p> <p>③ 学術的調査を実施する際に配慮すべき倫理的事項について理解している。</p>
授業方法と留意点	<p>配付資料、パワーポイント、板書によって行う。授業内容の理解を深めるために、アクティブラーニングを適宜実施する。</p> <p>なお、課題や質問等についてのフィードバックは適宜行う。</p>
科目学習の効果 (資格)	社会調査士資格取得の要件に関する科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業計画・授業方法・評価方法の説明、社会調査の概要	事前：シラバスの理解 事後：授業資料をもとに内容を学習
2	社会調査の目的と意義	社会調査とは何か、なぜ調査が必要なのか	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
3	社会調査の歴史	社会調査はいつから行われ、どう発展してきたか	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
4	社会調査の種類 (1)	公的統計、世論調査	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
5	社会調査の種類 (2)	学術調査、国際比較調査	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
6	調査倫理	調査を行う際の心得、ラポールなど	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
7	量的調査と質的調査	量的調査と質的調査の違いについて	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
8	公的統計	公的統計データを用いた研究	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
9	量的調査 (1)	質問紙調査の概要、統計学との関係	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
10	量的調査 (2)	質問紙調査の方法	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
11	量的調査 (3)	質問紙調査を用いた諸研究	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
12	質的調査 (1)	聞き取り調査の方法と研究の実例	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
13	質的調査 (2)	インタビュー調査の方法と研究の実例	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
14	質的調査 (3)	ドキュメント分析の方法と研究の実例	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
15	まとめ	講義のまとめと知識の確認	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習

関連科目 社会調査法、基礎統計学、社会統計学、社会調査実習

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業時に別途、指示する		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門・社会調査法 [第 4 版]	轟亮、杉野勇	法律文化社
2			
3			

評価方法 (基準) 受講態度 (10%)、小テストおよび課題 (90%)

学生へのメッセージ 本授業は、卒業要件に必須の科目となる。また、社会調査士資格にも関連する。

担当者の研究室等 3号館3階：後和研究室、竹中研究室、竹端研究室

備考

- ・受講生の理解度の状況により授業内容や授業方法について変更する場合がある。
- ・本科目については、クラスごとに担当者が異なる。自分がどのクラス (担当教員) であるのか確認して受講すること。

【Teams コード】 後和：mvff13q 竹端：8kykc19 竹中：4853wo6

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">・事前事後課題は計 60 時間以上確保する必要がある。事前学習内容及び学習時間目安：次回の学習への下調べや事前課題等で 1.5 時間程度事後学習内容及び学習時間目安：提示された課題作成や授業内容まとめ等で 2.5 時間程度 |
|--|---|

科目名	社会調査入門	科目名 (英文)	Introduction to Social Research
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	竹端 佑介
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1024a0		

授業概要・目的	<p>本授業は、社会調査全般に関する基本事項について学習するものである。授業では社会調査の意義やその歴史、および調査倫理についての解説とともに、さまざまな種類の社会調査によってなされた代表的研究についての解説も行われる。</p> <p>これらの内容とおして、受講生は、種々の調査におけるデータの収集から分析までのプロセス、その特徴と相違点について理解し、社会調査の全体的な知識と倫理観を身につける。こうした過程を経て、調査する側として必要となる基本事項とともに、社会で氾濫するデータに翻弄されないための調査リテラシーの土台を獲得することが本授業のねらいである。</p>
到達目標	<p>① さまざまな社会調査の特徴とその違いを理解している。</p> <p>② 調査の実例、歴史について理解している。</p> <p>③ 学術的調査を実施する際に配慮すべき倫理的事項について理解している。</p>
授業方法と留意点	<p>配付資料、パワーポイント、板書によって行う。授業内容の理解を深めるために、アクティブラーニングを適宜実施する。</p> <p>なお、課題や質問等についてのフィードバックは適宜行う。</p>
科目学習の効果 (資格)	社会調査士資格取得の要件に関する科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業計画・授業方法・評価方法の説明、社会調査の概要	事前：シラバスの理解 事後：授業資料をもとに内容を学習
2	社会調査の目的と意義	社会調査とは何か、なぜ調査が必要なのか	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
3	社会調査の歴史	社会調査はいつから行われ、どう発展してきたか	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
4	社会調査の種類 (1)	公的統計、世論調査	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
5	社会調査の種類 (2)	学術調査、国際比較調査	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
6	調査倫理	調査を行う際の心得、ラポールなど	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
7	量的調査と質的調査	量的調査と質的調査の違いについて	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
8	公的統計	公的統計データを用いた研究	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
9	量的調査 (1)	質問紙調査の概要、統計学との関係	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
10	量的調査 (2)	質問紙調査の方法	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
11	量的調査 (3)	質問紙調査を用いた諸研究	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
12	質的調査 (1)	聞き取り調査の方法と研究の実例	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
13	質的調査 (2)	インタビュー調査の方法と研究の実例	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
14	質的調査 (3)	ドキュメント分析の方法と研究の実例	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
15	まとめ	講義のまとめと知識の確認	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習

関連科目 社会調査法、基礎統計学、社会統計学、社会調査実習

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準) 受講態度 (10%)、小テストおよび課題 (90%)

学生へのメッセージ 本授業は、卒業要件に必須の科目となる。また、社会調査士資格にも関連する。

担当者の研究室等 3号館3階：後和研究室、竹中研究室、竹端研究室

備考

- ・受講生の理解度の状況により授業内容や授業方法について変更する場合がある。
- ・本科目については、クラスごとに担当者が異なる。自分がどのクラス (担当教員) であるのか確認して受講すること。

【Teams コード】 後和：mvff13q 竹端：8kykc19 竹中：4853wo6

	<ul style="list-style-type: none">・事前事後課題は計 60 時間以上確保する必要がある。事前学習内容及び学習時間目安：次回の学習への下調べや事前課題等で 1.5 時間程度事後学習内容及び学習時間目安：提示された課題作成や授業内容まとめ等で 2.5 時間程度
--	---

科目名	社会調査入門	科目名 (英文)	Introduction to Social Research
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	竹中 祐二
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1024a0		

授業概要・目的	<p>本授業は、社会調査全般に関する基本事項について学習するものである。授業では社会調査の意義やその歴史、および調査倫理についての解説とともに、さまざまな種類の社会調査によってなされた代表的研究についての解説も行われる。</p> <p>これらの内容とおして、受講生は、種々の調査におけるデータの収集から分析までのプロセス、その特徴と相違点について理解し、社会調査の全体的な知識と倫理観を身につける。こうした過程を経て、調査する側として必要となる基本事項とともに、社会で氾濫するデータに翻弄されないための調査リテラシーの土台を獲得することが本授業のねらいである。</p>
到達目標	<p>① さまざまな社会調査の特徴とその違いを理解している。</p> <p>② 調査の実例、歴史について理解している。</p> <p>③ 学術的調査を実施する際に配慮すべき倫理的事項について理解している。</p>
授業方法と留意点	<p>配付資料、パワーポイント、板書によって行う。授業内容の理解を深めるために、アクティブラーニングを適宜実施する。</p> <p>なお、課題や質問等についてのフィードバックは適宜行う。</p>
科目学習の効果 (資格)	社会調査士資格取得の要件に関する科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業計画・授業方法・評価方法の説明、社会調査の概要	事前：シラバスの理解 事後：授業資料をもとに内容を学習
2	社会調査の目的と意義	社会調査とは何か、なぜ調査が必要なのか	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
3	社会調査の歴史	社会調査はいつから行われ、どう発展してきたか	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
4	社会調査の種類 (1)	公的統計、世論調査	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
5	社会調査の種類 (2)	学術調査、国際比較調査	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
6	調査倫理	調査を行う際の心得、ラポールなど	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
7	量的調査と質的調査	量的調査と質的調査の違いについて	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
8	公的統計	公的統計データを用いた研究	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
9	量的調査 (1)	質問紙調査の概要、統計学との関係	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
10	量的調査 (2)	質問紙調査の方法	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
11	量的調査 (3)	質問紙調査を用いた諸研究	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
12	質的調査 (1)	聞き取り調査の方法と研究の実例	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
13	質的調査 (2)	インタビュー調査の方法と研究の実例	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
14	質的調査 (3)	ドキュメント分析の方法と研究の実例	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
15	まとめ	講義のまとめと知識の確認	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習

関連科目 社会調査法、基礎統計学、社会統計学、社会調査実習

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準) 受講態度 (10%)、小テストおよび課題 (90%)

学生へのメッセージ 本授業は、卒業要件に必須の科目となる。また、社会調査士資格にも関連する。

担当者の研究室等 3号館3階：後和研究室、竹中研究室、竹端研究室

備考

- ・受講生の理解度の状況により授業内容や授業方法について変更する場合がある。
- ・本科目については、クラスごとに担当者が異なる。自分がどのクラス (担当教員) であるのか確認して受講すること。

【Teams コード】 後和：mvff13q 竹端：8kykc19 竹中：4853wo6

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">・事前事後課題は計 60 時間以上確保する必要がある。事前学習内容及び学習時間目安：次回の学習への下調べや事前課題等で 1.5 時間程度事後学習内容及び学習時間目安：提示された課題作成や授業内容まとめ等で 2.5 時間程度 |
|--|---|

科目名	社会調査法	科目名 (英文)	Social Research Method
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	竹端 佑介
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1025a0		

授業概要・目的	<p>ひとくちに社会調査といっても、その方法はさまざまである。</p> <p>この講義では調査目的にあわせて調査方法を決定し、調査を設計、実施し、分析し得る形にまで整理していく具体的な手法を学ぶ。</p> <p>調査対象者の選定、全数調査と標本調査、標本調査に際してのさまざまな手法、調査票の作り方、調査の配布回収方法、調査データの整理方法などについて、実践的な例を取り上げつつ解説していく。</p>																																																																		
到達目標	<p>① 学術的社会調査の流れを理解している。</p> <p>② 標本調査の方法について、目的に応じた使い分けができる。</p> <p>③ 質問紙調査の設計に伴う諸問題について説明できる。</p> <p>④ サンプリングの諸方法の特徴と違いについて説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>配付資料、パワーポイント、板書によって行う。授業内容の理解を深めるために、アクティブラーニングを適宜実施する。課題や質問等についてのフィードバックの機会は適宜設ける予定である。教科書は、授業時に別途、指示する。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	<p>社会調査士資格取得の要件に関する科目</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>授業の目的</td> <td>事前：シラバスの理解 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>社会調査のプロセス</td> <td>学術的調査の全体的な流れ</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>調査を始める (1)</td> <td>問いと仮説の設定、概念の明確化</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>調査を始める (2)</td> <td>調査方法の種類</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>調査票を作成する (1)</td> <td>ワーディング</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>調査票を作成する (2)</td> <td>回答選択肢の作成</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>調査票を作成する (3)</td> <td>調査票全体の構成</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>調査の実施 (1)</td> <td>調査票の配布と回収の方法</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>調査の実施 (2)</td> <td>全数調査と標本調査、無作為抽出、標本数の決定</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>調査の実施 (3)</td> <td>サンプリングの方法</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>データの作成 (1)</td> <td>コードブックの作成と入力作業</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>データの作成 (2)</td> <td>コーディング・エディティング・データクリーニング</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>データ分析の基礎 (1)</td> <td>度数分布、代表値</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>データ分析の基礎 (2)</td> <td>変数間の関係の分析</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>結果の報告</td> <td>報告書作成に関する注意事項</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業の目的	事前：シラバスの理解 事後：授業資料をもとに内容を学習	2	社会調査のプロセス	学術的調査の全体的な流れ	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	3	調査を始める (1)	問いと仮説の設定、概念の明確化	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	4	調査を始める (2)	調査方法の種類	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	5	調査票を作成する (1)	ワーディング	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	6	調査票を作成する (2)	回答選択肢の作成	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	7	調査票を作成する (3)	調査票全体の構成	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	8	調査の実施 (1)	調査票の配布と回収の方法	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	9	調査の実施 (2)	全数調査と標本調査、無作為抽出、標本数の決定	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	10	調査の実施 (3)	サンプリングの方法	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	11	データの作成 (1)	コードブックの作成と入力作業	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	12	データの作成 (2)	コーディング・エディティング・データクリーニング	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	13	データ分析の基礎 (1)	度数分布、代表値	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	14	データ分析の基礎 (2)	変数間の関係の分析	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	15	結果の報告	報告書作成に関する注意事項	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業の目的	事前：シラバスの理解 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
2	社会調査のプロセス	学術的調査の全体的な流れ	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
3	調査を始める (1)	問いと仮説の設定、概念の明確化	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
4	調査を始める (2)	調査方法の種類	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
5	調査票を作成する (1)	ワーディング	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
6	調査票を作成する (2)	回答選択肢の作成	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
7	調査票を作成する (3)	調査票全体の構成	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
8	調査の実施 (1)	調査票の配布と回収の方法	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
9	調査の実施 (2)	全数調査と標本調査、無作為抽出、標本数の決定	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
10	調査の実施 (3)	サンプリングの方法	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
11	データの作成 (1)	コードブックの作成と入力作業	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
12	データの作成 (2)	コーディング・エディティング・データクリーニング	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
13	データ分析の基礎 (1)	度数分布、代表値	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
14	データ分析の基礎 (2)	変数間の関係の分析	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
15	結果の報告	報告書作成に関する注意事項	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
関連科目	<p>社会調査入門、基礎統計学、社会統計学、社会調査実習</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>入門・社会調査法 [第 4 版]</td> <td>轟亮、杉野勇、平沢和司編</td> <td>法律文化社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	入門・社会調査法 [第 4 版]	轟亮、杉野勇、平沢和司編	法律文化社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	入門・社会調査法 [第 4 版]	轟亮、杉野勇、平沢和司編	法律文化社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>受講態度 (10%)、課題・発表等 (90%)</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>本授業は、卒業要件に必須の科目となる。また、社会調査士資格にも関連する。</p>																																																																		
担当者の研究室等	<p>3号館3階：田中研究室、竹中研究室、竹端研究室</p>																																																																		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・受講生の理解度の状況により授業内容や授業方法について変更する場合がある。 ・本科目については、クラスごとに担当者が異なる。自分がどのクラス (担当教員) であるのか確認して受講すること。 ・事前事後課題は計 60 時間以上確保する必要がある。 																																																																		

事前学習内容及び学習時間目安：次回の学習への下調べや事前課題等で1.5時間程度
事後学習内容及び学習時間目安：提示された課題作成や授業内容まとめ、発表準備等で2.5時間程度

- ・本科目では、調査票の作成やデータ作成および分析などを学ぶため、モバイルPCなどのネット接続可能な機器を持参することが望ましい。

科目名	社会調査法	科目名 (英文)	Social Research Method
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	竹中 祐二
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1025a0		

授業概要・目的	<p>ひとくちに社会調査といっても、その方法はさまざまである。</p> <p>この講義では調査目的にあわせて調査方法を決定し、調査を設計、実施し、分析し得る形にまで整理していく具体的な手法を学ぶ。</p> <p>調査対象者の選定、全数調査と標本調査、標本調査に際してのさまざまな手法、調査票の作り方、調査の配布回収方法、調査データの整理方法などについて、実践的な例を取り上げつつ解説していく。</p>																																																																		
到達目標	<p>① 学術的社会調査の流れを理解している。</p> <p>② 標本調査の方法について、目的に応じた使い分けができる。</p> <p>③ 質問紙調査の設計に伴う諸問題について説明できる。</p> <p>④ サンプリングの諸方法の特徴と違いについて説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>配付資料、パワーポイント、板書によって行う。授業内容の理解を深めるために、アクティブラーニングを適宜実施する。課題や質問等についてのフィードバックの機会は適宜設ける予定である。教科書は、授業時に別途、指示する。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	<p>社会調査士資格取得の要件に関する科目</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>授業の目的</td> <td>事前：シラバスの理解 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>社会調査のプロセス</td> <td>学術的調査の全体的な流れ</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>調査を始める (1)</td> <td>問いと仮説の設定、概念の明確化</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>調査を始める (2)</td> <td>調査方法の種類</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>調査票を作成する (1)</td> <td>ワーディング</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>調査票を作成する (2)</td> <td>回答選択肢の作成</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>調査票を作成する (3)</td> <td>調査票全体の構成</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>調査の実施 (1)</td> <td>調査票の配布と回収の方法</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>調査の実施 (2)</td> <td>全数調査と標本調査、無作為抽出、標本数の決定</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>調査の実施 (3)</td> <td>サンプリングの方法</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>データの作成 (1)</td> <td>コードブックの作成と入力作業</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>データの作成 (2)</td> <td>コーディング・エディティング・データクリーニング</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>データ分析の基礎 (1)</td> <td>度数分布、代表値</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>データ分析の基礎 (2)</td> <td>変数間の関係の分析</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>結果の報告</td> <td>報告書作成に関する注意事項</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業の目的	事前：シラバスの理解 事後：授業資料をもとに内容を学習	2	社会調査のプロセス	学術的調査の全体的な流れ	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	3	調査を始める (1)	問いと仮説の設定、概念の明確化	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	4	調査を始める (2)	調査方法の種類	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	5	調査票を作成する (1)	ワーディング	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	6	調査票を作成する (2)	回答選択肢の作成	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	7	調査票を作成する (3)	調査票全体の構成	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	8	調査の実施 (1)	調査票の配布と回収の方法	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	9	調査の実施 (2)	全数調査と標本調査、無作為抽出、標本数の決定	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	10	調査の実施 (3)	サンプリングの方法	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	11	データの作成 (1)	コードブックの作成と入力作業	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	12	データの作成 (2)	コーディング・エディティング・データクリーニング	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	13	データ分析の基礎 (1)	度数分布、代表値	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	14	データ分析の基礎 (2)	変数間の関係の分析	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	15	結果の報告	報告書作成に関する注意事項	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業の目的	事前：シラバスの理解 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
2	社会調査のプロセス	学術的調査の全体的な流れ	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
3	調査を始める (1)	問いと仮説の設定、概念の明確化	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
4	調査を始める (2)	調査方法の種類	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
5	調査票を作成する (1)	ワーディング	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
6	調査票を作成する (2)	回答選択肢の作成	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
7	調査票を作成する (3)	調査票全体の構成	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
8	調査の実施 (1)	調査票の配布と回収の方法	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
9	調査の実施 (2)	全数調査と標本調査、無作為抽出、標本数の決定	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
10	調査の実施 (3)	サンプリングの方法	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
11	データの作成 (1)	コードブックの作成と入力作業	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
12	データの作成 (2)	コーディング・エディティング・データクリーニング	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
13	データ分析の基礎 (1)	度数分布、代表値	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
14	データ分析の基礎 (2)	変数間の関係の分析	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
15	結果の報告	報告書作成に関する注意事項	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
関連科目	<p>社会調査入門、基礎統計学、社会統計学、社会調査実習</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>入門・社会調査法 [第 4 版]</td> <td>轟亮、杉野勇、平沢和司編</td> <td>法律文化社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	入門・社会調査法 [第 4 版]	轟亮、杉野勇、平沢和司編	法律文化社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	入門・社会調査法 [第 4 版]	轟亮、杉野勇、平沢和司編	法律文化社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>受講態度 (10%)、課題・発表等 (90%)</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>本授業は、卒業要件に必須の科目となる。また、社会調査士資格にも関連する。</p>																																																																		
担当者の研究室等	<p>3号館3階：田中研究室、竹中研究室、竹端研究室</p>																																																																		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・受講生の理解度の状況により授業内容や授業方法について変更する場合がある。 ・本科目については、クラスごとに担当者が異なる。自分がどのクラス (担当教員) であるのか確認して受講すること。 ・事前事後課題は計 60 時間以上確保する必要がある。 																																																																		

事前学習内容及び学習時間目安：次回の学習への下調べや事前課題等で1.5時間程度
事後学習内容及び学習時間目安：提示された課題作成や授業内容まとめ、発表準備等で2.5時間程度

- ・本科目では、調査票の作成やデータ作成および分析などを学ぶため、モバイルPCなどのネット接続可能な機器を持参することが望ましい。

科目名	社会調査法	科目名 (英文)	Social Research Method
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1025a0		

授業概要・目的	<p>ひとくちに社会調査といっても、その方法はさまざまである。</p> <p>この講義では調査目的にあわせて調査方法を決定し、調査を設計、実施し、分析し得る形にまで整理していく具体的な手法を学ぶ。</p> <p>調査対象者の選定、全数調査と標本調査、標本調査に際してのさまざまな手法、調査票の作り方、調査の配布回収方法、調査データの整理方法などについて、実践的な例を取り上げつつ解説していく。</p>																																																																		
到達目標	<p>① 学術的社会調査の流れを理解している。</p> <p>② 標本調査の方法について、目的に応じた使い分けができる。</p> <p>③ 質問紙調査の設計に伴う諸問題について説明できる。</p> <p>④ サンプリングの諸方法の特徴と違いについて説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>配付資料、パワーポイント、板書によって行う。授業内容の理解を深めるために、アクティブラーニングを適宜実施する。課題や質問等についてのフィードバックの機会は適宜設ける予定である。教科書は、授業時に別途、指示する。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	<p>社会調査士資格取得の要件に関する科目</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>授業の目的</td> <td>事前：シラバスの理解 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>社会調査のプロセス</td> <td>学術的調査の全体的な流れ</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>調査を始める (1)</td> <td>問いと仮説の設定、概念の明確化</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>調査を始める (2)</td> <td>調査方法の種類</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>調査票を作成する (1)</td> <td>ワーディング</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>調査票を作成する (2)</td> <td>回答選択肢の作成</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>調査票を作成する (3)</td> <td>調査票全体の構成</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>調査の実施 (1)</td> <td>調査票の配布と回収の方法</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>調査の実施 (2)</td> <td>全数調査と標本調査、無作為抽出、標本数の決定</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>調査の実施 (3)</td> <td>サンプリングの方法</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>データの作成 (1)</td> <td>コードブックの作成と入力作業</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>データの作成 (2)</td> <td>コーディング・エディティング・データクリーニング</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>データ分析の基礎 (1)</td> <td>度数分布、代表値</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>データ分析の基礎 (2)</td> <td>変数間の関係の分析</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>結果の報告</td> <td>報告書作成に関する注意事項</td> <td>事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業の目的	事前：シラバスの理解 事後：授業資料をもとに内容を学習	2	社会調査のプロセス	学術的調査の全体的な流れ	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	3	調査を始める (1)	問いと仮説の設定、概念の明確化	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	4	調査を始める (2)	調査方法の種類	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	5	調査票を作成する (1)	ワーディング	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	6	調査票を作成する (2)	回答選択肢の作成	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	7	調査票を作成する (3)	調査票全体の構成	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	8	調査の実施 (1)	調査票の配布と回収の方法	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	9	調査の実施 (2)	全数調査と標本調査、無作為抽出、標本数の決定	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	10	調査の実施 (3)	サンプリングの方法	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	11	データの作成 (1)	コードブックの作成と入力作業	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	12	データの作成 (2)	コーディング・エディティング・データクリーニング	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	13	データ分析の基礎 (1)	度数分布、代表値	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	14	データ分析の基礎 (2)	変数間の関係の分析	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習	15	結果の報告	報告書作成に関する注意事項	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業の目的	事前：シラバスの理解 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
2	社会調査のプロセス	学術的調査の全体的な流れ	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
3	調査を始める (1)	問いと仮説の設定、概念の明確化	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
4	調査を始める (2)	調査方法の種類	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
5	調査票を作成する (1)	ワーディング	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
6	調査票を作成する (2)	回答選択肢の作成	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
7	調査票を作成する (3)	調査票全体の構成	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
8	調査の実施 (1)	調査票の配布と回収の方法	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
9	調査の実施 (2)	全数調査と標本調査、無作為抽出、標本数の決定	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
10	調査の実施 (3)	サンプリングの方法	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
11	データの作成 (1)	コードブックの作成と入力作業	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
12	データの作成 (2)	コーディング・エディティング・データクリーニング	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
13	データ分析の基礎 (1)	度数分布、代表値	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
14	データ分析の基礎 (2)	変数間の関係の分析	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
15	結果の報告	報告書作成に関する注意事項	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習																																																																
関連科目	<p>社会調査入門、基礎統計学、社会統計学、社会調査実習</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>入門・社会調査法 [第 4 版]</td> <td>轟亮、杉野勇、平沢和司編</td> <td>法律文化社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	入門・社会調査法 [第 4 版]	轟亮、杉野勇、平沢和司編	法律文化社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	入門・社会調査法 [第 4 版]	轟亮、杉野勇、平沢和司編	法律文化社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>受講態度 (10%)、課題・発表等 (90%)</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>本授業は、卒業要件に必須の科目となる。また、社会調査士資格にも関連する。</p>																																																																		
担当者の研究室等	<p>3号館3階：田中研究室、竹中研究室、竹端研究室</p>																																																																		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・受講生の理解度の状況により授業内容や授業方法について変更する場合がある。 ・本科目については、クラスごとに担当者が異なる。自分がどのクラス (担当教員) であるのか確認して受講すること。 ・事前事後課題は計 60 時間以上確保する必要がある。 																																																																		

事前学習内容及び学習時間目安：次回の学習への下調べや事前課題等で1.5時間程度
事後学習内容及び学習時間目安：提示された課題作成や授業内容まとめ、発表準備等で2.5時間程度

- ・本科目では、調査票の作成やデータ作成および分析などを学ぶため、モバイルPCなどのネット接続可能な機器を持参することが望ましい。

科目名	基礎統計学	科目名 (英文)	Basic Statistics
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1026a0		

授業概要・目的	この授業では、計量的なデータを読み解くための基礎知識と技法について学習する。具体的には、単純集計、クロス集計、ヒストグラムなどの作成方法、平均値、分散などの基礎統計量の意味と算出方法、2変数間の関係の記述方法（クロス表、平均値の差、相関係数など）、相関関係と因果関係の違い・疑似相関について学習する。また、各種統計資料の整理方法についても併せて学習する。 以上の作業を通して、統計的なデータを適切に処理し、その結果から諸傾向を読み取ることのできる能力を身につけることが目標である。
到達目標	① 単純集計、クロス集計、ヒストグラム、散布図、平均値や分散などの基礎統計量の意味を理解し、自ら作成・算出できる。 ② 相関係数や平均値の差など2変数間の関係を記述する方法を理解し、実践できる。 ③ 因果関係と相関関係の違い、疑似相関について理解している。 ④ 公的統計データを自分で入手し、必要に応じて加工して提示できる。
授業方法と留意点	配付資料、パワーポイント、板書によって行う。授業内容の理解を深めるために、グループワークも適宜実施する。教科書・参考書は、授業内で、適宜指示する。
科目学習の効果 (資格)	社会調査士資格

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の概要、統計学とはどのような学問か	事前：シラバスの理解 事後：授業資料を基に内容を学習
2	データの集計 (1)	度数分布、ヒストグラム、平均値、中央値、最頻値	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
3	データの集計 (2)	分散、標準偏差	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
4	データの集計 (3)	標準化	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
5	実践 (1)	データを用いた演習	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
6	統計資料の整理 (1)	公的統計の探し方、読み方	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
7	統計資料の整理 (2)	公的統計の加工・グラフ化	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
8	統計資料の整理 (3)	公的統計を用いた分析	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
9	変数間関係の確認 (1)	クロス集計	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
10	変数間関係の確認 (2)	平均の差	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
11	変数間関係の確認 (3)	相関関係について、相関係数の算出	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
12	変数間関係の確認 (4)	相関関係と因果関係	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
13	変数間関係の確認 (5)	疑似相関	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
14	実践 (2)	データを用いた演習	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
15	まとめ	講義のまとめと知識の確認	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習

関連科目	社会調査入門、社会調査法
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加態度 10%、課題及びテスト 90%
-----------	--------------------------

学生へのメッセージ	本授業は、社会調査士資格に関連する科目となる。
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	岩井クラス (3号館3階 岩井研究室)、田中クラス (3号館3階 田中研究室)
----------	---

備考	事前学習 (配布資料を読む等) と事後学習 (授業資料に基づく内容の学習、分析実習の復習、課題への取り組み等) をあわせて概ね 60 時間程度の授業外学習時間が必要となる。
----	--

科目名	基礎統計学	科目名 (英文)	Basic Statistics
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	岩井 八郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1026a0		

授業概要・目的	この授業では、計量的なデータを読み解くための基礎知識と技法について学習する。具体的には、単純集計、クロス集計、ヒストグラムなどの作成方法、平均値、分散などの基礎統計量の意味と算出方法、2変数間の関係の記述方法（クロス表、平均値の差、相関係数など）、相関関係と因果関係の違い・疑似相関について学習する。また、各種統計資料の整理方法についても併せて学習する。 以上の作業を通して、統計的なデータを適切に処理し、その結果から諸傾向を読み取ることのできる能力を身につけることが目標である。
到達目標	① 単純集計、クロス集計、ヒストグラム、散布図、平均値や分散などの基礎統計量の意味を理解し、自ら作成・算出できる。 ② 相関係数や平均値の差など2変数間の関係を記述する方法を理解し、実践できる。 ③ 因果関係と相関関係の違い、疑似相関について理解している。 ④ 公的統計データを自分で入手し、必要に応じて加工して提示できる。
授業方法と留意点	配付資料、パワーポイント、板書によって行う。授業内容の理解を深めるために、グループワークも適宜実施する。教科書・参考書は、授業内で、適宜指示する。
科目学習の効果 (資格)	社会調査士資格

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の概要、統計学とはどのような学問か	事前：シラバスの理解 事後：授業資料を基に内容を学習
2	データの集計 (1)	度数分布、ヒストグラム、平均値、中央値、最頻値	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
3	データの集計 (2)	分散、標準偏差	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
4	データの集計 (3)	標準化	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
5	実践 (1)	データを用いた演習	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
6	統計資料の整理 (1)	公的統計の探し方、読み方	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
7	統計資料の整理 (2)	公的統計の加工・グラフ化	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
8	統計資料の整理 (3)	公的統計を用いた分析	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
9	変数間関係の確認 (1)	クロス集計	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
10	変数間関係の確認 (2)	平均の差	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
11	変数間関係の確認 (3)	相関関係について、相関係数の算出	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
12	変数間関係の確認 (4)	相関関係と因果関係	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
13	変数間関係の確認 (5)	疑似相関	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
14	実践 (2)	データを用いた演習	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
15	まとめ	講義のまとめと知識の確認	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習

関連科目	社会調査入門、社会調査法
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加態度 10%、課題及びテスト 90%
-----------	--------------------------

学生へのメッセージ	本授業は、社会調査士資格に関連する科目となる。
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	岩井クラス (3号館3階 岩井研究室)、田中クラス (3号館3階 田中研究室)
----------	---

備考	事前学習 (配布資料を読む等) と事後学習 (授業資料に基づく内容の学習、分析実習の復習、課題への取り組み等) をあわせて概ね 60 時間程度の授業外学習時間が必要となる。
----	--

科目名	基礎統計学	科目名 (英文)	Basic Statistics
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	岩井 八郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	GDG1026a0		

授業概要・目的	この授業では、計量的なデータを読み解くための基礎知識と技法について学習する。具体的には、単純集計、クロス集計、ヒストグラムなどの作成方法、平均値、分散などの基礎統計量の意味と算出方法、2変数間の関係の記述方法（クロス表、平均値の差、相関係数など）、相関関係と因果関係の違い・疑似相関について学習する。また、各種統計資料の整理方法についても併せて学習する。 以上の作業を通して、統計的なデータを適切に処理し、その結果から諸傾向を読み取ることのできる能力を身につけることが目標である。
到達目標	① 単純集計、クロス集計、ヒストグラム、散布図、平均値や分散などの基礎統計量の意味を理解し、自ら作成・算出できる。 ② 相関係数や平均値の差など2変数間の関係を記述する方法を理解し、実践できる。 ③ 因果関係と相関関係の違い、疑似相関について理解している。 ④ 公的統計データを自分で入手し、必要に応じて加工して提示できる。
授業方法と留意点	配付資料、パワーポイント、板書によって行う。授業内容の理解を深めるために、グループワークも適宜実施する。教科書・参考書は、授業内で、適宜指示する。
科目学習の効果 (資格)	社会調査士資格

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の概要、統計学とはどのような学問か	事前：シラバスの理解 事後：授業資料を基に内容を学習
2	データの集計 (1)	度数分布、ヒストグラム、平均値、中央値、最頻値	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
3	データの集計 (2)	分散、標準偏差	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
4	データの集計 (3)	標準化	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
5	実践 (1)	データを用いた演習	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
6	統計資料の整理 (1)	公的統計の探し方、読み方	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
7	統計資料の整理 (2)	公的統計の加工・グラフ化	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
8	統計資料の整理 (3)	公的統計を用いた分析	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
9	変数間関係の確認 (1)	クロス集計	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
10	変数間関係の確認 (2)	平均の差	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
11	変数間関係の確認 (3)	相関関係について、相関係数の算出	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
12	変数間関係の確認 (4)	相関関係と因果関係	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
13	変数間関係の確認 (5)	疑似相関	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
14	実践 (2)	データを用いた演習	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習
15	まとめ	講義のまとめと知識の確認	事前：事前配布資料を読んでおく 事後：授業資料を基に内容を学習

関連科目	社会調査入門、社会調査法
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加態度 10%、課題及びテスト 90%
-----------	--------------------------

学生へのメッセージ	本授業は、社会調査士資格に関連する科目となる。
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	岩井クラス (3号館3階 岩井研究室)、田中クラス (3号館3階 田中研究室)
----------	---

備考	事前学習 (配布資料を読む等) と事後学習 (授業資料に基づく内容の学習、分析実習の復習、課題への取り組み等) をあわせて概ね 60 時間程度の授業外学習時間が必要となる。
----	--

科目名	社会統計学	科目名 (英文)	Social Statistics
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本 圭三
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2027a0		

授業概要・目的	計量的データをもちいた分析は、統計学的な裏づけによって支えられている。この講義は、計量的な社会調査データを用いた実証研究に必要な統計的知識を学ぶものである。具体的に取り上げる内容は変数の種類、代表値（平均値、分散、標準偏差など）、相関係数、回帰分析、確率変数、確率分布、正規分布、t分布、 χ^2 分布、母平均・母分散の推定、帰無仮説、平均の差の検定、相関係数の検定、独立性の検定などで、これらを体系的に習得することが本講義の目的である。
到達目標	①確率変数、確率分布について説明できる。 ②確率分布を用いた推定をおこなうことができる。 ③統計的仮説検定の原理について説明できる。 ④統計的仮説検定の使い分けができる。
授業方法と留意点	授業は、(1) 資料に基づく講義形式、(2) 提示される小課題に受講生自身が回答し、それについて教員からのフィードバック、(3) 講義内容に関連する受講生相互のディスカッションといった種々の方法を織り交ぜて実施される。
科目学習の効果 (資格)	社会調査士資格に関連する科目 (D科目)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義に関する注意事項	事前：シラパスを読む (0.5時間) 事後：資料を基にした復習 (1.5時間)
2	基礎的知識 1	変数の種類、尺度水準、 Σ	事前：当該回の資料を読む (1.5時間) 事後：資料を基にした復習 (1.5時間)
3	基礎的知識 2	基本統計量 (平均値・中央値・最頻値・分散・標準偏差)、相関係数、回帰直線	事前：当該回の資料を読む (1.5時間) 事後：資料を基にした復習 (1.5時間)
4	確率 1	確率と確率変数	事前：当該回の資料を読む (1.5時間) 事後：資料を基にした復習 (1.5時間)
5	確率 2	確率変数の期待値、分散	事前：当該回の資料を読む (1.5時間) 事後：資料を基にした復習 (1.5時間)
6	確率 3	同時確率変数、独立性	事前：当該回の資料を読む (1.5時間) 事後：資料を基にした復習 (1.5時間)
7	確率 4	2項分布	事前：当該回の資料を読む (1.5時間) 事後：資料を基にした復習 (1.5時間)
8	確率 5	正規分布、t分布、 χ^2 分布	事前：当該回の資料を読む (1.5時間) 事後：資料を基にした復習 (1.5時間)
9	推測統計の基礎 1	母集団と標本、推定の考え方	事前：当該回の資料を読む (1.5時間) 事後：資料を基にした復習 (1.5時間)
10	推測統計の基礎 2	母平均、母分散の推定	事前：当該回の資料を読む (1.5時間) 事後：資料を基にした復習 (1.5時間)
11	推測統計の基礎 3	信頼区間	事前：当該回の資料を読む (1.5時間) 事後：資料を基にした復習 (1.5時間)
12	統計的仮説検定 1	相関係数の検定	事前：当該回の資料を読む (1.5時間) 事後：資料を基にした復習 (1.5時間)
13	統計的仮説検定 2	平均の差の検定	事前：当該回の資料を読む (1.5時間) 事後：資料を基にした復習 (1.5時間)
14	統計的仮説検定 3	クロス表の独立性の検定	事前：当該回の資料を読む (1.5時間) 事後：資料を基にした復習 (1.5時間)
15	実践例	実際の分析場面	事前：当該回の資料を読む (1.5時間) 事後：資料を基にした復習 (1.5時間)

関連科目 基礎統計学、多変量解析法、社会調査入門、社会調査論、質的調査法、社会調査実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ゼロから学ぶ統計解析	小寺平治	講談社
2				
3				

評価方法 (基準) 受講態度 (10%)、授業時に提示される小課題 (30%)、期末試験 (60%) で評価する

学生へのメッセージ やや難解な内容を含みますので、毎回に提示される内容をその週の間理解しておくことを強く勧めます。

担当者の研究室等 3号館3階山本研究室

備考 【事前・事後学習についての追記】(上記授業計画に記載している内容とは別に) 複数回設定される課題に関連する学習と課題作成：計16時間程度

科目名	多変量解析法	科目名 (英文)	Multivariate Analysis
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩井 八郎
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2028a0		

授業概要・目的	量的な社会調査データの分析で用いる多変量解析法について、基本的な考え方と利用方法を説明し、実習によって具体的なデータ分析を行う。まず、多様な社会調査データに対応して発展してきた多変量解析法について全体像を紹介する。次に、2変数の関係に第3の変数を加えた場合の3変数間の関係性について3次元のクロス表と2元配置分散分析が理解できるよう丁寧に説明する。そして最もスタンダードな手法として、主成分分析と因子分析、重回帰分析とロジスティック回帰分析が利用できるように学習する。分析手法と分析結果について、平易な日本語で説明できるようにする。
到達目標	① 3変数の関係性について、3次元のクロス表の作り方、読み方を学ぶ ② 3変数の関係性について、2元配置分散分析の分析方法と分析結果の読み方を学ぶ ③ 重回帰分析の考え方、分析方法、分析結果の説明の仕方を具体的な実習を通して学ぶ ④ ロジスティック回帰分析の考え方、分析方法、分析結果の説明の仕方を具体的な実習を通して学ぶ ⑤ 主成分分析と因子分析の考え方、分析方法、分析結果の説明の仕方を具体的な実習を通して学ぶ
授業方法と留意点	配付資料とパワーポイントによって行う。量的な社会調査データの分析実習を行う。
科目学習の効果 (資格)	社会調査士科目 (E)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	社会調査データの多様性と分析手法	クロスセクショナル・データ、時系列データ、個票データ、集計データ、パネルデータなどデータの多様性と量的変数と質的変数の区別に対応した分析手法を紹介する	事前：事前配布資料の予習 (1時間) 事後：授業資料の学習 (1時間)
2	図表の読み方、作り方	多変量解析の分析結果を示す標準的な図表を紹介し、読み方と作り方を説明	事前：事前配布資料の予習 (1時間) 事後：授業資料の学習 (1時間)
3	3変数の関係の分析 (1)	2次元のクロス表から3次元のクロス表へ、第3の変数の意味について説明する	事前：事前配布資料の予習 (1時間) 事後：授業資料の学習 (1時間)
4	3変数の関係の分析 (2)	分散分析の考え方と分析方法について、1次元と2次元について説明する	事前：事前配布資料の予習 (1時間) 事後：授業資料の学習 (1時間)
5	3変数の関係の分析 (3)	3変数の関係の中でも、交互作用について説明する	事前：事前配布資料の予習 (1時間) 事後：授業資料の学習 (1時間)
6	調査データの分析実習 (1)	統計ソフトを用いて、3次元のクロス表と2次元の分散分析を実習する	事前：事前配布資料の予習 (1時間) 事後：授業資料の学習 (1時間)
7	相関と回帰	量的な2変数の関係について、散布図を作成、相関関係と因果関係について説明する	事前：事前配布資料の予習 (1時間) 事後：授業資料の学習 (1時間)
8	重回帰分析 (1)	重回帰分析の基本的な考え方について、量的な被説明変数に対して2つの量的な説明変数を用いて説明する。	事前：事前配布資料の予習 (1時間) 事後：授業資料の学習 (1時間)
9	重回帰分析 (2)	重回帰分析を用いた研究例を取り上げ、この手法の意義と限界を説明する。	事前：事前配布資料の予習 (1時間) 事後：授業資料の学習 (1時間)
10	調査データの分析実習 (2)	統計ソフトを用いて、重回帰分析を実習する	事前：事前配布資料の予習 (1時間) 事後：授業資料の学習 (1時間)
11	主成分分析と因子分析の考え方	多数の量的変数の相関関係から、変数を集約する方法と背後にある因子を抽出する方法を説明する	事前：事前配布資料の予習 (1時間) 事後：授業資料の学習 (1時間)
12	ロジスティック回帰分析 (1)	被説明変数が2値変数である2項ロジスティック回帰分析の考え方について研究例を用いて説明する	事前：事前配布資料の予習 (1時間) 事後：授業資料の学習 (1時間)
13	ロジスティック回帰分析 (2)	被説明変数が3値をとる多項ロジスティック回帰分析の考え方と研究例を説明する。	事前：事前配布資料の予習 (1時間) 事後：授業資料の学習 (1時間)
14	調査データの分析実習 (3)	統計ソフトを用いてロジスティック回帰分析を実習する	事前：事前配布資料の予習 (1時間) 事後：授業資料の学習 (1時間)
15	まとめ	多変量解析を用いた研究の意義と限界について議論する	事前：事前配布資料の予習 (1時間) 事後：授業資料の学習 (1時間)

関連科目	基礎統計学、社会統計学
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	調査データ分析の基礎	岩井紀子・保田時男	有斐閣
2	言葉と数式で理解する多変量解析入門	小林考司	北大路書房	
3	入門・社会統計学	杉野勇	法律文化社	

評価方法 (基準)	3回の実習のレポート (各25%)、最終課題 (25%)
-----------	------------------------------

学生への	量的な社会調査データの分析手法を身に付けましょう
------	--------------------------

メッセージ	
担当者の研究室等	3号館3階15号室(岩井研究室)
備考	事前学習(配布資料を読む、前回の復習など)と事後学習(授業資料を基に内容を学習、分析実習の復習)で30時間程度、レポート課題のためのデータ分析と分析結果のまとめなどの作業時間に30時間程度が想定される。

科目名	質的調査法	科目名 (英文)	Qualitative Research Method
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小池 高史
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2029a0		

授業概要・目的	社会調査は量的調査と質的調査に分類される。この授業は、そのうち質的調査を取り上げ、さまざまな質的データの収集や分析方法について学ぶ。参与観察法やインタビュー調査などの質的調査の方法を学び、経験するとともに、会話分析、ドキュメント分析、グラウンデッドセオリーといった質的データの分析法を学び、経験する。さらに、アクティヴ・インタビューやライフストーリーの考え方を理解し、質的なデータとはどういったものなのかを考える。
到達目標	インタビュー調査の方法を理解し実施することができる。 インタビューデータの分析をすることができる。 質的データの多様な分析法について説明できるようになる。 質的データを取り扱う際の注意点について説明できるようになる。
授業方法と留意点	教員からの説明は、資料、パワーポイント、板書によって行う。この授業では、教員からの説明だけでなく、受講者による調査実践やグループワーク、調査・分析結果の報告を行う。
科目学習の効果 (資格)	社会調査士資格の取得につながる科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の方法 質的調査とは	(事前) シラバスの理解 (0.5 時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (0.5 時間)
2	質的調査の注意点	質的調査におけるプライバシー保護や 権利擁護、ラポールとオーバーラポール	(事前) 事前に指示されている内容について下調べ をしておく (0.5 時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (0.5 時間)
3	フィールドワークの事例	有名な質的調査の事例についての講義	(事前) 事前に指示されている内容について下調べ をしておく (0.5 時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (0.5 時間)
4	参与観察法	参与観察法の方法、注意点、事例	(事前) 事前に指示されている内容について下調べ をしておく (0.5 時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (0.5 時間)
5	インタビュー調査	インタビュー調査の準備、方法、データ 処理	(事前) 事前に指示されている内容について下調べ をしておく (0.5 時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (0.5 時間)
6	インタビューの実践	受講者間でのインタビュー調査の実践	(事前) 事前に指示されている内容について下調べ をしておく (0.5 時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (0.5 時間)
7	インタビュー調査データの 分析	調査データの文字起こし、整理、分析、 考察の実践	(事前) 事前に指示されている内容について下調べ をしておく (0.5 時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (0.5 時間)
8	インタビュー調査結果の報 告	各自が実施した調査結果の報告と講評	(事前) 事前に指示されている内容について下調べ をしておく (0.5 時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (0.5 時間)
9	会話分析	会話分析とは何か、その方法と基本概念	(事前) 事前に指示されている内容について下調べ をしておく (0.5 時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (0.5 時間)
10	会話分析の実践	グループワークで会話断片の分析の実 践	(事前) 事前に指示されている内容について下調べ をしておく (0.5 時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (0.5 時間)
11	会話分析結果の報告	各グループで分析した結果の報告と講 評	(事前) 事前に指示されている内容について下調べ をしておく (0.5 時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (0.5 時間)
12	ドキュメント分析	ドキュメント分析の方法、注意点、事例	(事前) 事前に指示されている内容について下調べ をしておく (0.5 時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (0.5 時間)
13	アクティヴ・インタビュー論	アクティヴ・インタビューの考え方、イ ンタビューを相互行為と捉える視点	(事前) 事前に指示されている内容について下調べ をしておく (0.5 時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (0.5 時間)
14	ライフストーリー論	ライフストーリーの考え方、インタビ ューデータを相互行為の結果と捉える視 点	(事前) 事前に指示されている内容について下調べ をしておく (0.5 時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (0.5 時間)
15	まとめ	総括 社会調査実習に向けて	(事前) 事前に指示されている内容について下調べ をしておく (0.5 時間) (事後) 資料に基づく内容の復習 (0.5 時間)

関連科目 社会調査実習 I (質的)、社会調査実習 II (質的)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	授業内で提示する		
2				
3				

評価方法 (基準)	レポート (50%)、授業内課題 (50%) で評価する。
学生への メッセージ	この科目は資格取得にかかわるものであり、受講者に求めるものも多くなります。授業時間外で取り組む課題も多いです。3年次の社会調査実習(質的)とセットになる科目ですので、社会調査士の取得を強く希望する学生に履修してもらいたいと思います。
担当者の 研究室等	3号館3階 小池准教授室
備考	【事前事後学習】 レポート作成、課題にかんする作業時間：45時間程度 (毎回の事前事後学習時間とあわせて60時間程度)

科目名	FAL 入門	科目名 (英文)	Introduction to Field-based Active Learning
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後和 美朝, 上野山 裕士, 落合 知子, 加戸 友佳子, 竹中 祐二, 谷 めぐみ, 中澤 芽衣
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1034a0		

授業概要・目的
 フィールド型アクティブラーニング (FAL) の入門科目として、地域や企業など、さまざまなフィールドの現状と課題、またフィールドにおける活動に取り組むにあたっての心構えと具体的な手法を実践的に学ぶ。講義では、個人 (パーソナルプロジェクト) およびグループ (グループプロジェクト) の立場で身のまわりの生活を見つめ直し、課題の抽出、アクションプランの作成および実践に取り組み、その学びを整理、発表する。これらの学びを通じて、受講生は、社会的実践 (ソーシャルプロジェクト) に「じぶんごと」として取り組むにあたっての知識、技能、思考、態度を身につけることが期待される。

到達目標
 ①フィールド (地域、企業など) での活動を行うにあたっての基本的な知識、技能、思考、態度を身につける。
 ②個人およびグループで取り組む課題を発見し、それを表現することができる。
 ③課題に対する確かなアクションプランを作成し、それを実践することができる。
 ④経験から得た学びを整理し、それを他者に的確に伝えることができる。

授業方法と留意点
 配付資料、パワーポイント、板書などによる講義と、教員と学生、学生間の活発な対話に基づき、授業を実施する。また、グループワーク、プレゼンテーション、フィードバック、ふりかえりを積極的に取り入れ、学生は、これらの学びの機会に主体的に参画することが求められる。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	フィールドと向き合う、フィールドで活動する	オリエンテーション・授業計画および授業方法の説明・フィールドで活動するにあたっての基本的な態度について学ぶ	事前：シラバスの確認 事後：講義のふりかえり
2	フィールドとの関わり方	フィールドにおける活動に関する文献を講読し、グループで対話を行う	事前：文献の講読 事後：講義のふりかえり
3	社会のいまとその担い手	さまざまなフィールドの現状と課題について紹介するとともに、大学生に取り組めることを考える	事前：事前資料の確認 事後：講義のふりかえり
4	パーソナルプロジェクト①：課題さがし	身のまわりの生活から、「個人で取り組める課題」を考え、文章化する・成果物を教室内で共有する	事前：事前資料の確認 事後：講義のふりかえり
5	パーソナルプロジェクト②：アクションプランづくり	「個人で取り組める課題」を具体的なアクションプランに落とし込む・成果物を教室内で共有する	事前：前回成果物の確認 事後：プランの実践
6	パーソナルプロジェクト③：中間ふりかえり	アクションプランを一定期間実践した学び (成果や課題、展望について) を共有し、フィードバックを受ける	事前：プランの実践 事後：プランの実践
7	パーソナルプロジェクト④：実践報告会、ふりかえり	パーソナル・プロジェクトに取り組んだ学び (成果や課題、展望について) を報告し、実践をふりかえる	事前：プランの実践 事後：講義のふりかえり
8	グループプロジェクト①：課題さがし	身のまわりの生活から、「グループで取り組める課題」を考え、文章化する・成果物を教室内で共有する	事前：事前資料の確認 事後：講義のふりかえり
9	グループプロジェクト②：アクションプランづくり	「グループで取り組める課題」を具体的なアクションプランに落とし込む・成果物を教室内で共有する	事前：前回成果物の確認 事後：プランの実践
10	グループプロジェクト③：中間ふりかえり	アクションプランを一定期間実践した学び (成果や課題、展望について) を共有し、フィードバックを受ける	事前：プランの実践 事後：プランの実践
11	グループプロジェクト④：知見の整理、対話	アクションプランを実践した知見をグループ内での対話を通じて整理する	事前：プランの実践 事後：講義のふりかえり
12	グループプロジェクト⑤：パワーポイント作成	アクションプランを実践した知見を踏まえて、グループでパワーポイントを作成する	事前：パワーポイント作成の準備 事後：講義のふりかえり
13	グループプロジェクト⑥：最終報告会の準備	作成したパワーポイントの内容を踏まえて、最終報告会の準備をグループで行う	事前：パワーポイントの確認 事後：最終報告会の準備
14	グループプロジェクト⑦：最終報告会	グループプロジェクトに取り組んだ学び (成果や課題、展望について) を報告し、実践をふりかえる	事前：最終報告会の準備 事後：講義のふりかえり
15	講義全体のふりかえり：ソーシャルプロジェクトに向けて	講義での学びをふりかえるとともに教室全体で共有する・ソーシャルプロジェクトに向けた意思表明を行う	事前：講義のふりかえり 事後：今後についての検討

関連科目 FAL 実践、FAL 演習 I、FAL 演習 II、FAL 演習 III、FAL 演習 IV

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	期末レポート (30%) と個人/グループ成果物 (40%)、毎回の小レポート (30%) で評価し、60%以上で合格とする。		
学生への メッセージ	FAL に取り組む第一歩として、楽しく学びましょう！		
担当者の 研究室等	3号館3階 後和研究室、落合研究室、竹中研究室、谷研究室、上野山研究室、加戸・中澤研究室		
備考	本講義では、プロジェクトおよび成果発表の準備、ふりかえりなど、事前事後学習に計 60 時間取り組んでいただきます。		

科目名	FAL 実践	科目名 (英文)	Practice for Field-based Active Learning
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	樫田 美雄, 上野山 裕士, 江口 怜, 加戸 友佳子, 中澤 芽衣
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1035a0		

授業概要・目的
 フィールド型アクティブラーニング(FAL)の実践科目として、地域社会の現場で活躍する主体との交流を通じた「提案力」および「修正力」の獲得を目指す。講義では、企業、地方公共団体、公益法人など、地域社会の現場で活躍する人びとから、社会（地域）が抱える課題について話題提供を受けたのち、いくつかのテーマ・グループに分かれて、①課題の発見、②アクションプランづくり、③プレゼンテーション、④話題提供者からのフィードバック、⑤フィードバックを踏まえたプランの修正、⑥プレゼンテーションとフィードバック、⑦グループワークに対するふりかえり、を実施する。これらの学びを通じて、受講生は、社会的な課題を「じぶんごと」として理解するとともに、その解決策を立案、適宜修正し、実践していくために必要な知識、技能、思考、態度を身につけることが期待される。

到達目標
 ①提示された資料等から課題を的確に把握し、その解決方法をアクションプランとして立案することができる
 ②フィードバック、コメントの内容を踏まえてアクションプランを的確に修正することができる
 ③共有された目標の達成に向けた協働のなかで自らの役割を発見し、その実践に主体的に取り組むことができる
 ④ディスカッション、プレゼンテーションなどの機会では、自らの意見を他者に的確に伝えることができる

授業方法と留意点
 グループワークを中心に授業を実施する。その過程では、傾聴および他者の意見を尊重する態度、また自らの意見を的確に他者に伝えるなど、積極的、主体的な参画を求める。また、企業、地方公共団体、公益法人など、地域社会の現場で活躍する学外者と交流する機会の多い授業となるため、受講にあたっては、社会人としての基本的な態度、マナーを身につけておくことが必要となる。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	社会が抱える課題について理解する①	企業、地方公共団体、公益法人による社会（地域）が抱える課題についての講義	事前：事前資料の確認	事後：講義のふりかえり
2	社会が抱える課題について理解する②	企業、地方公共団体、公益法人による社会（地域）が抱える課題についての講義	事前：事前資料の確認	事後：講義のふりかえり
3	具体的な社会課題への理解を深める（個人ワーク）	担当テーマに関する情報を収集し、アクションプラン作成に向けて理解を深める	事前：事前の情報収集	事後：アクションプラン作成の準備
4	具体的な社会課題への理解を深める（グループワーク）①	同じテーマを選んだ者同士で情報・意見交換をし、連携先の関係者も交えて議論する	事前：アクションプラン作成の準備	事後：アクションプラン作成の準備
5	具体的な社会課題への理解を深める（グループワーク）②	小グループに分かれて、特に取り組みたいテーマやアクションプランの方向性等について意見交換する	事前：アクションプラン作成の準備	事後：アクションプラン作成の準備
6	グループでアクションプランづくり①	グループでテーマを選定し、課題解決に向けたアクションプランづくりに取り組む	事前：プレゼンテーションの準備	事後：プレゼンテーションの準備
7	グループでアクションプランづくり②	グループでテーマを選定し、課題解決に向けたアクションプランづくりに取り組む	事前：プレゼンテーションの準備	事後：プレゼンテーションの準備
8	中間プレゼンテーション	アクションプランについて中間プレゼンテーションを行う	事前：プレゼンテーションの準備	事後：プレゼンテーションのふりかえり
9	連携先からのフィードバックとグループでの振り返り	プレゼンテーションに関して企業、地方公共団体、公益法人からフィードバックを受けて、グループの取り組みや発表内容について振り返る	事前：プレゼンテーションのふりかえり	事後：プレゼンテーション修正箇所の検討
10	社会課題の解決に向けたトークセッション	連携先の取り組む社会課題に関するトークセッションの内容を聞いて、課題解決に向けて問題意識を深める	事前：プレゼンテーション修正箇所の検討	事後：講義のふりかえり
11	アクションプランを修正する①	企業、地方公共団体、公益法人からのフィードバックを踏まえてアクションプランを修正する	事前：プレゼンテーションの準備	事後：プレゼンテーションの準備
12	アクションプランを修正する②	企業、地方公共団体、公益法人からのフィードバックを踏まえてアクションプランを修正する	事前：プレゼンテーションの準備	事後：プレゼンテーションの準備
13	最終プレゼンテーション①	修正したアクションプランについてプレゼンテーションを行い、企業、地方公共団体、公益法人等からフィードバックを受ける	事前：プレゼンテーションの準備	事後：プレゼンテーションのふりかえり
14	最終プレゼンテーション②	修正したアクションプランについてプレゼンテーションを行い、企業、地方公共団体、公益法人等からフィードバックを受ける	事前：プレゼンテーションの準備	事後：プレゼンテーションのふりかえり
15	フィードバックとまとめ	修正したアクションプランについてプレゼンテーションを行い、企業、地方公共団体、公益法人等からフィードバックを受ける	事前：授業全体のふりかえり	事後：講義のふりかえり

関連科目 FAL 入門、FAL 演習 I、FAL 演習 II、FAL 演習 III、FAL 演習 IV

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
		1		
	2			
	3			

参考書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	グループ成果物 (50%)、個人成果物 (50%) で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	連携先を選択してもらったあとに、班分けするので、初回には欠席しないようにせよ。初回の連携先様のプレゼンに基づいて希望調査を行う。			
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室			
備考	事前・事後学習の時間や発表準備の時間、および、最終の個人レポート作成の時間を合計して60時間程度、授業による拘束外の学習時間が必要である。			

科目名	FAL 演習 I	科目名 (英文)	Field-based Active Learning I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 慎一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1036a0		

授業概要・目的	おもに 1 年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、フィールド型アクティブ・ラーニングにはじめて取り組む学生を対象とし、協働的実践の基本、連携先との関わり方、成果のまとめ方、プレゼンテーションの方法などについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材としての基礎を身につけることが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題について理解し、その内容を説明することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、自分なりの意見をもつ ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、今後への活かし方を明確にすることができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。 PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～</td> <td>授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える</td> <td>【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>連携先について知る</td> <td>各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明</td> <td>【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>チームビルディング</td> <td>プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する</td> <td>【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>連携先が抱える課題を整理する</td> <td>連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する</td> <td>【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>課題に対して大学生ができることについて対話する</td> <td>実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する</td> <td>【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>連携先との協働によるグループワーク①</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>連携先との協働によるグループワーク②</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>連携先との協働によるグループワーク③</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>連携先との協働によるグループワーク④</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>連携先との協働によるグループワーク⑤</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>実践活動の概要と成果、課題を整理する①</td> <td>プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する</td> <td>【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>実践活動の概要と成果、課題を整理する②</td> <td>プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する</td> <td>【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>成果報告会①</td> <td>各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する</td> <td>【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>成果報告会②</td> <td>各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する</td> <td>【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>授業全体のふりかえり</td> <td>授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する</td> <td>【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～	授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する	2	連携先について知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える	3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する	4	連携先が抱える課題を整理する	連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える	5	課題に対して大学生ができることについて対話する	実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する	【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認	6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備	12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備	13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり	14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり	15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する	【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～	授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する																																																														
2	連携先について知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える																																																														
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する																																																														
4	連携先が抱える課題を整理する	連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える																																																														
5	課題に対して大学生ができることについて対話する	実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する	【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認																																																														
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備																																																														
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備																																																														
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり																																																														
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり																																																														
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する	【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える																																																														

関連科目 FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習 II、FAL 演習 III、FAL 演習 IV

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習 I	科目名 (英文)	Field-based Active Learning I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	堀田 裕子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1036a0		

授業概要・目的	おもに 1 年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、フィールド型アクティブ・ラーニングにはじめて取り組む学生を対象とし、協働的実践の基本、連携先との関わり方、成果のまとめ方、プレゼンテーションの方法などについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材としての基礎を身につけることが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題について理解し、その内容を説明することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、自分なりの意見をもつ ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、今後への活かし方を明確にすることができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～	授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する
2	連携先について知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する
4	連携先が抱える課題を整理する	連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える
5	課題に対して大学生ができることについて対話する	実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する	【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する	【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える

関連科目	FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習 II、FAL 演習 III、FAL 演習 IV
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習 I	科目名 (英文)	Field-based Active Learning I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	谷 めぐみ
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1036a0		

授業概要・目的	おもに 1 年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、フィールド型アクティブ・ラーニングにはじめて取り組む学生を対象とし、協働的実践の基本、連携先との関わり方、成果のまとめ方、プレゼンテーションの方法などについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材としての基礎を身につけることが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題について理解し、その内容を説明することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、自分なりの意見をもつ ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、今後への活かし方を明確にすることができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。 PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～</td> <td>授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える</td> <td>【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>連携先について知る</td> <td>各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明</td> <td>【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>チームビルディング</td> <td>プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する</td> <td>【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>連携先が抱える課題を整理する</td> <td>連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する</td> <td>【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>課題に対して大学生ができることについて対話する</td> <td>実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する</td> <td>【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>連携先との協働によるグループワーク①</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>連携先との協働によるグループワーク②</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>連携先との協働によるグループワーク③</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>連携先との協働によるグループワーク④</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>連携先との協働によるグループワーク⑤</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>実践活動の概要と成果、課題を整理する①</td> <td>プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する</td> <td>【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>実践活動の概要と成果、課題を整理する②</td> <td>プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する</td> <td>【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>成果報告会①</td> <td>各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する</td> <td>【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>成果報告会②</td> <td>各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する</td> <td>【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>授業全体のふりかえり</td> <td>授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する</td> <td>【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～	授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する	2	連携先について知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える	3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する	4	連携先が抱える課題を整理する	連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える	5	課題に対して大学生ができることについて対話する	実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する	【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認	6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備	12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備	13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり	14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり	15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する	【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える
	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																													
	1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～	授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する																																																													
	2	連携先について知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える																																																													
	3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する																																																													
	4	連携先が抱える課題を整理する	連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える																																																													
	5	課題に対して大学生ができることについて対話する	実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する	【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認																																																													
	6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																													
	7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																													
	8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																													
	9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																													
	10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																													
	11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備																																																													
	12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備																																																													
	13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり																																																													
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり																																																														
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する	【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える																																																														

関連科目 FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習 II、FAL 演習 III、FAL 演習 IV

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習 I	科目名 (英文)	Field-based Active Learning I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	横山 孝文
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1036a0		

授業概要・目的	おもに 1 年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、フィールド型アクティブ・ラーニングにはじめて取り組む学生を対象とし、協働的実践の基本、連携先との関わり方、成果のまとめ方、プレゼンテーションの方法などについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材としての基礎を身につけることが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題について理解し、その内容を説明することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、自分なりの意見をもつ ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、今後への活かし方を明確にすることができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。 PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～	授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する
2	連携先について知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する
4	連携先が抱える課題を整理する	連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える
5	課題に対して大学生ができることについて対話する	実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する	【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する	【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える

関連科目	FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習 II、FAL 演習 III、FAL 演習 IV
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習 I	科目名 (英文)	Field-based Active Learning I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	樫田 美雄
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1036a0		

授業概要・目的	おもに 1 年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、フィールド型アクティブ・ラーニングにはじめて取り組む学生を対象とし、協働的実践の基本、連携先との関わり方、成果のまとめ方、プレゼンテーションの方法などについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材としての基礎を身につけることが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題について理解し、その内容を説明することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、自分なりの意見をもつ ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、今後への活かし方を明確にすることができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。 PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～	授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する
2	連携先について知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する
4	連携先が抱える課題を整理する	連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える
5	課題に対して大学生ができることについて対話する	実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する	【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する	【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える

関連科目	FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習 II、FAL 演習 III、FAL 演習 IV
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習 I	科目名 (英文)	Field-based Active Learning I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	後和 美朝
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1036a0		

授業概要・目的	おもに 1 年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、フィールド型アクティブ・ラーニングにはじめて取り組む学生を対象とし、協働的実践の基本、連携先との関わり方、成果のまとめ方、プレゼンテーションの方法などについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材としての基礎を身につけることが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題について理解し、その内容を説明することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、自分なりの意見をもつ ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、今後への活かし方を明確にすることができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～</td> <td>授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える</td> <td>【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>連携先について知る</td> <td>各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明</td> <td>【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>チームビルディング</td> <td>プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する</td> <td>【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>連携先が抱える課題を整理する</td> <td>連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する</td> <td>【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>課題に対して大学生ができることについて対話する</td> <td>実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する</td> <td>【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>連携先との協働によるグループワーク①</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>連携先との協働によるグループワーク②</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>連携先との協働によるグループワーク③</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>連携先との協働によるグループワーク④</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>連携先との協働によるグループワーク⑤</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>実践活動の概要と成果、課題を整理する①</td> <td>プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する</td> <td>【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>実践活動の概要と成果、課題を整理する②</td> <td>プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する</td> <td>【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>成果報告会①</td> <td>各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する</td> <td>【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>成果報告会②</td> <td>各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する</td> <td>【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>授業全体のふりかえり</td> <td>授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する</td> <td>【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～	授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する	2	連携先について知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える	3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する	4	連携先が抱える課題を整理する	連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える	5	課題に対して大学生ができることについて対話する	実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する	【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認	6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備	12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備	13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり	14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり	15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する	【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～	授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する																																																														
2	連携先について知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える																																																														
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する																																																														
4	連携先が抱える課題を整理する	連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える																																																														
5	課題に対して大学生ができることについて対話する	実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する	【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認																																																														
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備																																																														
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備																																																														
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり																																																														
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり																																																														
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する	【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える																																																														

関連科目 FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習 II、FAL 演習 III、FAL 演習 IV

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習 I	科目名 (英文)	Field-based Active Learning I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	平山 洋介
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1036a0		

授業概要・目的	おもに 1 年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、フィールド型アクティブ・ラーニングにはじめて取り組む学生を対象とし、協働的実践の基本、連携先との関わり方、成果のまとめ方、プレゼンテーションの方法などについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材としての基礎を身につけることが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題について理解し、その内容を説明することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、自分なりの意見をもつ ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、今後への活かし方を明確にすることができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～	授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する
2	連携先について知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する
4	連携先が抱える課題を整理する	連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える
5	課題に対して大学生ができることについて対話する	実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する	【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する	【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える

関連科目	FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習 II、FAL 演習 III、FAL 演習 IV
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習 I	科目名 (英文)	Field-based Active Learning I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	好井 裕明
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1036a0		

授業概要・目的	おもに 1 年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、フィールド型アクティブ・ラーニングにはじめて取り組む学生を対象とし、協働的実践の基本、連携先との関わり方、成果のまとめ方、プレゼンテーションの方法などについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材としての基礎を身につけることが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題について理解し、その内容を説明することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、自分なりの意見をもつ ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、今後への活かし方を明確にすることができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～	授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する
2	連携先について知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する
4	連携先が抱える課題を整理する	連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える
5	課題に対して大学生ができることについて対話する	実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する	【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する	【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える

関連科目	FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習 II、FAL 演習 III、FAL 演習 IV
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習 I	科目名 (英文)	Field-based Active Learning I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	須藤 遙子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1036a0		

授業概要・目的	おもに 1 年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、フィールド型アクティブ・ラーニングにはじめて取り組む学生を対象とし、協働的実践の基本、連携先との関わり方、成果のまとめ方、プレゼンテーションの方法などについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材としての基礎を身につけることが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題について理解し、その内容を説明することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、自分なりの意見をもつ ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、今後への活かし方を明確にすることができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。 PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～</td> <td>授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える</td> <td>【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>連携先について知る</td> <td>各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明</td> <td>【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>チームビルディング</td> <td>プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する</td> <td>【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>連携先が抱える課題を整理する</td> <td>連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する</td> <td>【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>課題に対して大学生ができることについて対話する</td> <td>実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する</td> <td>【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>連携先との協働によるグループワーク①</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>連携先との協働によるグループワーク②</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>連携先との協働によるグループワーク③</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>連携先との協働によるグループワーク④</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>連携先との協働によるグループワーク⑤</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>実践活動の概要と成果、課題を整理する①</td> <td>プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する</td> <td>【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>実践活動の概要と成果、課題を整理する②</td> <td>プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する</td> <td>【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>成果報告会①</td> <td>各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する</td> <td>【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>成果報告会②</td> <td>各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する</td> <td>【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>授業全体のふりかえり</td> <td>授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する</td> <td>【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～	授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する	2	連携先について知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える	3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する	4	連携先が抱える課題を整理する	連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える	5	課題に対して大学生ができることについて対話する	実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する	【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認	6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備	12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備	13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり	14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり	15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する	【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～	授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する																																																														
2	連携先について知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える																																																														
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する																																																														
4	連携先が抱える課題を整理する	連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える																																																														
5	課題に対して大学生ができることについて対話する	実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する	【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認																																																														
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備																																																														
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備																																																														
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり																																																														
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり																																																														
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する	【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える																																																														

関連科目 FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習 II、FAL 演習 III、FAL 演習 IV

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習 I	科目名 (英文)	Field-based Active Learning I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1036a0		

授業概要・目的	おもに 1 年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、フィールド型アクティブ・ラーニングにはじめて取り組む学生を対象とし、協働的実践の基本、連携先との関わり方、成果のまとめ方、プレゼンテーションの方法などについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材としての基礎を身につけることが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題について理解し、その内容を説明することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、自分なりの意見をもつ ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、今後への活かし方を明確にすることができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～</td> <td>授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える</td> <td>【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>連携先について知る</td> <td>各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明</td> <td>【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>チームビルディング</td> <td>プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する</td> <td>【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>連携先が抱える課題を整理する</td> <td>連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する</td> <td>【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>課題に対して大学生ができることについて対話する</td> <td>実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する</td> <td>【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>連携先との協働によるグループワーク①</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>連携先との協働によるグループワーク②</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>連携先との協働によるグループワーク③</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>連携先との協働によるグループワーク④</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>連携先との協働によるグループワーク⑤</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>実践活動の概要と成果、課題を整理する①</td> <td>プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する</td> <td>【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>実践活動の概要と成果、課題を整理する②</td> <td>プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する</td> <td>【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>成果報告会①</td> <td>各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する</td> <td>【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>成果報告会②</td> <td>各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する</td> <td>【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>授業全体のふりかえり</td> <td>授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する</td> <td>【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～	授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する	2	連携先について知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える	3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する	4	連携先が抱える課題を整理する	連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える	5	課題に対して大学生ができることについて対話する	実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する	【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認	6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備	12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備	13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり	14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり	15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する	【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～	授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する																																																														
2	連携先について知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える																																																														
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する																																																														
4	連携先が抱える課題を整理する	連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える																																																														
5	課題に対して大学生ができることについて対話する	実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する	【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認																																																														
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備																																																														
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備																																																														
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり																																																														
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり																																																														
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する	【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える																																																														

関連科目 FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習 II、FAL 演習 III、FAL 演習 IV

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習 I	科目名 (英文)	Field-based Active Learning I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	落合 知子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1036a0		

授業概要・目的	おもに 1 年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、フィールド型アクティブ・ラーニングにはじめて取り組む学生を対象とし、協働的実践の基本、連携先との関わり方、成果のまとめ方、プレゼンテーションの方法などについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材としての基礎を身につけることが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題について理解し、その内容を説明することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、自分なりの意見をもつ ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、今後への活かし方を明確にすることができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。 PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～</td> <td>授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える</td> <td>【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>連携先について知る</td> <td>各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明</td> <td>【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>チームビルディング</td> <td>プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する</td> <td>【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>連携先が抱える課題を整理する</td> <td>連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する</td> <td>【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>課題に対して大学生ができることについて対話する</td> <td>実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する</td> <td>【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>連携先との協働によるグループワーク①</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>連携先との協働によるグループワーク②</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>連携先との協働によるグループワーク③</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>連携先との協働によるグループワーク④</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>連携先との協働によるグループワーク⑤</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>実践活動の概要と成果、課題を整理する①</td> <td>プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する</td> <td>【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>実践活動の概要と成果、課題を整理する②</td> <td>プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する</td> <td>【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>成果報告会①</td> <td>各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する</td> <td>【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>成果報告会②</td> <td>各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する</td> <td>【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>授業全体のふりかえり</td> <td>授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する</td> <td>【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～	授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する	2	連携先について知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える	3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する	4	連携先が抱える課題を整理する	連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える	5	課題に対して大学生ができることについて対話する	実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する	【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認	6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備	12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備	13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり	14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり	15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する	【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～	授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する																																																														
2	連携先について知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える																																																														
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する																																																														
4	連携先が抱える課題を整理する	連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える																																																														
5	課題に対して大学生ができることについて対話する	実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する	【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認																																																														
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備																																																														
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備																																																														
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり																																																														
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり																																																														
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する	【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える																																																														

関連科目 FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習 II、FAL 演習 III、FAL 演習 IV

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習 I	科目名 (英文)	Field-based Active Learning I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	竹端 佑介
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1036a0		

授業概要・目的	おもに 1 年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、フィールド型アクティブ・ラーニングにはじめて取り組む学生を対象とし、協働的実践の基本、連携先との関わり方、成果のまとめ方、プレゼンテーションの方法などについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材としての基礎を身につけることが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題について理解し、その内容を説明することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、自分なりの意見をもつ ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、今後への活かし方を明確にすることができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～	授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する
2	連携先について知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する
4	連携先が抱える課題を整理する	連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える
5	課題に対して大学生ができることについて対話する	実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する	【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する	【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える

関連科目	FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習 II、FAL 演習 III、FAL 演習 IV
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習 I	科目名 (英文)	Field-based Active Learning I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	小池 高史
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1036a0		

授業概要・目的	おもに 1 年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、フィールド型アクティブ・ラーニングにはじめて取り組む学生を対象とし、協働的実践の基本、連携先との関わり方、成果のまとめ方、プレゼンテーションの方法などについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材としての基礎を身につけることが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題について理解し、その内容を説明することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、自分なりの意見をもつ ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、今後への活かし方を明確にすることができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。 PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の 効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～	授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する
	2	連携先について知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える
	3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する
	4	連携先が抱える課題を整理する	連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える
	5	課題に対して大学生ができることについて対話する	実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する	【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認
	6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
	7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
	8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
	9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
	10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
	11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備
	12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備
	13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
	14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する	【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える	

関連科目	FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習 II、FAL 演習 III、FAL 演習 IV
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習 I	科目名 (英文)	Field-based Active Learning I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	竹中 祐二
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1036a0		

授業概要・目的	おもに 1 年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、フィールド型アクティブ・ラーニングにはじめて取り組む学生を対象とし、協働的実践の基本、連携先との関わり方、成果のまとめ方、プレゼンテーションの方法などについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材としての基礎を身につけることが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題について理解し、その内容を説明することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、自分なりの意見をもつ ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、今後への活かし方を明確にすることができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～	授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する
2	連携先について知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する
4	連携先が抱える課題を整理する	連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える
5	課題に対して大学生ができることについて対話する	実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する	【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する	【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える

関連科目	FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習 II、FAL 演習 III、FAL 演習 IV
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習 I	科目名 (英文)	Field-based Active Learning I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	稲生 勝
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1036a0		

授業概要・目的	おもに 1 年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、フィールド型アクティブ・ラーニングにはじめて取り組む学生を対象とし、協働的実践の基本、連携先との関わり方、成果のまとめ方、プレゼンテーションの方法などについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材としての基礎を身につけることが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題について理解し、その内容を説明することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、自分なりの意見をもつ ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、今後への活かし方を明確にすることができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。 PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～</td> <td>授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える</td> <td>【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>連携先について知る</td> <td>各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明</td> <td>【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>チームビルディング</td> <td>プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する</td> <td>【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>連携先が抱える課題を整理する</td> <td>連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する</td> <td>【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>課題に対して大学生ができることについて対話する</td> <td>実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する</td> <td>【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>連携先との協働によるグループワーク①</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>連携先との協働によるグループワーク②</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>連携先との協働によるグループワーク③</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>連携先との協働によるグループワーク④</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>連携先との協働によるグループワーク⑤</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>実践活動の概要と成果、課題を整理する①</td> <td>プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する</td> <td>【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>実践活動の概要と成果、課題を整理する②</td> <td>プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する</td> <td>【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>成果報告会①</td> <td>各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する</td> <td>【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>成果報告会②</td> <td>各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する</td> <td>【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>授業全体のふりかえり</td> <td>授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する</td> <td>【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～	授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する	2	連携先について知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える	3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する	4	連携先が抱える課題を整理する	連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える	5	課題に対して大学生ができることについて対話する	実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する	【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認	6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備	12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備	13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり	14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり	15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する	【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～	授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する																																																														
2	連携先について知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える																																																														
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する																																																														
4	連携先が抱える課題を整理する	連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える																																																														
5	課題に対して大学生ができることについて対話する	実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する	【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認																																																														
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備																																																														
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備																																																														
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり																																																														
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり																																																														
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する	【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える																																																														

関連科目 FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習 II、FAL 演習 III、FAL 演習 IV

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習 I	科目名 (英文)	Field-based Active Learning I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	松本 恭幸
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1036a0		

授業概要・目的	おもに 1 年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、フィールド型アクティブ・ラーニングにはじめて取り組む学生を対象とし、協働的実践の基本、連携先との関わり方、成果のまとめ方、プレゼンテーションの方法などについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材としての基礎を身につけることが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題について理解し、その内容を説明することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、自分なりの意見をもつ ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、今後への活かし方を明確にすることができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。 PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～	授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する
2	連携先について知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する
4	連携先が抱える課題を整理する	連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える
5	課題に対して大学生ができることについて対話する	実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する	【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する	【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える

関連科目	FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習 II、FAL 演習 III、FAL 演習 IV
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習 I	科目名 (英文)	Field-based Active Learning I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	中澤 芽衣
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1036a0		

授業概要・目的	おもに 1 年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、フィールド型アクティブ・ラーニングにはじめて取り組む学生を対象とし、協働的実践の基本、連携先との関わり方、成果のまとめ方、プレゼンテーションの方法などについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材としての基礎を身につけることが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題について理解し、その内容を説明することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、自分なりの意見をもつ ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、今後への活かし方を明確にすることができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。 PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～	授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する
2	連携先について知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する
4	連携先が抱える課題を整理する	連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える
5	課題に対して大学生ができることについて対話する	実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する	【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する	【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える

関連科目	FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習 II、FAL 演習 III、FAL 演習 IV
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習 I	科目名 (英文)	Field-based Active Learning I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤井 和佐
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1036a0		

授業概要・目的	おもに 1 年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、フィールド型アクティブ・ラーニングにはじめて取り組む学生を対象とし、協働的実践の基本、連携先との関わり方、成果のまとめ方、プレゼンテーションの方法などについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材としての基礎を身につけることが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題について理解し、その内容を説明することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、自分なりの意見をもつ ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、今後への活かし方を明確にすることができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。 PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～</td> <td>授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える</td> <td>【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>連携先について知る</td> <td>各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明</td> <td>【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>チームビルディング</td> <td>プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する</td> <td>【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>連携先が抱える課題を整理する</td> <td>連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する</td> <td>【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>課題に対して大学生ができることについて対話する</td> <td>実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する</td> <td>【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>連携先との協働によるグループワーク①</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>連携先との協働によるグループワーク②</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>連携先との協働によるグループワーク③</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>連携先との協働によるグループワーク④</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>連携先との協働によるグループワーク⑤</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>実践活動の概要と成果、課題を整理する①</td> <td>プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する</td> <td>【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>実践活動の概要と成果、課題を整理する②</td> <td>プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する</td> <td>【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>成果報告会①</td> <td>各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する</td> <td>【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>成果報告会②</td> <td>各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する</td> <td>【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>授業全体のふりかえり</td> <td>授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する</td> <td>【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～	授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する	2	連携先について知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える	3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する	4	連携先が抱える課題を整理する	連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える	5	課題に対して大学生ができることについて対話する	実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する	【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認	6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備	12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備	13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり	14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり	15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する	【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～	授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する																																																														
2	連携先について知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える																																																														
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する																																																														
4	連携先が抱える課題を整理する	連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える																																																														
5	課題に対して大学生ができることについて対話する	実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する	【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認																																																														
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備																																																														
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備																																																														
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり																																																														
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり																																																														
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する	【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える																																																														

関連科目 FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習 II、FAL 演習 III、FAL 演習 IV

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習 I	科目名 (英文)	Field-based Active Learning I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	江口 怜
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1036a0		

授業概要・目的	おもに 1 年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、フィールド型アクティブ・ラーニングにはじめて取り組む学生を対象とし、協働的実践の基本、連携先との関わり方、成果のまとめ方、プレゼンテーションの方法などについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材としての基礎を身につけることが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題について理解し、その内容を説明することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、自分なりの意見をもつ ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、今後への活かし方を明確にすることができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～</td> <td>授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える</td> <td>【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>連携先について知る</td> <td>各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明</td> <td>【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>チームビルディング</td> <td>プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する</td> <td>【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>連携先が抱える課題を整理する</td> <td>連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する</td> <td>【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>課題に対して大学生ができることについて対話する</td> <td>実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する</td> <td>【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>連携先との協働によるグループワーク①</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>連携先との協働によるグループワーク②</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>連携先との協働によるグループワーク③</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>連携先との協働によるグループワーク④</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>連携先との協働によるグループワーク⑤</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>実践活動の概要と成果、課題を整理する①</td> <td>プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する</td> <td>【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>実践活動の概要と成果、課題を整理する②</td> <td>プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する</td> <td>【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>成果報告会①</td> <td>各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する</td> <td>【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>成果報告会②</td> <td>各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する</td> <td>【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>授業全体のふりかえり</td> <td>授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する</td> <td>【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～	授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する	2	連携先について知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える	3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する	4	連携先が抱える課題を整理する	連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える	5	課題に対して大学生ができることについて対話する	実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する	【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認	6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備	12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備	13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり	14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり	15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する	【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～	授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する																																																														
2	連携先について知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える																																																														
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する																																																														
4	連携先が抱える課題を整理する	連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える																																																														
5	課題に対して大学生ができることについて対話する	実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する	【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認																																																														
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備																																																														
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備																																																														
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり																																																														
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり																																																														
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する	【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える																																																														

関連科目 FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習 II、FAL 演習 III、FAL 演習 IV

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習 I	科目名 (英文)	Field-based Active Learning I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1036a0		

授業概要・目的	おもに 1 年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、フィールド型アクティブ・ラーニングにはじめて取り組む学生を対象とし、協働的実践の基本、連携先との関わり方、成果のまとめ方、プレゼンテーションの方法などについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材としての基礎を身につけることが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題について理解し、その内容を説明することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、自分なりの意見をもつ ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、今後への活かし方を明確にすることができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。 PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～</td> <td>授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える</td> <td>【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>連携先について知る</td> <td>各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明</td> <td>【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>チームビルディング</td> <td>プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する</td> <td>【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>連携先が抱える課題を整理する</td> <td>連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する</td> <td>【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>課題に対して大学生ができることについて対話する</td> <td>実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する</td> <td>【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>連携先との協働によるグループワーク①</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>連携先との協働によるグループワーク②</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>連携先との協働によるグループワーク③</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>連携先との協働によるグループワーク④</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>連携先との協働によるグループワーク⑤</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>実践活動の概要と成果、課題を整理する①</td> <td>プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する</td> <td>【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>実践活動の概要と成果、課題を整理する②</td> <td>プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する</td> <td>【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>成果報告会①</td> <td>各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する</td> <td>【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>成果報告会②</td> <td>各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する</td> <td>【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>授業全体のふりかえり</td> <td>授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する</td> <td>【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～	授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する	2	連携先について知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える	3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する	4	連携先が抱える課題を整理する	連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える	5	課題に対して大学生ができることについて対話する	実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する	【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認	6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備	12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備	13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり	14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり	15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する	【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～	授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する																																																														
2	連携先について知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える																																																														
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する																																																														
4	連携先が抱える課題を整理する	連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える																																																														
5	課題に対して大学生ができることについて対話する	実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する	【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認																																																														
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備																																																														
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備																																																														
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり																																																														
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり																																																														
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する	【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える																																																														

関連科目 FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習 II、FAL 演習 III、FAL 演習 IV

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習 I	科目名 (英文)	Field-based Active Learning I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	山本 圭三
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1036a0		

授業概要・目的	おもに 1 年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、フィールド型アクティブ・ラーニングにはじめて取り組む学生を対象とし、協働的実践の基本、連携先との関わり方、成果のまとめ方、プレゼンテーションの方法などについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材としての基礎を身につけることが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題について理解し、その内容を説明することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、自分なりの意見をもつ ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、今後への活かし方を明確にすることができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。 PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～	授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する
2	連携先について知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する
4	連携先が抱える課題を整理する	連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える
5	課題に対して大学生ができることについて対話する	実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する	【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する	【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える

関連科目	FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習 II、FAL 演習 III、FAL 演習 IV
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習 I	科目名 (英文)	Field-based Active Learning I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	岩井 八郎
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1036a0		

授業概要・目的	おもに 1 年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、フィールド型アクティブ・ラーニングにはじめて取り組む学生を対象とし、協働的実践の基本、連携先との関わり方、成果のまとめ方、プレゼンテーションの方法などについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材としての基礎を身につけることが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題について理解し、その内容を説明することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、自分なりの意見をもつ ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、今後への活かし方を明確にすることができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。 PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～</td> <td>授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える</td> <td>【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>連携先について知る</td> <td>各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明</td> <td>【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>チームビルディング</td> <td>プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する</td> <td>【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>連携先が抱える課題を整理する</td> <td>連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する</td> <td>【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>課題に対して大学生ができることについて対話する</td> <td>実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する</td> <td>【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>連携先との協働によるグループワーク①</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>連携先との協働によるグループワーク②</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>連携先との協働によるグループワーク③</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>連携先との協働によるグループワーク④</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>連携先との協働によるグループワーク⑤</td> <td>学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む</td> <td>【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>実践活動の概要と成果、課題を整理する①</td> <td>プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する</td> <td>【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>実践活動の概要と成果、課題を整理する②</td> <td>プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する</td> <td>【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>成果報告会①</td> <td>各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する</td> <td>【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>成果報告会②</td> <td>各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する</td> <td>【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>授業全体のふりかえり</td> <td>授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する</td> <td>【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～	授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する	2	連携先について知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える	3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する	4	連携先が抱える課題を整理する	連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える	5	課題に対して大学生ができることについて対話する	実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する	【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認	6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成	11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備	12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備	13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり	14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり	15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する	【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～	授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する																																																														
2	連携先について知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える																																																														
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する																																																														
4	連携先が抱える課題を整理する	連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える																																																														
5	課題に対して大学生ができることについて対話する	実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する	【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認																																																														
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成																																																														
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備																																																														
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備																																																														
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり																																																														
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり																																																														
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する	【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える																																																														

関連科目 FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習 II、FAL 演習 III、FAL 演習 IV

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習 I	科目名 (英文)	Field-based Active Learning I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	加戸 友佳子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1036a0		

授業概要・目的	おもに 1 年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、フィールド型アクティブ・ラーニングにはじめて取り組む学生を対象とし、協働的実践の基本、連携先との関わり方、成果のまとめ方、プレゼンテーションの方法などについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材としての基礎を身につけることが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題について理解し、その内容を説明することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、自分なりの意見をもつ ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、今後への活かし方を明確にすることができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL)、はじめの一歩～	授業の進め方についての説明、FAL への取り組み方について対話をまじえて考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FAL への取り組み方の基本を復習する
2	連携先について知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する
4	連携先が抱える課題を整理する	連携先が抱える課題について、さまざまな資料を用いて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える
5	課題に対して大学生ができることについて対話する	実践活動 (第 6 回～第 10 回) での取り組み目標について対話、文章化する	【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「今後への活かし方」として文章化する	【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを今後に生かす方法を考える

関連科目	FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習 II、FAL 演習 III、FAL 演習 IV
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習Ⅱ	科目名 (英文)	Field-based Active Learning II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 慎一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2037a0		

授業概要・目的	おもに2年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、専門基礎科目等の履修により社会との関わり方、社会学の基本的な考え方を身につけた学生を対象とし、課題に対する多角的な視点、解決に向けた多様なアプローチなどについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材として必要な資質を自分なりに理解することが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題をその背景を含めて理解し、正確に記述することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、連携先の意向を踏まえて複数提案できる ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら主体的に取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を正確に他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、学生生活後半の取り組み方を具体的に描くことができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) で活躍する～	授業の進め方についての説明、FALに主体的に取り組むための方法について考える	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】FALへの主体的な取り組み方についてふりかえる
2	連携先について深く知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明、連携先に関する情報収集	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】連携先に関する情報収集を行う 【事後】連携先が抱える課題についてグループで協議する
4	連携先が抱える課題を多角的に整理する	連携先が抱える課題について、社会背景や連携先の実情を踏まえて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】課題に対して大学生ができることを考える
5	課題に対して大学生ができることを複数のアプローチから考える	実践活動 (第6回～第10回) での取り組み目標とアクションプランについて対話、文章化する	【事前】実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】文章化した取り組み目標の確認
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「学生生活後半の取り組み方」として文章化する	【事前】活動内容の整理 【事後】授業での学びを学生生活後半に生かす方法を考える

関連科目	FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習Ⅰ、FAL 演習Ⅲ、FAL 演習Ⅳ
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習Ⅱ	科目名 (英文)	Field-based Active Learning II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	堀田 裕子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2037a0		

授業概要・目的	おもに2年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、専門基礎科目等の履修により社会との関わり方、社会学の基本的な考え方を身につけた学生を対象とし、課題に対する多角的な視点、解決に向けた多様なアプローチなどについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材として必要な資質を自分なりに理解することが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題をその背景を含めて理解し、正確に記述することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、連携先の意向を踏まえて複数提案できる ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら主体的に取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を正確に他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、学生生活後半の取り組み方を具体的に描くことができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。 PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) で活躍する～	授業の進め方についての説明、FALに主体的に取り組むための方法について考える	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】FALへの主体的な取り組み方についてふりかえる
2	連携先について深く知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明、連携先に関する情報収集	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】連携先に関する情報収集を行う 【事後】連携先が抱える課題についてグループで協議する
4	連携先が抱える課題を多角的に整理する	連携先が抱える課題について、社会背景や連携先の実情を踏まえて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】課題に対して大学生ができることを考える
5	課題に対して大学生ができることを複数のアプローチから考える	実践活動 (第6回～第10回) での取り組み目標とアクションプランについて対話、文章化する	【事前】実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】文章化した取り組み目標の確認
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「学生生活後半の取り組み方」として文章化する	【事前】活動内容の整理 【事後】授業での学びを学生生活後半に生かす方法を考える

関連科目	FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習Ⅰ、FAL 演習Ⅲ、FAL 演習Ⅳ
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習Ⅱ	科目名 (英文)	Field-based Active Learning II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	谷 めぐみ
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2037a0		

授業概要・目的	おもに2年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、専門基礎科目等の履修により社会との関わり方、社会学の基本的な考え方を身につけた学生を対象とし、課題に対する多角的な視点、解決に向けた多様なアプローチなどについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材として必要な資質を自分なりに理解することが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題をその背景を含めて理解し、正確に記述することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、連携先の意向を踏まえて複数提案できる ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら主体的に取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を正確に他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、学生生活後半の取り組み方を具体的に描くことができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) で活躍する～	授業の進め方についての説明、FALに主体的に取り組むための方法について考える	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】FALへの主体的な取り組み方についてふりかえる
2	連携先について深く知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明、連携先に関する情報収集	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】連携先に関する情報収集を行う 【事後】連携先が抱える課題についてグループで協議する
4	連携先が抱える課題を多角的に整理する	連携先が抱える課題について、社会背景や連携先の実情を踏まえて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】課題に対して大学生ができることを考える
5	課題に対して大学生ができることを複数のアプローチから考える	実践活動 (第6回～第10回) での取り組み目標とアクションプランについて対話、文章化する	【事前】実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】文章化した取り組み目標の確認
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「学生生活後半の取り組み方」として文章化する	【事前】活動内容の整理 【事後】授業での学びを学生生活後半に生かす方法を考える

関連科目	FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習Ⅰ、FAL 演習Ⅲ、FAL 演習Ⅳ
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習Ⅱ	科目名 (英文)	Field-based Active Learning II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	横山 孝文
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2037a0		

授業概要・目的	おもに2年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、専門基礎科目等の履修により社会との関わり方、社会学の基本的な考え方を身につけた学生を対象とし、課題に対する多角的な視点、解決に向けた多様なアプローチなどについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材として必要な資質を自分なりに理解することが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題をその背景を含めて理解し、正確に記述することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、連携先の意向を踏まえて複数提案できる ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら主体的に取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を正確に他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、学生生活後半の取り組み方を具体的に描くことができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。 PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) で活躍する～	授業の進め方についての説明、FALに主体的に取り組むための方法について考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FALへの主体的な取り組み方についてふりかえる
2	連携先について深く知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明、連携先に関する情報収集	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する
4	連携先が抱える課題を多角的に整理する	連携先が抱える課題について、社会背景や連携先の実情を踏まえて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える
5	課題に対して大学生ができることを複数のアプローチから考える	実践活動 (第6回～第10回) での取り組み目標とアクションプランについて対話、文章化する	【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「学生生活後半の取り組み方」として文章化する	【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを学生生活後半に生かす方法を考える

関連科目	FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習Ⅰ、FAL 演習Ⅲ、FAL 演習Ⅳ
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習 II	科目名 (英文)	Field-based Active Learning II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	樫田 美雄
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2037a0		

授業概要・目的	おもに2年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、専門基礎科目等の履修により社会との関わり方、社会学の基本的な考え方を身につけた学生を対象とし、課題に対する多角的な視点、解決に向けた多様なアプローチなどについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材として必要な資質を自分なりに理解することが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題をその背景を含めて理解し、正確に記述することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、連携先の意向を踏まえて複数提案できる ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら主体的に取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を正確に他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、学生生活後半の取り組み方を具体的に描くことができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) で活躍する～	授業の進め方についての説明、FALに主体的に取り組むための方法について考える	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】FALへの主体的な取り組み方についてふりかえる
2	連携先について深く知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明、連携先に関する情報収集	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】連携先に関する情報収集を行う 【事後】連携先が抱える課題についてグループで協議する
4	連携先が抱える課題を多角的に整理する	連携先が抱える課題について、社会背景や連携先の実情を踏まえて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】課題に対して大学生ができることを考える
5	課題に対して大学生ができることを複数のアプローチから考える	実践活動 (第6回～第10回) での取り組み目標とアクションプランについて対話、文章化する	【事前】実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】文章化した取り組み目標の確認
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「学生生活後半の取り組み方」として文章化する	【事前】活動内容の整理 【事後】授業での学びを学生生活後半に生かす方法を考える

関連科目	FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習 I、FAL 演習 III、FAL 演習 IV
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習Ⅱ	科目名 (英文)	Field-based Active Learning II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	後和 美朝
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2037a0		

授業概要・目的	おもに2年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、専門基礎科目等の履修により社会との関わり方、社会学の基本的な考え方を身につけた学生を対象とし、課題に対する多角的な視点、解決に向けた多様なアプローチなどについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材として必要な資質を自分なりに理解することが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題をその背景を含めて理解し、正確に記述することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、連携先の意向を踏まえて複数提案できる ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら主体的に取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を正確に他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、学生生活後半の取り組み方を具体的に描くことができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) で活躍する～	授業の進め方についての説明、FALに主体的に取り組むための方法について考える	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】FALへの主体的な取り組み方についてふりかえる
2	連携先について深く知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明、連携先に関する情報収集	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】連携先に関する情報収集を行う 【事後】連携先が抱える課題についてグループで協議する
4	連携先が抱える課題を多角的に整理する	連携先が抱える課題について、社会背景や連携先の実情を踏まえて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】課題に対して大学生ができることを考える
5	課題に対して大学生ができることを複数のアプローチから考える	実践活動 (第6回～第10回) での取り組み目標とアクションプランについて対話、文章化する	【事前】実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】文章化した取り組み目標の確認
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「学生生活後半の取り組み方」として文章化する	【事前】活動内容の整理 【事後】授業での学びを学生生活後半に生かす方法を考える

関連科目	FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習Ⅰ、FAL 演習Ⅲ、FAL 演習Ⅳ
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習Ⅱ	科目名 (英文)	Field-based Active Learning II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	平山 洋介
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2037a0		

授業概要・目的	おもに2年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、専門基礎科目等の履修により社会との関わり方、社会学の基本的な考え方を身につけた学生を対象とし、課題に対する多角的な視点、解決に向けた多様なアプローチなどについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材として必要な資質を自分なりに理解することが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題をその背景を含めて理解し、正確に記述することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、連携先の意向を踏まえて複数提案できる ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら主体的に取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を正確に他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、学生生活後半の取り組み方を具体的に描くことができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) で活躍する～	授業の進め方についての説明、FALに主体的に取り組むための方法について考える	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】FALへの主体的な取り組み方についてふりかえる
2	連携先について深く知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明、連携先に関する情報収集	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】連携先に関する情報収集を行う 【事後】連携先が抱える課題についてグループで協議する
4	連携先が抱える課題を多角的に整理する	連携先が抱える課題について、社会背景や連携先の実情を踏まえて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】課題に対して大学生ができることを考える
5	課題に対して大学生ができることを複数のアプローチから考える	実践活動 (第6回～第10回) での取り組み目標とアクションプランについて対話、文章化する	【事前】実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】文章化した取り組み目標の確認
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「学生生活後半の取り組み方」として文章化する	【事前】活動内容の整理 【事後】授業での学びを学生生活後半に生かす方法を考える

関連科目	FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習Ⅰ、FAL 演習Ⅲ、FAL 演習Ⅳ
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習Ⅱ	科目名 (英文)	Field-based Active Learning II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	好井 裕明
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2037a0		

授業概要・目的	おもに2年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、専門基礎科目等の履修により社会との関わり方、社会学の基本的な考え方を身につけた学生を対象とし、課題に対する多角的な視点、解決に向けた多様なアプローチなどについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材として必要な資質を自分なりに理解することが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題をその背景を含めて理解し、正確に記述することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、連携先の意向を踏まえて複数提案できる ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら主体的に取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を正確に他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、学生生活後半の取り組み方を具体的に描くことができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) で活躍する～	授業の進め方についての説明、FALに主体的に取り組むための方法について考える	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】FALへの主体的な取り組み方についてふりかえる
2	連携先について深く知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明、連携先に関する情報収集	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】連携先に関する情報収集を行う 【事後】連携先が抱える課題についてグループで協議する
4	連携先が抱える課題を多角的に整理する	連携先が抱える課題について、社会背景や連携先の実情を踏まえて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】課題に対して大学生ができることを考える
5	課題に対して大学生ができることを複数のアプローチから考える	実践活動 (第6回～第10回) での取り組み目標とアクションプランについて対話、文章化する	【事前】実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】文章化した取り組み目標の確認
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「学生生活後半の取り組み方」として文章化する	【事前】活動内容の整理 【事後】授業での学びを学生生活後半に生かす方法を考える

関連科目	FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習Ⅰ、FAL 演習Ⅲ、FAL 演習Ⅳ
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習Ⅱ	科目名 (英文)	Field-based Active Learning II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	須藤 遙子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2037a0		

授業概要・目的	おもに2年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、専門基礎科目等の履修により社会との関わり方、社会学の基本的な考え方を身につけた学生を対象とし、課題に対する多角的な視点、解決に向けた多様なアプローチなどについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材として必要な資質を自分なりに理解することが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題をその背景を含めて理解し、正確に記述することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、連携先の意向を踏まえて複数提案できる ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら主体的に取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を正確に他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、学生生活後半の取り組み方を具体的に描くことができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。 PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) で活躍する～	授業の進め方についての説明、FALに主体的に取り組むための方法について考える	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】FALへの主体的な取り組み方についてふりかえる
2	連携先について深く知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明、連携先に関する情報収集	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】連携先に関する情報収集を行う 【事後】連携先が抱える課題についてグループで協議する
4	連携先が抱える課題を多角的に整理する	連携先が抱える課題について、社会背景や連携先の実情を踏まえて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】課題に対して大学生ができることを考える
5	課題に対して大学生ができることを複数のアプローチから考える	実践活動 (第6回～第10回) での取り組み目標とアクションプランについて対話、文章化する	【事前】実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】文章化した取り組み目標の確認
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「学生生活後半の取り組み方」として文章化する	【事前】活動内容の整理 【事後】授業での学びを学生生活後半に生かす方法を考える

関連科目	FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習Ⅰ、FAL 演習Ⅲ、FAL 演習Ⅳ
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習Ⅱ	科目名 (英文)	Field-based Active Learning II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2037a0		

授業概要・目的	おもに2年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、専門基礎科目等の履修により社会との関わり方、社会学の基本的な考え方を身につけた学生を対象とし、課題に対する多角的な視点、解決に向けた多様なアプローチなどについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材として必要な資質を自分なりに理解することが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題をその背景を含めて理解し、正確に記述することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、連携先の意向を踏まえて複数提案できる ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら主体的に取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を正確に他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、学生生活後半の取り組み方を具体的に描くことができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。 PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) で活躍する～	授業の進め方についての説明、FALに主体的に取り組むための方法について考える	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】FALへの主体的な取り組み方についてふりかえる
2	連携先について深く知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明、連携先に関する情報収集	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】連携先に関する情報収集を行う 【事後】連携先が抱える課題についてグループで協議する
4	連携先が抱える課題を多角的に整理する	連携先が抱える課題について、社会背景や連携先の実情を踏まえて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】課題に対して大学生ができることを考える
5	課題に対して大学生ができることを複数のアプローチから考える	実践活動 (第6回～第10回) での取り組み目標とアクションプランについて対話、文章化する	【事前】実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】文章化した取り組み目標の確認
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「学生生活後半の取り組み方」として文章化する	【事前】活動内容の整理 【事後】授業での学びを学生生活後半に生かす方法を考える

関連科目	FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習Ⅰ、FAL 演習Ⅲ、FAL 演習Ⅳ
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習Ⅱ	科目名 (英文)	Field-based Active Learning II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	落合 知子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2037a0		

授業概要・目的	おもに2年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、専門基礎科目等の履修により社会との関わり方、社会学の基本的な考え方を身につけた学生を対象とし、課題に対する多角的な視点、解決に向けた多様なアプローチなどについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材として必要な資質を自分なりに理解することが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題をその背景を含めて理解し、正確に記述することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、連携先の意向を踏まえて複数提案できる ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら主体的に取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を正確に他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、学生生活後半の取り組み方を具体的に描くことができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。 PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) で活躍する～	授業の進め方についての説明、FALに主体的に取り組むための方法について考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 FALへの主体的な取り組み方についてふりかえる
2	連携先について深く知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明、連携先に関する情報収集	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】 連携先に関する情報収集を行う 【事後】 連携先が抱える課題についてグループで協議する
4	連携先が抱える課題を多角的に整理する	連携先が抱える課題について、社会背景や連携先の実情を踏まえて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】 連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】 課題に対して大学生ができることを考える
5	課題に対して大学生ができることを複数のアプローチから考える	実践活動 (第6回～第10回) での取り組み目標とアクションプランについて対話、文章化する	【事前】 実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】 文章化した取り組み目標の確認
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】 実践活動の準備 【事後】 活動ふりかえりシートの作成
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】 実践活動のふりかえり 【事後】 成果報告会の準備
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「学生生活後半の取り組み方」として文章化する	【事前】 活動内容の整理 【事後】 授業での学びを学生生活後半に生かす方法を考える

関連科目	FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習Ⅰ、FAL 演習Ⅲ、FAL 演習Ⅳ
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習Ⅱ	科目名 (英文)	Field-based Active Learning II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	竹端 佑介
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2037a0		

授業概要・目的	おもに2年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、専門基礎科目等の履修により社会との関わり方、社会学の基本的な考え方を身につけた学生を対象とし、課題に対する多角的な視点、解決に向けた多様なアプローチなどについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材として必要な資質を自分なりに理解することが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題をその背景を含めて理解し、正確に記述することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、連携先の意向を踏まえて複数提案できる ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら主体的に取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を正確に他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、学生生活後半の取り組み方を具体的に描くことができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) で活躍する～	授業の進め方についての説明、FALに主体的に取り組むための方法について考える	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】FALへの主体的な取り組み方についてふりかえる
2	連携先について深く知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明、連携先に関する情報収集	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】連携先に関する情報収集を行う 【事後】連携先が抱える課題についてグループで協議する
4	連携先が抱える課題を多角的に整理する	連携先が抱える課題について、社会背景や連携先の実情を踏まえて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】課題に対して大学生ができることを考える
5	課題に対して大学生ができることを複数のアプローチから考える	実践活動 (第6回～第10回) での取り組み目標とアクションプランについて対話、文章化する	【事前】実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】文章化した取り組み目標の確認
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「学生生活後半の取り組み方」として文章化する	【事前】活動内容の整理 【事後】授業での学びを学生生活後半に生かす方法を考える

関連科目	FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習Ⅰ、FAL 演習Ⅲ、FAL 演習Ⅳ
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習Ⅱ	科目名 (英文)	Field-based Active Learning II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	小池 高史
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2037a0		

授業概要・目的	おもに2年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、専門基礎科目等の履修により社会との関わり方、社会学の基本的な考え方を身につけた学生を対象とし、課題に対する多角的な視点、解決に向けた多様なアプローチなどについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材として必要な資質を自分なりに理解することが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題をその背景を含めて理解し、正確に記述することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、連携先の意向を踏まえて複数提案できる ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら主体的に取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を正確に他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、学生生活後半の取り組み方を具体的に描くことができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。 PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) で活躍する～	授業の進め方についての説明、FALに主体的に取り組むための方法について考える	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】FALへの主体的な取り組み方についてふりかえる
2	連携先について深く知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明、連携先に関する情報収集	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】連携先に関する情報収集を行う 【事後】連携先が抱える課題についてグループで協議する
4	連携先が抱える課題を多角的に整理する	連携先が抱える課題について、社会背景や連携先の実情を踏まえて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】課題に対して大学生ができることを考える
5	課題に対して大学生ができることを複数のアプローチから考える	実践活動 (第6回～第10回) での取り組み目標とアクションプランについて対話、文章化する	【事前】実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】文章化した取り組み目標の確認
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「学生生活後半の取り組み方」として文章化する	【事前】活動内容の整理 【事後】授業での学びを学生生活後半に生かす方法を考える

関連科目	FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習Ⅰ、FAL 演習Ⅲ、FAL 演習Ⅳ
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習Ⅱ	科目名 (英文)	Field-based Active Learning II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	竹中 祐二
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2037a0		

授業概要・目的	おもに2年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、専門基礎科目等の履修により社会との関わり方、社会学の基本的な考え方を身につけた学生を対象とし、課題に対する多角的な視点、解決に向けた多様なアプローチなどについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材として必要な資質を自分なりに理解することが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題をその背景を含めて理解し、正確に記述することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、連携先の意向を踏まえて複数提案できる ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら主体的に取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を正確に他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、学生生活後半の取り組み方を具体的に描くことができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) で活躍する～	授業の進め方についての説明、FALに主体的に取り組むための方法について考える	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】FALへの主体的な取り組み方についてふりかえる
2	連携先について深く知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明、連携先に関する情報収集	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】連携先に関する情報収集を行う 【事後】連携先が抱える課題についてグループで協議する
4	連携先が抱える課題を多角的に整理する	連携先が抱える課題について、社会背景や連携先の実情を踏まえて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】課題に対して大学生ができることを考える
5	課題に対して大学生ができることを複数のアプローチから考える	実践活動 (第6回～第10回) での取り組み目標とアクションプランについて対話、文章化する	【事前】実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】文章化した取り組み目標の確認
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「学生生活後半の取り組み方」として文章化する	【事前】活動内容の整理 【事後】授業での学びを学生生活後半に生かす方法を考える

関連科目	FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習Ⅰ、FAL 演習Ⅲ、FAL 演習Ⅳ
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習Ⅱ	科目名 (英文)	Field-based Active Learning II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	稲生 勝
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2037a0		

授業概要・目的	おもに2年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、専門基礎科目等の履修により社会との関わり方、社会学の基本的な考え方を身につけた学生を対象とし、課題に対する多角的な視点、解決に向けた多様なアプローチなどについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材として必要な資質を自分なりに理解することが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題をその背景を含めて理解し、正確に記述することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、連携先の意向を踏まえて複数提案できる ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら主体的に取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を正確に他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、学生生活後半の取り組み方を具体的に描くことができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) で活躍する～	授業の進め方についての説明、FALに主体的に取り組むための方法について考える	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】FALへの主体的な取り組み方についてふりかえる
2	連携先について深く知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明、連携先に関する情報収集	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】連携先に関する情報収集を行う 【事後】連携先が抱える課題についてグループで協議する
4	連携先が抱える課題を多角的に整理する	連携先が抱える課題について、社会背景や連携先の実情を踏まえて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】課題に対して大学生ができることを考える
5	課題に対して大学生ができることを複数のアプローチから考える	実践活動 (第6回～第10回) での取り組み目標とアクションプランについて対話、文章化する	【事前】実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】文章化した取り組み目標の確認
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「学生生活後半の取り組み方」として文章化する	【事前】活動内容の整理 【事後】授業での学びを学生生活後半に生かす方法を考える

関連科目	FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習Ⅰ、FAL 演習Ⅲ、FAL 演習Ⅳ
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習Ⅱ	科目名 (英文)	Field-based Active Learning II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	松本 恭幸
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2037a0		

授業概要・目的	おもに2年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、専門基礎科目等の履修により社会との関わり方、社会学の基本的な考え方を身につけた学生を対象とし、課題に対する多角的な視点、解決に向けた多様なアプローチなどについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材として必要な資質を自分なりに理解することが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題をその背景を含めて理解し、正確に記述することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、連携先の意向を踏まえて複数提案できる ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら主体的に取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を正確に他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、学生生活後半の取り組み方を具体的に描くことができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。 PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) で活躍する～	授業の進め方についての説明、FALに主体的に取り組むための方法について考える	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】FALへの主体的な取り組み方についてふりかえる
2	連携先について深く知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明、連携先に関する情報収集	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】連携先に関する情報収集を行う 【事後】連携先が抱える課題についてグループで協議する
4	連携先が抱える課題を多角的に整理する	連携先が抱える課題について、社会背景や連携先の実情を踏まえて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】課題に対して大学生ができることを考える
5	課題に対して大学生ができることを複数のアプローチから考える	実践活動 (第6回～第10回) での取り組み目標とアクションプランについて対話、文章化する	【事前】実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】文章化した取り組み目標の確認
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「学生生活後半の取り組み方」として文章化する	【事前】活動内容の整理 【事後】授業での学びを学生生活後半に生かす方法を考える

関連科目	FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習Ⅰ、FAL 演習Ⅲ、FAL 演習Ⅳ
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習Ⅱ	科目名 (英文)	Field-based Active Learning II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	中澤 芽衣
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2037a0		

授業概要・目的	おもに2年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、専門基礎科目等の履修により社会との関わり方、社会学の基本的な考え方を身につけた学生を対象とし、課題に対する多角的な視点、解決に向けた多様なアプローチなどについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材として必要な資質を自分なりに理解することが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題をその背景を含めて理解し、正確に記述することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、連携先の意向を踏まえて複数提案できる ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら主体的に取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を正確に他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、学生生活後半の取り組み方を具体的に描くことができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) で活躍する～	授業の進め方についての説明、FALに主体的に取り組むための方法について考える	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】FALへの主体的な取り組み方についてふりかえる
2	連携先について深く知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明、連携先に関する情報収集	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】連携先に関する情報収集を行う 【事後】連携先が抱える課題についてグループで協議する
4	連携先が抱える課題を多角的に整理する	連携先が抱える課題について、社会背景や連携先の実情を踏まえて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】課題に対して大学生ができることを考える
5	課題に対して大学生ができることを複数のアプローチから考える	実践活動 (第6回～第10回) での取り組み目標とアクションプランについて対話、文章化する	【事前】実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】文章化した取り組み目標の確認
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「学生生活後半の取り組み方」として文章化する	【事前】活動内容の整理 【事後】授業での学びを学生生活後半に生かす方法を考える

関連科目	FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習Ⅰ、FAL 演習Ⅲ、FAL 演習Ⅳ
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習Ⅱ	科目名 (英文)	Field-based Active Learning II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤井 和佐
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2037a0		

授業概要・目的	おもに2年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、専門基礎科目等の履修により社会との関わり方、社会学の基本的な考え方を身につけた学生を対象とし、課題に対する多角的な視点、解決に向けた多様なアプローチなどについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材として必要な資質を自分なりに理解することが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題をその背景を含めて理解し、正確に記述することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、連携先の意向を踏まえて複数提案できる ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら主体的に取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を正確に他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、学生生活後半の取り組み方を具体的に描くことができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) で活躍する～	授業の進め方についての説明、FALに主体的に取り組むための方法について考える	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】FALへの主体的な取り組み方についてふりかえる
2	連携先について深く知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明、連携先に関する情報収集	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】連携先に関する情報収集を行う 【事後】連携先が抱える課題についてグループで協議する
4	連携先が抱える課題を多角的に整理する	連携先が抱える課題について、社会背景や連携先の実情を踏まえて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】課題に対して大学生ができることを考える
5	課題に対して大学生ができることを複数のアプローチから考える	実践活動 (第6回～第10回) での取り組み目標とアクションプランについて対話、文章化する	【事前】実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】文章化した取り組み目標の確認
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「学生生活後半の取り組み方」として文章化する	【事前】活動内容の整理 【事後】授業での学びを学生生活後半に生かす方法を考える

関連科目	FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習Ⅰ、FAL 演習Ⅲ、FAL 演習Ⅳ
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習Ⅱ	科目名 (英文)	Field-based Active Learning II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	江口 怜
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2037a0		

授業概要・目的	おもに2年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、専門基礎科目等の履修により社会との関わり方、社会学の基本的な考え方を身につけた学生を対象とし、課題に対する多角的な視点、解決に向けた多様なアプローチなどについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材として必要な資質を自分なりに理解することが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題をその背景を含めて理解し、正確に記述することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、連携先の意向を踏まえて複数提案できる ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら主体的に取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を正確に他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、学生生活後半の取り組み方を具体的に描くことができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。 PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) で活躍する～	授業の進め方についての説明、FALに主体的に取り組むための方法について考える	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】FALへの主体的な取り組み方についてふりかえる
2	連携先について深く知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明、連携先に関する情報収集	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】連携先に関する情報収集を行う 【事後】連携先が抱える課題についてグループで協議する
4	連携先が抱える課題を多角的に整理する	連携先が抱える課題について、社会背景や連携先の実情を踏まえて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】課題に対して大学生ができることを考える
5	課題に対して大学生ができることを複数のアプローチから考える	実践活動 (第6回～第10回) での取り組み目標とアクションプランについて対話、文章化する	【事前】実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】文章化した取り組み目標の確認
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「学生生活後半の取り組み方」として文章化する	【事前】活動内容の整理 【事後】授業での学びを学生生活後半に生かす方法を考える

関連科目	FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習Ⅰ、FAL 演習Ⅲ、FAL 演習Ⅳ
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習Ⅱ	科目名 (英文)	Field-based Active Learning II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2037a0		

授業概要・目的	おもに2年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、専門基礎科目等の履修により社会との関わり方、社会学の基本的な考え方を身につけた学生を対象とし、課題に対する多角的な視点、解決に向けた多様なアプローチなどについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材として必要な資質を自分なりに理解することが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題をその背景を含めて理解し、正確に記述することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、連携先の意向を踏まえて複数提案できる ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら主体的に取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を正確に他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、学生生活後半の取り組み方を具体的に描くことができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。 PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) で活躍する～	授業の進め方についての説明、FALに主体的に取り組むための方法について考える	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】FALへの主体的な取り組み方についてふりかえる
2	連携先について深く知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明、連携先に関する情報収集	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】連携先に関する情報収集を行う 【事後】連携先が抱える課題についてグループで協議する
4	連携先が抱える課題を多角的に整理する	連携先が抱える課題について、社会背景や連携先の実情を踏まえて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】課題に対して大学生ができることを考える
5	課題に対して大学生ができることを複数のアプローチから考える	実践活動 (第6回～第10回) での取り組み目標とアクションプランについて対話、文章化する	【事前】実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】文章化した取り組み目標の確認
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「学生生活後半の取り組み方」として文章化する	【事前】活動内容の整理 【事後】授業での学びを学生生活後半に生かす方法を考える

関連科目	FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習Ⅰ、FAL 演習Ⅲ、FAL 演習Ⅳ
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習Ⅱ	科目名 (英文)	Field-based Active Learning II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	山本 圭三
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2037a0		

授業概要・目的	おもに2年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、専門基礎科目等の履修により社会との関わり方、社会学の基本的な考え方を身につけた学生を対象とし、課題に対する多角的な視点、解決に向けた多様なアプローチなどについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材として必要な資質を自分なりに理解することが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題をその背景を含めて理解し、正確に記述することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、連携先の意向を踏まえて複数提案できる ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら主体的に取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を正確に他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、学生生活後半の取り組み方を具体的に描くことができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。 PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) で活躍する～	授業の進め方についての説明、FALに主体的に取り組むための方法について考える	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】FALへの主体的な取り組み方についてふりかえる
2	連携先について深く知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明、連携先に関する情報収集	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】連携先に関する情報収集を行う 【事後】連携先が抱える課題についてグループで協議する
4	連携先が抱える課題を多角的に整理する	連携先が抱える課題について、社会背景や連携先の実情を踏まえて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】課題に対して大学生ができることを考える
5	課題に対して大学生ができることを複数のアプローチから考える	実践活動 (第6回～第10回) での取り組み目標とアクションプランについて対話、文章化する	【事前】実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】文章化した取り組み目標の確認
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「学生生活後半の取り組み方」として文章化する	【事前】活動内容の整理 【事後】授業での学びを学生生活後半に生かす方法を考える

関連科目	FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習Ⅰ、FAL 演習Ⅲ、FAL 演習Ⅳ
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習Ⅱ	科目名 (英文)	Field-based Active Learning II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	岩井 八郎
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2037a0		

授業概要・目的	おもに2年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、専門基礎科目等の履修により社会との関わり方、社会学の基本的な考え方を身につけた学生を対象とし、課題に対する多角的な視点、解決に向けた多様なアプローチなどについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材として必要な資質を自分なりに理解することが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題をその背景を含めて理解し、正確に記述することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、連携先の意向を踏まえて複数提案できる ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら主体的に取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を正確に他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、学生生活後半の取り組み方を具体的に描くことができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) で活躍する～	授業の進め方についての説明、FALに主体的に取り組むための方法について考える	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】FALへの主体的な取り組み方についてふりかえる
2	連携先について深く知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明、連携先に関する情報収集	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】連携先に関する情報収集を行う 【事後】連携先が抱える課題についてグループで協議する
4	連携先が抱える課題を多角的に整理する	連携先が抱える課題について、社会背景や連携先の実情を踏まえて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】課題に対して大学生ができることを考える
5	課題に対して大学生ができることを複数のアプローチから考える	実践活動 (第6回～第10回) での取り組み目標とアクションプランについて対話、文章化する	【事前】実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】文章化した取り組み目標の確認
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「学生生活後半の取り組み方」として文章化する	【事前】活動内容の整理 【事後】授業での学びを学生生活後半に生かす方法を考える

関連科目	FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習Ⅰ、FAL 演習Ⅲ、FAL 演習Ⅳ
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	FAL 演習Ⅱ	科目名 (英文)	Field-based Active Learning II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	加戸 友佳子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2037a0		

授業概要・目的	おもに2年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人等と協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくにこの授業は、専門基礎科目等の履修により社会との関わり方、社会学の基本的な考え方を身につけた学生を対象とし、課題に対する多角的な視点、解決に向けた多様なアプローチなどについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材として必要な資質を自分なりに理解することが期待される。
到達目標	①連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) が抱える課題をその背景を含めて理解し、正確に記述することができる ②連携先が抱える課題の解決のために大学生にできることについて、連携先の意向を踏まえて複数提案できる ③課題解決に向けた活動に、連携先を含めた他者と協働しながら主体的に取り組むことができる ④活動の概要と成果、課題について整理し、その内容を正確に他者に伝えることができる ⑤活動を通じた学びについて内省し、学生生活後半の取り組み方を具体的に描くことができる
授業方法と留意点	それぞれのプロジェクト担当教員の指導のもと、連携先 (企業、地方自治体、公益法人等) と連携しながら実施する。 PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、学外での実践活動、対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどを積極的に取り入れた授業を実施する。受講生は、それらに主体的に参画することを求める。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に実施する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ～フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) で活躍する～	授業の進め方についての説明、FALに主体的に取り組むための方法について考える	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】FALへの主体的な取り組み方についてふりかえる
2	連携先について深く知る	各プロジェクトの連携先、実践活動の内容、求められる資質、身につく力などについての説明、連携先に関する情報収集	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】参加したいプロジェクトと取り組んでみたいことを考える
3	チームビルディング	プロジェクトごとに参加メンバーが集まり、アイスブレイク、自己紹介とともにプロジェクトの進め方について協議する	【事前】連携先に関する情報収集を行う 【事後】連携先が抱える課題についてグループで協議する
4	連携先が抱える課題を多角的に整理する	連携先が抱える課題について、社会背景や連携先の実情を踏まえて整理し、プロジェクトメンバーで共有する	【事前】連携先が抱える課題に関する資料の作成 【事後】課題に対して大学生ができることを考える
5	課題に対して大学生ができることを複数のアプローチから考える	実践活動 (第6回～第10回) での取り組み目標とアクションプランについて対話、文章化する	【事前】実践活動で取り組む内容について検討する 【事後】文章化した取り組み目標の確認
6	連携先との協働によるグループワーク①	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
7	連携先との協働によるグループワーク②	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
8	連携先との協働によるグループワーク③	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
9	連携先との協働によるグループワーク④	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
10	連携先との協働によるグループワーク⑤	学内外のフィールドを活用し、グループでインタビュー、アンケート、イベントの企画立案などの実践に取り組む	【事前】実践活動の準備 【事後】活動ふりかえりシートの作成
11	実践活動の概要と成果、課題を整理する①	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
12	実践活動の概要と成果、課題を整理する②	プロジェクト内で実践活動をふりかえり、報告用資料を作成する	【事前】実践活動のふりかえり 【事後】成果報告会の準備
13	成果報告会①	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	成果報告会②	各プロジェクトの実践活動について、概要と成果、課題を整理し、報告する	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
15	授業全体のふりかえり	授業全体を通じての学びを内省するとともに、「学生生活後半の取り組み方」として文章化する	【事前】活動内容の整理 【事後】授業での学びを学生生活後半に生かす方法を考える

関連科目	FAL 入門、FAL 実践、FAL 演習Ⅰ、FAL 演習Ⅲ、FAL 演習Ⅳ
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	個人としての成果物（活動記録シート、活動ふりかえりシート、活動への貢献度合い、など） 50% グループとして成果物（中間報告会、成果報告会、グループとしての取り組み、など） 50% 上記の基準を踏まえ、60%で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3号館3階・加戸・中澤研究室
備考	本講義では、連携先との協働によるグループワークの準備およびふりかえり、学内でのミーティング、報告会の準備などの事前事後学習に合計60時間取り組んでいただきます。

科目名	社会構造変動史	科目名 (英文)	History of Social Structural Change
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浅野 慎一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	GDG2040a0		

授業概要・目的	現代の人々が直面するさまざまな社会的諸課題、および、それを克服し得る共生社会の創造の可能性を、社会変動論の視座から根底的 (radical) に考察する。教育、家族、地域社会、産業・労働、性、階級・格差、自然・災害、世界システム、戦争、移民、民衆、AI、遺伝子操作など、現代社会の多様な領域で生起する諸課題の史的変遷、および、それらを貫く内在論理を考察する。歴史をふまえ、現代社会における解決課題を再考し、未来社会の創造の可能性を探る。
到達目標	①現代社会の諸課題とその解決の方途を、歴史的な社会変動に位置づけて理解できる。 ②人類社会の歴史の変遷・変動を生み出した主体的な潜勢力について理解することができる。 ③人類が直面する多様な社会的諸課題とその歴史的背景に関する知識を身につけることができる。 ④これらの知識を、今後の社会の構造やその主体的再編について考えるために応用できるようになる。
授業方法と留意点	授業の一部は教員による講義の形式とするが、受講生によるプレゼンテーション、ディスカッションが授業の中心となる。パワーポイント、配布資料を活用する。教科書は、浅野慎一『シン・日本外史』昭和堂を使用する。
科目学習の効果 (資格)	本講は、現代社会の多種多様な諸課題の歴史的形成過程、および、それをふまえた克服の道筋について考察する。したがって、他のほとんどの授業科目の学修に際しても、それらを通底する社会変動過程を、より深く理解できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	課題と方法	ガイダンスと授業計画・授業方法の説明。	事前：シラバスの理解 事後：授業内で提示する課題への回答
2	教育	学歴社会、不登校・いじめ、管理主義教育 (ブラック校則など)、教育格差 (親ガチャなど) といった教育に関する諸課題とその克服の展望を、社会変動論の視点から考察する。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答
3	家族	家族解体、虐待、非婚・少子化といった家族に関する諸課題とその克服の展望を、社会変動論の観点から考察する。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答
4	地域社会	地域間格差、過疎過密 (限界集落・地方消滅など)、地域コミュニティの崩壊といった地域社会に関する諸課題とその克服の展望を、社会変動論の観点から考察する。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答
5	産業・労働	「失われた 30 年」の経済衰退、非正規雇用・ワーキングプア、劣悪な労働環境 (ブラック企業) といった産業・労働に関する諸課題とその克服の展望を、社会変動論の視点から考察する。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答
6	性	男女差別に加え、LGBTQ 差別、さらに生殖としての性・少子化など、性に関する諸課題とその克服の展望を、社会変動論の視点から考察する。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答
7	階級・格差	絶対的貧困を含む格差、階級差別、貧困の代代的継承 (親ガチャ) など、階級・格差に関する諸課題とその克服の展望を、社会変動論の視点から考察する。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答
8	自然・災害	グローバルな気候の温暖化・寒冷化、巨大震災・津波、火山噴火、感染症拡大など、自然環境に関する諸課題とその克服の展望を、社会変動論の視点から考察する。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答
9	世界システム	グローバルな世界における格差拡大、環境破壊、地域・宗教紛争、周期的恐慌、覇権国家など、世界システムに関する諸課題とその克服の展望を、社会変動論の視点から考察する。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答
10	戦争	今も続く各地の戦争、さらに今後の東アジアでの戦争発生リスクとそこで日本が置かれた位置など、戦争に関する諸課題とその克服の展望を、社会変動論の視点から考察する。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答
11	移民	移民問題は、欧米諸国で最も先鋭的な政治問題であり、周辺諸国の民族解放の意義が問われる課題でもある。移民に関する諸課題とその克服の展望を、社会変動論の視点から考察する。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答
12	民衆	「国民」に回収されない「民衆 (peoples / multitude)」の動向、歴史的役割など、民衆に関する諸課題とその克服の展望を、社会変動論の視点から考察する。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答
13	AI	ビッグデータ・AI のアルゴリズム的合理性に基づく社会・人間の制御・支配の意義とリスクについて、そこでの諸課題とその克服の展望を、社会変動論の視点から考察する。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答
14	ポスト・ヒューマン	遺伝子操作・サイボーグ技術によるポスト・ヒューマン創造の意義とリスクにつ	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答

			いて、そこでの諸問題とその克服の展望を、社会変動論の視点から考察する。	
	15	君たちは、どう生きるか	多様な社会諸課題の社会変動論的考察をふまえ、未来社会についてディスカッションする。	事前：提示課題への回答 事後：授業内で提示する課題への回答
関連科目	日本社会変動史			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	シン・日本外史	浅野慎一	昭和堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	サビエンス全史	ユヴァル・ノア・ハラリ	河出書房新社
	2	脱=社会科学	イマニュエル・ウォーラーステイン	藤原書店
	3	人間的自然と社会環境	浅野慎一	大学教育出版
評価方法 (基準)	毎回の提出物(事前・事後課題)(60%)。アクティブラーニングへの主体的参加貢献(40%)。			
学生への メッセージ	本講は歴史(日本史・世界史)的要素を含みますが、受講に際して、高校までの日本史・世界史の知識は必要ありません。教科書・授業で、基礎から講義します。また本講は、歴史を「暗記物」ではなく、現代社会の諸課題の成り立ちと展望を理解するための「知」として学びます。			
担当者の 研究室等	3号館3階・浅野研究室			
備考	60時間程度の事前・事後学習をすること			

科目名	日常生活世界論	科目名 (英文)	Sociology of Everyday Life World
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	樫田 美雄, 好井 裕明
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	GDC2041a0		

授業概要・目的
現代社会の諸問題や文化などを考えていくうえで、社会学が理解しておくべき重要な世界がある。それが日常生活世界である。普段私たちがほぼ意識することなくあたりまえに暮らしている日常のなかにこそ、社会や他者との繋がり、文化などさまざまなテーマを考えることができるカギが満ちている。日常生活世界をどのように捉え、読み解くことができるだろうか。本授業では「常民」「世相」「民衆史」など日本民俗学の知見や「考現学」という営みをもつ意味などを紹介したうえで、A. シュッツの日常生活世界論を説明し、現代社会学の最先端であるエスノメソドロジーとは何かを説明し、会話分析、相互行為分析、概念分析など最新の成果を分かりやすく説明する。受講生各自の問題関心をもとにフィールドワークを実践するうえで、必須の質的探究方法とその背後にある世界を理解することを目的とする。

- 到達目標**
- ①現代社会学の最先端であるエスノメソドロジー・会話分析の理論や方法を理解する。
 - ②その理論や方法を用いて、日常生活の諸現象を解説できるようになる。
 - ③日常生活で人々がさまざまな方法を用いて現実をつくりあげていることを理解する。
 - ④質的に社会を研究する基本とは何かを理解する。

授業方法と留意点
前半は、講義を中心として授業を進める。適宜、必要な映像を視聴し解説する。後半は、日常生活研究を2種類に分けて、体験学習を交えながら、エスノメソドロジー・会話分析の学的発見の追体験をしてもらう。すなわち、後半の前半では、会話や出会いという「普通の日常生活研究」から、会話における「順番取得システム」や「視線による聞き手性の表示」のような、普遍性のある秩序を学んでもらう。後半の後半では、救急電話場面やインフォームド・コンセントのような「制度的場面における日常生活研究」から、専門分化した制度的場面ごとに相互行為の違ったパターンがあることを学んでもらう。授業内での「体験」がのちのちの考察の基盤になるので、没入したといえるほどの「集中」が必要である。したがって、(少なくとも8回から15回までは)授業中のスマホ利用を禁ずる。スマホを鞆にしまっておけない場合は、スマホの電源を落としてあることが受講態度として要求される。この要請に違背した場合は、警告なしに教室から出て行って頂く。(このスマホに関する要請は、授業時に上映されるデータがプライバシー保全が必要なものでもあることから要請される要請である。なお、既死者の発話等のハードな録音録画を上映する場合は、心理的に受容が困難なことが予想されるので、前週に告知する。この場合、当該授業日の前日正午までに電子メールで「受容困難な為欠席する」旨の連絡があった学生には、代替課題を課すので、対応して、チームス上に対応結果を「特別レポート」の形で提出すること。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	「常民」「世相」という視点	柳田國男など日本民俗学から「常民」概念の意味や意義、「世相」という発想の革新性を説明する。	事前：民俗学とは何かを調べておく（2時間） 事後：柳田國男『明治大正史・世相篇』を読む（2時間）
2	「民衆史」という視点	色川大吉が提唱した民衆史の内容を『昭和史世相篇』を中心に説明する。	事前：前回の講義内容を確認しておく（2時間） 事後：色川大吉『昭和史世相篇』を読む（2時間）
3	『忘れられた日本人』を読む	宮本常一の傑作を解説し、「名もなき人々」の暮らしや生きられた現実を調べることの現在性を説明する。	事前：前回の講義内容を確認しておく（2時間） 事後：宮本常一『忘れられた日本人』を読む（2時間）
4	「考現学」の先端性	今和次郎が提唱した「考現学」を紹介し、現在のマーケティングリサーチなどに繋がる革新性を説明する。	事前：前回の講義内容を確認しておく（2時間） 事後：今和次郎『考現学入門』を読む（2時間）
5	シュッツの日常生活世界論・多元的現実論	現象学的社会学の基本を語るとともに、日常生活世界の構成を考えたシュッツの理論を紹介する。	事前：教科書(1)の第1章を読んでおく（2時間） 事後：日常生活世界論を復習しておく（2時間）
6	エスノメソドロジーとは何か	H. ガーフィンケルが構想したエスノメソドロジーとは何か。その基本をわかりやすく提示する。	事前：教科書(1)の第3章を読んでおく（2時間） 事後：エスノメソドロジーの基本を復習しておく（2時間）
7	初期エスノメソドロジーの衝撃力	初期エスノメソドロジーのエスノグラフィックなエスノメソドロジー研究の興味深い事例を紹介し意義を説明する。	事前：教科書(1)の第2章を讀みおく（2時間） 事後：初期エスノメソドロジー事例研究を復習しておく（2時間）
8	日常生活のなかの秩序1	なぜ、落語は一人の演者で複数人の登場人物間の話題を語るができるのか。なぜ、漫才やコントは、自由自在に場面設定できるのか。アンジャッシュ等のネタから検討する。	事前：図書館で落語や漫才のDVDを見ておく（2時間） 事後：日本EMCA研究会のWEBサイトを訪問して逍遙する（2時間）
9	日常生活のなかの秩序2	日常生活のなかの秩序としての、「隣接対」と「優先構造」。市井の人々同士が、相互に社会を分析しあっている様子そのものの学問化を試みる。	事前：図書館で落語や漫才のDVDを見ておく（2時間） 事後：参考文献1で「隣接対」と「優先構造」の部分を読んでおく。（2時間）
10	日常生活のなかの秩序3	「座席取りの社会学」（江原由美子）をもとに、身近な「秩序」を観察してみよう。この観察こそは、「自然的態度のエポケー」（シュッツ）を明らかにするモノなのである。	事前：参考文献1でエスノメソドロジーとシュッツの関係を読んでおく。（2時間） 事後：「座席取りの社会学」の全部を読む（2時間）
11	制度的場面の中の秩序1	「ラジオスタジオ内コミュニケーション」や「教室内コミュニケーション」をもとに、「制度的場面の秩序」を理解しよう。	事前：参考文献1で教育のエスノメソドロジー関連部分を読んでおく。（2時間） 事後：『教育社会学研究』内のエスノメソドロジー論文をいくつか読んでおく。（2時間）
12	制度的場面の中の秩序2	「インフォームド・コンセント（医療的場面）」や「施設内コミュニケーション」にかかわる「制度的場面の秩序」を考えよう。	事前：参考文献2で医療と福祉のエスノメソドロジー関連部分を読んでおく（2時間） 事後：『保健医療社会学論集』内のエスノメソドロジー論文をいくつか読んでおく。（2時間）
13	制度的場面の中の秩序3	「障害者スポーツ」という「制度的場面の秩序」を精密に追いかけることで、「<非障害者スポーツ>としての障害者スポーツ」という発見が可能となることを	事前：障害者スポーツの動画をYouTubeで見ておく。（2時間） 事後：『スポーツ社会学研究』内のエスノメソドロジー論文をいくつか読んでおく。（2時間）

			確認しよう。	
	14	観察事例の持ち寄り検討会	生活世界に探究の眼を向けたら、どんな発見ができるだろうか。実践してみよう。「考現学」系でも「ガーフィンケリング」系でもいずれでも OK。データを持ち寄ってグループ・ワークをしよう。	事前：自力で街歩きをして、自由にメモをとる。(2時間) 事後：レポート構想発表会向けの準備をする(2時間)
	15	観察事例の持ち寄り検討会から、レポート構想発表会へ	まとめ。我々の日常生活は、フッサールの日常的なエポケー(判断停止)ではなく、シュツ的なエポケー(懐疑の停止)でできあがっている。その結果、「見られているが気づかれていない」ことであふれている。この「日常性」を確認していく社会学こそが日常性の社会学なのだ。君の日常の中のこの「日常性」の事例を探して「レポート」を作成しよう。(なお、大学のレポートは知的生産を志向したものであることを理解して書こう)	事前：街歩き結果をレポートにまとめる。(2時間) 事後：レポートの準備をこれまでの授業メモをもとに行う。(2時間)
関連科目	社会学史, 文化社会学, ビデオ・エスノグラフィー			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	違和感から始まる社会学	好井裕明	光文社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	エスノメソドロジー	前田・水川・岡田編	新曜社
	2	エスノメソドロジーを学ぶ人のために	好井裕明・串田秀也編	世界思想社
	3	エスノメソドロジー・会話分析ハンドブック	山崎敬一ほか編	新曜社
評価方法(基準)	前半7回終了後の課題レポート(50%), 後半8回終了後の課題レポート(50%)			
学生へのメッセージ	日常生活世界論を学ぶことは、現代社会学を学ぶことである。なぜなら、日常生活を(も)扱うことが、現代の社会学の特質であり、かつ、それは、哲学や言語学との交流の中で起きてきたことだからだ。心して学ぶべし。学べば、世界が違って見えてくる!			
担当者の研究室等	3号館3階の 第7研究室(好井 裕明) と 第8研究室(樫田 美雄)			
備考	15回のすべての授業分を合算して、60時間程度の事前・事後学習をすること。			

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浅野 慎一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。ここでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前：シラバスの理解 事後：授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー：図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色：セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前：資料を読んでおく 事後：自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前：シラバスの理解 事後：授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前：テキストを読んでおく 事後：ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前：テキストを読んでおく 事後：必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー：図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前：テキストを読んでおく 事後：必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前：テキストを読んでおく 事後：自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前：テキストを読んでおく 事後：内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色：セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前：資料を読んでおく 事後：自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前：シラバスの理解 事後：授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前：テキストを読んでおく 事後：ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前：テキストを読んでおく 事後：必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー：図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前：テキストを読んでおく 事後：必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前：テキストを読んでおく 事後：自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前：テキストを読んでおく 事後：内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色：セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前：資料を読んでおく 事後：自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考	事前事後学習に要する時間は計 60 時間程度。																																																																		

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	稲生 勝
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。ここでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考	事前事後学習に要する時間は計 60 時間程度。																																																																		

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岩井 八郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。ここでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考	事前事後学習に要する時間は計 60 時間程度。																																																																		

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	樫田 美雄
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。ここでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考	事前事後学習に要する時間は計 60 時間程度。																																																																		

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後和 美朝
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。ここでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前：シラバスの理解 事後：授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー：図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色：セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前：資料を読んでおく 事後：自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前：シラバスの理解 事後：授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前：テキストを読んでおく 事後：ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前：テキストを読んでおく 事後：必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー：図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前：テキストを読んでおく 事後：必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前：テキストを読んでおく 事後：自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前：テキストを読んでおく 事後：内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色：セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前：資料を読んでおく 事後：自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前：シラバスの理解 事後：授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前：テキストを読んでおく 事後：ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前：テキストを読んでおく 事後：必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー：図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前：テキストを読んでおく 事後：必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前：テキストを読んでおく 事後：自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前：テキストを読んでおく 事後：資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前：テキストを読んでおく 事後：内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色：セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前：資料を読んでおく 事後：内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前：資料を読んでおく 事後：自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考	事前事後学習に要する時間は計 60 時間程度。																																																																		

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	須藤 遙子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。ここでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考	事前事後学習に要する時間は計 60 時間程度。																																																																		

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。ここでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考	事前事後学習に要する時間は計 60 時間程度。																																																																		

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	平山 洋介
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。ここでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考	事前事後学習に要する時間は計 60 時間程度。																																																																		

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤井 和佐
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。ここでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考	事前事後学習に要する時間は計 60 時間程度。																																																																		

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	堀田 裕子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。ここでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考	事前事後学習に要する時間は計 60 時間程度。																																																																		

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	好井 裕明
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。ここでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考	事前事後学習に要する時間は計 60 時間程度。																																																																		

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	落合 知子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。ここでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考	事前事後学習に要する時間は計 60 時間程度。																																																																		

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小池 高史
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。ここでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考	事前事後学習に要する時間は計 60 時間程度。																																																																		

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	竹中 祐二
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。ここでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考	事前事後学習に要する時間は計 60 時間程度。																																																																		

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	竹端 佑介
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。ここでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考	事前事後学習に要する時間は計 60 時間程度。																																																																		

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松本 恭幸
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。ここでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考	事前事後学習に要する時間は計 60 時間程度。																																																																		

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 圭三
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。ここでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考	事前事後学習に要する時間は計 60 時間程度。																																																																		

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。ここでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考	事前事後学習に要する時間は計 60 時間程度。																																																																		

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	江口 怜
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。ここでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考	事前事後学習に要する時間は計 60 時間程度。																																																																		

科目名	初年次ゼミ	科目名 (英文)	First Year Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷 めぐみ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1066a0		

授業概要・目的	<p>「初年次ゼミ」は、大学での学びのための導入、ガイダンスとして位置づけられる科目である。ここでは (A) 大学や学部を知ること、(B) 学びのためのツールを知ること、(C) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキルを身につけることなどを目標として、担当者から種々の解説等がなされる。また、学生自身が学びの世界における「現在地」を把握し、今後の学習の方向性を考えていけるようになるための話題も提供される。また、後半には現代社会学部の学生として特に必要な事項 (ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの技法など) についても扱われる。これらを通して受講生が、「生徒」ではなく学びを自ら進められる「学生」として、大学での学習を軌道に乗せられるようにすることが本講義のねらいである。</p>																																																																		
到達目標	<p>①大学での学習を進めるにあたって必要となる基礎知識・スキルを身につけている。 ②連絡・学習支援ツール、オンライン支援ツールが使いこなせる。 ③自身の大学の学びの方針や目標について説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 学びのための準備 1</td> <td>授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方</td> <td>事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学びのための準備 2</td> <td>学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びのための準備 3</td> <td>授業の受け方、ノートのとり方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学びのための準備 4</td> <td>レポートの書き方、文献の使い方</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学生生活のために 1</td> <td>大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学生生活のために 2</td> <td>学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生生活のために 3</td> <td>図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学生生活のために 4</td> <td>大学生活・大学生の守るべきルール、環境</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分の現在地を知る</td> <td>摂南大学アセスメント等</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での学びに向けて 1</td> <td>学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での学びに向けて 2</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での学びに向けて 3</td> <td>ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学部での学びに向けて 4</td> <td>さまざまな「データ」に触れる</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学部での学びに向けて 5</td> <td>データを色々なことに活用する</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学部での学びに向けて 6</td> <td>今後の学びの方向性</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解	2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作	3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する	7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる	8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる	9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり	10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり	15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 学びのための準備 1	授業の進め方、自己紹介、連絡ツール (Portal、メール) の使い方	事前: シラバスの理解 事後: 授業で扱った内容の理解																																																																
2	学びのための準備 2	学習支援ツール (WebFolder、Moodle、Teams) の使用方法	事前: テキストを読んでおく 事後: ツールの操作																																																																
3	学びのための準備 3	授業の受け方、ノートのとり方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
4	学びのための準備 4	レポートの書き方、文献の使い方	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
5	学生生活のために 1	大学・学部について、DP、学内ツアー (学部事務室、教務、学生課)	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
6	学生生活のために 2	学内ツアー: 図書館、就職部、ラーニングセンター等	事前: テキストを読んでおく 事後: 必要に応じて各部署を利用する																																																																
7	学生生活のために 3	図書館や web を使用した文献収集の方法、文献の活用と注意点	事前: テキストを読んでおく 事後: 自分自身でも利用・操作してみる																																																																
8	学生生活のために 4	大学生活・大学生の守るべきルール、環境	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料などを参照して内容を定着させる																																																																
9	自分の現在地を知る	摂南大学アセスメント等	事前: テキストを読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
10	学部での学びに向けて 1	学部の学びの特色: セルフメイド・コア・カリキュラム、FAL	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
11	学部での学びに向けて 2	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
12	学部での学びに向けて 3	ディスカッションとプレゼンテーションに慣れる 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
13	学部での学びに向けて 4	さまざまな「データ」に触れる	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
14	学部での学びに向けて 5	データを色々なことに活用する	事前: 資料を読んでおく 事後: 内容のふりかえり																																																																
15	学部での学びに向けて 6	今後の学びの方向性	事前: 資料を読んでおく 事後: 自分の学びの方向性について考える																																																																
関連科目	初年次演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	毎回の準備状況、授業への参加状況 (課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	3号館3階、現代社会学部各担当者の研究室																																																																		
備考	事前事後学習に要する時間は計 60 時間程度。																																																																		

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浅野 慎一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	<p>「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである (セルフ・メイド・コアカリキュラムの作成)。</p> <p>こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。</p>																																																																		
到達目標	<p>①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。</p> <p>②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>学修と研究、将来のために1</td> <td>研究を実施する際の注意点、不正防止のために心得おくべき研究倫理 (メディア・リテラシーを含む)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学修と研究、将来のために2</td> <td>SmartSPI、就職活動について</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学部での教育1</td> <td>学部教員の研究を知る1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学部での教育2</td> <td>学部教員の研究を知る2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学部での教育3</td> <td>学部教員の研究を知る3</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学部での教育4</td> <td>学部教員の研究を知る4</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学部での教育5</td> <td>学部教員の研究を知る5</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学部での教育6</td> <td>学部教員の研究を知る6</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>学部での教育7</td> <td>学部教員の研究を知る7</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での教育8</td> <td>学部教員の研究を知る8</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での教育9</td> <td>学部教員の研究を知る9</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での教育10</td> <td>学部教員の研究を知る10</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>自分の関心事1</td> <td>自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション1</td> <td>事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>自分の関心事2</td> <td>自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション2</td> <td>事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>自分の関心事3</td> <td>自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション3</td> <td>事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	学修と研究、将来のために1	研究を実施する際の注意点、不正防止のために心得おくべき研究倫理 (メディア・リテラシーを含む)	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる	2	学修と研究、将来のために2	SmartSPI、就職活動について	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる	3	学部での教育1	学部教員の研究を知る1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	4	学部での教育2	学部教員の研究を知る2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	5	学部での教育3	学部教員の研究を知る3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	6	学部での教育4	学部教員の研究を知る4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	7	学部での教育5	学部教員の研究を知る5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	8	学部での教育6	学部教員の研究を知る6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	9	学部での教育7	学部教員の研究を知る7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	10	学部での教育8	学部教員の研究を知る8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	11	学部での教育9	学部教員の研究を知る9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	12	学部での教育10	学部教員の研究を知る10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	13	自分の関心事1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション1	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり	14	自分の関心事2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション2	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり	15	自分の関心事3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション3	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	学修と研究、将来のために1	研究を実施する際の注意点、不正防止のために心得おくべき研究倫理 (メディア・リテラシーを含む)	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる																																																																
2	学修と研究、将来のために2	SmartSPI、就職活動について	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる																																																																
3	学部での教育1	学部教員の研究を知る1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
4	学部での教育2	学部教員の研究を知る2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
5	学部での教育3	学部教員の研究を知る3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
6	学部での教育4	学部教員の研究を知る4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
7	学部での教育5	学部教員の研究を知る5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
8	学部での教育6	学部教員の研究を知る6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
9	学部での教育7	学部教員の研究を知る7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
10	学部での教育8	学部教員の研究を知る8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
11	学部での教育9	学部教員の研究を知る9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
12	学部での教育10	学部教員の研究を知る10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
13	自分の関心事1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション1	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり																																																																
14	自分の関心事2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション2	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり																																																																
15	自分の関心事3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション3	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり																																																																
関連科目	初年次ゼミ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			

担当者の研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度。

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	稲生 勝
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである (セルフ・メイド・コアカリキュラムの作成)。 こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。
到達目標	①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。 ②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	学修と研究、将来のために 1	研究を実施する際の注意点、不正防止のために心得ておくべき研究倫理 (メディア・リテラシーを含む)	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
	2	学修と研究、将来のために 2	SmartSPI、就職活動について	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
	3	学部での教育 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	4	学部での教育 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	5	学部での教育 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	6	学部での教育 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	7	学部での教育 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	8	学部での教育 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	9	学部での教育 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	10	学部での教育 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	11	学部での教育 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	12	学部での教育 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 1	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
	14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 2	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
	15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 3	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
	2			
	3			

評価方法 (基準) 授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度。

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	岩井 八郎
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである (セルフ・メイド・コアカリキュラムの作成)。こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。
到達目標	①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。 ②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	学修と研究、将来のために 1	研究を実施する際の注意点、不正防止のために心得おくべき研究倫理 (メディア・リテラシーを含む)	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
	2	学修と研究、将来のために 2	SmartSPI、就職活動について	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
	3	学部での教育 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	4	学部での教育 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	5	学部での教育 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	6	学部での教育 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	7	学部での教育 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	8	学部での教育 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	9	学部での教育 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	10	学部での教育 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	11	学部での教育 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	12	学部での教育 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 1	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
	14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 2	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
	15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 3	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目	初年次ゼミ
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度。

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	樫田 美雄
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである (セルフ・メイド・コアカリキュラムの作成)。 こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。
到達目標	①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。 ②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	学修と研究、将来のために 2	SmartSPI、就職活動について	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 1	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 2	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 3	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2			
3			

評価方法 (基準) 授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度。

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後和 美朝
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである (セルフ・メイド・コアカリキュラムの作成)。 こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。
到達目標	①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。 ②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	学修と研究、将来のために1	研究を実施する際の注意点、不正防止のために心得ておくべき研究倫理 (メディア・リテラシーを含む)	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
	2	学修と研究、将来のために2	SmartSPI、就職活動について	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
	3	学部での教育1	学部教員の研究を知る1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	4	学部での教育2	学部教員の研究を知る2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	5	学部での教育3	学部教員の研究を知る3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	6	学部での教育4	学部教員の研究を知る4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	7	学部での教育5	学部教員の研究を知る5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	8	学部での教育6	学部教員の研究を知る6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	9	学部での教育7	学部教員の研究を知る7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	10	学部での教育8	学部教員の研究を知る8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	11	学部での教育9	学部教員の研究を知る9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	12	学部での教育10	学部教員の研究を知る10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	13	自分の関心事1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション1	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
	14	自分の関心事2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション2	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
	15	自分の関心事3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション3	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目	初年次ゼミ
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度。

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	須藤 遙子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである (セルフ・メイド・コアカリキュラムの作成)。 こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。
到達目標	①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。 ②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	学修と研究、将来のために1	研究を実施する際の注意点、不正防止のために心得ておくべき研究倫理 (メディア・リテラシーを含む)	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
2	学修と研究、将来のために2	SmartSPI、就職活動について	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育1	学部教員の研究を知る1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育2	学部教員の研究を知る2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育3	学部教員の研究を知る3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育4	学部教員の研究を知る4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育5	学部教員の研究を知る5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育6	学部教員の研究を知る6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育7	学部教員の研究を知る7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育8	学部教員の研究を知る8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育9	学部教員の研究を知る9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育10	学部教員の研究を知る10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション1	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
14	自分の関心事2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション2	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
15	自分の関心事3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション3	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目	初年次ゼミ
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度。

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである (セルフ・メイド・コアカリキュラムの作成)。 こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。
到達目標	①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。 ②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	学修と研究、将来のために 2	SmartSPI、就職活動について	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 1	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 2	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 3	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2				
3				

評価方法 (基準) 授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度。

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	平山 洋介
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	<p>「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである (セルフ・メイド・コアカリキュラムの作成)。</p> <p>こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。</p>																																																																		
到達目標	<p>①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。</p> <p>②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>学修と研究、将来のために1</td> <td>研究を実施する際の注意点、不正防止のために心得ておくべき研究倫理 (メディア・リテラシーを含む)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学修と研究、将来のために2</td> <td>SmartSPI、就職活動について</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学部での教育1</td> <td>学部教員の研究を知る1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学部での教育2</td> <td>学部教員の研究を知る2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学部での教育3</td> <td>学部教員の研究を知る3</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学部での教育4</td> <td>学部教員の研究を知る4</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学部での教育5</td> <td>学部教員の研究を知る5</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学部での教育6</td> <td>学部教員の研究を知る6</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>学部での教育7</td> <td>学部教員の研究を知る7</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での教育8</td> <td>学部教員の研究を知る8</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での教育9</td> <td>学部教員の研究を知る9</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での教育10</td> <td>学部教員の研究を知る10</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>自分の関心事1</td> <td>自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション1</td> <td>事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>自分の関心事2</td> <td>自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション2</td> <td>事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>自分の関心事3</td> <td>自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション3</td> <td>事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	学修と研究、将来のために1	研究を実施する際の注意点、不正防止のために心得ておくべき研究倫理 (メディア・リテラシーを含む)	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる	2	学修と研究、将来のために2	SmartSPI、就職活動について	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる	3	学部での教育1	学部教員の研究を知る1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	4	学部での教育2	学部教員の研究を知る2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	5	学部での教育3	学部教員の研究を知る3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	6	学部での教育4	学部教員の研究を知る4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	7	学部での教育5	学部教員の研究を知る5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	8	学部での教育6	学部教員の研究を知る6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	9	学部での教育7	学部教員の研究を知る7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	10	学部での教育8	学部教員の研究を知る8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	11	学部での教育9	学部教員の研究を知る9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	12	学部での教育10	学部教員の研究を知る10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	13	自分の関心事1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション1	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり	14	自分の関心事2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション2	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり	15	自分の関心事3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション3	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	学修と研究、将来のために1	研究を実施する際の注意点、不正防止のために心得ておくべき研究倫理 (メディア・リテラシーを含む)	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる																																																																
2	学修と研究、将来のために2	SmartSPI、就職活動について	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる																																																																
3	学部での教育1	学部教員の研究を知る1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
4	学部での教育2	学部教員の研究を知る2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
5	学部での教育3	学部教員の研究を知る3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
6	学部での教育4	学部教員の研究を知る4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
7	学部での教育5	学部教員の研究を知る5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
8	学部での教育6	学部教員の研究を知る6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
9	学部での教育7	学部教員の研究を知る7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
10	学部での教育8	学部教員の研究を知る8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
11	学部での教育9	学部教員の研究を知る9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
12	学部での教育10	学部教員の研究を知る10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
13	自分の関心事1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション1	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり																																																																
14	自分の関心事2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション2	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり																																																																
15	自分の関心事3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション3	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり																																																																
関連科目	初年次ゼミ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			

担当者の研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度。

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤井 和佐
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	<p>「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである (セルフ・メイド・コアカリキュラムの作成)。</p> <p>こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。</p>																																																																		
到達目標	<p>①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。</p> <p>②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>学修と研究、将来のために1</td> <td>研究を実施する際の注意点、不正防止のために心得おくべき研究倫理 (メディア・リテラシーを含む)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学修と研究、将来のために2</td> <td>SmartSPI、就職活動について</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学部での教育1</td> <td>学部教員の研究を知る1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学部での教育2</td> <td>学部教員の研究を知る2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学部での教育3</td> <td>学部教員の研究を知る3</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学部での教育4</td> <td>学部教員の研究を知る4</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学部での教育5</td> <td>学部教員の研究を知る5</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学部での教育6</td> <td>学部教員の研究を知る6</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>学部での教育7</td> <td>学部教員の研究を知る7</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での教育8</td> <td>学部教員の研究を知る8</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での教育9</td> <td>学部教員の研究を知る9</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での教育10</td> <td>学部教員の研究を知る10</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>自分の関心事1</td> <td>自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション1</td> <td>事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>自分の関心事2</td> <td>自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション2</td> <td>事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>自分の関心事3</td> <td>自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション3</td> <td>事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	学修と研究、将来のために1	研究を実施する際の注意点、不正防止のために心得おくべき研究倫理 (メディア・リテラシーを含む)	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる	2	学修と研究、将来のために2	SmartSPI、就職活動について	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる	3	学部での教育1	学部教員の研究を知る1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	4	学部での教育2	学部教員の研究を知る2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	5	学部での教育3	学部教員の研究を知る3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	6	学部での教育4	学部教員の研究を知る4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	7	学部での教育5	学部教員の研究を知る5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	8	学部での教育6	学部教員の研究を知る6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	9	学部での教育7	学部教員の研究を知る7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	10	学部での教育8	学部教員の研究を知る8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	11	学部での教育9	学部教員の研究を知る9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	12	学部での教育10	学部教員の研究を知る10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	13	自分の関心事1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション1	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり	14	自分の関心事2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション2	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり	15	自分の関心事3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション3	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	学修と研究、将来のために1	研究を実施する際の注意点、不正防止のために心得おくべき研究倫理 (メディア・リテラシーを含む)	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる																																																																
2	学修と研究、将来のために2	SmartSPI、就職活動について	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる																																																																
3	学部での教育1	学部教員の研究を知る1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
4	学部での教育2	学部教員の研究を知る2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
5	学部での教育3	学部教員の研究を知る3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
6	学部での教育4	学部教員の研究を知る4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
7	学部での教育5	学部教員の研究を知る5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
8	学部での教育6	学部教員の研究を知る6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
9	学部での教育7	学部教員の研究を知る7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
10	学部での教育8	学部教員の研究を知る8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
11	学部での教育9	学部教員の研究を知る9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
12	学部での教育10	学部教員の研究を知る10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
13	自分の関心事1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション1	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり																																																																
14	自分の関心事2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション2	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり																																																																
15	自分の関心事3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション3	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり																																																																
関連科目	初年次ゼミ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			

担当者の研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度。

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	堀田 裕子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである (セルフ・メイド・コアカリキュラムの作成)。こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。
到達目標	①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。 ②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	学修と研究、将来のために1	研究を実施する際の注意点、不正防止のために心得ておくべき研究倫理 (メディア・リテラシーを含む)	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
2	学修と研究、将来のために2	SmartSPI、就職活動について	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育1	学部教員の研究を知る1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育2	学部教員の研究を知る2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育3	学部教員の研究を知る3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育4	学部教員の研究を知る4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育5	学部教員の研究を知る5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育6	学部教員の研究を知る6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育7	学部教員の研究を知る7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育8	学部教員の研究を知る8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育9	学部教員の研究を知る9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育10	学部教員の研究を知る10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション1	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
14	自分の関心事2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション2	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
15	自分の関心事3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション3	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2				
3				

評価方法 (基準) 授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度。

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	好井 裕明
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである (セルフ・メイド・コアカリキュラムの作成)。こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。
到達目標	①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。 ②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	学修と研究、将来のために1	研究を実施する際の注意点、不正防止のために心得ておくべき研究倫理 (メディア・リテラシーを含む)	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
2	学修と研究、将来のために2	SmartSPI、就職活動について	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育1	学部教員の研究を知る1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育2	学部教員の研究を知る2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育3	学部教員の研究を知る3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育4	学部教員の研究を知る4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育5	学部教員の研究を知る5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育6	学部教員の研究を知る6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育7	学部教員の研究を知る7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育8	学部教員の研究を知る8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育9	学部教員の研究を知る9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育10	学部教員の研究を知る10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション1	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
14	自分の関心事2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション2	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
15	自分の関心事3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション3	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目	初年次ゼミ
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度。

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	落合 知子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである (セルフ・メイド・コアカリキュラムの作成)。 こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。
到達目標	①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。 ②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	学修と研究、将来のために 1	研究を実施する際の注意点、不正防止のために心得おくべき研究倫理 (メディア・リテラシーを含む)	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
	2	学修と研究、将来のために 2	SmartSPI、就職活動について	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
	3	学部での教育 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	4	学部での教育 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	5	学部での教育 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	6	学部での教育 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	7	学部での教育 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	8	学部での教育 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	9	学部での教育 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	10	学部での教育 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	11	学部での教育 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	12	学部での教育 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 1	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
	14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 2	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
	15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 3	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
	2			
	3			

評価方法 (基準) 授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度。

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小池 高史
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである (セルフ・メイド・コアカリキュラムの作成)。 こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。
到達目標	①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。 ②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	学修と研究、将来のために 1	研究を実施する際の注意点、不正防止のために心得おくべき研究倫理 (メディア・リテラシーを含む)	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
	2	学修と研究、将来のために 2	SmartSPI、就職活動について	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
	3	学部での教育 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	4	学部での教育 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	5	学部での教育 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	6	学部での教育 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	7	学部での教育 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	8	学部での教育 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	9	学部での教育 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	10	学部での教育 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	11	学部での教育 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	12	学部での教育 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 1	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
	14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 2	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
	15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 3	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目	初年次ゼミ
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度。

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	竹中 祐二
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである (セルフ・メイド・コアカリキュラムの作成)。こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。
到達目標	①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。 ②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	学修と研究、将来のために1	研究を実施する際の注意点、不正防止のために心得ておくべき研究倫理 (メディア・リテラシーを含む)	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
	2	学修と研究、将来のために2	SmartSPI、就職活動について	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
	3	学部での教育1	学部教員の研究を知る1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	4	学部での教育2	学部教員の研究を知る2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	5	学部での教育3	学部教員の研究を知る3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	6	学部での教育4	学部教員の研究を知る4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	7	学部での教育5	学部教員の研究を知る5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	8	学部での教育6	学部教員の研究を知る6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	9	学部での教育7	学部教員の研究を知る7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	10	学部での教育8	学部教員の研究を知る8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	11	学部での教育9	学部教員の研究を知る9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	12	学部での教育10	学部教員の研究を知る10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	13	自分の関心事1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション1	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
	14	自分の関心事2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション2	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
	15	自分の関心事3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション3	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目	初年次ゼミ
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度。

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	竹端 佑介
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである (セルフ・メイド・コアカリキュラムの作成)。 こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。
到達目標	①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。 ②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	学修と研究、将来のために 2	SmartSPI、就職活動について	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 1	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 2	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 3	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2				
3				

評価方法 (基準) 授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度。

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松本 恭幸
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	<p>「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである (セルフ・メイド・コアカリキュラムの作成)。</p> <p>こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。</p>																																																																		
到達目標	<p>①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。</p> <p>②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>学修と研究、将来のために 1</td> <td>研究を実施する際の注意点、不正防止のために心得おくべき研究倫理 (メディア・リテラシーを含む)</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学修と研究、将来のために 2</td> <td>SmartSPI、就職活動について</td> <td>事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学部での教育 1</td> <td>学部教員の研究を知る 1</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学部での教育 2</td> <td>学部教員の研究を知る 2</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学部での教育 3</td> <td>学部教員の研究を知る 3</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学部での教育 4</td> <td>学部教員の研究を知る 4</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学部での教育 5</td> <td>学部教員の研究を知る 5</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学部での教育 6</td> <td>学部教員の研究を知る 6</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>学部での教育 7</td> <td>学部教員の研究を知る 7</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学部での教育 8</td> <td>学部教員の研究を知る 8</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学部での教育 9</td> <td>学部教員の研究を知る 9</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学部での教育 10</td> <td>学部教員の研究を知る 10</td> <td>事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>自分の関心事 1</td> <td>自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 1</td> <td>事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>自分の関心事 2</td> <td>自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 2</td> <td>事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>自分の関心事 3</td> <td>自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 3</td> <td>事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	学修と研究、将来のために 1	研究を実施する際の注意点、不正防止のために心得おくべき研究倫理 (メディア・リテラシーを含む)	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる	2	学修と研究、将来のために 2	SmartSPI、就職活動について	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる	3	学部での教育 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	4	学部での教育 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	5	学部での教育 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	6	学部での教育 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	7	学部での教育 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	8	学部での教育 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	9	学部での教育 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	10	学部での教育 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	11	学部での教育 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	12	学部での教育 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える	13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 1	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり	14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 2	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり	15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 3	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	学修と研究、将来のために 1	研究を実施する際の注意点、不正防止のために心得おくべき研究倫理 (メディア・リテラシーを含む)	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる																																																																
2	学修と研究、将来のために 2	SmartSPI、就職活動について	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる																																																																
3	学部での教育 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
4	学部での教育 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
5	学部での教育 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
6	学部での教育 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
7	学部での教育 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
8	学部での教育 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
9	学部での教育 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
10	学部での教育 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
11	学部での教育 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
12	学部での教育 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える																																																																
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 1	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり																																																																
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 2	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり																																																																
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 3	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり																																																																
関連科目	初年次ゼミ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			

担当者の研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度。

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山本 圭三
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである (セルフ・メイド・コアカリキュラムの作成)。 こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。
到達目標	①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。 ②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	学修と研究、将来のために 2	SmartSPI、就職活動について	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 1	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 2	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 3	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2				
3				

評価方法 (基準) 授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度。

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである (セルフ・メイド・コアカリキュラムの作成)。こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。
到達目標	①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。 ②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	学修と研究、将来のために2	SmartSPI、就職活動について	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育1	学部教員の研究を知る1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育2	学部教員の研究を知る2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育3	学部教員の研究を知る3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育4	学部教員の研究を知る4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育5	学部教員の研究を知る5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育6	学部教員の研究を知る6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育7	学部教員の研究を知る7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育8	学部教員の研究を知る8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育9	学部教員の研究を知る9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育10	学部教員の研究を知る10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション1	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
14	自分の関心事2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション2	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
15	自分の関心事3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション3	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2				
3				

評価方法 (基準) 授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度。

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	江口 怜
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである (セルフ・メイド・コアカリキュラムの作成)。こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。
到達目標	①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。 ②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	学修と研究、将来のために 1	研究を実施する際の注意点、不正防止のために心得おくべき研究倫理 (メディア・リテラシーを含む)	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
	2	学修と研究、将来のために 2	SmartSPI、就職活動について	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
	3	学部での教育 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	4	学部での教育 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	5	学部での教育 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	6	学部での教育 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	7	学部での教育 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	8	学部での教育 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	9	学部での教育 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	10	学部での教育 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	11	学部での教育 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	12	学部での教育 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 1	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
	14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 2	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
	15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション 3	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目	初年次ゼミ
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度。

科目名	初年次演習	科目名 (英文)	First Year Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷 めぐみ
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG1067a0		

授業概要・目的	「初年次演習」は、後続学年における専門教育に入るための導入と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを目的とする。そのねらいは、受講生が今後の学部における専門的な学修が具体的にイメージでき、各自の興味・関心に沿って目的意識をもちつつ有意義な学びを進められるような土台を構築することである (セルフ・メイド・コアカリキュラムの作成)。 こうした目的を達成するため、授業では (A) 学部での教育内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事をより明確にしていくことを目指した内容が中心的に展開される。
到達目標	①1 受講生が、学部での教育内容の特徴・方向性を理解することができる。 ②2 受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を説明できる。
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	学修と研究、将来のために1	研究を実施する際の注意点、不正防止のために心得おくべき研究倫理 (メディア・リテラシーを含む)	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
	2	学修と研究、将来のために2	SmartSPI、就職活動について	事前: テキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
	3	学部での教育1	学部教員の研究を知る1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	4	学部での教育2	学部教員の研究を知る2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	5	学部での教育3	学部教員の研究を知る3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	6	学部での教育4	学部教員の研究を知る4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	7	学部での教育5	学部教員の研究を知る5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	8	学部での教育6	学部教員の研究を知る6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	9	学部での教育7	学部教員の研究を知る7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	10	学部での教育8	学部教員の研究を知る8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	11	学部での教育9	学部教員の研究を知る9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	12	学部での教育10	学部教員の研究を知る10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
	13	自分の関心事1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション1	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
	14	自分の関心事2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション2	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
	15	自分の関心事3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーション3	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
	2			
	3			

評価方法 (基準) 授業への参加状況 (受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度。

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Basic Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浅野 慎一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2068a0		

「基礎演習 I」は、2年次以降の高度化した専門教育に入っていくための導入・応用と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを同時にしつつ、さらには、その両者を組み合わせて高度化させることまでを目的とする。そのねらいは、受講生が本学部における多様で充実した専門的な研究内容にかんする学修への展望をもつことを基盤にして、卒論にいたる具体的な研究イメージを醸成できるようになること、および、各自の興味・関心を発展させた形で、社会課題とも共振する形に洗練させた目的意識をもちつつ研究を進められるようになること、つまりは、「セルフ・メイド・コア・カリキュラム」という形に個人の志向性と学問の諸分野を共振させつつ照応させる力を手に入れることである。こうした目的を達成するため、本授業では (A) 学部での教育／研究内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事を明確化することで、社会学の諸学問領域や社会課題との関連をつかんで行くことを目指した内容が中心的に提供される。

到達目標
 ①受講生が、学部での教育／研究内容の特徴・方向性を理解することができる。
 ②受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を考察し、説明できる。

授業方法と留意点
 少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	学修と研究、将来のために 1	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (前半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
2	学修と研究、将来のために 2	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (後半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育／研究 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育／研究 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育／研究 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育／研究 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育／研究 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育／研究 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育／研究 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育／研究 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育／研究 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育／研究 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 1)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 2)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 3)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ, 初年次演習

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	各担当教員の指示による		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加状況(受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。
学生への メッセージ	本学部は、同一コマに重なって設定される授業を極力減らすことで、選択科目同士のバッティングを回避している。これは、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』を支援するための仕組みである。この仕組みをいかに活用するかが、本学部での学習の成否につながる。しかし、社会学は高校で学修していない科目であるため、半年の社会学学修をするだけで、視野が大きく拡がることもある。そのため、半年前や1年前の決定にこだわらない大胆な履修計画の改編が適切な場合も生じてくる。『基礎演習Ⅰ』の担当教員は、担任でもあるので、困ったり悩んだりしたら積極的に相談してほしい。かならずや有意義な助言がえられることだろう。
担当者の 研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Basic Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 圭三
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2068a0		

「基礎演習 I」は、2年次以降の高度化した専門教育に入っていくための導入・応用と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを同時に進めつつ、さらには、その両者を組み合わせて高度化させることまでを目的とする。そのねらいは、受講生が本学部における多様で充実した専門的な研究内容にかんする学修への展望をもつことを基盤にして、卒論にいたる具体的な研究イメージを醸成できるようになること、および、各自の興味・関心を発展させた形で、社会課題とも共振する形に洗練させた目的意識をもちつつ研究を進められるようになること、つまりは、「セルフ・メイド・コア・カリキュラム」という形に個人の志向性と学問の諸分野を共振させつつ照応させる力を手に入れることである。こうした目的を達成するため、本授業では (A) 学部での教育/研究内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事を明確化することで、社会学の諸学問領域や社会課題との関連をつかんで行くことを目指した内容が中心的に提供される。

到達目標
 ①受講生が、学部での教育/研究内容の特徴・方向性を理解することができる。
 ②受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を考察し、説明できる。

授業方法と留意点
 少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	学修と研究、将来のために 1	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (前半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
2	学修と研究、将来のために 2	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (後半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育/研究 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育/研究 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育/研究 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育/研究 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育/研究 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育/研究 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育/研究 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育/研究 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育/研究 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育/研究 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 1)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 2)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 3)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ, 初年次演習

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	各担当教員の指示による		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加状況(受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。
学生への メッセージ	本学部は、同一コマに重なって設定される授業を極力減らすことで、選択科目同士のバッティングを回避している。これは、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』を支援するための仕組みである。この仕組みをいかに活用するかが、本学部での学習の成否につながる。しかし、社会学は高校で学修していない科目であるため、半年の社会学学修をするだけで、視野が大きく拡がることもある。そのため、半年前や1年前の決定にこだわらない大胆な履修計画の改編が適切な場合も生じてくる。『基礎演習Ⅰ』の担当教員は、担任でもあるので、困ったり悩んだりしたら積極的に相談してほしい。かならずや有意義な助言がえられることだろう。
担当者の 研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Basic Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2068a0		

「基礎演習 I」は、2年次以降の高度化した専門教育に入っていくための導入・応用と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを同時にしつつ、さらには、その両者を組み合わせて高度化させることまでを目的とする。そのねらいは、受講生が本学部における多様で充実した専門的な研究内容にかんする学修への展望をもつことを基盤にして、卒論にいたる具体的な研究イメージを醸成できるようになること、および、各自の興味・関心を発展させた形で、社会課題とも共振する形に洗練させた目的意識をもちつつ研究を進められるようになること、つまりは、「セルフ・メイド・コア・カリキュラム」という形に個人の志向性と学問の諸分野を共振させつつ照応させる力を手に入れることである。こうした目的を達成するため、本授業では (A) 学部での教育/研究内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事を明確化することで、社会学の諸学問領域や社会課題との関連をつかんで行くことを目指した内容が中心的に提供される。

到達目標
 ①受講生が、学部での教育/研究内容の特徴・方向性を理解することができる。
 ②受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を考察し、説明できる。

授業方法と留意点
 少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	学修と研究、将来のために 1	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (前半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
2	学修と研究、将来のために 2	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (後半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育/研究 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育/研究 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育/研究 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育/研究 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育/研究 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育/研究 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育/研究 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育/研究 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育/研究 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育/研究 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 1)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 2)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 3)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ, 初年次演習

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	各担当教員の指示による		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加状況(受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。
学生への メッセージ	本学部は、同一コマに重なって設定される授業を極力減らすことで、選択科目同士のバッティングを回避している。これは、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』を支援するための仕組みである。この仕組みをいかに活用するかが、本学部での学習の成否につながる。しかし、社会学は高校で学修していない科目であるため、半年の社会学学修をするだけで、視野が大きく拡がることもある。そのため、半年前や1年前の決定にこだわらない大胆な履修計画の改編が適切な場合も生じてくる。『基礎演習Ⅰ』の担当教員は、担任でもあるので、困ったり悩んだりしたら積極的に相談してほしい。かならずや有意義な助言がえられることだろう。
担当者の 研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Basic Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岩井 八郎
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2068a0		

「基礎演習 I」は、2年次以降の高度化した専門教育に入っていくための導入・応用と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを同時に進めつつ、さらには、その両者を組み合わせて高度化させることまでを目的とする。そのねらいは、受講生が本学部における多様で充実した専門的な研究内容にかんする学修への展望をもつことを基盤にして、卒論にいたる具体的な研究イメージを醸成できるようになること、および、各自の興味・関心を発展させた形で、社会課題とも共振する形に洗練させた目的意識をもちつつ研究を進められるようになること、つまりは、「セルフ・メイド・コア・カリキュラム」という形に個人の志向性と学問の諸分野を共振させつつ照応させる力を手に入れることである。こうした目的を達成するため、本授業では (A) 学部での教育／研究内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事を明確化することで、社会学の諸学問領域や社会課題との関連をつかんで行くことを目指した内容が中心的に提供される。

到達目標
 ①受講生が、学部での教育／研究内容の特徴・方向性を理解することができる。
 ②受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を考察し、説明できる。

授業方法と留意点
 少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	学修と研究、将来のために 1	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (前半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
2	学修と研究、将来のために 2	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (後半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育／研究 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育／研究 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育／研究 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育／研究 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育／研究 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育／研究 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育／研究 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育／研究 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育／研究 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育／研究 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 1)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 2)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 3)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ, 初年次演習

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	各担当教員の指示による		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加状況(受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。
学生への メッセージ	本学部は、同一コマに重なって設定される授業を極力減らすことで、選択科目同士のバッティングを回避している。これは、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』を支援するための仕組みである。この仕組みをいかに活用するかが、本学部での学習の成否につながる。しかし、社会学は高校で学修していない科目であるため、半年の社会学学修をするだけで、視野が大きく拡がることもある。そのため、半年前や1年前の決定にこだわらない大胆な履修計画の改編が適切な場合も生じてくる。『基礎演習Ⅰ』の担当教員は、担任でもあるので、困ったり悩んだりしたら積極的に相談してほしい。かならずや有意義な助言がえられることだろう。
担当者の 研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Basic Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	堀田 裕子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2068a0		

「基礎演習 I」は、2年次以降の高度化した専門教育に入っていくための導入・応用と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを同時に進めつつ、さらには、その両者を組み合わせて高度化させることまでを目的とする。そのねらいは、受講生が本学部における多様で充実した専門的な研究内容にかんする学修への展望をもつことを基盤にして、卒論にいたる具体的な研究イメージを醸成できるようになること、および、各自の興味・関心を発展させた形で、社会課題とも共振する形に洗練させた目的意識をもちつつ研究を進められるようになること、つまりは、「セルフ・メイド・コア・カリキュラム」という形に個人の志向性と学問の諸分野を共振させつつ照応させる力を手に入れることである。こうした目的を達成するため、本授業では (A) 学部での教育/研究内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事を明確化することで、社会学の諸学問領域や社会課題との関連をつかんで行くことを目指した内容が中心的に提供される。

到達目標
 ①受講生が、学部での教育/研究内容の特徴・方向性を理解することができる。
 ②受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を考察し、説明できる。

授業方法と留意点
 少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	学修と研究、将来のために 1	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (前半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
2	学修と研究、将来のために 2	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (後半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育/研究 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育/研究 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育/研究 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育/研究 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育/研究 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育/研究 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育/研究 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育/研究 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育/研究 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育/研究 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 1)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 2)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 3)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ, 初年次演習

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	各担当教員の指示による		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加状況(受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。
学生への メッセージ	本学部は、同一コマに重なって設定される授業を極力減らすことで、選択科目同士のバッティングを回避している。これは、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』を支援するための仕組みである。この仕組みをいかに活用するかが、本学部での学習の成否につながる。しかし、社会学は高校で学修していない科目であるため、半年の社会学学修をするだけで、視野が大きく拡がることもある。そのため、半年前や1年前の決定にこだわらない大胆な履修計画の改編が適切な場合も生じてくる。『基礎演習Ⅰ』の担当教員は、担任でもあるので、困ったり悩んだりしたら積極的に相談してほしい。かならずや有意義な助言がえられることだろう。
担当者の 研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Basic Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷 めぐみ
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2068a0		

「基礎演習 I」は、2年次以降の高度化した専門教育に入っていくための導入・応用と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを同時にしつつ、さらには、その両者を組み合わせて高度化させることまでを目的とする。そのねらいは、受講生が本学部における多様で充実した専門的な研究内容にかんする学修への展望をもつことを基盤にして、卒論にいたる具体的な研究イメージを醸成できるようになること、および、各自の興味・関心を発展させた形で、社会課題とも共振する形に洗練させた目的意識をもちつつ研究を進められるようになること、つまりは、「セルフ・メイド・コア・カリキュラム」という形に個人の志向性と学問の諸分野を共振させつつ照応させる力を手に入れることである。こうした目的を達成するため、本授業では (A) 学部での教育／研究内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事を明確化することで、社会学の諸学問領域や社会課題との関連をつかんで行くことを目指した内容が中心的に提供される。

到達目標
 ①受講生が、学部での教育／研究内容の特徴・方向性を理解することができる。
 ②受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を考察し、説明できる。

授業方法と留意点
 少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	学修と研究、将来のために 1	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (前半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
2	学修と研究、将来のために 2	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (後半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育／研究 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育／研究 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育／研究 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育／研究 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育／研究 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育／研究 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育／研究 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育／研究 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育／研究 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育／研究 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 1)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 2)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 3)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ, 初年次演習

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	各担当教員の指示による		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加状況(受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。
学生への メッセージ	本学部は、同一コマに重なって設定される授業を極力減らすことで、選択科目同士のバッティングを回避している。これは、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』を支援するための仕組みである。この仕組みをいかに活用するかが、本学部での学習の成否につながる。しかし、社会学は高校で学修していない科目であるため、半年の社会学学修をするだけで、視野が大きく拡がることもある。そのため、半年前や1年前の決定にこだわらない大胆な履修計画の改編が適切な場合も生じてくる。『基礎演習Ⅰ』の担当教員は、担任でもあるので、困ったり悩んだりしたら積極的に相談してほしい。かならずや有意義な助言がえられることだろう。
担当者の 研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Basic Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	樫田 美雄
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2068a0		

「基礎演習 I」は、2年次以降の高度化した専門教育に入っていくための導入・応用と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを同時にしつつ、さらには、その両者を組み合わせて高度化させることまでを目的とする。そのねらいは、受講生が本学部における多様で充実した専門的な研究内容にかんする学修への展望をもつことを基盤にして、卒論にいたる具体的な研究イメージを醸成できるようになること、および、各自の興味・関心を発展させた形で、社会課題とも共振する形に洗練させた目的意識をもちつつ研究を進められるようになること、つまりは、「セルフ・メイド・コア・カリキュラム」という形に個人の志向性と学問の諸分野を共振させつつ照応させる力を手に入れることである。こうした目的を達成するため、本授業では (A) 学部での教育／研究内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事を明確化することで、社会学の諸学問領域や社会課題との関連をつかんで行くことを目指した内容が中心的に提供される。

到達目標
 ①受講生が、学部での教育／研究内容の特徴・方向性を理解することができる。
 ②受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を考察し、説明できる。

授業方法と留意点
 少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	学修と研究、将来のために 1	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (前半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
2	学修と研究、将来のために 2	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (後半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育／研究 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育／研究 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育／研究 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育／研究 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育／研究 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育／研究 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育／研究 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育／研究 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育／研究 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育／研究 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 1)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 2)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 3)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ, 初年次演習

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	各担当教員の指示による		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加状況(受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。
学生への メッセージ	本学部は、同一コマに重なって設定される授業を極力減らすことで、選択科目同士のバッティングを回避している。これは、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』を支援するための仕組みである。この仕組みをいかに活用するかが、本学部での学習の成否につながる。しかし、社会学は高校で学修していない科目であるため、半年の社会学学修をするだけで、視野が大きく拡がることもある。そのため、半年前や1年前の決定にこだわらない大胆な履修計画の改編が適切な場合も生じてくる。『基礎演習Ⅰ』の担当教員は、担任でもあるので、困ったり悩んだりしたら積極的に相談してほしい。かならずや有意義な助言がえられることだろう。
担当者の 研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Basic Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後和 美朝
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2068a0		

「基礎演習 I」は、2年次以降の高度化した専門教育に入っていくための導入・応用と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを同時にしつつ、さらには、その両者を組み合わせて高度化させることまでを目的とする。そのねらいは、受講生が本学部における多様で充実した専門的な研究内容にかんする学修への展望をもつことを基盤にして、卒論にいたる具体的な研究イメージを醸成できるようになること、および、各自の興味・関心を発展させた形で、社会課題とも共振する形に洗練させた目的意識をもちつつ研究を進められるようになること、つまりは、「セルフ・メイド・コア・カリキュラム」という形に個人の志向性と学問の諸分野を共振させつつ照応させる力を手に入れることである。こうした目的を達成するため、本授業では (A) 学部での教育/研究内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事を明確化することで、社会学の諸学問領域や社会課題との関連をつかんで行くことを目指した内容が中心的に提供される。

到達目標
 ①受講生が、学部での教育/研究内容の特徴・方向性を理解することができる。
 ②受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を考察し、説明できる。

授業方法と留意点
 少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	学修と研究、将来のために 1	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (前半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
2	学修と研究、将来のために 2	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (後半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育/研究 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育/研究 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育/研究 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育/研究 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育/研究 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育/研究 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育/研究 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育/研究 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育/研究 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育/研究 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 1)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 2)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 3)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ, 初年次演習

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	各担当教員の指示による		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加状況(受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。
学生への メッセージ	本学部は、同一コマに重なって設定される授業を極力減らすことで、選択科目同士のバッティングを回避している。これは、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』を支援するための仕組みである。この仕組みをいかに活用するかが、本学部での学習の成否につながる。しかし、社会学は高校で学修していない科目であるため、半年の社会学学修をするだけで、視野が大きく拡がることもある。そのため、半年前や1年前の決定にこだわらない大胆な履修計画の改編が適切な場合も生じてくる。『基礎演習Ⅰ』の担当教員は、担任でもあるので、困ったり悩んだりしたら積極的に相談してほしい。かならずや有意義な助言がえられることだろう。
担当者の 研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Basic Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	平山 洋介
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2068a0		

「基礎演習 I」は、2年次以降の高度化した専門教育に入っていくための導入・応用と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを同時に進め、さらには、その両者を組み合わせて高度化させることまでを目的とする。そのねらいは、受講生が本学部における多様で充実した専門的な研究内容にかんする学修への展望をもつことを基盤にして、卒論にいたる具体的な研究イメージを醸成できるようになること、および、各自の興味・関心を発展させた形で、社会課題とも共振する形に洗練させた目的意識をもちつつ研究を進められるようになること、つまりは、「セルフ・メイド・コア・カリキュラム」という形に個人の志向性と学問の諸分野を共振させつつ照応させる力を手に入れることである。こうした目的を達成するため、本授業では (A) 学部での教育/研究内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事を明確化することで、社会学の諸学問領域や社会課題との関連をつかんで行くことを目指した内容が中心的に提供される。

到達目標
 ①受講生が、学部での教育/研究内容の特徴・方向性を理解することができる。
 ②受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を考察し、説明できる。

授業方法と留意点
 少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	学修と研究、将来のために 1	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (前半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
2	学修と研究、将来のために 2	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (後半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育/研究 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育/研究 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育/研究 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育/研究 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育/研究 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育/研究 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育/研究 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育/研究 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育/研究 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育/研究 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 1)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 2)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 3)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ, 初年次演習

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	各担当教員の指示による		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加状況(受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。
学生への メッセージ	本学部は、同一コマに重なって設定される授業を極力減らすことで、選択科目同士のバッティングを回避している。これは、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』を支援するための仕組みである。この仕組みをいかに活用するかが、本学部での学習の成否につながる。しかし、社会学は高校で学修していない科目であるため、半年の社会学学修をするだけで、視野が大きく拡がることもある。そのため、半年前や1年前の決定にこだわらない大胆な履修計画の改編が適切な場合も生じてくる。『基礎演習Ⅰ』の担当教員は、担任でもあるので、困ったり悩んだりしたら積極的に相談してほしい。かならずや有意義な助言がえられることだろう。
担当者の 研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Basic Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	好井 裕明
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2068a0		

「基礎演習 I」は、2年次以降の高度化した専門教育に入っていくための導入・応用と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを同時にしつつ、さらには、その両者を組み合わせて高度化させることまでを目的とする。そのねらいは、受講生が本学部における多様で充実した専門的な研究内容にかんする学修への展望をもつことを基盤にして、卒論にいたる具体的な研究イメージを醸成できるようになること、および、各自の興味・関心を発展させた形で、社会課題とも共振する形に洗練させた目的意識をもちつつ研究を進められるようになること、つまりは、「セルフ・メイド・コア・カリキュラム」という形に個人の志向性と学問の諸分野を共振させつつ照応させる力を手に入れることである。こうした目的を達成するため、本授業では (A) 学部での教育/研究内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事を明確化することで、社会学の諸学問領域や社会課題との関連をつかんで行くことを目指した内容が中心的に提供される。

到達目標
 ①受講生が、学部での教育/研究内容の特徴・方向性を理解することができる。
 ②受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を考察し、説明できる。

授業方法と留意点
 少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	学修と研究、将来のために 1	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (前半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
2	学修と研究、将来のために 2	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (後半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育/研究 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育/研究 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育/研究 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育/研究 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育/研究 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育/研究 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育/研究 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育/研究 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育/研究 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育/研究 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 1)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 2)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 3)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ, 初年次演習

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	各担当教員の指示による		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加状況(受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。
学生への メッセージ	本学部は、同一コマに重なって設定される授業を極力減らすことで、選択科目同士のバッティングを回避している。これは、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』を支援するための仕組みである。この仕組みをいかに活用するかが、本学部での学習の成否につながる。しかし、社会学は高校で学修していない科目であるため、半年の社会学学修をするだけで、視野が大きく拡がることもある。そのため、半年前や1年前の決定にこだわらない大胆な履修計画の改編が適切な場合も生じてくる。『基礎演習Ⅰ』の担当教員は、担任でもあるので、困ったり悩んだりしたら積極的に相談してほしい。かならずや有意義な助言がえられることだろう。
担当者の 研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Basic Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	須藤 遙子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2068a0		

「基礎演習 I」は、2年次以降の高度化した専門教育に入っていくための導入・応用と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを同時にしつつ、さらには、その両者を組み合わせて高度化させることまでを目的とする。そのねらいは、受講生が本学部における多様で充実した専門的な研究内容にかんする学修への展望をもつことを基盤にして、卒論にいたる具体的な研究イメージを醸成できるようになること、および、各自の興味・関心を発展させた形で、社会課題とも共振する形に洗練させた目的意識をもちつつ研究を進められるようになること、つまりは、「セルフ・メイド・コア・カリキュラム」という形に個人の志向性と学問の諸分野を共振させつつ照応させる力を手に入れることである。こうした目的を達成するため、本授業では (A) 学部での教育／研究内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事を明確化することで、社会学の諸学問領域や社会課題との関連をつかんで行くことを目指した内容が中心的に提供される。

到達目標
 ①受講生が、学部での教育／研究内容の特徴・方向性を理解することができる。
 ②受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を考察し、説明できる。

授業方法と留意点
 少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	学修と研究、将来のために 1	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (前半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
2	学修と研究、将来のために 2	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (後半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育／研究 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育／研究 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育／研究 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育／研究 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育／研究 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育／研究 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育／研究 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育／研究 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育／研究 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育／研究 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 1)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 2)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 3)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ, 初年次演習

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	各担当教員の指示による		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加状況(受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。
学生への メッセージ	本学部は、同一コマに重なって設定される授業を極力減らすことで、選択科目同士のバッティングを回避している。これは、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』を支援するための仕組みである。この仕組みをいかに活用するかが、本学部での学習の成否につながる。しかし、社会学は高校で学修していない科目であるため、半年の社会学学修をするだけで、視野が大きく拡がることもある。そのため、半年前や1年前の決定にこだわらない大胆な履修計画の改編が適切な場合も生じてくる。『基礎演習Ⅰ』の担当教員は、担任でもあるので、困ったり悩んだりしたら積極的に相談してほしい。かならずや有意義な助言がえられることだろう。
担当者の 研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Basic Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2068a0		

「基礎演習 I」は、2年次以降の高度化した専門教育に入っていくための導入・応用と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを同時にしつつ、さらには、その両者を組み合わせて高度化させることまでを目的とする。そのねらいは、受講生が本学部における多様で充実した専門的な研究内容にかんする学修への展望をもつことを基盤にして、卒論にいたる具体的な研究イメージを醸成できるようになること、および、各自の興味・関心を発展させた形で、社会課題とも共振する形に洗練させた目的意識をもちつつ研究を進められるようになること、つまりは、「セルフ・メイド・コア・カリキュラム」という形に個人の志向性と学問の諸分野を共振させつつ照応させる力を手に入れることである。こうした目的を達成するため、本授業では (A) 学部での教育／研究内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事を明確化することで、社会学の諸学問領域や社会課題との関連をつかんで行くことを目指した内容が中心的に提供される。

到達目標
 ①受講生が、学部での教育／研究内容の特徴・方向性を理解することができる。
 ②受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を考察し、説明できる。

授業方法と留意点
 少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	学修と研究、将来のために 1	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (前半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
2	学修と研究、将来のために 2	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (後半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育／研究 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育／研究 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育／研究 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育／研究 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育／研究 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育／研究 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育／研究 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育／研究 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育／研究 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育／研究 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 1)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 2)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 3)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ, 初年次演習

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	各担当教員の指示による		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加状況(受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。
学生への メッセージ	本学部は、同一コマに重なって設定される授業を極力減らすことで、選択科目同士のバッティングを回避している。これは、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』を支援するための仕組みである。この仕組みをいかに活用するかが、本学部での学習の成否につながる。しかし、社会学は高校で学修していない科目であるため、半年の社会学学修をするだけで、視野が大きく拡がることもある。そのため、半年前や1年前の決定にこだわらない大胆な履修計画の改編が適切な場合も生じてくる。『基礎演習Ⅰ』の担当教員は、担任でもあるので、困ったり悩んだりしたら積極的に相談してほしい。かならずや有意義な助言がえられることだろう。
担当者の 研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Basic Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	落合 知子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2068a0		

「基礎演習 I」は、2年次以降の高度化した専門教育に入っていくための導入・応用と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを同時にしつつ、さらには、その両者を組み合わせて高度化させることまでを目的とする。そのねらいは、受講生が本学部における多様で充実した専門的な研究内容にかんする学修への展望をもつことを基盤にして、卒論にいたる具体的な研究イメージを醸成できるようになること、および、各自の興味・関心を発展させた形で、社会課題とも共振する形に洗練させた目的意識をもちつつ研究を進められるようになること、つまりは、「セルフ・メイド・コア・カリキュラム」という形に個人の志向性と学問の諸分野を共振させつつ照応させる力を手に入れることである。こうした目的を達成するため、本授業では (A) 学部での教育/研究内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事を明確化することで、社会学の諸学問領域や社会課題との関連をつかんで行くことを目指した内容が中心的に提供される。

到達目標
 ①受講生が、学部での教育/研究内容の特徴・方向性を理解することができる。
 ②受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を考察し、説明できる。

授業方法と留意点
 少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	学修と研究、将来のために 1	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (前半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
2	学修と研究、将来のために 2	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (後半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育/研究 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育/研究 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育/研究 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育/研究 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育/研究 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育/研究 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育/研究 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育/研究 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育/研究 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育/研究 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 1)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 2)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 3)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ, 初年次演習

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	各担当教員の指示による		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加状況(受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。
学生への メッセージ	本学部は、同一コマに重なって設定される授業を極力減らすことで、選択科目同士のバッティングを回避している。これは、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』を支援するための仕組みである。この仕組みをいかに活用するかが、本学部での学習の成否につながる。しかし、社会学は高校で学修していない科目であるため、半年の社会学学修をするだけで、視野が大きく拡がることもある。そのため、半年前や1年前の決定にこだわらない大胆な履修計画の改編が適切な場合も生じてくる。『基礎演習Ⅰ』の担当教員は、担任でもあるので、困ったり悩んだりしたら積極的に相談してほしい。かならずや有意義な助言がえられることだろう。
担当者の 研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Basic Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	竹端 佑介
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2068a0		

「基礎演習 I」は、2年次以降の高度化した専門教育に入っていくための導入・応用と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを同時に進めつつ、さらには、その両者を組み合わせて高度化させることまでを目的とする。そのねらいは、受講生が本学部における多様で充実した専門的な研究内容にかんする学修への展望をもつことを基盤にして、卒論にいたる具体的な研究イメージを醸成できるようになること、および、各自の興味・関心を発展させた形で、社会課題とも共振する形に洗練させた目的意識をもちつつ研究を進められるようになること、つまりは、「セルフ・メイド・コア・カリキュラム」という形に個人の志向性と学問の諸分野を共振させつつ照応させる力を手に入れることである。こうした目的を達成するため、本授業では (A) 学部での教育／研究内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事を明確化することで、社会学の諸学問領域や社会課題との関連をつかんで行くことを目指した内容が中心的に提供される。

到達目標
 ①受講生が、学部での教育／研究内容の特徴・方向性を理解することができる。
 ②受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を考察し、説明できる。

授業方法と留意点
 少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	学修と研究、将来のために 1	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (前半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
2	学修と研究、将来のために 2	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (後半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育／研究 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育／研究 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育／研究 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育／研究 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育／研究 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育／研究 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育／研究 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育／研究 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育／研究 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育／研究 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 1)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 2)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 3)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ, 初年次演習

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	各担当教員の指示による		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加状況(受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。
学生への メッセージ	本学部は、同一コマに重なって設定される授業を極力減らすことで、選択科目同士のバッティングを回避している。これは、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』を支援するための仕組みである。この仕組みをいかに活用するかが、本学部での学習の成否につながる。しかし、社会学は高校で学修していない科目であるため、半年の社会学学修をするだけで、視野が大きく拡がることもある。そのため、半年前や1年前の決定にこだわらない大胆な履修計画の改編が適切な場合も生じてくる。『基礎演習Ⅰ』の担当教員は、担任でもあるので、困ったり悩んだりしたら積極的に相談してほしい。かならずや有意義な助言がえられることだろう。
担当者の 研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Basic Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小池 高史
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2068a0		

「基礎演習 I」は、2年次以降の高度化した専門教育に入っていくための導入・応用と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを同時にしつつ、さらには、その両者を組み合わせて高度化させることまでを目的とする。そのねらいは、受講生が本学部における多様で充実した専門的な研究内容にかんする学修への展望をもつことを基盤にして、卒論にいたる具体的な研究イメージを醸成できるようになること、および、各自の興味・関心を発展させた形で、社会課題とも共振する形に洗練させた目的意識をもちつつ研究を進められるようになること、つまりは、「セルフ・メイド・コア・カリキュラム」という形に個人の志向性と学問の諸分野を共振させつつ照応させる力を手に入れることである。こうした目的を達成するため、本授業では (A) 学部での教育／研究内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事を明確化することで、社会学の諸学問領域や社会課題との関連をつかんで行くことを目指した内容が中心的に提供される。

到達目標
 ①受講生が、学部での教育／研究内容の特徴・方向性を理解することができる。
 ②受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を考察し、説明できる。

授業方法と留意点
 少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	学修と研究、将来のために 1	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (前半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
2	学修と研究、将来のために 2	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (後半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育／研究 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育／研究 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育／研究 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育／研究 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育／研究 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育／研究 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育／研究 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育／研究 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育／研究 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育／研究 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 1)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 2)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 3)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ, 初年次演習

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	各担当教員の指示による		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加状況(受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。
学生への メッセージ	本学部は、同一コマに重なって設定される授業を極力減らすことで、選択科目同士のバッティングを回避している。これは、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』を支援するための仕組みである。この仕組みをいかに活用するかが、本学部での学習の成否につながる。しかし、社会学は高校で学修していない科目であるため、半年の社会学学修をするだけで、視野が大きく拡がることもある。そのため、半年前や1年前の決定にこだわらない大胆な履修計画の改編が適切な場合も生じてくる。『基礎演習Ⅰ』の担当教員は、担任でもあるので、困ったり悩んだりしたら積極的に相談してほしい。かならずや有意義な助言がえられることだろう。
担当者の 研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Basic Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	竹中 祐二
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2068a0		

「基礎演習 I」は、2年次以降の高度化した専門教育に入っていくための導入・応用と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを同時にしつつ、さらには、その両者を組み合わせて高度化させることまでを目的とする。そのねらいは、受講生が本学部における多様で充実した専門的な研究内容にかんする学修への展望をもつことを基盤にして、卒論にいたる具体的な研究イメージを醸成できるようになること、および、各自の興味・関心を発展させた形で、社会課題とも共振する形に洗練させた目的意識をもちつつ研究を進められるようになること、つまりは、「セルフ・メイド・コア・カリキュラム」という形に個人の志向性と学問の諸分野を共振させつつ照応させる力を手に入れることである。こうした目的を達成するため、本授業では (A) 学部での教育／研究内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事を明確化することで、社会学の諸学問領域や社会課題との関連をつかんで行くことを目指した内容が中心的に提供される。

到達目標
 ①受講生が、学部での教育／研究内容の特徴・方向性を理解することができる。
 ②受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を考察し、説明できる。

授業方法と留意点
 少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	学修と研究、将来のために 1	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (前半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
2	学修と研究、将来のために 2	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (後半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育／研究 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育／研究 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育／研究 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育／研究 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育／研究 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育／研究 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育／研究 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育／研究 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育／研究 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育／研究 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 1)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 2)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 3)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ, 初年次演習

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	各担当教員の指示による		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加状況(受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。
学生への メッセージ	本学部は、同一コマに重なって設定される授業を極力減らすことで、選択科目同士のバッティングを回避している。これは、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』を支援するための仕組みである。この仕組みをいかに活用するかが、本学部での学習の成否につながる。しかし、社会学は高校で学修していない科目であるため、半年の社会学学修をするだけで、視野が大きく拡がることもある。そのため、半年前や1年前の決定にこだわらない大胆な履修計画の改編が適切な場合も生じてくる。『基礎演習Ⅰ』の担当教員は、担任でもあるので、困ったり悩んだりしたら積極的に相談してほしい。かならずや有意義な助言がえられることだろう。
担当者の 研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Basic Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	稲生 勝
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2068a0		

「基礎演習 I」は、2年次以降の高度化した専門教育に入っていくための導入・応用と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを同時にしつつ、さらには、その両者を組み合わせて高度化させることまでを目的とする。そのねらいは、受講生が本学部における多様で充実した専門的な研究内容にかんする学修への展望をもつことを基盤にして、卒論にいたる具体的な研究イメージを醸成できるようになること、および、各自の興味・関心を発展させた形で、社会課題とも共振する形に洗練させた目的意識をもちつつ研究を進められるようになること、つまりは、「セルフ・メイド・コア・カリキュラム」という形に個人の志向性と学問の諸分野を共振させつつ照応させる力を手に入れることである。こうした目的を達成するため、本授業では (A) 学部での教育/研究内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事を明確化することで、社会学の諸学問領域や社会課題との関連をつかんで行くことを目指した内容が中心的に提供される。

到達目標
 ①受講生が、学部での教育/研究内容の特徴・方向性を理解することができる。
 ②受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を考察し、説明できる。

授業方法と留意点
 少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	学修と研究、将来のために 1	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (前半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
2	学修と研究、将来のために 2	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (後半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育/研究 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育/研究 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育/研究 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育/研究 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育/研究 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育/研究 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育/研究 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育/研究 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育/研究 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育/研究 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 1)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 2)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 3)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ, 初年次演習

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	各担当教員の指示による		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加状況(受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。
学生への メッセージ	本学部は、同一コマに重なって設定される授業を極力減らすことで、選択科目同士のバッティングを回避している。これは、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』を支援するための仕組みである。この仕組みをいかに活用するかが、本学部での学習の成否につながる。しかし、社会学は高校で学修していない科目であるため、半年の社会学学修をするだけで、視野が大きく拡がることもある。そのため、半年前や1年前の決定にこだわらない大胆な履修計画の改編が適切な場合も生じてくる。『基礎演習Ⅰ』の担当教員は、担任でもあるので、困ったり悩んだりしたら積極的に相談してほしい。かならずや有意義な助言がえられることだろう。
担当者の 研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Basic Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松本 恭幸
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2068a0		

「基礎演習 I」は、2年次以降の高度化した専門教育に入っていくための導入・応用と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを同時に進めつつ、さらには、その両者を組み合わせて高度化させることまでを目的とする。そのねらいは、受講生が本学部における多様で充実した専門的な研究内容にかんする学修への展望をもつことを基盤にして、卒論にいたる具体的な研究イメージを醸成できるようになること、および、各自の興味・関心を発展させた形で、社会課題とも共振する形に洗練させた目的意識をもちつつ研究を進められるようになること、つまりは、「セルフ・メイド・コア・カリキュラム」という形に個人の志向性と学問の諸分野を共振させつつ照応させる力を手に入れることである。こうした目的を達成するため、本授業では (A) 学部での教育/研究内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事を明確化することで、社会学の諸学問領域や社会課題との関連をつかんで行くことを目指した内容が中心的に提供される。

到達目標
 ①受講生が、学部での教育/研究内容の特徴・方向性を理解することができる。
 ②受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を考察し、説明できる。

授業方法と留意点
 少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	学修と研究、将来のために 1	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (前半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
2	学修と研究、将来のために 2	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (後半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育/研究 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育/研究 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育/研究 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育/研究 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育/研究 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育/研究 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育/研究 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育/研究 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育/研究 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育/研究 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 1)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 2)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 3)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ, 初年次演習

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	各担当教員の指示による		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加状況(受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。
学生への メッセージ	本学部は、同一コマに重なって設定される授業を極力減らすことで、選択科目同士のバッティングを回避している。これは、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』を支援するための仕組みである。この仕組みをいかに活用するかが、本学部での学習の成否につながる。しかし、社会学は高校で学修していない科目であるため、半年の社会学学修をするだけで、視野が大きく拡がることもある。そのため、半年前や1年前の決定にこだわらない大胆な履修計画の改編が適切な場合も生じてくる。『基礎演習Ⅰ』の担当教員は、担任でもあるので、困ったり悩んだりしたら積極的に相談してほしい。かならずや有意義な助言がえられることだろう。
担当者の 研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Basic Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤井 和佐
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2068a0		

「基礎演習 I」は、2年次以降の高度化した専門教育に入っていくための導入・応用と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを同時にしつつ、さらには、その両者を組み合わせて高度化させることまでを目的とする。そのねらいは、受講生が本学部における多様で充実した専門的な研究内容にかんする学修への展望をもつことを基盤にして、卒論にいたる具体的な研究イメージを醸成できるようになること、および、各自の興味・関心を発展させた形で、社会課題とも共振する形に洗練させた目的意識をもちつつ研究を進められるようになること、つまりは、「セルフ・メイド・コア・カリキュラム」という形に個人の志向性と学問の諸分野を共振させつつ照応させる力を手に入れることである。こうした目的を達成するため、本授業では (A) 学部での教育／研究内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事を明確化することで、社会学の諸学問領域や社会課題との関連をつかんで行くことを目指した内容が中心的に提供される。

到達目標
 ①受講生が、学部での教育／研究内容の特徴・方向性を理解することができる。
 ②受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を考察し、説明できる。

授業方法と留意点
 少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	学修と研究、将来のために 1	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (前半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
2	学修と研究、将来のために 2	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (後半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育／研究 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育／研究 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育／研究 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育／研究 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育／研究 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育／研究 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育／研究 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育／研究 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育／研究 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育／研究 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 1)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 2)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 3)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ, 初年次演習

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	各担当教員の指示による		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加状況(受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。
学生への メッセージ	本学部は、同一コマに重なって設定される授業を極力減らすことで、選択科目同士のバッティングを回避している。これは、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』を支援するための仕組みである。この仕組みをいかに活用するかが、本学部での学習の成否につながる。しかし、社会学は高校で学修していない科目であるため、半年の社会学学修をするだけで、視野が大きく拡がることもある。そのため、半年前や1年前の決定にこだわらない大胆な履修計画の改編が適切な場合も生じてくる。『基礎演習Ⅰ』の担当教員は、担任でもあるので、困ったり悩んだりしたら積極的に相談してほしい。かならずや有意義な助言がえられることだろう。
担当者の 研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Basic Seminar I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	江口 怜
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2068a0		

「基礎演習 I」は、2年次以降の高度化した専門教育に入っていくための導入・応用と、受講生自身の興味関心をより明確にすることを同時に進めつつ、さらには、その両者を組み合わせて高度化させることまでを目的とする。そのねらいは、受講生が本学部における多様で充実した専門的な研究内容にかんする学修への展望をもつことを基盤にして、卒論にいたる具体的な研究イメージを醸成できるようになること、および、各自の興味・関心を発展させた形で、社会課題とも共振する形に洗練させた目的意識をもちつつ研究を進められるようになること、つまりは、「セルフ・メイド・コア・カリキュラム」という形に個人の志向性と学問の諸分野を共振させつつ照応させる力を手に入れることである。こうした目的を達成するため、本授業では (A) 学部での教育／研究内容の特徴・方向性を知ること、(B) 自分の関心事を明確化することで、社会学の諸学問領域や社会課題との関連をつかんで行くことを目指した内容が中心的に提供される。

到達目標
 ①受講生が、学部での教育／研究内容の特徴・方向性を理解することができる。
 ②受講生が自分自身の興味関心を把握し、それをふまえた学修の方向性を考察し、説明できる。

授業方法と留意点
 少人数ゼミナール形式を基本として、講義形式、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどを織り交ぜつつ行う。課題や質問等についてのフィードバックは日常的に行う。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	学修と研究、将来のために 1	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (前半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
2	学修と研究、将来のために 2	本授業を受講する際の注意点 (前半課題と後半課題の別, その他)、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』の理念把握と作成指導 (後半)	事前: 担当教員指定のテキストを読んでおく 事後: 資料を参照して内容を定着させる
3	学部での教育／研究 1	学部教員の研究を知る 1	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
4	学部での教育／研究 2	学部教員の研究を知る 2	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
5	学部での教育／研究 3	学部教員の研究を知る 3	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
6	学部での教育／研究 4	学部教員の研究を知る 4	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
7	学部での教育／研究 5	学部教員の研究を知る 5	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
8	学部での教育／研究 6	学部教員の研究を知る 6	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
9	学部での教育／研究 7	学部教員の研究を知る 7	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
10	学部での教育／研究 8	学部教員の研究を知る 8	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
11	学部での教育／研究 9	学部教員の研究を知る 9	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
12	学部での教育／研究 10	学部教員の研究を知る 10	事前: 資料を読んでおく 事後: 授業内容と自分の学びの方向性との関連を考える
13	自分の関心事 1	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 1)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
14	自分の関心事 2	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 2)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり
15	自分の関心事 3	自分の関心事・問題意識をプレゼンテーションする (その 3)	事前: 報告の準備 事後: 授業内容のふりかえり

関連科目 初年次ゼミ, 初年次演習

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	各担当教員の指示による		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加状況(受講態度、課題の提出、ディスカッション、プレゼンテーション)、発表内容などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。
学生への メッセージ	本学部は、同一コマに重なって設定される授業を極力減らすことで、選択科目同士のバッティングを回避している。これは、『セルフ・メイド・コア・カリキュラム』を支援するための仕組みである。この仕組みをいかに活用するかが、本学部での学習の成否につながる。しかし、社会学は高校で学修していない科目であるため、半年の社会学学修をするだけで、視野が大きく拡がることもある。そのため、半年前や1年前の決定にこだわらない大胆な履修計画の改編が適切な場合も生じてくる。『基礎演習Ⅰ』の担当教員は、担任でもあるので、困ったり悩んだりしたら積極的に相談してほしい。かならずや有意義な助言がえられることだろう。
担当者の 研究室等	3号館3階、各担当者の研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Basic Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浅野 慎一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2069a0		

授業概要・目的	本演習は、現代社会学科での卒業論文に向けた専門的な学修を進めるための、導入的かつ基礎的な演習の授業として実施される。具体的には、①学生一人ひとりの興味関心・問題意識をより明確にするための基礎調査・プレゼンテーション・ディスカッション、および、②社会学・社会変動論の深い思考力を鍛えるための文献購読を行う。さらに時間に余裕があれば、③フィールドワーク・インタビュー調査を実施する。
到達目標	① 社会的な研究課題を探索するために、幅広く諸情報を収集し、かつ、主体的に吟味できるようになる。 ② 社会的文献の共同読解を通して、自らが選んだ特定の問題についてその多面性を、的確に論じることができるようになる。 ③ 社会学的研究法に関して、課題の質と目的に適合した適切な方法を見極め、選択して使える技能を身につける。
授業方法と留意点	教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。具体的には、前半は受講生のプレゼンテーションとそれを素材としたディスカッションを行う。それが一定程度、進んだ時点で、それらを通底する社会学・社会変動論の方法論に関する文献を購読する。さらに時間に余裕があれば、フィールドワーク・インタビュー調査を実施する。
科目学習の効果(資格)	本講は、あらゆる社会的テーマを考える基礎になる社会変動論の知見・方法論を学ぶ。したがって、現代社会学部の他のすべての授業科目の学修に際しても、それらをより深く理解できるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	卒業研究の課題決定までにどのような作業が必要なのかの確認。 本講の授業計画・授業方法の説明。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	2	私の現代社会学①	担当教員が、自身の研究成果・今後の研究課題についてプレゼンテーションを行う。 受講生は、それをふまえて批判的にディスカッションする。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	3	私の現代社会学②	受講生数名が、自身の興味関心・問題意識に基づき、プレゼンテーションを行う。それをふまえて全員で、ディスカッションを行う。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	4	私の現代社会学③	受講生数名が、自身の興味関心・問題意識に基づき、プレゼンテーションを行う。それをふまえて全員で、ディスカッションを行う。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	5	私の現代社会学④	受講生数名が、自身の興味関心・問題意識に基づき、プレゼンテーションを行う。それをふまえて全員で、ディスカッションを行う。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	6	私の現代社会学⑤ 購読テキストの決定。	受講生数名が、自身の興味関心・問題意識に基づき、プレゼンテーションを行う。それをふまえて全員で、ディスカッションを行う。 これまでの演習をふまえ、受講者・教員を含む全員で討議して1冊または2冊のテキストを決定する。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	7	社会変動論を学ぶ①	テキストに基づいてディスカッションを行う。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	8	社会変動論を学ぶ②	テキストに基づいてディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	9	社会変動論を学ぶ③	テキストに基づいてディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	10	社会変動論を学ぶ④	テキストに基づいてディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	11	社会変動論を学ぶ⑤	テキストに基づいてディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	12	フィールドワーク・インタビュー調査	現時点では外国人労働者・中国帰国者、ワーカーズコープで働く人などへのインタビューを予定しているが、受講者の興味関心・問題意識に応じて、調査対象は再検討する。 なおフィールドワークは相手側との日程・時間調整が必要であるため、開催の日時を変更する可能性がある。また時間の関係上、フィールドワークは主に次年度に実施する可能性もある。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	13	調査の結果報告①	前回、フィールドワークが実施できた場合、各自がインタビュー結果を要約してプレゼンテーションし、全員でディスカッション・分析する。 以下、インタビューした人数に応じて、同様の報告会を重ねる。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	14	社会変動論を学ぶ⑥ または、調査の報告②	テキストに基づいてディスカッションを行う。 または、インタビュー調査の報告に基づいてディスカッション・分析を行う。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
15	社会変動論を学ぶ⑦ または、調査の報告③	テキストに基づいてディスカッションを行う。 または、インタビュー調査の報告に基づ	事前：これまでの内容の振り返り	

			いてディスカッション・分析を行う。	
関連科目	日本社会変動史、社会構造変動史、人間環境の社会学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の準備状況、発表内容、ディスカッションへの参加状況を総合的に評価し、60%以上を合格とする。			
学生への メッセージ	本講は、興味関心の分野・領域は問いません。ただし、いかなるテーマについても、それを社会構造・変動の一環として認識し、その観点からの深い思考力を養いたいと思います。そのためにも、良い意味での批判的思考力を身につけたいと考える学生諸君の受講を期待します。			
担当者の 研究室等	3号館3階・浅野研究室			
備考	60時間程度の事前・事後学習をすること。			

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Basic Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山本 圭三
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2069a0		

授業概要・目的	本演習は、現代社会学科での卒業論文に向けた専門的な学修を進めるための、導入的かつ基礎的な演習の授業として、二つの目標を達成するために実施される。一つ目の目標は、積極的に主体的な学修姿勢を身につけることである。二つ目の目標は社会問題を、自分ごとの問題として考えることができるようになることであり、ゼミ仲間との相互的な影響関係を深めながらの学修によって、この目標を達成する。授業では文献輪読、研究発表とディスカッション、調査・分析などのさまざまな方法を取り入れつつ学修を進める。
到達目標	① 社会的な研究課題を探索するために、幅広く諸情報を収集し、かつ、主体的に吟味できるようになる。 ② 社会的文献の共同読解を通して、自らが選んだ特定の問題についてその多面性を、的確に論じることができるようになる。 ③ 社会的研究方法に関して、課題の質と目的に適合した適切な方法を見極め、選択して使える技能を身につける。
授業方法と留意点	教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。いくつかのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、発表、ディスカッションを行うとともに、テーマに関する調査・分析などを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	テーマⅠの設定	取り上げるテーマⅠを設定する	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
3	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅠに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
4	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅠに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
5	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅠに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
6	調査	テーマⅠに関する調査・分析等を行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
7	調査	テーマⅠに関する調査・分析等を行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
8	プレゼンテーション	テーマⅠに関してプレゼンテーションを行い、ディスカッションする	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
9	テーマⅡの設定	取り上げるテーマⅡを設定する	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
10	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅡに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
11	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅡに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
12	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅡに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
13	調査	テーマⅡに関する調査・分析等を行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
14	調査	テーマⅡに関する調査・分析等を行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
15	プレゼンテーション	テーマⅡに関してプレゼンテーションを行い、ディスカッションする	事前：これまでの内容の振り返り

関連科目	産業労働社会学、仕事とくらしの社会学、社会調査入門、社会調査法、基礎統計学、社会統計学、多変量解析法、社会調査実習、卒業研究
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎社会学講義	小林久高	学文社
	2			
	3			

評価方法(基準)	毎回の準備状況、発表内容、ディスカッションへの参加状況を総合的に評価し、60%以上を合格とする。
----------	--

学生へのメッセージ	この授業では、「覚える」ことではなく、「考える」ことをとにかく重視します。授業を通して、受講生の皆さんが大いに成長してくれることを期待します。
-----------	---

担当者の研究室等	3号館3階山本研究室
----------	------------

備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度
----	----------------------

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Basic Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2069a0		

授業概要・目的	本演習は、現代社会学科での卒業論文に向けた専門的な学修を進めるための、導入的かつ基礎的な演習の授業として、二つの目標を達成するために実施される。一つ目の目標は、積極的に主体的な学修姿勢を身につけることである。二つ目の目標は社会問題を、自分ごとの問題として考えることができるようになることであり、ゼミ仲間との相互的な影響関係を深めながらの学修によって、この目標を達成する。授業では文献輪読、研究発表とディスカッション、調査・分析などのさまざまな方法を取り入れつつ学修を進める。
到達目標	① 社会的な研究課題を探索するために、幅広く諸情報を収集し、かつ、主体的に吟味できるようになる。 ② 社会的文献の共同読解を通して、自らが選んだ特定の問題についてその多面性を、的確に論じることができるようになる。 ③ 社会的研究方法に関して、課題の質と目的に適合した適切な方法を見極め、選択して使える技能を身につける。
授業方法と留意点	教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。いくつかのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、発表、ディスカッションを行うとともに、テーマに関する調査・分析などを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	卒業研究の課題決定までにどのような作業が必要なのかの確認	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
2	テーマⅠの設定	取り上げるテーマⅠを設定する	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
3	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅠに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
4	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅠに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
5	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅠに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
6	調査	テーマⅠに関する調査・分析等を行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
7	調査	テーマⅠに関する調査・分析等を行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
8	プレゼンテーション	テーマⅠに関してプレゼンテーションを行い、ディスカッションする	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
9	テーマⅡの設定	取り上げるテーマⅡを設定する	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
10	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅡに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
11	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅡに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
12	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅡに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
13	調査	テーマⅡに関する調査・分析等を行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
14	調査	テーマⅡに関する調査・分析等を行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
15	プレゼンテーション	テーマⅡに関してプレゼンテーションを行い、ディスカッションする	事前：これまでの内容の振り返り

関連科目	
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	毎回の準備状況、発表内容、ディスカッションへの参加状況を総合的に評価し、60%以上を合格とする。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	本講義では、調査および活動の準備、ふりかえりなど、事前事後学習に計60時間取り組んでいただきます。

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Basic Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	岩井 八郎
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2069a0		

授業概要・目的	本演習は、現代社会学科での卒業論文に向けた専門的な学修を進めるための、導入的かつ基礎的な演習の授業として、二つの目標を達成するために実施される。一つ目の目標は、積極的に主体的な学修姿勢を身につけることである。二つ目の目標は社会問題を、自分ごとの問題として考えることができるようになることであり、ゼミ仲間との相互的な影響関係を深めながらの学修によって、この目標を達成する。授業では文献輪読、研究発表とディスカッション、調査・分析などのさまざまな方法を取り入れつつ学修を進める。
到達目標	① 社会学的な研究課題を探索するために、幅広く諸情報を収集し、かつ、主体的に吟味できるようになる。 ② 社会的文献の共同読解を通して、自らが選んだ特定の問題についてその多面性を、的確に論じることができるようになる。 ③ 社会学的研究方法に関して、課題の質と目的に適合した適切な方法を見極め、選択して使える技能を身につける。
授業方法と留意点	教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。いくつかのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、発表、ディスカッションを行うとともに、テーマに関する調査・分析などを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	卒業研究の課題決定までにどのような作業が必要なのかの確認	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
2	テーマⅠの設定	取り上げるテーマⅠを設定する	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
3	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅠに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
4	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅠに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
5	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅠに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
6	調査	テーマⅠに関する調査・分析等を行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
7	調査	テーマⅠに関する調査・分析等を行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
8	プレゼンテーション	テーマⅠに関してプレゼンテーションを行い、ディスカッションする	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
9	テーマⅡの設定	取り上げるテーマⅡを設定する	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
10	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅡに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
11	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅡに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
12	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅡに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
13	調査	テーマⅡに関する調査・分析等を行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
14	調査	テーマⅡに関する調査・分析等を行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
15	プレゼンテーション	テーマⅡに関してプレゼンテーションを行い、ディスカッションする	事前：これまでの内容の振り返り

関連科目	社会統計学、多変量解析を受講していることが望ましい
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	毎回の準備状況、発表内容、ディスカッションへの参加状況を総合的に評価し、60%以上を合格とする。
----------	--

学生へのメッセージ	自分の研究テーマを育てましょう
-----------	-----------------

担当者の研究室等	3号館3階315(岩井研究室)
----------	-----------------

備考	事前学習(個人発表の準備など)と事後学習(コメントをもとに発表資料の修正、改善)を合わせて、概ね30時間程度、最終レポート準備のために概ね30時間程度
----	---

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Basic Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	堀田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2069a0		

授業概要・目的	本演習は、現代社会学科での卒業論文に向けた専門的な学修を進めるための、導入的かつ基礎的な演習の授業として、二つの目標を達成するために実施される。一つ目の目標は、積極的に主体的な学修姿勢を身につけることである。二つ目の目標は社会問題を、自分ごとの問題として考えることができるようになることであり、ゼミ仲間との相互的な影響関係を深めながらの学修によって、この目標を達成する。授業では文献輪読、研究発表とディスカッション、調査・分析などのさまざまな方法を取り入れつつ学修を進める。
到達目標	① 社会的な研究課題を探索するために、幅広く諸情報を収集し、かつ、主体的に吟味できるようになる。 ② 社会的文献の共同読解を通して、自らが選んだ特定の問題についてその多面性を、的確に論じることができるようになる。 ③ 社会的研究方法に関して、課題の質と目的に適合した適切な方法を見極め、選択して使える技能を身につける。
授業方法と留意点	教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。いくつかのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、発表、ディスカッションを行うとともに、テーマに関する調査・分析などを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。

科目学習の効果(資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>卒業研究の決定に向けて必要なプロセスを確認し、自己紹介と構想中の卒業研究テーマの紹介を行う</td> <td>事前：シラバスの閲読、紹介の準備 事後：授業内容とコメントの整理</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>研究テーマⅠの設定</td> <td>ディスカッションを通じて研究テーマⅠ(グループ研究)を設定する</td> <td>事前：研究テーマⅠを考えてくる 事後：研究テーマⅠの構想</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>文献の輪読・発表・ディスカッションなど</td> <td>テーマⅠに関する資料を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う</td> <td>事前：資料収集、プレゼン準備 事後：ディスカッション内容の整理・考察</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文献の輪読・発表・ディスカッションなど</td> <td>テーマⅠに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う</td> <td>事前：資料・文献収集、プレゼン準備 事後：ディスカッション内容の整理・考察</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>文献の輪読・発表・ディスカッションなど</td> <td>テーマⅠに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う</td> <td>事前：資料・文献収集、プレゼン準備 事後：ディスカッション内容の整理・考察</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>調査・分析</td> <td>テーマⅠに関する調査・分析等を行う</td> <td>事前：調査設計 事後：調査結果の整理</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>考察とディスカッション</td> <td>テーマⅠに関する考察とディスカッションを行う</td> <td>事前：調査結果についての考察 事後：分析と考察のつづき</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>テーマⅠに関してプレゼンテーションを行い、ディスカッションする</td> <td>事前：プレゼン準備 事後：ディスカッション内容の整理・考察</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>研究テーマⅡの設定</td> <td>ディスカッションを通じて研究テーマⅡ(個人研究)を設定する</td> <td>事前：研究テーマⅡを考えてくる 事後：研究テーマⅡの構想</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>文献の輪読・発表・ディスカッションなど</td> <td>テーマⅡに関する資料を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う</td> <td>事前：資料収集、プレゼン準備 事後：ディスカッション内容の整理・考察</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>文献の輪読・発表・ディスカッションなど</td> <td>テーマⅡに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う</td> <td>事前：資料・文献収集、プレゼン準備 事後：ディスカッション内容の整理・考察</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>文献の輪読・発表・ディスカッションなど</td> <td>テーマⅡに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う</td> <td>事前：資料・文献収集、プレゼン準備 事後：ディスカッション内容の整理・考察</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>調査・分析</td> <td>テーマⅡに関する調査・分析等を行う</td> <td>事前：調査設計 事後：調査結果の整理</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>考察とディスカッション</td> <td>テーマⅡに関する考察とディスカッションを行う</td> <td>事前：調査結果についての考察 事後：分析と考察のつづき</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>テーマⅡに関してプレゼンテーションを行い、ディスカッションする</td> <td>事前：プレゼン準備 事後：ディスカッション内容の整理・考察</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	卒業研究の決定に向けて必要なプロセスを確認し、自己紹介と構想中の卒業研究テーマの紹介を行う	事前：シラバスの閲読、紹介の準備 事後：授業内容とコメントの整理	2	研究テーマⅠの設定	ディスカッションを通じて研究テーマⅠ(グループ研究)を設定する	事前：研究テーマⅠを考えてくる 事後：研究テーマⅠの構想	3	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅠに関する資料を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	事前：資料収集、プレゼン準備 事後：ディスカッション内容の整理・考察	4	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅠに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	事前：資料・文献収集、プレゼン準備 事後：ディスカッション内容の整理・考察	5	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅠに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	事前：資料・文献収集、プレゼン準備 事後：ディスカッション内容の整理・考察	6	調査・分析	テーマⅠに関する調査・分析等を行う	事前：調査設計 事後：調査結果の整理	7	考察とディスカッション	テーマⅠに関する考察とディスカッションを行う	事前：調査結果についての考察 事後：分析と考察のつづき	8	プレゼンテーション	テーマⅠに関してプレゼンテーションを行い、ディスカッションする	事前：プレゼン準備 事後：ディスカッション内容の整理・考察	9	研究テーマⅡの設定	ディスカッションを通じて研究テーマⅡ(個人研究)を設定する	事前：研究テーマⅡを考えてくる 事後：研究テーマⅡの構想	10	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅡに関する資料を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	事前：資料収集、プレゼン準備 事後：ディスカッション内容の整理・考察	11	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅡに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	事前：資料・文献収集、プレゼン準備 事後：ディスカッション内容の整理・考察	12	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅡに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	事前：資料・文献収集、プレゼン準備 事後：ディスカッション内容の整理・考察	13	調査・分析	テーマⅡに関する調査・分析等を行う	事前：調査設計 事後：調査結果の整理	14	考察とディスカッション	テーマⅡに関する考察とディスカッションを行う	事前：調査結果についての考察 事後：分析と考察のつづき	15	プレゼンテーション	テーマⅡに関してプレゼンテーションを行い、ディスカッションする	事前：プレゼン準備 事後：ディスカッション内容の整理・考察
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																														
1	オリエンテーション	卒業研究の決定に向けて必要なプロセスを確認し、自己紹介と構想中の卒業研究テーマの紹介を行う	事前：シラバスの閲読、紹介の準備 事後：授業内容とコメントの整理																																																														
2	研究テーマⅠの設定	ディスカッションを通じて研究テーマⅠ(グループ研究)を設定する	事前：研究テーマⅠを考えてくる 事後：研究テーマⅠの構想																																																														
3	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅠに関する資料を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	事前：資料収集、プレゼン準備 事後：ディスカッション内容の整理・考察																																																														
4	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅠに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	事前：資料・文献収集、プレゼン準備 事後：ディスカッション内容の整理・考察																																																														
5	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅠに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	事前：資料・文献収集、プレゼン準備 事後：ディスカッション内容の整理・考察																																																														
6	調査・分析	テーマⅠに関する調査・分析等を行う	事前：調査設計 事後：調査結果の整理																																																														
7	考察とディスカッション	テーマⅠに関する考察とディスカッションを行う	事前：調査結果についての考察 事後：分析と考察のつづき																																																														
8	プレゼンテーション	テーマⅠに関してプレゼンテーションを行い、ディスカッションする	事前：プレゼン準備 事後：ディスカッション内容の整理・考察																																																														
9	研究テーマⅡの設定	ディスカッションを通じて研究テーマⅡ(個人研究)を設定する	事前：研究テーマⅡを考えてくる 事後：研究テーマⅡの構想																																																														
10	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅡに関する資料を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	事前：資料収集、プレゼン準備 事後：ディスカッション内容の整理・考察																																																														
11	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅡに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	事前：資料・文献収集、プレゼン準備 事後：ディスカッション内容の整理・考察																																																														
12	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅡに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	事前：資料・文献収集、プレゼン準備 事後：ディスカッション内容の整理・考察																																																														
13	調査・分析	テーマⅡに関する調査・分析等を行う	事前：調査設計 事後：調査結果の整理																																																														
14	考察とディスカッション	テーマⅡに関する考察とディスカッションを行う	事前：調査結果についての考察 事後：分析と考察のつづき																																																														
15	プレゼンテーション	テーマⅡに関してプレゼンテーションを行い、ディスカッションする	事前：プレゼン準備 事後：ディスカッション内容の整理・考察																																																														

関連科目	自我と関係の社会学、ジェンダー論、身体とコミュニケーション
------	-------------------------------

教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

評価方法(基準)	毎回の準備状況、発表内容、ディスカッションへの参加状況を総合的に評価し、60%以上を合格とする。
----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	3号館3階・堀田研究室
----------	-------------

備考	【事前・事後学習に要する時間数の目安】 事前学習(資料収集・プレゼン準備など)：各2時間程度 事後学習(ディスカッション内容の整理・考察など)：各2時間程度
----	--

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Basic Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷 めぐみ
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2069a0		

授業概要・目的	本演習は、現代社会学科での卒業論文に向けた専門的な学修を進めるための、導入的かつ基礎的な演習の授業として、二つの目標を達成するために実施される。一つ目の目標は、積極的に主体的な学修姿勢を身につけることである。二つ目の目標は社会問題を、自分ごとの問題として考えることができるようになることであり、ゼミ仲間との相互的な影響関係を深めながらの学修によって、この目標を達成する。授業では文献輪読、研究発表とディスカッション、調査・分析などのさまざまな方法を取り入れつつ学修を進める。
到達目標	① 社会的な研究課題を探索するために、幅広く諸情報を収集し、かつ、主体的に吟味できるようになる。 ② 社会的文献の共同読解を通して、自らが選んだ特定の問題についてその多面性を、的確に論じることができるようになる。 ③ 社会学的研究方法に関して、課題の質と目的に適合した適切な方法を見極め、選択して使える技能を身につける。
授業方法と留意点	教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。いくつかのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、発表、ディスカッションを行うとともに、テーマに関する調査・分析などを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。

科目学習の 効果(資格)	
-----------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	卒業研究の課題決定までにどのような作業が必要なのかの確認	事前：シラバスの確認 事後：講義のふりかえり
2	テーマⅠの設定	取り上げるテーマⅠを設定する	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
3	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅠに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
4	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅠに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
5	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅠに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
6	調査	テーマⅠに関する調査・分析等を行う	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
7	調査	テーマⅠに関する調査・分析等を行う	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
8	プレゼンテーション	テーマⅠに関してプレゼンテーションを行い、ディスカッションする	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
9	テーマⅡの設定	取り上げるテーマⅡを設定する	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
10	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅡに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
11	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅡに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
12	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅡに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
13	調査	テーマⅡに関する調査・分析等を行う	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
14	調査	テーマⅡに関する調査・分析等を行う	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり
15	プレゼンテーション	テーマⅡに関してプレゼンテーションを行い、ディスカッションする	事前：テーマに関する予習 事後：講義のふりかえり

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	毎回の準備状況、発表内容、ディスカッションへの参加状況を総合的に評価し、60%以上を合格とする。
----------	--

学生へのメッセージ	身近な出来事や社会課題に目を向けながら、みなさんの興味・関心の具体化に向けてともに学び合いましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	
----------	--

備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度
----	----------------------

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Basic Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	樫田 美雄
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2069a0		

授業概要・目的	<p>(1) 現代社会学部では卒業論文作成に向けた「卒論ゼミ」が2年後期から開始される。本ゼミ(「基礎演習Ⅱ」)は、その第1段階目である。つまり、本ゼミは3年前期の半年と、3年後期の半年を合わせて、総合計1年半の一貫したプログラムのスタートの半年である。従って、まずは「思考を鍛えるための読書」という、世界との対峙の仕方があることを理解してもらうための訓練から始める。</p> <p>(2) どうじに、大学生活の後半の2年半を「ゼミ仲間」として共に過ごす学友との出会いの機会でもあるので、その出会いが有意義なものとなるお膳立てをしよう。そのためには、半日単位の連続的集中が必要になる。したがって、この「卒論ゼミ」では、1年半の間に、土曜日の通い合宿、長期休暇中のゼミ合宿等が複数回行われることになる。</p> <p>(3) なお、本ゼミ(「樫田卒論ゼミ」という名称になる予定)の担当教員の研究上の立場は、エスノメソドロジー・会話分析(相互行為分析とも呼ばれる)なので、輪読教科書は、この分野の方法論に依拠したものが指定される。しかし、じっさいの研究対象に制限はない。テレビドラマ、映画、ドキュメンタリー、小説、医療現場、福祉場面、商業活動、学習活動、趣味生活、旅行、読書等々、人間世界で行われているすべての活動が卒業研究の対象とされてよい。それらへの期待を自由に語ってもらう時間も取る。</p>
到達目標	<p>① 「知識をえるための読書」とは別に、「思考を鍛えるための読書」があることを理解でき、かつ、後者の思考するための読書が初歩的な形であっても、実践できるようにする。</p> <p>② エスノメソドロジー・会話分析領域のものを中心とした社会学文献の共同読解を通して、自らが選んだ特定の問題についてその多様性や、思いもかけなさを、的確に論じることができるようになる。</p> <p>③ 録音機材や録画機材(例:インスタ 360 x 3)のような研究ツールに関して、課題の質と目的に適合した適切な利用方法を見極め、選択して使える技能を身につける。</p>
授業方法と留意点	<p>(1) 教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。本の読み方教材に関しては、グループワークを行う。教科書の輪読に関しては、分担班を設定する。2025年12月の「ゼミ論集用の原稿作成」を視野に入れながら、その準備作業として行うので、そのつもりで付けてきてほしい。</p> <p>(2) すなわち、毎週の授業については①文献輪読(1年半かけて3冊を並行して読むハイブリッドな試みを行う)に直接的には注意を全面注入して欲しい。それと同時に②学期末の班での研究発表に向けて、そのネタ探しも行ってほしい。(3) 班活動では、フリーライダーにならないよう、自発性を発揮して活動してほしい。</p>
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介(6回目で自分の読書体験の紹介を行うことの準備兼用)。幹事決め。授業の概要説明。3年の12月に、どのような「ゼミ論集用の原稿」を提出すればよいかのイメージ固め。	事前学習: シラバスを熟読玩味し、質問を考えてくる。教員の指示に基づいて事後学習を行う
2	日常性の社会学概説、および、その論文化例としての「デイケアの社会学」の内容確認、と、鶴田浩二 1974, 荒井克弘 2018, ほかの教材の配布	樫田美雄, 1995, 「デイケアの社会学-K市中間施設における観察記録から」 in 『臨床心理学研究』33巻1号, p16-28の講読。ゼミ中は「書くように発言する」を実行しよう。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う	
3	読書論(1): 朝日新聞 2024と鶴田浩二 1974	教材を用いたグループワーク 鶴田浩二の論理の適否よりもその熱情の意義を検討する(文脈を調べながら読む実践)	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う	
4	読書論(2): 加藤典洋 2001	教材を用いたグループワーク なぜ中原中也の価値を加藤が維持するのか、そのなぞを考える(相互行為的読書論を当てはめた読解法実践)	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う	
5	読書論(3): 鶴見俊輔 1982(参考文献として、サミュエル・ジョンソン『幸福の探求: アビシニアの王子ラセラスの物語』も見る)	教材を用いたグループワークと、小括→「読書論」の間は、事後学習として、図書館に行って、マイナーなメディアに掲載された、いままで読まなかった文章を読んで、6回目に獲得した読書体験を報告する	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う	
6	ワークショップ・・・「Kゼミの本の読み方10箇条」とそのための教材集を作ろう(撮影付き)	モデルは、『保健医療社会学論集』の論文投稿と査読の10箇条。(お茶会としての実施も検討)	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う	
7	道具利用の在宅療養学(講演) (先方の都合で、日程が前後する可能性あり。変更時には、早めに連絡をする)	講演聴取後は、講師の助言も受けながら、班活動で今後データ収集と分析をしていくためのキックオフ会議を行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う	
8	教科書講読(1)とデータ用撮影準備	第1章「言葉を使うこと」 in 『エスノメソドロジーを学ぶ人のために』	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う	
9	教科書講読(2)データ用撮影準備	第2章「道具を使うこと」 in 『エスノメソドロジーを学ぶ人のために』	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う	
10	教科書講読(3)とデータ整理法確認	「アグネス、彼女はいかにして女になり続けたか」(前半) in 『エスノメソドロジー: 社会学的思考の解体』	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う	
11	教科書講読(4)と文字起し分担決め	「アグネス、彼女はいかにして女になり続けたか」(前半) in 『エスノメソドロジー: 社会学的思考の解体』(関連論文の講読も含む)・・・このころ、通い合	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う	

			宿で進度調整を図る																	
	12	教科書講読 (5) と分析 (1 回目)	第 1 章「K は精神病だ」(前半) in 『エスノメソドロジー：社会学的思考の解体』(関連論文の講読も含む)・・・このころ、通い合宿で進度調整を図る	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う																
	13	教科書講読 (6) と分析 (2 回目)	第 1 章「K は精神病だ」(後半) in 『エスノメソドロジー：社会学的思考の解体』(関連論文の講読も含む)・・・このころ、通い合宿で進度調整を図る	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う																
	14	レポート構想発表会 (班別)	各班が準備してきたデータについて、最終的に発表化する道筋を立てる	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う																
	15	レポート発表会 (班別)	各班が準備してきた発表に関してプレゼンテーションを行い、ディスカッションする	事前：これまでの内容の振り返り																
関連科目	現代社会学入門, 日常生活世界論, 文化社会学, 初年次ゼミ, 初年次演習, 基礎演習 I, ビデオ・エスノグラフィー																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>エスノメソドロジーを学ぶ人のために</td> <td>串田秀也・好井裕明編</td> <td>世界思想社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>エスノメソドロジー：社会学的思考の解体</td> <td>ハロルド・ガーフィンケルほか</td> <td>せりか書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	エスノメソドロジーを学ぶ人のために	串田秀也・好井裕明編	世界思想社	2	エスノメソドロジー：社会学的思考の解体	ハロルド・ガーフィンケルほか	せりか書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	エスノメソドロジーを学ぶ人のために	串田秀也・好井裕明編	世界思想社																	
2	エスノメソドロジー：社会学的思考の解体	ハロルド・ガーフィンケルほか	せりか書房																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>裁判員裁判の評議を解剖する</td> <td>森本郁代・北村隆憲ほか</td> <td>日本評論社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>エスノメソドロジー：人々の実践から学ぶ</td> <td>前田・水川・岡田編</td> <td>新曜社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>エスノメソドロジー・会話分析ハンドブック</td> <td>山崎圭一ほか編</td> <td>新曜社</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	裁判員裁判の評議を解剖する	森本郁代・北村隆憲ほか	日本評論社	2	エスノメソドロジー：人々の実践から学ぶ	前田・水川・岡田編	新曜社	3	エスノメソドロジー・会話分析ハンドブック	山崎圭一ほか編	新曜社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	裁判員裁判の評議を解剖する	森本郁代・北村隆憲ほか	日本評論社																	
2	エスノメソドロジー：人々の実践から学ぶ	前田・水川・岡田編	新曜社																	
3	エスノメソドロジー・会話分析ハンドブック	山崎圭一ほか編	新曜社																	
評価方法 (基準)	毎回の準備状況、発表内容、ディスカッションへの参加状況を総合的に評価し、60%以上を合格とする。																			
学生へのメッセージ	卒論までの 2 年半を計画的に勉学すれば、たいへん大きな学修が得られます。そのガイドラインになるのが、ゼミです。心してとりくみましょう。なお、現代社会学部は「セルフ・メイド・コア・カリキュラム」が特徴です。ゼミの学修だけでなく、すべての履修可能科目を総合的に活用して、4 年間の学生生活を充実したものにしてください。																			
担当者の研究室等	3 号館 3 階の樫田研究室 (となりが好井研究室)																			
備考	事前事後学習に要する時間は計 60 時間程度																			

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Basic Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後和 美朝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2069a0		

授業概要・目的	本演習は、現代社会学科での卒業論文に向けた専門的な学修を進めるための、導入的かつ基礎的な演習の授業として、二つの目標を達成するために実施される。一つ目の目標は、積極的に主体的な学修姿勢を身につけることである。二つ目の目標は社会問題を、自分ごとの問題として考えることができるようになることであり、ゼミ仲間との相互的な影響関係を深めながらの学修によって、この目標を達成する。授業では文献輪読、研究発表とディスカッション、調査・分析などのさまざまな方法を取り入れつつ学修を進める。
到達目標	① 社会的な研究課題を探索するために、幅広く諸情報を収集し、かつ、主体的に吟味できるようになる。 ② 社会的文献の共同読解を通して、自らが選んだ特定の問題についてその多面性を、的確に論じることができるようになる。 ③ 社会的研究方法に関して、課題の質と目的に適合した適切な方法を見極め、選択して使える技能を身につける。
授業方法と留意点	教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。いくつかのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、発表、ディスカッションを行うとともに、テーマに関する調査・分析などを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	テーマⅠの設定	取り上げるテーマⅠを設定する	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
3	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅠに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
4	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅠに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
5	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅠに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
6	調査	テーマⅠに関する調査・分析等を行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
7	調査	テーマⅠに関する調査・分析等を行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
8	プレゼンテーション	テーマⅠに関してプレゼンテーションを行い、ディスカッションする	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
9	テーマⅡの設定	取り上げるテーマⅡを設定する	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
10	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅡに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
11	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅡに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
12	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅡに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
13	調査	テーマⅡに関する調査・分析等を行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
14	調査	テーマⅡに関する調査・分析等を行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
15	プレゼンテーション	テーマⅡに関してプレゼンテーションを行い、ディスカッションする	事前：これまでの内容の振り返り

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	毎回の準備状況、発表内容、ディスカッションへの参加状況を総合的に評価し、60%以上を合格とする。
学生へのメッセージ	授業には必ず事前準備を行い、能動的、積極的に参加するようにしてください。
担当者の研究室等	3号館3階後和研究室
備考	事前・事後学習：各テーマに対する資料の収集や調査、資料やパワーポイント等の作成とまとめ振り返りに要する時間【60時間程度】

科目名	基礎演習 II	科目名 (英文)	Basic Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	平山 洋介
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2069a0		

授業概要・目的	本演習は、現代社会学科での卒業論文に向けた専門的な学修を進めるための、導入的かつ基礎的な演習の授業として、二つの目標を達成するために実施される。一つ目の目標は、積極的に主体的な学修姿勢を身につけることである。二つ目の目標は社会問題を、自分ごとの問題として考えることができるようになることであり、ゼミ仲間との相互的な影響関係を深めながらの学修によって、この目標を達成する。授業では文献輪読、研究発表とディスカッション、調査・分析などのさまざまな方法を取り入れつつ学修を進める。
到達目標	① 社会的な研究課題を探索するために、幅広く諸情報を収集し、かつ、主体的に吟味できるようになる。 ② 社会的文献の共同読解を通して、自らが選んだ特定の問題についてその多面性を、的確に論じることができるようになる。 ③ 社会学的研究法に関して、課題の質と目的に適合した適切な方法を見極め、選択して使える技能を身につける。
授業方法と留意点	教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。いくつかのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、発表、ディスカッションを行うとともに、テーマに関する調査・分析などを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	テーマの設定	取り上げるテーマを設定する	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
3	文献の輪読・発表・ディスカッション、調査とその結果分析のプレゼンテーションなど	専門分野の文献の輪読・発表・ディスカッション、ならびに関連調査の結果分析のプレゼンテーションなどを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
4	文献の輪読・発表・ディスカッション、調査とその結果分析のプレゼンテーションなど	専門分野の文献の輪読・発表・ディスカッション、ならびに関連調査の結果分析のプレゼンテーションなどを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
5	文献の輪読・発表・ディスカッション、調査とその結果分析のプレゼンテーションなど	専門分野の文献の輪読・発表・ディスカッション、ならびに関連調査の結果分析のプレゼンテーションなどを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
6	文献の輪読・発表・ディスカッション、調査とその結果分析のプレゼンテーションなど	専門分野の文献の輪読・発表・ディスカッション、ならびに関連調査の結果分析のプレゼンテーションなどを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
7	文献の輪読・発表・ディスカッション、調査とその結果分析のプレゼンテーションなど	専門分野の文献の輪読・発表・ディスカッション、ならびに関連調査の結果分析のプレゼンテーションなどを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
8	文献の輪読・発表・ディスカッション、調査とその結果分析のプレゼンテーションなど	専門分野の文献の輪読・発表・ディスカッション、ならびに関連調査の結果分析のプレゼンテーションなどを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
9	文献の輪読・発表・ディスカッション、調査とその結果分析のプレゼンテーションなど	専門分野の文献の輪読・発表・ディスカッション、ならびに関連調査の結果分析のプレゼンテーションなどを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
10	文献の輪読・発表・ディスカッション、調査とその結果分析のプレゼンテーションなど	専門分野の文献の輪読・発表・ディスカッション、ならびに関連調査の結果分析のプレゼンテーションなどを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
11	文献の輪読・発表・ディスカッション、調査とその結果分析のプレゼンテーションなど	専門分野の文献の輪読・発表・ディスカッション、ならびに関連調査の結果分析のプレゼンテーションなどを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
12	文献の輪読・発表・ディスカッション、調査とその結果分析のプレゼンテーションなど	専門分野の文献の輪読・発表・ディスカッション、ならびに関連調査の結果分析のプレゼンテーションなどを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
13	文献の輪読・発表・ディスカッション、調査とその結果分析のプレゼンテーションなど	専門分野の文献の輪読・発表・ディスカッション、ならびに関連調査の結果分析のプレゼンテーションなどを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
14	文献の輪読・発表・ディスカッション、調査とその結果分析のプレゼンテーションなど	専門分野の文献の輪読・発表・ディスカッション、ならびに関連調査の結果分析のプレゼンテーションなどを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
15	文献の輪読・発表・ディスカッション、調査とその結果分析のプレゼンテーションなど	専門分野の文献の輪読・発表・ディスカッション、ならびに関連調査の結果分析のプレゼンテーションなどを行う	事前：これまでの内容の振り返り

関連科目	都市計画論、都市住宅論
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「仮住まい」と戦後日本	平山洋介	青土社
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の準備状況、発表内容、ディスカッションへの参加状況を総合的に評価し、60%以上を合格とする。			
学生への メッセージ	興味をもち、楽しく、熱中できるテーマをもつことが大事、と思います。			
担当者の 研究室等	3号館3階、平山研究室			
備考	受講生と相談のうえ、授業の進め方を変更することがあります。 事前事後学習に要する時間は計60時間程度			

科目名	基礎演習 II	科目名 (英文)	Basic Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	好井 裕明
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2069a0		

授業概要・目的	本演習は、現代社会学科での卒業論文に向けた専門的な学修を進めるための、導入的かつ基礎的な演習の授業として、二つの目標を達成するために実施される。一つ目の目標は、積極的に主体的な学修姿勢を身につけることである。二つ目の目標は社会問題を、自分ごとの問題として考えることができるようになることであり、ゼミ仲間との相互的な影響関係を深めながらの学修によって、この目標を達成する。授業では文献輪読、研究発表とディスカッション、調査・分析などのさまざまな方法を取り入れつつ学修を進める。
到達目標	① 社会学的な研究課題を探索するために、幅広く諸情報を収集し、かつ、主体的に吟味できるようになる。 ② 社会学的文献の共同読解を通して、自らが選んだ特定の問題についてその多面性を、的確に論じることができるようになる。 ③ 社会学的研究方法に関して、課題の質と目的に適合した適切な方法を見極め、選択して使える技能を身につける。
授業方法と留意点	教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。社会学的な想像力深化やフィールドワークを進めていくうえで大前提となる知識を指定したテキストを輪読しディスカッションし理解する。そのうえで後半では各自の問題関心をめぐる報告を重ね、報告内容をもとにしてディスカッションする。結果として各自が、3年次以降、卒業論文に向けた問題関心や社会学的な作業がより円滑に進めることができるよう、留意する。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	卒業研究の課題決定までにどのような作業が必要なのかの確認。輪読するテキストを概説する。	事前: テキストの「はじめに」を読んでおく (2時間)。 事後: 各自の問題関心について洗練し深化させる作業を始めてみる (2時間)。
2	テキスト第1章「日常性をどう考えるか」を読む	1章を2名で分担し報告。A4 1枚から2枚の報告要旨を作成。報告内容をもとにして全員でディスカッションをする。	事前: テキスト第1章を読んでおく (2時間)。 事後: 報告と議論を反芻しながら、今一度テキスト第1章を精読する (2時間)。
3	テキスト第2章「フィールドワークをすること」を読む	1章を2名で分担し報告。A4 1枚から2枚の報告要旨を作成。報告内容をもとにして全員でディスカッションをする。	事前: テキスト第2章を読んでおく (2時間)。 事後: 報告と議論を反芻しながら、今一度テキスト第2章を精読する (2時間)。
4	テキスト第3章「あたりまえ」を疑い、見直すということ」を読む	1章を2名で分担し報告。A4 1枚から2枚の報告要旨を作成。報告内容をもとにして全員でディスカッションをする。	事前: テキスト第3章を読んでおく (2時間)。 事後: 報告と議論を反芻しながら、今一度テキスト第3章を精読する (2時間)。
5	テキスト第4章「日常性のフィールドワークをめぐる旅 I」を読む	1章を2名で分担し報告。A4 1枚から2枚の報告要旨を作成。報告内容をもとにして全員でディスカッションをする。	事前: テキスト第4章を読んでおく (2時間)。 事後: 報告と議論を反芻しながら、今一度テキスト第4章を精読する (2時間)。
6	テキスト第5章「日常性のフィールドワークをめぐる旅 II」を読む	1章を2名で分担し報告。A4 1枚から2枚の報告要旨を作成。報告内容をもとにして全員でディスカッションをする。	事前: テキスト第5章を読んでおく (2時間)。 事後: 報告と議論を反芻しながら、今一度テキスト第5章を精読する (2時間)。
7	テキスト第6章「日常生活批判のフィールドワークへ」を読む	1章を2名で分担し報告。A4 1枚から2枚の報告要旨を作成。報告内容をもとにして全員でディスカッションをする。	事前: テキスト第6章を読んでおく (2時間)。 事後: 報告と議論を反芻しながら、今一度テキスト第6章を精読する (2時間)。
8	中間総括	テキストで理解した内容を今一度確認したうえで、後半の各自の問題関心報告の仕方を説明し、報告順を決める。	事前: テキストの内容を今一度思い出しておく (2時間)。 事後: 各自の問題関心や関連する社会学的なフィールドワークの可能性を考えておく (2時間)。
9	各自の問題関心の報告とディスカッション1	毎回2名報告。A4 1枚から2枚で問題関心の報告要旨を作成し、それをもとにして15分報告。その後内容をもとに30分全員でディスカッションする。	事前: 各自の問題関心を深化させておく (2時間)。 事後: 報告者2名の問題関心を確認し、自分であればどうするかを考えてみる (2時間)。
10	各自の問題関心の報告とディスカッション2	毎回2名報告。A4 1枚から2枚で問題関心の報告要旨を作成し、それをもとにして15分報告。その後内容をもとに30分全員でディスカッションする。	事前: 各自の問題関心を深化させておく (2時間)。 事後: 報告者2名の問題関心を確認し、自分であればどうするかを考えてみる (2時間)。
11	各自の問題関心の報告とディスカッション3	毎回2名報告。A4 1枚から2枚で問題関心の報告要旨を作成し、それをもとにして15分報告。その後内容をもとに30分全員でディスカッションする。	事前: 各自の問題関心を深化させておく (2時間)。 事後: 報告者2名の問題関心を確認し、自分であればどうするかを考えてみる (2時間)。
12	各自の問題関心の報告とディスカッション4	毎回2名報告。A4 1枚から2枚で問題関心の報告要旨を作成し、それをもとにして15分報告。その後内容をもとに30分全員でディスカッションする。	事前: 各自の問題関心を深化させておく (2時間)。 事後: 報告者2名の問題関心を確認し、自分であればどうするかを考えてみる (2時間)。
13	各自の問題関心の報告とディスカッション5	毎回2名報告。A4 1枚から2枚で問題関心の報告要旨を作成し、それをもとにして15分報告。その後内容をもとに30分全員でディスカッションする。	事前: 各自の問題関心を深化させておく (2時間)。 事後: 報告者2名の問題関心を確認し、自分であればどうするかを考えてみる (2時間)。
14	各自の問題関心の報告とディスカッション6	毎回2名報告。A4 1枚から2枚で問題関心の報告要旨を作成し、それをもとにして15分報告。その後内容をもとに30分全員でディスカッションする。	事前: 各自の問題関心を深化させておく (2時間)。 事後: 報告者2名の問題関心を確認し、自分であればどうするかを考えてみる (2時間)。
15	各自の問題関心の報告とディスカッション7	毎回2名報告。A4 1枚から2枚で問題関心の報告要旨を作成し、それをもとにして15分報告。その後内容をもとに30分全員でディスカッションする。	事前: 各自の問題関心を深化させておく (2時間)。 事後: 報告者2名の問題関心を確認し、自分であればどうするかを考えてみる (2時間)。

関連科目									
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>違和感から始まる社会学</td> <td>好井 裕明</td> <td>光文社</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	違和感から始まる社会学	好井 裕明	光文社
番号	書籍名	著者名	出版社名						
1	違和感から始まる社会学	好井 裕明	光文社						

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の準備状況、発表内容、ディスカッションへの参加状況を総合的に評価し、60%以上を合格とする。			
学生への メッセージ	このゼミは、3年次以降、卒業論文執筆に向けての作業をより円滑にしていくうえで、必須な問題関心の明確化、深化、関連文献の読破、関連するフィールドワークの設計などを自分ができるような形で考えていくための必須のものです。できるかぎり真面目に、でも無理はしないで、余裕をもって、ゼミに参加してほしいと思います。私ものんびりと、でもしっかりと皆さんをサポートしていくつもりです。			
担当者の 研究室等	3号館3階好井研究室			
備考				

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Basic Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	須藤 遙子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2069a0		

授業概要・目的	本演習は、現代社会学科での卒業論文に向けた専門的な学修を進めるための、導入的かつ基礎的な演習の授業として、二つの目標を達成するために実施される。 一つ目の目標は、積極的に主体的な学修姿勢を身につけることである。 二つ目の目標は社会問題を、自分ごとの問題として考えることができるようになることであり、ゼミ仲間との相互的な影響関係を深めながらの学修によって、この目標を達成する。 授業では文献読誦、研究発表とディスカッション、調査・分析などのさまざまな方法を取り入れつつ学修を進める。
到達目標	① 社会的な研究課題を探索するために、幅広く諸情報を収集し、かつ、主体的に吟味できるようになる。 ② 社会的文献の共同読解を通して、自らが選んだ特定の問題についてその多面性を、的確に論じることができるようになる。 ③ 社会的な研究方法に関して、課題の質と目的に適合した適切な方法を見極め、選択して使える技能を身につける。
授業方法と留意点	教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 いくつかのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の読誦、発表、ディスカッションを行うとともに、テーマに関する調査・分析などを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 【重要】 輪読する本(10冊)は必ず購入してもらう(古本可)。本を購入しなかったり、忘れてしまった場合は、単位に大きく影響する。
科目学習の効果(資格)	卒業論文執筆への助走として、徹底的に講読力を鍛える。 具体的には絵本→短編児童文学→中編児童文学→長編児童文学と読み進めることで、本を読んで脳内に物語が再生される能力を養う。 課題図書は、シングルマザーや保育園の問題、原爆や沖縄戦などの戦争、環境問題、デジタル社会などを扱っており、卒業論文のテーマ決めに関連する。 また、課題図書が刊行された年の時代背景も考察し、現代史を多角的に捉える視座を持てるようにする。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	卒業研究の課題決定までにどのような作業が必要なのかの確認。 今後の読書スケジュールの説明、課題図書の確認。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	2	絵本1 『ねないこだれだ』『うさこちゃんとうみ』など	全員で読み聞かせ発表、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	3	絵本2 『ぐりとぐら』『ちびくろさんぼ』	文献内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	4	短編児童文学1 『いやいやえん』	文献内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	5	短編児童文学2 『ちいさいモモちゃん』	文献内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	6	中編児童文学1 『ふたりのイーダ』	文献内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	7	中編児童文学2 『だれも知らない小さな国(コロボックル物語1)』	文献内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	8	中編児童文学3 『ぼっぺん先生の日曜日』	文献内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	9	長編児童文学1 『冒険者たち ガンバと15ひきの仲間』前半	文献内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	10	長編児童文学2 『冒険者たち ガンバと15ひきの仲間』後半	文献内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	11	長編児童文学3 『太陽の子』前半	文献内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	12	長編児童文学4 『太陽の子』後半	文献内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	13	長編児童文学5 『モモ』前半	文献内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	14	長編児童文学6 『モモ』後半	文献内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	15	前期のまとめ	これまでの文献をふりかえり、ディスカッションを行う	事前：これまでの内容の振り返り

関連科目 メディア社会学、広報メディア論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 毎回の準備状況、発表内容、ディスカッションへの参加状況を総合的に評価し、60%以上を合格とする。
学生への 本を読むのが好き!あるいは読めるようになりたい!という「強いモチベーションを持ったやる気のある学生」を求めます。

メッセージ	<p>卒業論文執筆、あるいはメディア企業を含む就活への助走として、徹底的に読解力を鍛えます。</p> <p>具体的には絵本→児童文学→小説と読み進めることで、本を読んで脳内に物語が再生される能力を養っていきます。</p> <p>課題図書は、シングルマザーや保育園の問題、原爆や沖縄戦などの戦争、環境問題、デジタル社会などを扱っており、卒業論文のテーマ決めに関連します。</p> <p>【重要】輪読する本（10冊）は必ず購入してもらいます（古本可）。本を購入しなかったり、忘れてしまった場合は、単位に大きく影響します。</p>
担当者の研究室等	3号館3階 須藤研究室
備考	事前事後学習に要する時間は計60時間程度

科目名	基礎演習 II	科目名 (英文)	Basic Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2069a0		

授業概要・目的	本演習は、現代社会学科での卒業論文に向けた専門的な学修を進めるための、導入的かつ基礎的な演習の授業として、二つの目標を達成するために実施される。一つ目の目標は、積極的に主体的な学修姿勢を身につけることである。二つ目の目標は社会問題を、自分ごとの問題として考えることができるようになることであり、ゼミ仲間との相互的な影響関係を深めながらの学修によって、この目標を達成する。授業では文献輪読、研究発表とディスカッション、調査・分析などのさまざまな方法を取り入れつつ学修を進める。
到達目標	① 社会的な研究課題を探索するために、幅広く諸情報を収集し、かつ、主体的に吟味できるようになる。 ② 社会的文献の共同読解を通して、自らが選んだ特定の問題についてその多面性を、的確に論じることができるようになる。 ③ 社会的研究法に関して、課題の質と目的に適合した適切な方法を見極め、選択して使える技能を身につける。
授業方法と留意点	教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。いくつかのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、発表、ディスカッションを行うとともに、テーマに関する調査・分析などを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方や、卒業研究の課題決定までにどのような作業が必要なのか、スケジュール等を確認する。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う。
2	文献収集と文献講読・要約の方法	文献収集の方法と、文献講読・要約の方法について概説する。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う。
3	文献の輪読・発表・ディスカッション①	家族に関する心理学の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う。
4	文献の輪読・発表・ディスカッション②	学校に関する心理学の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う。
5	文献の輪読・発表・ディスカッション③	福祉に関する心理学の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う。
6	文献の輪読・発表・ディスカッション④	地域に関する心理学の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う。
7	文献の輪読・発表・ディスカッション⑤	社会現象に関する心理学の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う。
8	テーマの設定	第3回から第7回に取り上げた5つのテーマから関心のあるテーマを設定する。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う。
9	設定したテーマにおける文献調査①	設定したテーマについて、文献調査(資料収集)を行う。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う。
10	設定したテーマにおける文献調査②	設定したテーマについて、文献調査(資料講読と要約)を行う。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う。
11	設定したテーマにおける実証調査①	設定したテーマについて、小規模な実証調査(計画立案)を行う。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う。
12	設定したテーマにおける実証調査②	設定したテーマについて、小規模な実証調査(データ収集)を行う。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う。
13	設定したテーマにおける実証調査③	設定したテーマについて、小規模な実証調査(データ分析)を行う。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う。
14	文献調査と実証調査のプレゼンテーション①	設定したテーマについて実施した文献調査・実証調査について発表する。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う。
15	文献調査と実証調査のプレゼンテーション②	設定したテーマについて実施した文献調査・実証調査について発表する。	事前：これまでの内容の振り返りを行う。

関連科目	社会心理学 司法・犯罪心理学
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	毎回の準備状況、発表内容、ディスカッションへの参加状況を総合的に評価し、60%以上を合格とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	3号館3階 田中研究室
----------	-------------

備考	事前学習(授業に向けての準備や前回の復習等)と事後学習(授業資料に基づく内容の学習、課題への取り組み等)を合わせて、概ね60時間程度の授業外学習時間が必要となる。
----	---

科目名	基礎演習 II	科目名 (英文)	Basic Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	落合 知子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2069a0		

授業概要・目的	<p>本演習は、現代社会学科での卒業論文に向けた専門的な学修を進めるための、導入的かつ基礎的な演習の授業として、二つの目標を達成するために実施される。</p> <p>一つ目の目標は、卒業論文に向けて研究方法、調査方法について学び具体的な計画を立てることをできるようにする。</p> <p>二つ目の目標は社会問題からいかに研究課題を引き出すかである。</p> <p>ゼミ仲間との相互的な関係を深めながらの学修によって、この目標を達成する。授業ではメンバーの希望も参考にしながら文献輪読、研究発表とディスカッション、調査・分析などを予定している。</p>
到達目標	<p>① 社会学的な研究課題を探索するために、幅広く諸情報を収集し、かつ、主体的に吟味できるようになる。</p> <p>② 社会学的文献の共同読解を通して、自らが選んだ特定の問題についてその多面性を、的確に論じることができるようになる。</p> <p>③ 社会学的研究法に関して、課題の質と目的に適合した適切な方法を見極め、選択して使える技能を身につける。</p>
授業方法と留意点	<p>教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。いくつかのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、発表、ディスカッションを行うとともに、テーマに関する調査・分析などを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。</p>
科目学習の効果 (資格)	卒業論文に向けた学習計画を立てられるようになる

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	各自の興味を持っている分野、事柄を共有し、今後のゼミの学習計画を立てる	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	2	テーマと調査方法の設定	各自具体的な研究テーマを設定し、調査法や先行研究を持ち寄り調査・研究の方向性を決める。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	3	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	研究テーマ・研究方法に関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	4	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	研究テーマ・研究方法に関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	5	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	研究テーマ・研究方法に関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	6	フィールド調査の準備	それぞれの研究テーマを追求するために必要な準備を行い、その進捗状況を共有する。	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	7	研究テーマの設定とフィールドワークの準備	研究テーマに取り組むためのフィールドワークの計画を立てる	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	8	フィールドワーク	フィールドワークを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	9	フィールドワーク	フィールドワークを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	10	フィールドワークの成果共有とプレゼンテーション準備	フィールドワークの成果を共有し、どのような方向でプレゼンテーションを行うか検討する	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	11	プレゼンテーション 1	フィールドワークでの調査結果、分析結果を発表する	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	12	プレゼンテーション 2	フィールドワークでの調査結果、分析結果を発表する	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	13	プレゼンテーション 3	フィールドワークでの調査結果、分析結果を発表する	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
	14	各自のテーマ設定	今期の調査・研究経験をもとに自分の今後のテーマ、研究計画を立てる	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
15	最終プレゼンテーション	各自がどのように今後卒論に向けて学習・研究に取り組んでいくのか研究計画を共有する。	事前：これまでの内容の振り返り	

関連科目	基礎演習 I
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	質的研究法マッピング	サトウタツヤ他	新曜社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	毎回の準備状況、発表内容、ディスカッションへの参加状況を総合的に評価し、60%以上を合格とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	なんにでも興味を持ち、日々の生活の中の出来事やニュースに関心を持ち、自らの取り組むテーマを言語化・視覚化していきましょう。シラバスの内容は参加者の希望や特徴によって変更になる可能性があります。
-----------	--

担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 3号棟 3階
----------	-----------------

備考	60時間程度の事前事後学修時間を設定する
----	----------------------

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Basic Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	竹端 佑介
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2069a0		

授業概要・目的	本演習は、現代社会学科での卒業論文に向けた専門的な学修を進めるための、導入的かつ基礎的な演習の授業として、二つの目標を達成するために実施される。一つ目の目標は、積極的に主体的な学修姿勢を身につけることである。二つ目の目標は社会問題を、自分ごとの問題として考えることができるようになることであり、ゼミ仲間との相互的な影響関係を深めながらの学修によって、この目標を達成する。授業では文献輪読、研究発表とディスカッション、調査・分析などのさまざまな方法を取り入れつつ学修を進める。
到達目標	① 社会的な研究課題を探索するために、幅広く諸情報を収集し、かつ、主体的に吟味できるようになる。 ② 社会的文献の共同読解を通して、自らが選んだ特定の問題についてその多面性を、的確に論じることができるようになる。 ③ 社会的研究法に関して、課題の質と目的に適合した適切な方法を見極め、選択して使える技能を身につける。
授業方法と留意点	教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。いくつかのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、発表、ディスカッションを行うとともに、テーマに関する調査・分析などを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	卒業研究の課題決定までにどのような作業が必要なのかの確認	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
2	テーマⅠの設定	取り上げるテーマⅠを設定する	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
3	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅠに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
4	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅠに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
5	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅠに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
6	調査	テーマⅠに関する調査・分析等を行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
7	調査	テーマⅠに関する調査・分析等を行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
8	プレゼンテーション	テーマⅠに関してプレゼンテーションを行い、ディスカッションする	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
9	テーマⅡの設定	取り上げるテーマⅡを設定する	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
10	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅡに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
11	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅡに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
12	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅡに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
13	調査	テーマⅡに関する調査・分析等を行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
14	調査	テーマⅡに関する調査・分析等を行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
15	プレゼンテーション	テーマⅡに関してプレゼンテーションを行い、ディスカッションする	事前：これまでの内容の振り返り

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	毎回の準備状況、発表内容、ディスカッションへの参加状況を総合的に評価し、60%以上を合格とする。
学生へのメッセージ	現代社会学科での卒業論文に向けた専門的な学修を進めるための基礎を培う大切な学びとなる。
担当者の研究室等	3号館3階
備考	本演習においては、事前事後学習として60時間以上確保する必要がある。 事前学習内容例及び学習時間目安：資料収集、発表準備等で1.5時間程度 事後学習内容例及び学習時間目安：資料収集、調査、発表準備等で2.5時間程度

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Basic Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小池 高史
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2069a0		

授業概要・目的	本演習は、現代社会学科での卒業論文に向けた専門的な学修を進めるための、導入的かつ基礎的な演習の授業として、二つの目標を達成するために実施される。一つ目の目標は、積極的に主体的な学修姿勢を身につけることである。二つ目の目標は社会問題を、自分ごとの問題として考えることができるようになることであり、ゼミ仲間との相互的な影響関係を深めながらの学修によって、この目標を達成する。授業では文献輪読、研究発表とディスカッション、調査・分析などのさまざまな方法を取り入れつつ学修を進める。
到達目標	① 社会的な研究課題を探索するために、幅広く諸情報を収集し、かつ、主体的に吟味できるようになる。 ② 社会的文献の共同読解を通して、自らが選んだ特定の問題についてその多面性を、的確に論じることができるようになる。 ③ 社会的研究方法に関して、課題の質と目的に適合した適切な方法を見極め、選択して使える技能を身につける。
授業方法と留意点	教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。いくつかのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、発表、ディスカッションを行うとともに、テーマに関する調査・分析などを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。

科目学習の
効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	テーマⅠの設定	取り上げるテーマⅠを設定する	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
3	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅠに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
4	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅠに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
5	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅠに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
6	調査	テーマⅠに関する調査・分析等を行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
7	調査	テーマⅠに関する調査・分析等を行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
8	プレゼンテーション	テーマⅠに関してプレゼンテーションを行い、ディスカッションする	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
9	テーマⅡの設定	取り上げるテーマⅡを設定する	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
10	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅡに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
11	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅡに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
12	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅡに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
13	調査	テーマⅡに関する調査・分析等を行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
14	調査	テーマⅡに関する調査・分析等を行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
15	プレゼンテーション	テーマⅡに関してプレゼンテーションを行い、ディスカッションする	事前：これまでの内容の振り返り

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	毎回の準備状況、発表内容、ディスカッションへの参加状況を総合的に評価し、60%以上を合格とする。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	3号館3階 小池准教授室
備考	事前・事後学習時間は計60時間程度

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Basic Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	竹中 祐二
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2069a0		

授業概要・目的	本演習は、現代社会学科での卒業論文に向けた専門的な学修を進めるための、導入的かつ基礎的な演習の授業として、二つの目標を達成するために実施される。一つ目の目標は、積極的に主体的な学修姿勢を身につけることである。二つ目の目標は社会問題を、自分ごとの問題として考えることができるようになることであり、ゼミ仲間との相互的な影響関係を深めながらの学修によって、この目標を達成する。授業では文献輪読、研究発表とディスカッション、調査・分析などのさまざまな方法を取り入れつつ学修を進める。
到達目標	① 社会学的な研究課題を探索するために、幅広く諸情報を収集し、かつ、主体的に吟味できるようになる。 ② 社会学的文献の共同読解を通して、自らが選んだ特定の問題についてその多面性を、的確に論じることができるようになる。 ③ 社会学的研究方法に関して、課題の質と目的に適合した適切な方法を見極め、選択して使える技能を身につける。
授業方法と留意点	教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。テーマを設定し、それについて文献の輪読、発表、ディスカッションを行うとともに、テーマに関する調査・分析などを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	卒業研究の課題決定までにどのような作業が必要なのかを確認する。	事前学習：担当教員の専門領域や自らの興味関心に基づいて文献等を読み込む。(2時間) 事後学習：担当教員の指示に基づいて、ワークを実施する。(2時間)
2	テーマの設定①	取り上げるテーマを設定するにあたり、先行研究レビューやその内容に即したディスカッションを行う。	事前学習：担当教員の指示に基づいて先行研究レビューを行う。(2時間) 事後学習：ディスカッションの内容を踏まえて、事前学習時に不足していた研究をフォローする。(2時間)
3	テーマの設定②	取り上げるテーマを設定するにあたり、先行研究レビューやその内容に即したディスカッションを行う。	事前学習：担当教員の指示に基づいて先行研究レビューを行う。(2時間) 事後学習：ディスカッションの内容を踏まえて、事前学習時に不足していた研究をフォローする。(2時間)
4	文献の輪読・発表・ディスカッションなど①	テーマに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う。	事前学習：授業時間で取り扱う文献を読み込み、報告資料の作成ないしは質問項目の精査を行う。(2時間) 事後学習：ディスカッションの内容を踏まえて、事前学習時に不足していた研究をフォローする。(2時間)
5	文献の輪読・発表・ディスカッションなど②	テーマに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う。	事前学習：授業時間で取り扱う文献を読み込み、報告資料の作成ないしは質問項目の精査を行う。(2時間) 事後学習：ディスカッションの内容を踏まえて、事前学習時に不足していた研究をフォローする。(2時間)
6	文献の輪読・発表・ディスカッションなど③	テーマに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う。	事前学習：授業時間で取り扱う文献を読み込み、報告資料の作成ないしは質問項目の精査を行う。(2時間) 事後学習：ディスカッションの内容を踏まえて、事前学習時に不足していた研究をフォローする。(2時間)
7	文献の輪読・発表・ディスカッションなど④	テーマに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う。	事前学習：授業時間で取り扱う文献を読み込み、報告資料の作成ないしは質問項目の精査を行う。(2時間) 事後学習：ディスカッションの内容を踏まえて、事前学習時に不足していた研究をフォローする。(2時間)
8	テーマに基づく全体ディスカッション①	テーマに関するこれまでの学習内容やリサーチ方法について、全体でディスカッションを行う。	事前学習：これまで輪読してきた内容に基づき、自らの研究計画についての概略を作成する。(2時間) 事後学習：ディスカッションの内容を踏まえて、事前学習時に不足していた研究をフォローする。(2時間)
9	調査①	テーマに関するデータを複数収集し、自らの主張を補強することができるよう、組み合わせ・加工しつつ、分析する。	事前学習：担当教員の指示に基づいて、必要なデータ収集およびその準備を行う。(2時間) 事後学習：ディスカッションの内容を踏まえて、事前学習時に不足していたデータをフォローする。(2時間)
10	調査②	テーマに関するデータを複数収集し、自らの主張を補強することができるよう、組み合わせ・加工しつつ、分析する。	事前学習：担当教員の指示に基づいて、必要なデータ収集およびその準備を行う。(2時間) 事後学習：ディスカッションの内容を踏まえて、事前学習時に不足していたデータをフォローする。(2時間)
11	調査③	テーマに関するデータを複数収集し、自らの主張を補強することができるよう、組み合わせ・加工しつつ、分析する。	事前学習：担当教員の指示に基づいて、必要なデータ収集およびその準備を行う。(2時間) 事後学習：ディスカッションの内容を踏まえて、事前学習時に不足していたデータをフォローする。(2時間)
12	プレゼンテーション①	文献の輪読やディスカッションによって得た知識と、調査によって得られたデータ	事前学習：プレゼンテーション資料の作成を行う。(2時間)

			ータ・知見を組み合わせて、自らの主張をプレゼンテーションする。	事後学習：プレゼンテーションへのフィードバックを踏まえて、事前学習時に不足していた研究・データをフォローする。(2時間)
	13	プレゼンテーション②	文献の輪読やディスカッションによって得た知識と、調査によって得られたデータ・知見を組み合わせて、自らの主張をプレゼンテーションする。	事前学習：プレゼンテーション資料の作成を行う。(2時間) 事後学習：プレゼンテーションへのフィードバックを踏まえて、事前学習時に不足していた研究・データをフォローする。(2時間)
	14	プレゼンテーション③	文献の輪読やディスカッションによって得た知識と、調査によって得られたデータ・知見を組み合わせて、自らの主張をプレゼンテーションする。	事前学習：プレゼンテーション資料の作成を行う。(2時間) 事後学習：プレゼンテーションへのフィードバックを踏まえて、事前学習時に不足していた研究・データをフォローする。(2時間)
	15	テーマに基づく全体ディスカッション②	これまでの学習内容を全体でディスカッションしながら、自らの興味関心に即したリサーチクエスチョン・リサーチデザインのあり方について学習する。	事前学習：これまで輪読してきた内容に基づき、自らの研究計画についての概略を作成する。(2時間) 事後学習：ディスカッションの内容を踏まえて、事前学習時に不足していた研究をフォローする。(2時間)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の準備状況、発表内容、ディスカッションへの参加状況を総合的に評価し、60%以上を合格とする。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	3号館3階・竹中研究室			
備考	受講生の関心や要望に基づいて、必要に応じてスケジュールを変更する他、施設参観等のフィールドワークを実施する場合がある。			

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Basic Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	稲生 勝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2069a0		

授業概要・目的	本演習は、現代社会学科での卒業論文に向けた専門的な学修を進めるための、導入的かつ基礎的な演習の授業として、二つの目標を達成するために実施される。一つ目の目標は、積極的に主体的な学修姿勢を身につけることである。二つ目の目標は社会問題を、自分ごとの問題として考えることができるようになることであり、ゼミ仲間との相互的な影響関係を深めながらの学修によって、この目標を達成する。授業では文献輪読、研究発表とディスカッション、調査・分析などのさまざまな方法を取り入れつつ学修を進める。
到達目標	① 社会的な研究課題を探索するために、幅広く諸情報を収集し、かつ、主体的に吟味できるようになる。 ② 社会的文献の共同読解を通して、自らが選んだ特定の問題についてその多面性を、的確に論じることができるようになる。 ③ 社会的研究方法に関して、課題の質と目的に適合した適切な方法を見極め、選択して使える技能を身につける。
授業方法と留意点	教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。いくつかのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、発表、ディスカッションを行うとともに、テーマに関する調査・分析などを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	卒業研究の課題決定までにどのような作業が必要なのかの確認	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う 4時間
2	テーマⅠの設定	取り上げるテーマⅠを設定する	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う 4時間
3	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅠに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う 4時間
4	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅠに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う 4時間
5	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅠに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う 4時間
6	調査	テーマⅠに関する調査・分析等を行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う 4時間
7	調査	テーマⅠに関する調査・分析等を行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う 4時間
8	プレゼンテーション	テーマⅠに関してプレゼンテーションを行い、ディスカッションする	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う 4時間
9	テーマⅡの設定	取り上げるテーマⅡを設定する	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う 4時間
10	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅡに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う 4時間
11	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅡに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う 4時間
12	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅡに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う 4時間
13	調査	テーマⅡに関する調査・分析等を行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う 4時間
14	調査	テーマⅡに関する調査・分析等を行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う 4時間
15	プレゼンテーション	テーマⅡに関してプレゼンテーションを行い、ディスカッションする	事前：これまでの内容の振り返り 4時間

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 毎回の準備状況、発表内容、ディスカッションへの参加状況を総合的に評価し、60%以上を合格とする。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 3号館3階 稲生研究室

備考

科目名	基礎演習 II	科目名 (英文)	Basic Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松本 恭幸
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2069a0		

授業概要・目的	本演習は、現代社会学科での卒業論文に向けた専門的な学修を進めるための、導入的かつ基礎的な演習の授業として、二つの目標を達成するために実施される。一つ目の目標は、積極的に主体的な学修姿勢を身につけることである。二つ目の目標は社会問題を、自分ごとの問題として考えることができるようになることであり、ゼミ仲間との相互的な影響関係を深めながらの学修によって、この目標を達成する。授業では文献輪読、研究発表とディスカッション、調査・分析などのさまざまな方法を取り入れつつ学修を進める。
到達目標	① 社会学的な研究課題を探索するために、幅広く諸情報を収集し、かつ、主体的に吟味できるようになる。 ② 社会学的文献の共同読解を通して、自らが選んだ特定の問題についてその多面性を、的確に論じることができるようになる。 ③ 社会学的研究方法に関して、課題の質と目的に適合した適切な方法を見極め、選択して使える技能を身につける。
授業方法と留意点	教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。いくつかのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、発表、ディスカッションを行うとともに、テーマに関する調査・分析などを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。
科目学習の効果 (資格)	3、4年次の専門ゼミや卒論に向けて必要な社会調査の手法や専門書を購読する力を身に付けます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	卒業研究の課題決定までにどのような作業が必要なのかの確認	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う 4時間
	2	テーマの設定	取り上げるテーマを設定する	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う 4時間
	3	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う 4時間
	4	調査	テーマに関する調査・分析等を行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う 4時間
	5	プレゼンテーション	テーマに関してプレゼンテーションを行い、ディスカッションする	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う 4時間
	6	フィールド調査の課題設定	フィールド調査に出かけるための課題設定と調査グループ分け	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う 4時間
	7	フィールド調査に向けた事前準備	グループごとにフィールド調査先のアポ取り、インタビューガイド作成	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う 4時間
	8	フィールド調査の分析	グループごとにフィールド調査(インタビュー取材)の内容について文字起こしと内容の分析	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う 4時間
	9	フィールド調査の報告	グループごとにフィールド調査の報告	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う 4時間
	10	専門書購読と報告	専門書を購読し、各自、担当する章の内容について報告する	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う 4時間
	11	専門書購読と報告	専門書を購読し、各自、担当する章の内容について報告する	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う 4時間
	12	専門書購読と報告	専門書を購読し、各自、担当する章の内容について報告する	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う 4時間
	13	専門書購読と報告	専門書を購読し、各自、担当する章の内容について報告する	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う 4時間
	14	専門書購読と報告	専門書を購読し、各自、担当する章の内容について報告する	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う 4時間
	15	専門書購読と報告	専門書を購読し、各自、担当する章の内容について報告する	事前：これまでの内容の振り返り 4時間

関連科目	情報社会論
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	市民が育む持続可能な地域づくり 地域メディアの役割と文化拠点としてのミュージアム	松本恭幸 (編)	同時代社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地方メディアの挑戦 これから地方紙、地方出版・書店、地方図書館はどう変わるのか	松本恭幸	風媒社
	2	地域でつくる・地域をつくる メディアとアーカイブ	松本恭幸 (編)	大月書店
	3	令和のローカルメディア 防災・関係人口拡大に向けた課題	松本恭幸、佐藤和文、佐藤博昭	あけび書房

評価方法 (基準)	毎回の準備状況、発表内容、ディスカッションへの参加状況を総合的に評価し、60%以上を合格とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	学外で社会の様々な領域でIT、メディア、地域づくりや地域の記録と記憶を継承するアーカイブ構築等に携わる人に、フィールド調査を通してインタビュー取材を行います。そのため異なるバックグラウンドの他者とのコミュニケーションが必須となります。
-----------	---

担当者の研究室等	3号館3階研究室2
----------	-----------

備考	卒業研究で、作品(映像、Web、紙媒体)を作成したい学生は、2年次からメディア表現のスキル取得が必要になりますので、必ず事前に御相談ください。
----	---

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Basic Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤井 和佐
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2069a0		

授業概要・目的	本演習は、現代社会学科での卒業論文に向けた専門的な学修を進めるための、導入的かつ基礎的な演習の授業として、二つの目標を達成するために実施される。一つ目の目標は、積極的に主体的な学修姿勢を身につけることである。二つ目の目標は社会問題を、自分ごとの問題として考えることができるようになることであり、ゼミ仲間との相互的な影響関係を深めながらの学修によって、この目標を達成する。授業では文献輪読、研究発表とディスカッション、調査・分析などのさまざまな方法を取り入れつつ学修を進める。
到達目標	① 社会的な研究課題を探索するために、幅広く諸情報を収集し、かつ、主体的に吟味できるようになる。 ② 社会的文献の共同読解を通して、自らが選んだ特定の問題についてその多面性を、的確に論じることができるようになる。 ③ 社会的な研究法に関して、課題の質と目的に適合した適切な方法を見極め、選択して使える技能を身につける。
授業方法と留意点	少人数ゼミナール形式で行う。テーマを設定し、当該テーマに関する文献の輪読、検討結果の発表、ディスカッションを行うとともに、テーマに関する調査・分析などを行い、その結果の発表に基づいてディスカッションを行う。 授業計画は、履修者数等によって授業の目的・到達目標から逸脱しない範囲で見直すことがある。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	卒業研究の課題決定までにどのような作業が必要なのかの確認	事前：問題関心を言えるようにしておく 事後：テーマ(問い)の検討(計1時間)
2	テーマⅠの設定	取り上げるテーマⅠを設定する	事前：文献探索 事後：文献の検討(計2時間)
3	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅠに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	事前：文献について発表準備 事後：ディスカッション内容のまとめ(計5時間)
4	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅠに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	事前：文献について発表準備 事後：ディスカッション内容のまとめ(計5時間)
5	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅠに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	事前：文献について発表準備 事後：ディスカッション内容のまとめ(計5時間)
6	調査	テーマⅠに関する調査・分析等を行う	事前：調査データの探索・検討 事後：分析結果のまとめ(計4時間)
7	調査	テーマⅠに関する調査・分析等を行う	事前：調査データの探索・検討 事後：分析結果のまとめ(計4時間)
8	プレゼンテーション	テーマⅠに関してプレゼンテーションを行い、ディスカッションする	事前：プレゼンの準備 事後：ディスカッション内容のまとめ・テーマ(問い)の検討(計5時間)
9	テーマⅡの設定	取り上げるテーマⅡを設定する	事前：文献探索 事後：文献の検討(計2時間)
10	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅡに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	事前：文献について発表準備 事後：ディスカッション内容のまとめ(計5時間)
11	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅡに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	事前：文献について発表準備 事後：ディスカッション内容のまとめ(計5時間)
12	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅡに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	事前：文献について発表準備 事後：ディスカッション内容のまとめ(計5時間)
13	調査	テーマⅡに関する調査・分析等を行う	事前：調査データの探索・検討 事後：分析結果のまとめ(計4時間)
14	調査	テーマⅡに関する調査・分析等を行う	事前：調査データの探索・検討 事後：分析結果のまとめ(計4時間)
15	プレゼンテーション	テーマⅡに関してプレゼンテーションを行い、ディスカッションする	事前：プレゼンの準備 事後：ディスカッション内容のまとめ(計4時間)

関連科目 「地域社会学」は基礎知識となるため履修しておくことが望ましい。「考える」にあたって材料は多いほどよい。すべての科目が関連する。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	毎回の準備状況、レジュメ及び発表内容、ディスカッションへの参加状況を総合的に評価し、60%以上を合格とする。		
学生への メッセージ	卒論作成がゴールとなりますが、くわえて就職してからも生かすことのできる指導を心がけます。厳しさもあることを承知しておいてください。 自らをどんどん成長させていきましょう。 レジュメなどの書きものの作成、調査データの分析に際しては、パソコンを使用してください。		
担当者の 研究室等	3号館3階12(藤井研究室)		
備考			

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Basic Seminar II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	江口 怜
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	GDG2069a0		

授業概要・目的	本演習は、現代社会学科での卒業論文に向けた専門的な学修を進めるための、導入的かつ基礎的な演習の授業として、二つの目標を達成するために実施される。一つ目の目標は、積極的に主体的な学修姿勢を身につけることである。二つ目の目標は社会問題を、自分ごとの問題として考えることができるようになることであり、ゼミ仲間との相互的な影響関係を深めながらの学修によって、この目標を達成する。授業では文献輪読、研究発表とディスカッション、調査・分析などのさまざまな方法を取り入れつつ学修を進める。
到達目標	① 社会学的な研究課題を探索するために、幅広く諸情報を収集し、かつ、主体的に吟味できるようになる。 ② 社会学的文献の共同読解を通して、自らが選んだ特定の問題についてその多面性を、的確に論じることができるようになる。 ③ 社会学的研究方法に関して、課題の質と目的に適合した適切な方法を見極め、選択して使える技能を身につける。
授業方法と留意点	教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。いくつかのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、発表、ディスカッションを行うとともに、テーマに関する調査・分析などを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。授業時間外にフィールドワークを実施する場合もある。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	テーマⅠの設定	取り上げるテーマⅠを設定する	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
3	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅠに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
4	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅠに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
5	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅠに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
6	調査	テーマⅠに関する調査・分析等を行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
7	調査	テーマⅠに関する調査・分析等を行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
8	プレゼンテーション	テーマⅠに関してプレゼンテーションを行い、ディスカッションする	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
9	テーマⅡの設定	取り上げるテーマⅡを設定する	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
10	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅡに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
11	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅡに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
12	文献の輪読・発表・ディスカッションなど	テーマⅡに関する専門分野の文献を取り上げ、その内容を発表し、ディスカッションを行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
13	調査	テーマⅡに関する調査・分析等を行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
14	調査	テーマⅡに関する調査・分析等を行う	教員の指示に基づいて事前・事後学習を行う
15	プレゼンテーション	テーマⅡに関してプレゼンテーションを行い、ディスカッションする	事前：これまでの内容の振り返り

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>境界線の学校史—戦後日本の学校化社会の周縁と周辺</td> <td>木村元ほか</td> <td>東京大学出版会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>戦後日本の夜間中学—周縁の義務教育史</td> <td>江口怜</td> <td>東京大学出版会</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>戦後教育史—貧困・校内暴力・いじめから、不登校・発達障害問題まで</td> <td>小国喜弘</td> <td>中央公論社</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	境界線の学校史—戦後日本の学校化社会の周縁と周辺	木村元ほか	東京大学出版会	2	戦後日本の夜間中学—周縁の義務教育史	江口怜	東京大学出版会	3	戦後教育史—貧困・校内暴力・いじめから、不登校・発達障害問題まで	小国喜弘	中央公論社
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	境界線の学校史—戦後日本の学校化社会の周縁と周辺	木村元ほか	東京大学出版会														
2	戦後日本の夜間中学—周縁の義務教育史	江口怜	東京大学出版会														
3	戦後教育史—貧困・校内暴力・いじめから、不登校・発達障害問題まで	小国喜弘	中央公論社														

評価方法(基準)	毎回の準備状況、発表内容、ディスカッションへの参加状況を総合的に評価し、60%以上を合格とする。
学生へのメッセージ	教育・歴史・人権等に興味があり、やる気と意欲のある学生を歓迎します。
担当者の研究室等	3号館3階
備考	60時間程度の事前・事後学習を行います。

科目名	日本の歴史	科目名 (英文)	Japanese History
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本 康司
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2△, DP3△, DP4△, DP5△		
科目ナンバリング	GHU1301a1		

授業概要・目的	歴史学とは、過去の諸事象を研究する学問である。物事を長期的な視野からみるという姿勢を持つことや、現在とは異なる政治・社会・文化等を知ることは、現代社会を見つめ直す際に重要な手段となる。 そのなかで、本授業では、日本の歴史の基本的な流れを理解することを目的とする。 古代から近現代まで、毎回テーマを設定し、講義を行う。 随時、最新の研究成果を紹介するとともに、歴史学的手法や考え方についても紹介する。
到達目標	本授業を通じて日本の歴史に関する正しい知識を得るとともに、歴史学的な考え方について理解できるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	授業ごとにプリントを配付する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本授業の進め方や評価方法、歴史学を学ぶ意義について説明します。	予習：シラパスを一読しておくこと (所要時間 20 分)。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 80 分)。
2	古代 1：古代国家の形成	農耕社会の成立から、ヤマト政権の誕生、律令国家の形成までを学びます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 120 分)。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 130 分)。
3	古代 2：摂関政治から院政へ	摂関政治や院政について学びます。また、仏教や新たな文化の発達についても説明します。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 120 分)。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 130 分)。
4	古代 3：武士の登場	武士の誕生と貴族社会の関係について学びます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 120 分)。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 130 分)。
5	中世 1：武家政権の成立と展開	武家政権である平氏政権や鎌倉幕府について学びます。特に、鎌倉幕府の成立過程について説明を加えます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 120 分)。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 130 分)。
6	中世 2：元寇から南北朝内乱へ	鎌倉幕府の制度や承久の乱、元寇について学び、鎌倉幕府滅亡の要因について考えます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 120 分)。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 130 分)。
7	中世 3：室町幕府の成立と展開	室町幕府の成立や、南北朝の動乱について学びます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 120 分)。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 130 分)。
8	中世 4：戦国時代へ	戦国大名の登場から天下統一までの動向を学びます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 120 分)。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 130 分)。
9	近世 1：江戸幕府の成立と展開	江戸幕府の成立過程や制度、対外政策について学びます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 120 分)。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 130 分)。
10	近世 2：江戸幕府の動揺	幕藩体制や江戸幕府の諸政策・改革について学びます。また、江戸時代の村についても説明をします。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 120 分)。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 130 分)。
11	近世 3：江戸幕府の終焉	倒幕運動の広まりや、江戸幕府の対外政策・開港について学びます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 120 分)。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 130 分)。
12	近現代 1：明治政府の成立と近代国家への歩み	明治政府の諸政策を学び、近代国家への歩みについて考えます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 120 分)。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 130 分)。
13	近現代 2：日清・日露戦争と日本	日清・日露戦争や国際関係、当時の日本政治について学びます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 120 分)。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 130 分)。
14	近現代 3：第二次世界大戦	第二次世界大戦と日本の関わりについて学びます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 120 分)。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 130 分)。
15	近現代 4：戦後日本と現代社会	敗戦後の復興と現代社会への繋がりについて学びます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと (所要時間 120 分)。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと (所要時間 130 分)。

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業ごとのコメントペーパー 30% 期末試験 70% コメントペーパーでは、授業の内容を理解しているかを評価する。 期末試験では、授業全体を通じて日本の歴史の流れを理解したかを評価する。			
学生への メッセージ	積極的に学ぶ意欲を持つ学生の受講を希望します。 わからないことがあれば、放置せず、自分で調べたり、質問をする癖をつけましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	世界の歴史	科目名 (英文)	World History
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村上 司樹
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2△, DP3△, DP4△, DP5△		
科目ナンバリング	GHU1302a1		

授業概要・目的	講義するのは、歴史から見たヨーロッパ論です。なお歴史 (の学び) とは、年代や事件の、単なる暗記ではありません (もちろん知識は、ないより、あった方がいいですが)。本質的には、昔を知ることで、今を知る。つまり異文化理解です (異文化理解≠自文化理解)。大学は、知性や教養を磨くには、このうえなくすばらしい場。ただ、それも自分しだい。せっかく受講するのなら、単位以上の何かを手に入れてほしいと思います。
到達目標	歴史という視点からヨーロッパとは何か説明できるようになる。歴史的視野をもって、現在を見たり、未来を考えたりできるようになる。具体的・論理的な考え方、語り方を身につける。
授業方法と留意点	教科書は使わない。プリントを配布し、パワーポイントを使って講義する。単位を取る方法は2つ。第1は、こつこつ授業に出てノートを取り (プリントにメモして)、毎回のレスポンス・ペーパーで点数を稼ぐ方法。第2は、一発勝負の、レポートにすべてを賭ける方法。(この授業では出席を取らないから) 第2の方法にも可能性はある、が、全15回の授業内容に匹敵するレポートの材料を集めるには、それなりの本を何冊も、自分で読まなければならない (なお、ネットからのコピペは、やめたほうがいい。大学教員にはすぐに見抜かれるし、カンニング扱いで得点は0点、下手すれば学期の全単位剥奪... 危険きわまりない)。つまらない結論だが、第1の方法が、もっとも簡単かつ安全だろう。王道とは、そんなものである。急がば回れ。Festina lente (ゆっくり急げ)。
科目学習の効果 (資格)	歴史という視点からヨーロッパとは何か説明できるようになる。歴史的視野をもって、現在を見たり、未来を考えたりできるようになる。具体的・論理的な考え方、語り方を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	歴史を学ぶにあたって	歴史は異文化理解 / 手で食べる文化は劣っている? / 知らないうちは否定から入るな	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
2	歴史を学ぶにあたって	なぜ昔は恋愛結婚がめずらしかったのか? / 乳幼児のおよそ半分が死んでしまう / 戦争と出産は命がけの仕事	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
3	歴史を学ぶにあたって	政略結婚にも親心 / 就活や通勤がない世界 / 家は職場、家族はチーム	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
4	歴史を学ぶにあたって	結婚は仕事 / 恋愛結婚させるのは「言語道断、残忍な親」 / Love is blind (恋は盲目)	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
5	歴史を学ぶにあたって	「長靴をはいた猫」は結婚できない男の夢 / 男尊女卑になる社会構造 / それでも、勝ち負けはつきりした結婚 (または人生) などない	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
6	3つの源流	ローマの遺産+ゲルマン人+キリスト教=ヨーロッパ (文明・文化) / 例えば洋食 (ヨーロッパ的食文化) / パンとワインはローマから	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
7	3つの源流	大量の肉食 (とビール) はゲルマンから / 大量の肉食は必ずしも「豊かさ」に由来しない / ローマとゲルマンを仲立ちしたキリスト教	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
8	3つの源流	移民・難民と混血・文化融合がヨーロッパを生んだ / 宗教は、ものの考え方、生活習慣に関わる / キリスト教と共に広がったパンとワイン	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
9	ローマの遺産	偉大な文明のお手本 / 文明の三点セット、都市・文字・国家 / ローマがヨーロッパに町づくりを教えた	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
10	ローマの遺産	話す言語は20以上もあるが、書く文字はただ1つ / ローマがヨーロッパに読み書きを教えた / 政治的にはバラバラなヨーロッパが、文化的にはひとつであり続けてきた秘密	プリントの読み返しと先読み
11	ローマの遺産	ローマがヨーロッパに国づくりを教えた / 独裁者も民主国家もローマを引き合いに出す / それでも、ローマだけがヨーロッパをつくったのではない	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
12	ゲルマン人	素朴な文化の源 / 例えば洋服 (ヨーロッパ的服飾文化) / 洋服 (西洋服) の原点は西洋 (ヨーロッパ) にあらず	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
13	ゲルマン人	イギリスもフランスもゲルマン人が建てた国 / 王侯貴族が受け継ぐゲルマンの戦士の文化 / それでも、ゲルマン人だけがヨーロッパをつくったのではない	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
14	キリスト教	ローマとゲルマンの仲立ち、もしくはヨーロッパをプロデュース / 魚料理・たまご料理・洋菓子を発展させたキリスト教 / 書物 (または文字) の宗教キリスト教	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
15	キリスト教	欧米の個人名 (パーソナル・ネーム) は、ほとんどキリスト教から / 日曜を休日にしたのはキリスト教 / 政教分離や教会離れが進んだ今も	プリントの読み返し / レスポンス・ペーパー

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	レスポンス・ペーパー (50%)、レポート (50%)。レポートは授業内容から出題 (だから、授業のプリントとノートがあれば書ける問題で、あらかじめ文献を読む必要はない)。授業に出ているだけでは1点も付けない (出席点はない) が、やる気がある人には最大限チャンスを与える (この点は、これまでの受講生にも定評がある)。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	事前事後学習時間の目安は計60時間。			

科目名	心理学 I	科目名 (英文)	Psychology I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山根 倫也
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2△, DP3△, DP4△, DP5△		
科目ナンバリング	GHU2303a1		

授業概要・目的	<p>本講義では、記憶のメカニズムや学習理論、人間の発達や集団の働きなど、心理学の基礎的な理論を学ぶことを通して、私たちがどのように物事をとらえて感じているのかを理解し、他者を理解する上で役立つ考え方やコミュニケーション法を身につけ、自己理解や他者理解、良好な人間関係の形成に活かすことを目的とする。</p> <p>これにより、現在の人間関係と今後の新たな人間関係の変化に柔軟に対応できるような人間力、他者と関わる上での心のあり方やマナーなどの態度が、より向上することを期待している。</p>
到達目標	<p>自分自身がどのように物事をとらえているのかを知ることに加えて、他者がどのように物事をとらえているのかを推察しようとする意識を身につけること、さらには自分と他者との物事のとりえ方の違いを受け入れ、他者に共感的に寄り添える力を高めて、よりよい人間関係を形成できる力を身につけることを目指す。</p>
授業方法と留意点	<p>講義中心の授業形式ですが、折に触れ学生同士のディスカッションやワークの時間を作りたいと思います。講義全体の内容や評価については、第1回でお伝えします。講義の終わりには小テストや簡単なレポートを課す場合があります。また、講義資料を Teams に提示します。各自ダウンロードして学習を進めてください。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>自己理解と他者理解、現在と今後の人間関係の形成に活かすことができる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本講義では、心理学の歴史や研究方法を概観し、心理学がどのような学問なのかについて学ぶ。	教科書(第1章)を事前に読んでおくこと (1時間) 関連する内容や興味のあるトピックについて、事前に調べておくこと (1時間) 授業終了後に示す課題についてレポートを作成すること (2時間)
2	記憶について	本講義では、記憶の種類やメカニズムについて学ぶ。	教科書(第12章)を事前に読んでおくこと (1時間) 関連する内容や興味のあるトピックについて、事前に調べておくこと (1時間) 授業終了後に示す課題についてレポートを作成すること (2時間)
3	学習について	本講義では、学習における条件づけや、日常生活における学習の応用について学ぶ。	教科書(第13章)を事前に読んでおくこと (1時間) 関連する内容や興味のあるトピックについて、事前に調べておくこと (1時間) 授業終了後に示す課題についてレポートを作成すること (2時間)
4	乳児期から児童期の発達について	本講義では、乳児期から児童期における発達や、それらの時期における課題や関係性について学ぶ。	教科書(第3,4章)を事前に読んでおくこと(1時間) 関連する内容や興味のあるトピックについて、事前に調べておくこと (1時間) 授業終了後に示す課題についてレポートを作成すること (2時間)
5	青年期から老年期の発達について	本講義では、青年期から成熟期における発達や、それらの時期における問題や葛藤について学ぶ。	教科書(第3,4章)を事前に読んでおくこと(1時間) 関連する内容や興味のあるトピックについて、事前に調べておくこと (1時間) 授業終了後に示す課題についてレポートを作成すること (2時間)
6	動機づけについて	本講義では、動機づけのメカニズムや欲求、葛藤について学ぶ。	教科書(第5章)を事前に読んでおくこと (1時間) 関連する内容や興味のあるトピックについて、事前に調べておくこと (1時間) 授業終了後に示す課題についてレポートを作成すること (2時間)
7	性格について	本講義では、性格の類型や形成要因について学ぶ。	教科書(第6章)を事前に読んでおくこと (1時間) 関連する内容や興味のあるトピックについて、事前に調べておくこと (1時間) 授業終了後に示す課題についてレポートを作成すること (2時間)
8	自己について	本講義では、自己に対する評価や、対人関係における自己に関する理論について学ぶ。	自分とはどんな人間か、またどんな人間関係の中にいるのか振り返っておくこと (1時間) 興味・関心のあるトピック事前に調べておくこと (1時間) 授業終了後に示す課題についてレポートを作成すること (2時間)
9	他者について	本講義では、他者に対する評価や判断、推論に関する理論について学ぶ。	教科書(第17章)を事前に読んでおくこと (1時間) 関連する内容や興味のあるトピックについて、事前に調べておくこと (1時間) 授業終了後に示す課題についてレポートを作成すること (2時間)
10	集団について	本講義では、人間社会における集団のメカニズムや働きについて学ぶ。	教科書(第18章)を事前に読んでおくこと (1時間) 関連する内容や興味のあるトピックについて、事前に調べておくこと (1時間) 授業終了後に示す課題についてレポートを作成すること (2時間)
11	ストレスについて	本講義では、日常生活におけるストレスとその対処法について学ぶ。	教科書(第8章)を事前に読んでおくこと (1時間) 関連する内容や興味のあるトピックについて、事前に調べておくこと (1時間) 授業終了後に示す課題についてレポートを作成すること (2時間)
12	発達障害・精神疾患について	本講義では、自閉症スペクトラムや ADHD などの発達障害や、うつ病や強迫性障害	発達障害や精神疾患について、興味・関心のあるトピック事前に調べておくこと (2時間)

			などの精神疾患について学ぶ。	授業終了後に示す課題についてレポートを作成すること (2時間)																
	13	心理療法について	本講義では、カウンセリングや心理療法の理論や技法について学ぶ。	教科書(第9章)を事前に読んでおくこと (1時間) 関連する内容や興味のあるトピックについて、事前に調べておくこと (1時間) 授業終了後に示す課題についてレポートを作成すること (2時間)																
	14	共感・傾聴について	本講義では、心理学における共感や傾聴の在り方について学ぶ。	教科書(第9章)を事前に読んでおくこと (1時間) 関連する内容や興味のあるトピックについて、事前に調べておくこと (1時間) 授業終了後に示す課題についてレポートを作成すること (2時間)																
	15	講義全体のまとめ	本講義では、これまでの全講義のまとめを行い、要点を振り返り、講義内容の定着を図る。	全講義のプリントもしくは教科書で扱った章を復習しておくこと (3時間) 全講義を終えてさらに興味・関心を持ったテーマについて調べ、自分の生活にどう活かせるか振り返ること (1時間)																
関連科目	臨床心理学、発達心理学、社会心理学																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>はじめて出会う心理学 第3版</td> <td>長谷川寿一 他</td> <td>有斐閣アルマ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	はじめて出会う心理学 第3版	長谷川寿一 他	有斐閣アルマ	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	はじめて出会う心理学 第3版	長谷川寿一 他	有斐閣アルマ																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>心理学</td> <td>無藤隆 他</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>社会心理学</td> <td>池田謙一 他</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>臨床心理学</td> <td>丹野義彦 他</td> <td>有斐閣</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	心理学	無藤隆 他	有斐閣	2	社会心理学	池田謙一 他	有斐閣	3	臨床心理学	丹野義彦 他	有斐閣
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	心理学	無藤隆 他	有斐閣																	
2	社会心理学	池田謙一 他	有斐閣																	
3	臨床心理学	丹野義彦 他	有斐閣																	
評価方法 (基準)	<p>定期試験 70%、課題 30% (課題には小テスト、レポートを含む)</p> <p>定期試験が実施できない場合は、7月に入ってから、Teamsに課題を提示する。各自ダウンロードして、課題を完成させる。その課題の得点を成績評価に用いる (100%)。課題の提出は、Teamsで提出するものとする。</p>																			
学生への メッセージ	<p>心理学は、幅広い学問です。この講義では特に基礎的な内容を扱いますが、講義内で出てくる専門用語や理論をただ覚えるのではなく、自分の日常生活においてどう関連しているか、またどのように活かすことが出来るか考えながら講義に臨んで欲しいと思います。心理学は、自己理解や他者理解を中心として、日常生活を営む上においても役立つ学問で、知れば知るほど自分の世界が広がるものです。本講義を通して、今後生きていく上で、一つでも役立つ知識や経験を得られることができればよいと思います。</p>																			
担当者の 研究室等	11号館6階 経営学部非常勤講師室																			
備考	<p>講義時間外における質問は、講義前後の非常勤講師室、講義後の教室で時間の許す限りとします (メールでも可)。</p> <p>事前事後学習では、教科書や講義資料のほか、参考図書やインターネットなどを幅広く活用し、講義内容の予習復習を含め、関心のあるトピックを自主的に学習することが望まれます。</p>																			

科目名	心理学Ⅱ	科目名 (英文)	Psychology II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	連 傑 清
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2△, DP3△, DP4△, DP5△		
科目ナンバリング	GHU2304a1		

授業概要・目的	心理学は、人間の社会行動に関する原理の追求を目的とする科学である。本講義では、心理学全般について、身近なエピソードを手がかりに様々な角度からの理論説明や実験などの紹介を行い、心理学が基礎から応用に至るまで幅広く展開し、日常生活ともリンクしていることを講義する。
到達目標	(1) 発達心理学の専門的基礎知識、人間の発達を理解して説明できる。 (2) 心理学の実証研究について詳細に学ぶことによって、論理的な思考方法や分析手法が身につく。 (3) 心理学の基本的な考え方や知識について学ぶことによって、自分自身や周囲の人々の心の働きや行動について「考える」力が身につく。
授業方法と留意点	・講義方式で適宜資料を配布する。講義中には、視聴覚教材やデモンストレーションなども取り入れる。 ・受講にあたって、教室では、座席指定制を導入する予定であり、配付資料に授業内容に関する重要キーワードの記入も必要となる場合がある。 ※授業中、Moodle や Teams にて小テストを実施する。 事前事後学習には、毎回事前 1.5 時間以上、事後学習 1.5 時間以上 合計 60 時間以上かけるようにしてください。
科目学習の効果 (資格)	講義を通して自己理解・他者理解を深め、自分と社会との関わりを考えるきっかけを得ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業概要、目的、内容、授業の進め方、授業のルール、評価基準について説明します。	身の回りで起きているさまざまなことについて心理学的に考える習慣をつけましょう。
2	発達心理学研究方法	独立変数、従属変数、調査法、観察法、検査法、面接法、統計分析について解説します。	配布資料を事前に予習してください。 ミニレポートにまとめましょう
3	生涯発達心理論	認知発達理論、学習理論、精神分析理論、生涯発達心理論について解説します。	教科書 p2-p18 まで事前に予習してください。 ミニレポートにまとめましょう
4	妊娠と出産	遺伝と発達、胎児の発達、出産の過程について解説します。	参考書「新版生涯発達心理学」の第2章を事前に予習してください。 ミニレポートにまとめましょう
5	乳児期発達	早期の親子かかわり、基本信頼感、愛着について解説します。	教科書 p20-p37 まで事前に予習してください。 ミニレポートにまとめましょう
6	幼児期前期発達	幼児前期の発達「自律性対恥」、自己意識、分離・個体化理論について解説します。	教科書 p40-p55 まで事前に予習してください。 ミニレポートにまとめましょう
7	幼児期後期発達	幼児期後期の「自発性対罪悪感」、遊びと発達、子育てと父親について解説します。	教科書 p58-p73 まで事前に予習してください。 ミニレポートにまとめましょう
8	学童期の発達とテスト 1	「勤勉性対劣等感」、目的意識と有能感、発達課題論、発達障害について解説します。授業内でテスト1を実施する。	教科書 p76-p89 まで事前に予習してください。 今まで授業の内容を復習してください。
9	思春期の発達	「自己中心性対孤独感」、思春期モニタリング、性の意味の変化といじめについて説明します。	教科書 p92-p107 まで事前に予習してください。 ミニレポートにまとめましょう
10	青年期の発達	「自我同一性対役割の混乱」、プロスの青春論、青年期発達問題について解説します。	教科書 p110-p125 まで事前に予習してください。 ミニレポートにまとめましょう
11	成人前期の発達	モラトリアム、「親密性対孤立性」、愛の発達について解説します。	教科書 p128-p141 まで事前に予習してください。 ミニレポートにまとめましょう
12	成人中期の発達	「生殖性対停滞性」、レビソンの発達論、成人中期の発達問題について解説します。	教科書 p144-p159 まで事前に予習してください。 ミニレポートにまとめましょう
13	成熟期の発達	「同一性再確立対消極性」、ビューラとベイヤントの発達論、成熟期の発達問題について解説します。	教科書 p162-p176 まで事前に予習してください。 ミニレポートにまとめましょう
14	成人後期の発達	「統合性対絶望感」、「死の受容過程」、成人後期の発達問題について解説します。	教科書 p178-p193 まで事前に予習してください。 ミニレポートにまとめましょう
15	まとめとテスト 2	すべての課題を簡潔にまとめて解説します。授業内で、テスト2を実施する。	教科書とすべてのプリントを事前に復習してください。

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>生涯人間発達論-人間への深い理解と愛情を育むために</td> <td>服部祥子</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	生涯人間発達論-人間への深い理解と愛情を育むために	服部祥子	医学書院	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	生涯人間発達論-人間への深い理解と愛情を育むために	服部祥子	医学書院													
	2																
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新版生涯発達心理学-エリクソンによる人間の一生とその可能性</td> <td>バーバラ M. ニューマンなど 福富護 訳</td> <td>川島書店</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新版生涯発達心理学-エリクソンによる人間の一生とその可能性	バーバラ M. ニューマンなど 福富護 訳	川島書店	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	新版生涯発達心理学-エリクソンによる人間の一生とその可能性	バーバラ M. ニューマンなど 福富護 訳	川島書店													
	2																
3																	
評価方法	【授業内課題】 20%																

(基準)	<p>【提出物：レポート】10%</p> <p>【テスト1】30%</p> <p>【テスト2】40%</p> <p>事前事後学習には、毎回事前1.5時間以上、事後学習1.5時間以上 合計60時間以上かけるようにしてください。</p> <p>※授業内課題、レポートの提出物、2回のテストの得点を総合し、到達目標の理解度によって合否を判定する。</p>
学生へのメッセージ	<p>心理学は、みなさんが想像しているよりもはるかに幅広い領域を扱っており、人間の社会生活の全てを研究対象としていると言っても過言ではありません。講義を通じ、自分を取り巻く社会と結びつけて考えることによって理解を深めて下さい。</p>
担当者の研究室等	<p>11号館6階 経営学部非常勤講師室</p>
備考	<p>事前事後学習には、毎回事前1.5時間以上、事後学習1.5時間以上 合計60時間以上かけるようにしてください。</p> <p>授業内課題とレポートに対して、次回講義時に課題の答え、レポートの内容について解説を行う。</p>

科目名	哲学 I	科目名 (英文)	Philosophy I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森本 誠一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2△, DP3△, DP4△, DP5△		
科目ナンバリング	GHU2305a1		

授業概要・目的	<p>学問の教科書、たとえば心理学や物理学の教科書には、たいていその学問が何であるのかといった定義がはじめに書かれています。ところが哲学の教科書で「哲学とは何か」の説明から始まるものはまずありません。そのような説明から始まるとしても『「哲学とは何か」という問いがすでに哲学をするいとなみである」といったようなことが書いてあるぐらいです。それでは哲学の授業では何を学ぶのでしょうか。</p> <p>たしかに、哲学をひとことで言い表すことはできないかもしれませんが、しかしながら、物事を根本から考えると、批判的に考えると、あるいはものごとを複数の視点から観察するとかいったようなこと、すなわち哲学のいとなみを成り立たせていると考えられているものを手がかりに「哲学とは何か」という問いについて考えていくことはできるでしょう。</p> <p>この授業では、教科書を手がかりに、新聞や雑誌の記事、映画、小説、マンガといった身近な素材などを活用して哲学的なものの見方、考え方を養います。</p>
---------	---

到達目標	<p>この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。</p> <p>(1) 現実の問題を哲学と結びつけて考えることができる (2) 世の中で常識とされていることを疑って批判的に考えることができる (3) ものごとを複数の視点から眺め考察することができる</p>
------	--

授業方法と留意点	<p>この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は薄いでしょう。また、授業の終わりに毎回アクションペーパーを提出してもらい、第2回目以降の授業では冒頭でそれを取り上げます。</p>
----------	--

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	現象と実在	<p>この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の時期、方法、基準についても確認します。</p> <p>その上で教科書の第1章「現象と実在」について学修します。</p>	<p>事前学習：シラバスをしっかりと読んでから授業に出席すること。また、授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態にしておくこと。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(120分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習す</p>
2	物質は存在するか	<p>教科書の第2章「物質は存在するか」について学修します。</p>	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(120分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査すること。(120分)</p>	
3	物質の本性	<p>教科書の第3章「物質の本性」について学修します。</p>	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(120分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査すること。(120分)</p>	
4	観念論	<p>教科書の第4章「観念論」について学修します。</p>	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(120分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査すること。(120分)</p>	
5	面識による知識と記述による知識	<p>教科書の第5章「面識による知識と記述による知識」について学修します。</p>	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(120分)</p>	

			事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(120分)
6	帰納について	教科書の第6章「帰納について」について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(120分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(120分)
7	一般的原理の知識について	教科書の第7章「一般的原理の知識について」について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(120分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(120分)
8	アプリアリな知識はいかにして可能か	教科書の第8章「アプリアリな知識はいかにして可能か」について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(120分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(120分)
9	普遍の世界	教科書の第9章「普遍の世界」について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(120分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(120分)
10	普遍に関する私たちの知識	教科書の第10章「普遍に関する私たちの知識」について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(120分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(120分)
11	直観的知識について	教科書の第11章「直観的知識について」について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(120分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(120分)
12	真と偽	教科書の第12章「真と偽」について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(120分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(120分)

	13	知識、誤謬、蓋然的な見解	教科書の第 13 章「知識、誤謬、蓋然的な見解」について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(120 分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(120 分)</p>
	14	哲学的知識の限界	教科書の第 14 章「哲学的知識の限界」について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(120 分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(120 分)</p>
	15	哲学の価値	教科書の第 15 章「哲学の価値」について学修します。 その上で、これまでの授業をふり振り返りながら、各回の授業が全体としてどのようにつながっていたのかを確認します。成績評価の方法・基準についても再確認します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(120 分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(120 分)</p>
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	哲学入門	パートランド・ラッセル	ちくま学芸文庫
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか?	森達也	ちくまブリーマー新書
	2			
	3			
評価方法 (基準)	この授業は授業内課題（リアクションペーパー）30%、期末試験 70%で評価します。評価の基準については学部の規定に準じます。			
学生への メッセージ	決して堅苦しい雰囲気のある授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。世界では日々いろいろなことが起こっています。世界に関心を持ち目を向けることが哲学を始める第一歩です。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。			
担当者の 研究室等	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。 1 号館 2 階 非常勤講師室 メールアドレス：xmrimse[*]edu.setsunan.ac.jp [*]を半角の@に置き換え			
備考	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。			

科目名	哲学Ⅱ	科目名 (英文)	Philosophy II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森本 誠一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2△, DP3△, DP4△, DP5△		
科目ナンバリング	GHU2306a1		

授業概要・目的	人生の意味は何か、世界をどのように見るか、人間はどのように行為すべきかの諸問題を検討します。そのために、この授業では「世界の見方・考え方」「人生の意味」「行為のあり方」の3つを大きなテーマとして取り上げます。
到達目標	この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。 (1) 現実の問題を哲学と結びつけて考えることができる (2) 世の中で常識とされていることを疑って批判的に考えることができる (3) ものごとを複数の視点から眺め考察することができる
授業方法と留意点	この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は薄いでしょう。また、授業の終わりに毎回リアクションペーパーを提出してもらい、第2回目以降の授業では冒頭でそれを取り上げます。
科目学習の 効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の方法、基準についても確認します。 シラバスをしっかりと読んでから授業に出席しましょう。また授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で?られる状態にしておきましょう。	事前学習:シラバスをしっかりと読んでから授業に出席すること。また、授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態にしておくこと。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(120分) 事後学習:授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習す
2	常識を疑ってみる	ものごとを哲学的に考えるとどのようなことなのでしょうか。世の中にはいろいろな意味があるでしょうが、そうした意味のひとつに「常識にとらわれないこと」を加えてみたらどうでしょう。私たちの世界はずいぶん広がるかもしれません。 今回の授業では、世間で常識とされていることを実際に疑ってみて、常識を疑うとはどういうことなのかを体験します。	事前学習:授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(120分) 事後学習:授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(120分)	
3	違いを認め合うこと——差別の問題を考える	差別はどのようにして起こるのでしょうか。私たちは(と言ったとき、全体を代表するのではなく無意識のうちに差別する側を代表してしまっているのですが) どうして差別をしてしまうのでしょうか。 差別の原因にもさまざまなものがあるのですが、今回の授業では前回までの内容を踏まえ、私たちが私たち自身の立場や属性からものごとを考え、あたかもそうしたものの見方や考え方こそ正当なものであるかと思込みがちであるという点に注目し、差別が起こる原因の一端を探ります。 また、授業の中で差別教育に関する映像資料を視聴しま	事前学習:授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(120分) 事後学習:授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(120分)	
4	言語と文化	私たちが特定のものの見方や考え方にとらわれがちなのは、私たちの使用する言語や文化とも大いに関係しています。今回の授業では、言語が世界を分節化する機能に着目し、その意味を考えます。各々の言語が世界を分節化する仕方の違いが、私たちの世界にどのような影響を及ぼすのか学修します。	事前学習:授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(120分) 事後学習:授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(120分)	
5	古典に触れる	世に古典と言われるものは、長い歴史を経て現在まで受け継がれ散逸せずに残っているという意味で一定の価値があると言えるでしょう。今回の授業では、	事前学習:授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこ	

			<p>バスカルの『パンセ』をはじめとして、古典とされる作品の一節一節を手がかりにその深みに触れます。このことを通じて、人文知のあり方をいま改めて考え直します。</p>	<p>これまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(120分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査すること。(120分)</p>
6	科学と哲学	<p>科学(と翻訳されるものになっている英語の science)ということばが作られたのは 19 世紀になってからのことでした。それまで現在で言うところの科学者は、自然哲学者などと呼ばれていたのです。私たちは、科学的なものこそ信用でき非科学的なものは信用できないといったような評価を下すことがしばしばありますけど、このとき私たちは「科学的」あるいは「非科学的」ということでどのようなことを考えているのでしょうか。</p> <p>今回の授業では「科学とは何か」「科学的であるとはどういうことなのか」について学修します。そのなかで文系</p>	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(120分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査すること。(120分)</p>	
7	文系学部廃止論から学問について考える	<p>今回の授業では、これまでの授業内容を踏まえ、より具体的な問題として日本における文系学部見直しの問題を考えます。同様の動きは世界各国で起きています。いままぜ文系学部が見直されようとしているのか、社会の状況にも目を配りながら考察します。</p>	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(120分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査すること。(120分)</p>	
8	中間のふり返り	<p>これまでの授業をふり返り、各回のテーマがどのようにつながっていたのかを再確認します。これまでの授業でよく分からなかったことなどを質問する時間も設けます。</p>	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(120分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査すること。(120分)</p>	
9	論理的思考を身につける	<p>今回の授業では、論理的思考(ロジカルシンキング)とはどのようなものなのかを確認した上で、非論理的な会話ややりとりの事例をもとに論理的思考を身につけるための訓練をします。また、論理学の基礎を学修します。</p>	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(120分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査すること。(120分)</p>	
10	二元論の問題を考える	<p>みなさんは無意識のうちに「あれかこれか」という思考をしていないでしょうか。ものごとを「0 か 1 か」「正解か不正解か」「成功か失敗か」「正義か不正義か」といったように「あれかこれか」で考えるものの見方を二元論と言います。私たちの世界はこのような二元論で出来上がっているのでしょうか。あるいは二元論によって説明し尽くすことができるのでしょうか。今回の授業では、ヘーゲルの弁証法なども交えながら、二元論の問題について学修します。</p>	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(120分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査すること。(120分)</p>	
11	コーヒーを通して世界を見る(1)	<p>グローバルな経済システムの中でコーヒーの生産、流通、消費がどのように行われているのかを学修します。そこから、社会と制度、法と経済の関係について考えます。授業の中でテーマに関連する映像資料を視聴します。</p>	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(120分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査すること。(120分)</p>	
12	コーヒーを通して世界を見る(2)	<p>前回に引き続き、グローバルな経済システムの中でコーヒーの生産、流通、消費がどのように行われているのかを学修</p>	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスク</p>	

			<p>します。そこから社会と制度、法と経済の関係について考えます。授業の中でテーマに関連する映像資料を視聴します。</p>	<p>ラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(120分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(120分)</p>
13	存在の意義と不条理の問題について(1)	世の中には不条理なことが多々あります。私たちはいつでもここに生まれてくるのかを選ぶことはできません。私たちは親を選ぶことができないのです(もちろん、親だっただけで私たちが成長してどのような人間になるのかを選ぶことはできません)。私たちは意識が芽生えたときにはすでにこの世に存在していて、あとからそのことに気づくのです。決してこの逆ではありません。戦争、犯罪、自然災害、貧困、育児放棄、あるいは子どもの虐待など、生まれたときからすでに巻き込まれていることもあるでしょうし、巻き込まれることが避けられないこともあるでしょう。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(120分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(120分)</p>	
14	存在の意義と不条理の問題について(2)	<p>私たちは自らの意思ではどうしようにもならない不運な境遇について、そうした境遇を生きる生を否定することができでしょうか。あるいは、もっと積極的に否定すべきなんでしょうか。もしこれがあなた自身の人生だったらどうでしょうか。あなたは自らの生を否定するでしょうか。それとも、どのような生であっても自らの生として引き受け、肯定する覚悟をもてるでしょうか。それ以上に、私たちは自らの生をもっと積極的に肯定すべきなんでしょうか。</p> <p>今回の授業では、ニーチェとサルトルの実存主義思想を手がかりに存在の意義と不条理の問題につ</p>	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(120分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(120分)</p>	
15	まとめ、全体のふり回り	前期の授業をふり回りながら、各回の授業が全体としてどのようにつながっていたのかを確認します。これまでの授業でよく分からなかったことなどを質問する時間も設けます。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(120分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(120分)</p>	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	哲学入門	バートランド・ラッセル	ちくま学芸文庫
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか?	森達也	ちくまプリマー新書
	2			
	3			
評価方法(基準)	この授業は授業内課題(リアクションペーパー)30%、期末試験70%で評価します。評価の基準については学部の規定に準じます。			
学生へのメッセージ	決して堅苦しい雰囲気のある授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。世界では日々いろいろなことが起こっています。世界に関心をもち目を向けることが哲学を始める第一歩です。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。			
担当者の研究室等	<p>この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。</p> <p>1号館2階 非常勤講師室</p> <p>メールアドレス：xmormise[*]edu.setsunan.ac.jp ([*]を半角の@に置き換え)</p>			
備考	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。			

科目名	人文地理学	科目名 (英文)	Human Geography
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	谷口 晴彦
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2△, DP3△, DP4△, DP5△		
科目ナンバリング	GHU2307a1		

授業概要・目的	地理学の1分野である人文地理学は、都市・農村・経済・文化・歴史など人間社会における様々な事象について、空間・地域・地図を切り口にする学問です。この授業では、人文地理学の基本的な考え方について、多様なテーマを取り上げて学習していきます。
到達目標	この授業を通じて学生には、 (1)人文地理学が対象とする多様な事象について考察することを通して、人文地理学の考え方・モノの見方を理解できるようになること、 (2)地図や地理情報の種類や役割について理解し、地図を読んで地域について考えることができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	資料を配布し、スライド(PPT)を用いて説明する講義です。 授業にはネット接続可能な端末(スマホ等)を持参してください。受講する皆さんには毎回、授業内容についての確認問題、質問や感想、小課題(短文回答)に回答してもらいます。これらを踏まえて次回授業時に質問への回答や補足説明をします。
科目学習の効果 (資格)	日常生活や旅行の中で出会う様々な事象について、空間・地域・地図の視点から自由に考えることができますようになります。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	都市(1)	日本・世界の様々な都市の形(景観)・特徴を見ていき、都市の定義・特徴・内部の構造について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語(ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく(2時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する(2時間)。
3	都市(2)	都市への人口集中や都市の拡大・問題について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語(ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく(2時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する(2時間)。
4	農村	様々な農村の形(景観)を見ていき、農村の定義・特徴・変化・現代日本の農村の状況や多面的機能について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語(ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく(2時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する(2時間)。
5	地図と地理情報(1)	身の回りの地図をはじめ様々な地図をとりあげ、その種類や特徴を見ていき、地図の定義について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語(ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく(2時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する(2時間)。
6	地図と地理情報(2)	地形図の特徴や凡例を確認した上で、実際に地形図を読んで地域を読み解きます。	事前にこの回の授業内容について、用語(ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく(2時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する(2時間)。
7	地図と地理情報(3)	細かく地形図を読んで地域を読み解きます。	事前にこの回の授業内容について、用語(ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく(2時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する(2時間)。
8	歴史地理	様々な歴史資料から身近な地域の過去の空間を読み解きます。	事前にこの回の授業内容について、用語(ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく(2時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する(2時間)。
9	地域文化・観光	様々な地域文化や観光の特徴や意味を考え、さらに観光によって引き起こされる問題や対立について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語(ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく(2時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する(2時間)。
10	経済地理(工業)(1)	様々な工業の種類・分類について見ていきます。	事前にこの回の授業内容について、用語(ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく(2時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する(2時間)。
11	経済地理(工業)(2)	工業の立地や集積、分業について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語(ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく(2時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する(2時間)。
12	経済地理(農業・流通)	農業の特徴・広がり・変化や新しい農業について考えます。また、流通とそれを支える交通について考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語(ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく(2時間)。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する(2時間)。
13	政治地理・行政地理	政治や行政について、地理学の視点から考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語(ネット検索/辞書)・ニュースを確認し、身近な例を考えておく(2時間)。

				配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
	14	環境問題と水問題	環境問題や水問題について、地理学の視点から考えます。	事前にこの回の授業内容について、用語（ネット検索/辞書）・ニュースを確認し、身近な例を考えておく（2時間）。 配布資料・メモを読んで授業内容を復習する（2時間）。
	15	授業の総括	授業内容の総括を行います。	配布資料・メモを読んで授業全体の内容を復習し、レポートを作成する（6時間）。
関連科目	自然地理学・地誌学・環境関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	みわたす・つなげる 人文地理学	上杉和央・香川雄一・近藤章夫編	古今書院
	2	地理学基礎シリーズ1 地理学概論 [第2版]	上野和彦・椿真智子・中村康子編著	朝倉書店
	3	図説 京阪神の地理—地図から学ぶ—	山口覚・水田憲志・金子直樹・吉田雄介・中窪啓介・矢嶋巖	ミネルヴァ書房
評価方法 (基準)	毎回の確認テスト：60%、期末レポート：40%			
学生への メッセージ	高校で「地理」を履修していなくても理解できる内容で構成します。 地理学的な考え方・ものの見方を学修していき、身近な地域の様々な事象について自らで考えようとする姿勢を心がけていきましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	授業に関する質問や相談は、メールで対応します。メールアドレスは授業時にお知らせします。			

科目名	地誌学	科目名 (英文)	Regional Geography
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷口 晴彦
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2△, DP3△, DP4△, DP5△		
科目ナンバリング	GHU2308a1		

授業概要・目的	地理学の1分野である地誌学は、地域を総合的に理解することを目指す学問です。この授業では、様々な地域の特徴について、多様なテーマ・視点から学習していきます。
到達目標	この授業を通じて学生には、地域の特徴について関心を持ち、自ら地図・写真・地理的な情報を用いて様々な地域を理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	資料を配布し、スライド(PPT)を用いて説明する講義です。 授業にはネット接続可能な端末(スマホ等)を持参してください。受講する皆さんには毎回、授業内容についての確認問題、質問や感想、小課題(短文回答)に回答してもらいます。これらを踏まえて次回授業時に質問への回答や補足説明をします。
科目学習の効果 (資格)	様々な視点から地域を捉えることで、多様な事象・分野と地域の関係について自由に考えることができるようになります。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	地域を捉える (1) 地図	地域を理解する上で重要な地図について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書) ・ニュースを確認しておく (1時間)。 資料・メモを読んで復習し、自分なりに地域を考える (3時間)。
3	地域を捉える (2) 写真とデータ	地域を理解する上で重要な写真と地理的なデータについて学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書) ・ニュースを確認しておく (1時間)。 資料・メモを読んで復習し、自分なりに地域を考える (3時間)。
4	地域を捉える (3) 現地調査と文献	地域を理解するための現地調査と文献について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書) ・ニュースを確認しておく (1時間)。 資料・メモを読んで復習し、自分なりに地域を考える (3時間)。
5	地域の比較と地域の個性	地域を比較する視点、地域の個性について学びます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書) ・ニュースを確認しておく (1時間)。 資料・メモを読んで復習し、自分なりに地域を考える (3時間)。
6	身近な地域 (1) 都市拡大・都市計画	私たちにとって身近な地域について、都市拡大や都市計画の視点から捉えます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書) ・ニュースを確認しておく (1時間)。 資料・メモを読んで復習し、自分なりに地域を考える (3時間)。
7	身近な地域 (2) 産業	私たちにとって身近な地域について、産業の視点から捉えます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書) ・ニュースを確認しておく (1時間)。 資料・メモを読んで復習し、自分なりに地域を考える (3時間)。
8	身近な地域 (3) 環境・歴史	私たちにとって身近な地域について、環境や歴史の視点から捉えます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書) ・ニュースを確認しておく (1時間)。 資料・メモを読んで復習し、自分なりに地域を考える (3時間)。
9	農村地域 (1) 自然・農業	農村地域について、自然や農業の視点から捉えます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書) ・ニュースを確認しておく (1時間)。 資料・メモを読んで復習し、自分なりに地域を考える (3時間)。
10	農村地域 (2) 文化・歴史	農村地域について、文化や歴史の視点から捉えます。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書) ・ニュースを確認しておく (1時間)。 資料・メモを読んで復習し、自分なりに地域を考える (3時間)。
11	島の環境と文化	島に焦点を当て、自然環境や文化から地域を考える。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書) ・ニュースを確認しておく (1時間)。 資料・メモを読んで復習し、自分なりに地域を考える (3時間)。
12	河川・海とのつながり	日本・世界における、河川や海と関係が深い地域について考える。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書) ・ニュースを確認しておく (1時間)。 資料・メモを読んで復習し、自分なりに地域を考える (3時間)。
13	森林の利用と破壊	世界の広大な森林の利用・開発と破壊について考える。	事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書) ・ニュースを確認しておく (1時間)。 資料・メモを読んで復習し、自分なりに地域を考える (3時間)。

				る (3 時間)。 事前にこの回の授業内容について、用語 (ネット検索/辞書)・ニュースを確認しておく (1 時間)。 資料・メモを読んで復習し、自分なりに地域を考える (3 時間)。
	14	大都市の発展と環境問題	世界における大都市の発展と環境問題について考える。	資料・メモを読んで復習し、自分なりに地域を考える (3 時間)。
	15	授業の総括	授業内容の総括を行います。	資料・メモを読んで授業全体の内容を復習し、レポートを作成する (6 時間)。
関連科目	人文地理学・自然地理学・環境関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	みわたす・つなげる 地誌学	上杉和央・小野映介編	古今書院
	2	地理学基礎シリーズ3 地誌学概論 [第2版]	矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣雄矢編著	朝倉書店
	3	図説 京阪神の地理—地図から学ぶ—	山口覚・水田憲志・金子直樹・吉田雄介・中窪啓介・矢嶋巖	ミネルヴァ書房
評価方法 (基準)	毎回の確認テスト : 60%、期末レポート : 40%			
学生へのメッセージ	高校で「地理」を履修していなくても理解できる内容で構成します。 地域を理解するという考え方・もの見方を学修していき、自らで考えようとする姿勢を心がけていきましょう。			
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	授業に関する質問や相談は、メールで対応します。メールアドレスは授業時にお知らせします。			

科目名	法学入門	科目名 (英文)	Introduction to Jurisprudence
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	萩原 守
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2△, DP3△, DP4△, DP5△		
科目ナンバリング	GS01310a1		

授業概要・目的	この授業では、現代社会学部の学生諸君が学ぶのにふさわしい「法学入門」の講義として、「日本法制史上の女性と人権」というテーマの講義を開講する。従来の日本史や日本法制史では、各時代において女性がどのように活躍しどう生きてきたのか、ということあまり顧みられることがなかった。しかし、近年、女性史の持つ意味合いは強まっており、女性史を語らずして法制史を語ることは不可能となっている。そこでこの講義では、受講者諸君が、なるべく歴史的・法制史的事実に基づいて、古代から近現代に至るまでの日本女性史の概要を学びとることを目的とする。それによって現代の日本社会が持つ特徴を深く理解して行くことも、この授業の目的となる。もちろん問題は日本社会にとどまる物ではなくて、常に中国や朝鮮は当然のこと、ヨーロッパやインドの社会にまで波及していく。
到達目標	長い日本史の中でも、中国・朝鮮・欧米諸国からの影響や日本社会内部での変化等によって、女性たちの歴史自体が多様な変遷を遂げてきた。この授業を通じて受講者には、それらの姿を、事実に即して確実に学び、かつ、その特徴を自ら詳しく解説できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	現在の所、通常の対面形式の授業（講義）を想定している。また、法制史系の授業なので高校時代に日本史を選択していた受講者はやや有利になる可能性もあるが、日本史をあまりよく知らない受講者にも、わかりやすく講じたい。必ず、筆記用具とノート類を毎回持って来て、真剣にノートを取る。ノートを取らずにただ聞き流すだけの受講態度であれば、単位を取得できない可能性が高い。
科目学習の効果（資格）	日本史の教科書などではあまり言及されることのない重要な歴史事実を学ぶことによって、真の法制史像が受講者各自の心の内に形成されるはずである。特に将来教職系の進路を目指す学生には大きく役立つと思われる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	法制史・女性史・社会史の位置づけ	教員の自己紹介：政治史・軍事史のみを歴史と見なす古い歴史観からの脱却：女性史、社会史分野の開拓とその注意点を学ぶ	講義ノートの読み返しと参考文献による次回への予習。必要時間は、個人差もあるが、4時間はかけてほしい。
2	古代日本における女性	呪術的な側面を有していた卑弥呼を初めとする古代の女性支配者のあり方を学ぶ	講義ノートの読み返しと参考文献による次回への予習。必要時間は、個人差もあるが、4時間はかけてほしい。
3	女帝の時代	律令制と女帝の輩出状況を学ぶ	講義ノートの読み返しと参考文献による次回への予習。必要時間は、個人差もあるが、4時間はかけてほしい。
4	平安期の女性文学者①	女性貴族層の日本語による作家活動の内実、執筆の動機を学ぶ	講義ノートの読み返しと参考文献による次回への予習。必要時間は、個人差もあるが、4時間はかけてほしい。
5	平安期の女性文学者②	中国、朝鮮、日本における言語・文字の相違とそれに伴う文化の相違から、日本人女性文学者が成功した理由を学ぶ	講義ノートの読み返しと参考文献による次回への予習。必要時間は、個人差もあるが、4時間はかけてほしい。
6	中世の女性と人権：身分、難民	「ものけ姫」や「山椒大夫」等を題材にして、中世日本の女性と人権を学ぶ。	講義ノートの読み返しと参考文献による次回への予習。必要時間は、個人差もあるが、4時間はかけてほしい。
7	中世武家社会の女性たち	北条政子、日野富子ら武家社会で活躍した女性たちの生き様を学ぶ	講義ノートの読み返しと参考文献による次回への予習。必要時間は、個人差もあるが、4時間はかけてほしい。
8	室町末期・戦国期における女性商人の活躍と人権問題	社会の混乱期に出現した女性商人たちの活躍と、女性の社会進出問題を学ぶ	講義ノートの読み返しと参考文献による次回への予習。必要時間は、個人差もあるが、4時間はかけてほしい。
9	近世の女性史①	社会・身分の固定化と儒教理念による女性の社会進出阻害問題を学ぶ	講義ノートの読み返しと参考文献による次回への予習。必要時間は、個人差もあるが、4時間はかけてほしい。
10	近世の女性史②	女性受刑者の犯した犯罪から江戸期の社会を学ぶ	講義ノートの読み返しと参考文献による次回への予習。必要時間は、個人差もあるが、4時間はかけてほしい。
11	近代の女性史①	明治憲法治下と日本国憲法治下での女性像や人権の問題を学ぶ	講義ノートの読み返しと参考文献による次回への予習。必要時間は、個人差もあるが、4時間はかけてほしい。
12	近代の女性史②	明治期以降に、債務契約によってシベリアや東南アジアへと「身売り」されていたいわゆる「唐行きさん」の歴史を学ぶ	講義ノートの読み返しと参考文献による次回への予習。必要時間は、個人差もあるが、4時間はかけてほしい。
13	近代の女性史③	下田歌子、河原操子ら、明治期に活躍した女性たちの実像を学ぶ	講義ノートの読み返しと参考文献による次回への予習。必要時間は、個人差もあるが、4時間はかけてほしい。
14	近代の女性史④	津田梅子、平塚らいてうなど、女子教育と女性解放運動に貢献した人々の生き様を学ぶ	講義ノートの読み返しと参考文献による次回への予習。必要時間は、個人差もあるが、4時間はかけてほしい。
15	戦後の女性史	戦後、アメリカ合衆国から学び取って進展してきた日本女性とその人権問題を学ぶ	講義ノートの読み返し。必要時間は、個人差もあるが、4時間はかけてほしい。

関連科目	「日本法制史」「法と社会」「東洋法制史」
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本女性史	脇田晴子他	吉川弘文館

	2	サンダカン八番娼館	山崎朋子	文春文庫
	3	中国女性史入門	関西中国女性史研究会	人文書院
評価方法 (基準)	定期試験のみによる。ただし当然のことながら、出席していないと試験で良い点数を取ることはほぼ不可能である。			
学生への メッセージ	難しく考えないで、気軽に参加してほしい。			
担当者の 研究室等	11号館10階 萩原守教授室			
備考				

科目名	日本国憲法	科目名 (英文)	Japanese Constitution
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	笛木 淳
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2△, DP3△, DP4△, DP5△		
科目ナンバリング	GS01311a1		

授業概要・目的	<p>憲法は、国の「かたち」と「はたらき」についての基本的な原理・ルールを定めたものです。これらの原理・ルールを大きく分けると、統治の仕組みに関するものと人権に関するものがあります。</p> <p>この授業では、これらの重要な原理・ルールを解説し、私たちの社会における身近なトピックや問題にあてはめて考えるきっかけを提供します。また、実際に裁判で争われた事件も参照して、それについて裁判所がどのように判断したのかも検討していきます。</p>
---------	--

到達目標	<p>この授業を通じて学生には、次の3点を達成することが期待されます。</p> <p>(1) 憲法の原理やルールの基本的事項を理解し、分かりやすく説明できる。</p> <p>(2) 具体的な事件について、裁判所が下した判断を踏まえた基礎的な検討ができる。</p> <p>(3) 社会における様々なトピックに存在する憲法上の問題を発見できる。</p>
------	--

授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・反転授業 予め事前資料に目を通し、基礎知識を身に着けた上で授業に臨んでください。授業ではこれらの基礎知識を問う問題と、発展的な課題を扱います。 ・授業資料 レジュメは事前にパワーポイントをアップしますので、そちらをあらかじめダウンロードした上で受講してください (授業中の配布はありません)。 ・その他 授業中は、質疑応答を通じて受講生との双方向型のコミュニケーションを図り、皆さんの理解を助けるようにします。間違いをおそれずに積極的に発言することを望んでいます。
----------	---

科目学習の効果 (資格)	公務員試験ほか、資格試験各種で問われる憲法の基本的知識を習得できる。
--------------	------------------------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・イントロダクション	授業方法の説明 憲法とはなにか (Unit 0) * () 内は教科書該当箇所。	事前学習: 教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習: 講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。
	2	憲法の意義	・形式的意味の憲法と実質的身の憲法、立憲主義 (Unit 1)	事前学習: 教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習: 講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。
	3	統治機構総論	・権力分立 (Unit 2) ・国民主権 (Unit 3)	事前学習: 教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習: 講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。
	4	国会	国会の地位と役割, 組織 (Unit 6, 7)	事前学習: 教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習: 講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。
	5	内閣	内閣の地位と役割, 組織 (Unit 8)	事前学習: 教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習: 講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。
	6	裁判所	裁判所の地位と役割, 組織 (Unit 9, 10)	事前学習: 教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習: 講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。
	7	基本的人権各論 (1)	職業選択の自由と規制, 公共の福祉 (Unit 21, 13)	事前学習: 教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習: 講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。
	8	基本的人権各論 (2)	プライバシー権と防犯カメラ (Unit 28, 29)	事前学習: 教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習: 講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。
	9	基本的人権総論	人権の歴史, 権利能力 (享有主体性), 人権の分類 (Unit 13)	事前学習: 教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習: 講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。
	10	基本的人権各論 (3)	表現の自由の意義, 二重の基準, 名誉毀損 (Unit 17, 18)	事前学習: 教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習: 講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。
	11	基本的人権各論 (4)	集会・結社の自由, 公の施設, パブリック・フォーラム (Unit 20)	事前学習: 教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習: 講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。
	12	基本的人権各論 (5)	信教の自由と政教分離原則 (Unit 16, 17)	事前学習: 教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習: 講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。

				時間)。 事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと(2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する(2時間)。
	13	基本的人権各論(6)	思想良心の自由, 日の丸・君が代訴訟 (Unit 14)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと(2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する(2時間)。
	14	基本的人権各論(7)	生存権, 生活保護, 受給者の自動車利用 (Unit 24)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと(2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する(2時間)。
	15	平等原則	平等原則の意義, 合理的な区別, 差別 (Unit 27)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと(2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する(2時間)。
関連科目	行政法、民法、刑法など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	一歩先への憲法入門 [第2版]	片桐直人ほか	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	START UP 憲法判例50 [第2版]	上田健介・尾形健・片桐直人	有斐閣
	2	授業中に適宜指示します。		
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価対象：第5回, 第10回, 第15回の習熟度確認の演習課題のみ。 ・成績内訳： <ul style="list-style-type: none"> 第5回：30% 第10回：35% 第15回：35% ・実施方法： <ul style="list-style-type: none"> ・Formsによるオンラインで実施する。 ・毎回出される復習課題から80%, 新規問題20% ・論述式の問題を出題する場合は, 事前に問題を提示する。 			
学生への メッセージ	<p>法学を勉強したことない人も受講を歓迎します。 この授業は, 憲法の条文, 原理や解釈がなぜそうなっているのか, という点を分かりやすく説明することを心がけています。 また, 社会のさまざまな事柄を憲法に基づいて考えられるような工夫に努めていきます。</p>			
担当者の 研究室等 備考	11号館9階 笹木講師室			

科目名	日本の政治	科目名 (英文)	Japanese Politics
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2△, DP3△, DP4△, DP5△		
科目ナンバリング	GS02312a1		

授業概要・目的	政治の主要な領域としては、①予算の決定・執行という配分に関わる領域と、②法の制定・施行という立法に関わる領域の二つがあります。これら二つの領域は、紀元前の政治学者アリストテレスの正義の区分に由来するものです。アリストテレスは、配分的正義・矯正的正義という二つの正義を実現するために政治活動は行われなければならないと考えました。 現代の日本の政治でも、配分的正義を実現するために予算の決定・執行を行い、矯正的正義を実現するために法の制定・執行を行っていることに変わりはありません。主権者である私たちは、デモクラシーに参加すべき市民の一人として、また法の下での平等のもとに一票を与えられた有権者の一人として、こうした正義を実現してより良い日本を創造するために政治に関与し続けねばなりません。 しかし主権者である私たちが一市民・一有権者として正しい政治的選択を行うためには、日本の政治の仕組みや歴史について基本的な知識・教養をあらかじめ知っておくことが必要不可欠です。したがってこの授業では、政治学原論、日本の政治体制論、日本政治史にあたる内容を授業します。また時間があれば、学生の皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治・社会に関わる時事問題についても紹介、解説することもあります。
到達目標	この授業を通じて学生の皆さんは、日本の政治の仕組み・歴史について基本的な知識・教養を獲得することができます。またそうした知識・教養に基づき、実際の政治活動において①正しい政治的配分や法とは何かを思考することができ、②支持すべきより正しい政治的アクターや政策・法を判断することができ、③投票など政治活動を通じて自分の政治的意見を正しく表現することができます。(DP1)
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーにある政治問題について自問自答・議論した上で自分の意見を論理的に書いてもらったり、小テストに答えてもらったりすることもあります。
科目学習の効果 (資格)	公務員試験や就職活動において、日本の政治の知識・教養が一般常識として問われる場合があります。また一主権者として実際に政治活動するときには、そうした知識・教養について知っておく必要があります。そうした状況に上手く対応するために、日本の政治について正しい知識・教養を獲得し、個々の具体的な政策・法のメリット・デメリットを正しく判断し、最終的に自分の意見を政治活動を通じて正しく表現することができます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション—政治とは何か?	イントロダクションとして、本講義の内容と政治—国家の必要性について授業します。	事前学習：政治・政治学について文献を収集し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める (2時間)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (2時間)。
	2	政治と権力①政治の条件とは何か?	身近な日常生活で現れる政治について授業します。	事前学習：参考書の該当箇所 (第五章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (2時間)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (2時間)。
	3	政治と権力②正当な権力とは何か?	マックス・ウェーバーの権力観を理解し、政治・経済における近代性について授業します。	事前学習：参考書の該当箇所 (第五章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (2時間)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (2時間)。
	4	日本の政治システム①民主主義 (デモクラシー)	日本の政治が現在採用している民主主義 (デモクラシー) について授業します。	事前学習：参考書の該当箇所 (第十八章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (2時間)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (2時間)。
	5	日本の政治システム②選挙制度と国会	日本の選挙制度や国会について授業します。	事前学習：参考書の該当箇所 (第二十二章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (2時間)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (2時間)。
	6	日本の政治システム③内閣	日本の内閣と今世紀の行政改革について授業します。	事前学習：参考書の該当箇所 (第十一章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (2時間)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (2時間)。
	7	戦前の日本の政治システム	戦前の日本の政治システムについて授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第七回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (2時間)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (2時間)。
	8	戦後の日本政治①GHQ占領下の日本政治	戦後のGHQ占領下である1940年代後半の日本政治について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第八回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (2時間)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (2時間)。
	9	戦後の日本政治②サンフランシスコ平和条約、日米安全保障条約、55年体制の成立	日本独立期である1950年代の日本政治について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第九回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (2時間)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (2時間)。
	10	戦後の日本政治③日米安保闘争、高度経済成長、沖縄返還	安保闘争から高度経済成長へと入っていく1960年代の日本政治について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第十回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (2時間)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (2時間)。
11	戦後の日本政治④自民党の	自民党の中で田中派支配が行われてい	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第十	

		派閥の興隆	た 1970 年代、80 年代の日本政治について授業します。	一回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (2 時間)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (2 時間)。																
	12	戦後の日本政治⑤政治改革と 55 年体制の終焉	日本で政治改革が吹き荒れた 1980 年代末から 1990 年代前半にかけての日本政治について授業します。	事前学習: 事前配布したレジュメの該当箇所 (第十二回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (2 時間)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (2 時間)。																
	13	戦後の日本政治⑥自民党を中心とした連立政権の展開	自民党が連立政権を組むようになった 1990 年代の日本政治について授業します。	事前学習: 事前配布したレジュメの該当箇所 (第十三回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (2 時間)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (2 時間)。																
	14	戦後の日本政治⑦小泉劇場	新自由主義の傾向が強くなった 2000 年代前半の日本政治について授業します。	事前学習: 事前配布したレジュメの該当箇所 (第十四回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (2 時間)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (2 時間)。																
	15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習: 来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく (2 時間)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (2 時間)。教科書やノート、レジュメを読み直す (時間の許す限り)。																
関連科目	中学・高校の公民、日本史など。大学の政治学原論、日本政治史など。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>政治学</td> <td>久米郁男・川出良枝ほか</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	政治学	久米郁男・川出良枝ほか	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	政治学	久米郁男・川出良枝ほか	有斐閣																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	レポート (50%) と授業中ないし授業後に行う小テスト (50%) で評価します。																			
学生へのメッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、政治・政治学についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。																			
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 10 階 和田研究室																			
備考																				

科目名	経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to Economics
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	柳川 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2△, DP3△, DP4△, DP5△		
科目ナンバリング	GS02313a1		

授業概要・目的	入門レベルの経済学の基本的な考え方を理解することを目的とします。
到達目標	経済学の基礎をなすミクロ経済学とマクロ経済学の基礎的な用語、概念、分析手法を理解し、経済学の十大原理に代表される経済学の考え方を身につけることを目標とします。
授業方法と留意点	完全オンラインで実施します。授業週の木曜日の11時までに動画を配信します。次週の水曜日までに動画を視聴し、eラーニングで理解を確かめ、配布資料や教科書を読むなどして復習してください。 シラバスの授業計画は最大限の範囲を記載していますが、今回は初めての授業となるため、授業の進度を調整する可能性があります。
科目学習の効果 (資格)	公務員試験の経済学分野の主要部分に対応しています。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の進め方を説明します。Teamsのファイルにアップする「ガイダンス」の動画と配布資料を見てください。	事前にMoodleに参加登録、ガイダンス資料の予習(90分)。事後にeラーニングの利用準備(90分)
	2	第1章 経済学の十大原理	教科書第1章の動画を配信します。	事前に教科書第1章の予習(120分)、事後に復習し、第1章のeラーニングを行ってください。(120分)
	3	第2章 経済学者らしく考える	教科書第2章の動画を配信します。	事前に教科書第2章の予習(120分)、事後に復習し、第2章のeラーニングを行ってください。(120分)
	4	第3章 相互依存と交易(貿易)からの利益	教科書第3章の動画を配信します。	事前に教科書第3章の予習(120分)、事後に復習し、第3章のeラーニングを行ってください。(120分)
	5	第4章 市場における需要と供給の作用	教科書第4章の動画を配信します。	事前に教科書第4章の予習(120分)、事後に復習し、第4章のeラーニングを行ってください。(120分)
	6	第5章 需要、供給、および政府の政策	教科書第5章の動画を配信します。	事前に教科書第5章の予習(120分)、事後に復習し、第5章のeラーニングを行ってください。(120分)
	7	第6章 消費者、生産者、市場の効率性	教科書第6章の動画を配信します。	事前に教科書第6章の予習(120分)、事後に復習し、第6章のeラーニングを行ってください。(120分)
	8	第7章 外部性	教科書第7章の動画を配信します。	事前に教科書第7章の予習(120分)、事後に復習し、第7章のeラーニングを行ってください。(120分)
	9	第8章 国民所得の測定	教科書第8章の動画を配信します。	事前に教科書第8章の予習(120分)、事後に復習し、第8章のeラーニングを行ってください。(120分)
	10	第9章 生計費の測定	教科書第9章の動画を配信します。	事前に教科書第9章の予習(120分)、事後に復習し、第9章のeラーニングを行ってください。(120分)
	11	第10章 生産と成長	教科書第10章の動画を配信します。	事前に教科書第10章の予習(120分)、事後に復習し、第10章のeラーニングを行ってください。(120分)
	12	第11章 貯蓄、投資と金融システム	教科書第11章の動画を配信します。	事前に教科書第11章の予習(120分)、事後に復習し、第11章のeラーニングを行ってください。(120分)
	13	第12章 総需要と総供給	教科書第12章の動画を配信します。	事前に教科書第12章の予習(120分)、事後に復習し、第12章のeラーニングを行ってください。(120分)
	14	第13章 開放マクロ経済学：基本的概念	教科書第13章の動画を配信します。	事前に教科書第13章の予習(120分)、事後に復習し、第13章のeラーニングを行ってください。(120分)
	15	まとめ	全体の振り返りとまとめの動画を配信します。	事前にeラーニングの復習(150分) 事後に授業全体の振り返り(150分)。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	マンキュー入門経済学(第3版)	マンキュー	東洋経済新報社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	eラーニング52点(4点×13回)、期末試験48点、計100点で評価します。
-----------	--

学生への	経済学は皆さんにとって新しい学問だと思います。一つ一つ確かめながら学習していくことが必要です。その意味で大変ですが、オンデマンド授
------	---

メッセージ	業の利点である繰り返し学習が可能ですので、最後まで頑張ってください。経済学的思考ができるようになると、世の中を見る目が変わってきます。本授業の教科書は「圧倒的なわかりやすさで世界で一番読まれている経済学の教科書です。」世界標準で入門レベルの経済学を学びましょう。
担当者の研究室等	1号館7階、柳川研究室
備考	<p>【教科書購入に関する注意事項！】</p> <p>本授業の教科書は常翔ウェルフェアで扱う電子教科書を購入してください。その場合に限り、授業で用いるパワーポイントの講義ノートが配布されます。著作権の関係で、それ以外で購入されると講義ノートは配布されませんので注意してください。</p> <p>【eラーニング】</p> <p>受講する人は、できるだけ早く Moodle で本授業に参加登録してください。登録が遅れると eラーニングが可能となる ID の発行が遅れ、課題提出に間に合わない場合があります。</p>

科目名	世界の政治	科目名 (英文)	World Politics
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2△, DP3△, DP4△, DP5△		
科目ナンバリング	GS02314a1		

授業概要・目的	<p>世界の政治の主要な考え方としては、リアリズム (現実主義) とイデオリズム (理想主義) という二つの対照的な考え方がよく知られています。基本的に前者は、国際関係を国家が合理的に権力を行使する場と考えており、後者は、国際関係を国家内の理性的な法秩序が拡大された場と考えています。また前者は、ときに戦争に訴えつつ、国家は物理的な力の行使・圧力によって財・利益の独占を図りがちであると、後者は、戦争を回避しつつ、国家は正しい国際法・国際秩序によって財・利益の1公正な配分を行いがちであると考えています。</p> <p>現代の世界の政治でも、リアリズムとイデオリズムという二つの考え方は、例えば日本でも「対話と圧力」という言葉が用いられたように、いまだに国家という政治的アクターが活動する際の行動指針となっています。国家の主権者である私たちは、戦争という最悪の事態を避けつつも、国際法・国際秩序の合理的な枠組みのなかで、自国の財・利益を最大化しようとする政権を選ばねばなりません。</p> <p>しかし主権者である私たちが正しい外交選択を行いうる政権を選出するためには、世界の政治の仕組みや歴史について基本的な知識・教養をあらかじめ知っておくことが必要不可欠です。したがってこの授業では、国際政治、日本外交史にあたる内容だけでなく、西洋政治思想史において国家観やイデオリズム・リベラリズムの思想的基礎に関わる部分を授業します。また時間があれば、学生の皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治・社会に関わる時事問題についても紹介、解説することもあります。</p>
到達目標	<p>この授業を通じて学生の皆さんは、世界の政治の仕組み・歴史、日本外交の歴史と現状、西洋政治思想史について基本的な知識・教養を獲得することができます。またそうした知識・教養に基づき、実際の政治活動において①正しい国際関係とは何かを思考することができ、②外交・政治思想の観点から支持すべきより正しい政治的アクターや政策・法を判断することができ、③投票など政治活動を通じて自分の対外的意見を正しく表現することができます。(DP1)</p>
授業方法と留意点	<p>レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーにある政治問題について自問自答・議論した上で自分の意見を論理的に書いてもらったり、小テストに答えてもらったりすることもあります。また文章の読解能力・作成能力を高めるため、政治学に関する文献を読み、レポートを提出してもらいます。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>公務員試験や就職活動において、世界の政治の知識・教養が一般常識として問われる場合があります。また一主権者として実際に政治活動するときには、そうした知識・教養について知っておく必要があります。そうした状況に上手に対応するために、世界の政治について正しい知識・教養を獲得し、個々の具体的な政策・法のメリット・デメリットを正しく判断し、最終的に自分の意見を政治活動を通じて正しく表現することができます。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクションー国際政治とは何か?	イントロダクションとして、講義の内容と国際政治の基本的な考え方について授業します。	事前学習: 今まで勉強してきた歴史の教科書などを再読し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める (2時間)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (2時間)。
2	国際政治の歴史①主権国家の形成とイデオリズム	主権国家の誕生から平和的な超国家機構の構築に至る国際関係の歴史をイデオリズムの観点から授業します。	事前学習: 参考書の該当箇所 (『国際政治学』第二章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (2時間)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (2時間)。
3	国際政治の歴史②冷戦の勃発	第二次世界大戦後の冷戦の構造と歴史について授業します。	事前学習: 参考書の該当箇所 (『国際政治学』第二章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (2時間)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (2時間)。
4	対外政策ーリアリズムの諸理論	モーゲンソーの理論を中心に、対外政策をリアリズムの観点から授業します。	事前学習: 参考書の該当箇所 (『国際政治学』第三章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (2時間)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (2時間)。
5	日本外交の歴史①日米安全保障条約と冷戦下の日本外交	日米安全保障条約や新日米安全保障条約の内容、冷戦下の日本外交について授業します。	事前学習: 参考書の該当箇所 (『国際政治学』第五章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (2時間)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (2時間)。
6	日本外交の歴史②冷戦の終結と湾岸戦争	冷戦の終結と湾岸戦争の勃発によって日本外交がいかなる転換を求められたのかについて授業します。	事前学習: 参考書の該当箇所 (『国際政治学』第五章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (2時間)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (2時間)。
7	日本外交の歴史③今世紀の日本外交	米国同時多発テロ、アフガニスタン戦争、イラク戦争、有事法制によって生じた日本外交の転換について授業します。	事前学習: 参考書の該当箇所 (『国際政治学』第五章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (2時間)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (2時間)。
8	日本外交の歴史④安倍晋三政権における日本の安全保障	安倍晋三政権における日本の安全保障の転換について授業します。	事前学習: 参考書の該当箇所 (『国際政治学』第五章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (2時間)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (2時間)。
9	日本外交の歴史⑤岸田文雄政権における日本の安全保障	岸田文雄政権における日本の安全保障の転換について授業します。	事前学習: 参考書の該当箇所 (『国際政治学』第五章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (2時間)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (2時間)。
10	国家観の歴史的起源ープラトン、アリストテレス	国際政治で前提にしている国家という政治的アクターについて考えるため、国家観の起源について授業します。	事前学習: 事前配布したレジュメの該当箇所 (第八回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (2時間)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう

				一度熟読し、小テストを解く(2時間)。																
	11	国家理性とリアリズム—マキアヴェッリ	マキアヴェッリ『君主論』を中心に、国際政治のリアリズムの起源としての国家理性の理論について授業します。	事前学習：参考書の該当箇所(『政治思想の知恵』第一章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(2時間)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く(2時間)。																
	12	戦争状態と国家—ホブズ	ホブズ『リヴァリアサン』を中心に、国内外の戦争状態と主権国家の諸理論について授業します。	事前学習：参考書の該当箇所(『政治思想の知恵』第二章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(2時間)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く(2時間)。																
	13	民主的な国家観—ロック・ルソー	ロック『統治二論』、ルソー『社会契約論』を中心に、民主的な国家観について授業します。	事前学習：参考書の該当箇所(『政治思想の知恵』第三章・第四章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(2時間)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く(2時間)。																
	14	イデアリズムの起源—カント	カント『永遠平和のために』を中心に、国際政治のイデアリズムの起源としてのカントの道徳観・国際秩序観について授業します。	事前学習：参考書の該当箇所(『政治思想の知恵』第六章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(2時間)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く(2時間)。																
	15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく(2時間)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く(2時間)。教科書やノート、レジュメを読み直す(時間の許す限り)。																
関連科目	中学・高校の公民、日本史、世界史など。大学の日本外交史、国際政治、西洋政治思想史など。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>政治思想と啓蒙</td> <td>和田泰一・高山裕二編</td> <td>ナカニシヤ出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	政治思想と啓蒙	和田泰一・高山裕二編	ナカニシヤ出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	政治思想と啓蒙	和田泰一・高山裕二編	ナカニシヤ出版																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>国際政治学</td> <td>中西寛他</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>政治思想の知恵—マキヤベリからサンデルまで—</td> <td>仲正昌樹編</td> <td>法律文化社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	国際政治学	中西寛他	有斐閣	2	政治思想の知恵—マキヤベリからサンデルまで—	仲正昌樹編	法律文化社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	国際政治学	中西寛他	有斐閣																	
2	政治思想の知恵—マキヤベリからサンデルまで—	仲正昌樹編	法律文化社																	
3																				
評価方法(基準)	レポート(50%)、授業中ないし授業後に行う小テスト(50%)で評価します。 レポートは教科書から出題するので、必ず購入すること。																			
学生へのメッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、現代の世界の政治についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。																			
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 11号館 10階 和田研究室																			
備考																				

科目名	公衆衛生学	科目名 (英文)	Public Health Science
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	立山 由紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2△, DP3△, DP4△, DP5△		
科目ナンバリング	GNA2316a1		

授業概要・目的	公衆衛生学とは、人々（集団）の健康を維持増進するための学問です。本講義では、公衆衛生の歴史や概念、健康の指標や統計、人々の健康を守るための方法論（疫学）、疾病予防の考え方とその具体例（感染症、生活習慣病など）について地域および国際的な視点を踏まえて学びます。また、集団の健康を維持・改善するための制度や施策の概要についても学修します。			
到達目標	1) 公衆衛生の概念を理解できる。 2) 公衆衛生と疾病の関係について説明ができる。 3) 人々の健康と様々な制度や公衆衛生活動の関係を説明できる。 4) 人々の健康が社会や環境から受ける影響について理解できる。			
授業方法と留意点	パワーポイントを用いた講義を中心としますが、適宜、身近な社会課題に関する視聴覚教材や時事ニュース等を活用します。 1回目の講義で授業の進め方や成績評価方法について説明します。			
科目学習の 効果（資格）				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	公衆衛生とは	公衆衛生の歴史と概要	事前学習をしておく（教科書第1章）。健康とは何かについて自分の考えをまとめておく。
	2	保健統計（1）	人口統計	事前学習をしておく（教科書第2章）。日本の社会的課題（少子化・高齢化・出生率・死亡率等）について情報収集してみる。
	3	保健統計（2）	健康指標	事前学習をしておく（教科書第2章）。日本の健康課題について考えておく。
	4	疫学	疫学の歴史と指標	事前学習をしておく（教科書第3章）。わからない点をまとめておく。
	5	疾病予防と健康増進	疾病予防と健康増進の考え方	事前学習をしておく（教科書第4章）。日本の疾病予防対策について情報収集してみる。
	6	感染症	感染症の疫学と予防	事前学習をしておく（教科書第5章）。日本の感染症の課題について情報収集してみる。
	7	非感染性疾患（1）	生活習慣病の疫学と予防	事前学習をしておく（教科書第5章）。日本の生活習慣病の現状について情報収集してみる。
	8	非感染性疾患（2）	がんおよびその他疾患の疫学と予防	事前学習をしておく（教科書第5章）。日本のがんの現状について情報収集してみる。
	9	環境保健	地球規模の環境問題と取り組み	事前学習をしておく（教科書第6章）。地球環境問題について情報収集してみる。
	10	地域保健	地域社会と地域保健活動	事前学習をしておく（教科書第7章）。日本の地域保健活動について情報収集してみる。
	11	母子保健	女性と子供の健康	事前学習をしておく（教科書第8章）。女性と子供を取り巻く健康問題について情報収集してみる。
	12	国際保健（1）	世界の健康・日本の健康	事前学習をしておく（教科書第13章）。世界の健康問題について情報収集してみる。
	13	国際保健（2）	日本の保健医療の国際協力	事前学習をしておく（教科書第13章）。国際保健分野の取り組みについて情報収集してみる。
	14	倫理と人権	健康と人権の考え方	事前学習をしておく（教科書第1章）。公衆衛生における倫理的配慮について考えてみる。
	15	健康教育とヘルスプロモーション	健康教育とヘルスプロモーションの概念と考え方	事前学習をしておく（教科書第4章）。日本または世界のヘルスプロモーション活動について情報収集してみる。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	シンプル衛生公衆衛生学 2024	辻一郎他	南江堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国民衛生の動向 2023/2024	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会
	2	基礎から学ぶ 楽しい疫学 第4版	中村 好一	医学書院
	3	グローバルヘルス 世界の健康と対処戦略の最新動向	木原正博/木原雅子（監訳）	メディカルサイエンスインターナショナル
評価方法（基準）	課題および/または小テスト(100%)で評価します（60%以上を合格とします）。出席は、学生便覧にある履修の規定に従います（出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります）。			
学生へのメッセージ	公衆衛生学を理解するうえで最低限必要な知識について講義します。教科書だけでなく、ニュースや新聞等を読み、日本や世界で起きている出来事について関心を持って授業に臨んでください。			
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	事前事後学習時間として計60時間程度を要する。			

科目名	自然地理学	科目名 (英文)	Physical Geography
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大谷 侑也
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2△, DP3△, DP4△, DP5△		
科目ナンバリング	GNA2317a1		

授業概要・目的

人類は地球上に形作られた自然環境を利用しながら日々の生活を営んでいます。しかしその自然環境の成り立ち：ストーリーをきちんと理解している人はどれくらいいるのでしょうか？例えば、山脈はどのように形成されるのか？や、毎日飲む水はどこから来ているのか？など。自然地理学はそうした私達をとりまく自然環境の諸要素（山、水、土、地形等）を理解する学問分野です。今後、旅行したい場所はありますか？もしあればその場所の自然地理を理解していれば、旅はもっと面白いものになります。

とはいえ自然地理学に触れたことのない人も多いと思うので、なるべく分かりやすく、取っ付き易い講義にします。具体的には、身近な自然環境からアプローチをしたり、自然を忠実に表現しているジブリ作品等を使って説明します。そして日本のみならず世界の人々が地域固有の自然の上でどのような生活を営んでいるのかについて概観し、自然⇄人類との繋がりを自ら考察できる能力の獲得を目指します。

到達目標

【本授業における到達目標】
 ・この講義では「自然地理学」の視点から地域の自然と人との関わり合いを考察・説明できることが最終目標です。
 その目標を到達するためのKPI (Key Performance Indicator) を以下のように設定します。
 →「日本あるいは世界の中で、任意の地域における自然の成り立ちとそれを利用した人々の営みを説明できる。」(DP1)

授業方法と留意点

毎回の授業後に Forms から感想、質問、コメント等のリアクションペーパーを記述してもらいます。

科目学習の効果 (資格)

自然⇄人との相互関係の理解。地震等自然災害に対する認識の強化、環境に対する意識の向上。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第1回 ガイダンス (授業の進め方、到達目標の説明)	授業の進め方、評価方法等について説明	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
2	第2回 地理学の中での自然地理学の位置付けとその役割	地理学の中の自然地理学の内容	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
3	第3回 地形の成り立ちと自然資源	日本列島の成り立ちと地形	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
4	第4回 山に支えられる地域の水環境	山麓の水資源	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
5	第5回 世界の水環境と人々の暮らし	水環境と人	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
6	第6回 ジブリで学ぶ自然地理学入門①「天空の城ラピュタ」ー炭鉱と炭住の形成ー	炭鉱と人々の暮らし	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
7	第7回 ジブリで学ぶ自然地理学入門②「もののけ姫」ーたたら場の形成と山と人との関わり合いー	「たたら場」から学ぶ自然と人との相互関係	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
8	第8回 ジブリで学ぶ自然地理学入門③「となりのトトロ」ー日本の里山形成と人々の生活ー	日本の里山	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
9	第9回 ジブリで学ぶ自然地理学入門④「平成狸合戦ぽんぽこ」「耳をすませば」ー丘陵地帯とニュータウン開発ー	日本の里山と開発	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
10	第10回 ジブリで学ぶ自然地理学入門⑤「千と千尋の神隠し」ー温泉のメカニズムと温泉街の形成ーと、日本の自然環境を知る (関西編)	日本の温泉とその成り立ち	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
11	第11回 世界の山岳氷河	山岳氷河と温暖化、水資源	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
12	第12回 日本の自然環境を知るー沖縄編ー	沖縄の水環境と人々の暮らし	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
13	第13回 世界の自然環境を知るーアフリカ編ー	アフリカの自然環境	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
14	第14回 自然地理学の活かし方ービジネスの観点からー	自然地理学をビジネスへと活かす	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
15	第15回 授業のまとめ	まとめ	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関するニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
------------	----	-----	-----	------

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の授業後に Forms から提出してもらったコメント、感想、質問(60%)と、期末に提出を求めるレポート(40%)をもとに評価する。			
学生への メッセージ	高校地理・高校地学を学んでいない人でも理解できるような内容を扱い、難しい部分はフォローアップしながら授業を進めていく予定です。			
担当者の 研究室等	7号館5階(大谷研究室)			
備考	事前事後学習時間の目安は全体で60時間。 毎回の授業終了後や授業開始時には不明点や質問等に関してフィードバックをおこないます。			

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	①②
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・ABAX LMS についての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5時間) 事後学習:ABAX LMS の登録方法について確認すること(0.5時間)
2	Theme 1 Places Part A Yakushima	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story	事前学習: Theme 1 Part A の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
3	Theme 1 Places Part A Yakushima	4.Summary 5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking	事前学習: Theme 1 Part A の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
4	Theme 1 Places Part A Yakushima	8.Learing Language Patterns 9.Second Reading 10.Output	事前学習: Theme 1 Part A の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
5	Theme 1 Places Part B Tioman Island, Malaysia	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story 4.Summary	事前学習: Theme 1 Part B の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
6	Theme 1 Places Part B Tioman Island, Malaysia	5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking 8.Learing Language Patterns 9.Second Reading 10. Output	事前学習: Theme 1 Part B の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
7	Theme 2 Culture Part A Intercultural Differences	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story	事前学習: Theme 2 Part A の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
8	Theme 2 Culture Part A Intercultural Differences	4.Summary 5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking	事前学習: Theme 2 Part A の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
9	Theme 2 Culture Part A Intercultural Differences	8.Learing Language Patterns 9.Second Reading 10.Output	事前学習: Theme 2 Part A の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
10	Theme 2 Culture Part B Cultural Similarities	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story 4. Summary	事前学習: Theme 2 Part B の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
11	Theme 2 Culture Part B Cultural Similarities	5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking 8.Learing Language Patterns 9.Second Reading 10. Output	事前学習: Theme 2 Part B の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
12	Theme 3 Seasons Part A The Rainy Season	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story	事前学習: Theme 3 Part A の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
13	Theme 3 Seasons Part A The Rainy Season	4. Summary 5. Words 6. Critical Reading 7. Critical Thinking から 10. Output	事前学習: Theme 3 Part A の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
14	Theme 3 Seasons Part B Autumn Colors	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story 4. Summary	事前学習: Theme 3 Part B の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習: Theme 1 から 3 までの内容を総復習すること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)

					と (0.5 時間)
関連科目	基礎英語 II a				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1	Asian Issues 1	Alastair Graham-Marr	Abax	
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1				
	2				
	3				
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%				
学生への メッセージ					
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)				
備考					

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	③④
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	江崎 早苗
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・ABAX LMS についての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5時間) 事後学習:ABAX LMS の登録方法について確認すること(0.5時間)
2	Theme 1 Places Part A Yakushima	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story	事前学習: Theme 1 Part A の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
3	Theme 1 Places Part A Yakushima	4.Summary 5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking	事前学習: Theme 1 Part A の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
4	Theme 1 Places Part A Yakushima	8.Learing Language Patterns 9.Second Reading 10.Output	事前学習: Theme 1 Part A の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
5	Theme 1 Places Part B Tioman Island, Malaysia	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story 4.Summary	事前学習: Theme 1 Part B の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
6	Theme 1 Places Part B Tioman Island, Malaysia	5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking 8.Learing Language Patterns 9.Second Reading 10. Output	事前学習: Theme 1 Part B の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
7	Theme 2 Culture Part A Intercultural Differences	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story	事前学習: Theme 2 Part A の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
8	Theme 2 Culture Part A Intercultural Differences	4.Summary 5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking	事前学習: Theme 2 Part A の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
9	Theme 2 Culture Part A Intercultural Differences	8.Learing Language Patterns 9.Second Reading 10.Output	事前学習: Theme 2 Part A の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
10	Theme 2 Culture Part B Cultural Similarities	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story 4. Summary	事前学習: Theme 2 Part B の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
11	Theme 2 Culture Part B Cultural Similarities	5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking 8.Learing Language Patterns 9.Second Reading 10. Output	事前学習: Theme 2 Part B の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
12	Theme 3 Seasons Part A The Rainy Season	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story	事前学習: Theme 3 Part A の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
13	Theme 3 Seasons Part A The Rainy Season	4. Summary 5. Words 6. Critical Reading 7. Critical Thinking—10. Output	事前学習: Theme 3 Part A の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
14	Theme 3 Seasons Part B Autumn Colors	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story 4. Summary	事前学習: Theme 3 Part B の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習: Theme 1 から 3 までの内容を総復習すること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)

					と (0.5 時間)
関連科目	基礎英語 II a				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1	Asian Issues 1	Alastair Graham-Marr	Abax	
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1				
	2				
	3				
評価方法 (基準)	小テスト 40% 課題 30% 復習テスト 30%				
学生への メッセージ					
担当者の 研究室等 備考	7号館2階 (非常勤講師室)				

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	⑤⑥
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北川 朗子
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP8Δ		
科目ナンバリング	GEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にアクセスし登録をすること (0.5 時間)
2	Unit 1 People	Reading 1	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
3	Unit 1 People	Reading 2	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
4	Unit 1 People	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
5	Unit 2 Climate	Reading 1	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
6	Unit 2 Climate	Reading 2	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
7	Unit 2 Climate	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
8	Unit 3 Lifestyle	Reading 1	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
9	Unit 3 Lifestyle	Reading 2	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
10	Unit 3 Lifestyle	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
11	Unit 4 Places	Reading 1	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
12	Unit 4 Places	Reading 2	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
13	Unit 4 Places	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
14	Unit 1-4	Online Workbook による総復習	事前学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習: Unit 1-4 まで復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)

関連科目	基礎英語 II a			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	クラスメートの意見にも耳を傾け、たくさんの気づきの瞬間をクラスの中で一緒に共有したいです。「こうでないといけない」というルールを一旦自分の中から取り除き、多様な意見が聞けるクラスづくりを目指します。自分の考え、アイデア、そして熱意をどんどんクラスに持ち込んでください。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	⑦⑧
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にアクセスし登録をすること (0.5 時間)
2	Unit 1 People	Reading 1	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
3	Unit 1 People	Reading 2	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
4	Unit 1 People	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
5	Unit 2 Climate	Reading 1	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
6	Unit 2 Climate	Reading 2	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
7	Unit 2 Climate	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
8	Unit 3 Lifestyle	Reading 1	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
9	Unit 3 Lifestyle	Reading 2	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
10	Unit 3 Lifestyle	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
11	Unit 4 Places	Reading 1	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
12	Unit 4 Places	Reading 2	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
13	Unit 4 Places	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
14	Unit 1-4	Online Workbook による総復習	事前学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習: Unit 1-4 まで復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)

関連科目	基礎英語 II a			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考				

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	⑨⑩
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北川 朗子
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP8Δ		
科目ナンバリング	GEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にアクセスし登録をすること (0.5 時間)
2	Unit 1 People	Reading 1	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
3	Unit 1 People	Reading 2	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
4	Unit 1 People	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
5	Unit 2 Climate	Reading 1	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
6	Unit 2 Climate	Reading 2	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
7	Unit 2 Climate	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
8	Unit 3 Lifestyle	Reading 1	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
9	Unit 3 Lifestyle	Reading 2	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
10	Unit 3 Lifestyle	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
11	Unit 4 Places	Reading 1	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
12	Unit 4 Places	Reading 2	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
13	Unit 4 Places	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
14	Unit 1-4	Online Workbook による総復習	事前学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習: Unit 1-4 まで復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)

関連科目	基礎英語 II a			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	クラスメートの意見にも耳を傾け、たくさんの気づきの瞬間をクラスの中で一緒に共有したいです。「こうでないといけない」というルールを一旦自分の中から取り除き、多様な意見が聞けるクラスづくりを目指します。自分の考え、アイデア、そして熱意をどんどんクラスに持ち込んでください。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	⑪⑫
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP8Δ		
科目ナンバリング	GEN1319c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にアクセスし登録をすること (0.5 時間)
2	Unit 1 People	Reading 1	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
3	Unit 1 People	Reading 2	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
4	Unit 1 People	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
5	Unit 2 Climate	Reading 1	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
6	Unit 2 Climate	Reading 2	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
7	Unit 2 Climate	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
8	Unit 3 Lifestyle	Reading 1	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
9	Unit 3 Lifestyle	Reading 2	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
10	Unit 3 Lifestyle	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
11	Unit 4 Places	Reading 1	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
12	Unit 4 Places	Reading 2	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
13	Unit 4 Places	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
14	Unit 1 から 4	Online Workbook による総復習	事前学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習: Unit 1 から 4 まで復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)

				習すること (0.5 時間)
関連科目	基礎英語 II a			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考				

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	①②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1320c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・ABAX LMS についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS の登録方法について確認すること (0.5 時間)
2	Theme 4 Cities Part A Megacities	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story	事前学習: Theme 4 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
3	Theme 4 Cities Part A Megacities	4. Summary 5. Words 6. Critical Reading 7. Critical Thinking	事前学習: Theme 4 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
4	Theme 4 Cities Part A Megacities	8. Learning Language Patterns 9. Second Reading 10. Output	事前学習: Theme 4 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
5	Theme 4 Cities Part B Megacities: Problems	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story 4. Summary	事前学習: Theme 4 Part B の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
6	Theme 4 Cities Part B Megacities: Problems	5. Words 6. Critical Reading 7. Critical Thinking 8. Learning Language Patterns 9. Second Reading 10. Output	事前学習: Theme 4 Part B の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
7	Theme 5 Travel Part A Tourism: Advantages	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story	事前学習: Theme 5 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
8	Theme 5 Travel Part A Tourism: Advantages	4. Summary 5. Words 6. Critical Reading 7. Critical Thinking	事前学習: Theme 5 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
9	Theme 5 Travel Part A Tourism: Advantages	8. Learning Language Patterns 9. Second Reading 10. Output	事前学習: Theme 5 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
10	Theme 5 Travel Part B Tourism: Disadvantages	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story 4. Summary	事前学習: Theme 5 Part B の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
11	Theme 5 Travel Part B Tourism: Disadvantages	5. Words 6. Critical Reading 7. Critical Thinking 8. Learning Language Patterns 9. Second Reading 10. Output	事前学習: Theme 5 Part B の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
12	Theme 6 Food Part A Hot Pot	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story	事前学習: Theme 6 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
13	Theme 6 Food Part A Hot Pot	4. Summary 5. Words 6. Critical Reading 7. Critical Thinking から 10. Output	事前学習: Theme 6 Part A の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
14	Theme 6 Food Part B East Asian Food	1. Warming-Up 2. Main Reading 3. Understanding the Story 4. Summary	事前学習: Theme 6 Part B の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習: Theme 4 から 6 までの内容を総復習すること (0.5 時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)

					と (0.5 時間)
関連科目	基礎英語 I a				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1	Asian Issues 1	Alastair Graham-Marr	Abax	
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1				
	2				
	3				
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%				
学生への メッセージ					
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)				
備考					

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	③④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	江崎 早苗
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1320c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・ABAX LMS についての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5時間) 事後学習:ABAX LMS の登録方法について確認すること(0.5時間)
2	Theme 4 Cities Part A Megacities	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story	事前学習: Theme 4 Part A の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
3	Theme 4 Cities Part A Megacities	4.Summary 5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking	事前学習: Theme 4 Part A の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
4	Theme 4 Cities Part A Megacities	8.Learning Language Patterns 9.Second Reading 10.Output	事前学習: Theme 4 Part A の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
5	Theme 4 Cities Part B Megacities: Problems	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story 4.Summary	事前学習: Theme 4 Part B の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
6	Theme 4 Cities Part B Megacities: Problems	5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking 8.Learning Language Patterns 9.Second Reading 10. Output	事前学習: Theme 4 Part B の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
7	Theme 5 Travel Part A Tourism: Advantages	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story	事前学習: Theme 5 Part A の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
8	Theme 5 Travel Part A Tourism: Advantages	4.Summary 5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking	事前学習: Theme 5 Part A の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
9	Theme 5 Travel Part A Tourism: Advantages	8.Learning Language Patterns 9.Second Reading 10.Output	事前学習: Theme 5 Part A の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
10	Theme 5 Travel Part B Tourism: Disadvantages	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story 4.Summary	事前学習: Theme 5 Part B の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
11	Theme 5 Travel Part B Tourism: Disadvantages	5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking 8.Learning Language Patterns 9.Second Reading 10. Output	事前学習: Theme 5 Part B の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
12	Theme 6 Food Part A Hot Pot	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story	事前学習: Theme 6 Part A の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
13	Theme 6 Food Part A Hot Pot	4.Summary 5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking-10. Output	事前学習: Theme 6 Part A の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
14	Theme 6 Food Part B East Asian Food	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story 4.Summary	事前学習: Theme 6 Part B の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習: Theme 4 から 6 までの内容を総復習すること(0.5時間) 事後学習: ABAX LMS にて学習した内容を復習すること

					と (0.5 時間)
関連科目	基礎英語 I a				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1	Asian Issues 1	Alastair Graham-Marr	Abax	
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1				
	2				
	3				
評価方法 (基準)	小テスト 40% 課題 30% 復習テスト 30%				
学生への メッセージ					
担当者の 研究室等 備考	7号館2階 (非常勤講師室)				

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名(英文)	Basic English IIa
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	⑤⑥
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北川 朗子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1320c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbookについての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにアクセスし登録をすること(0.5時間)
2	Unit 5 JOBS	Reading 1	事前学習:Unit 5の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
3	Unit 5 JOBS	Reading 2	事前学習:Unit 5の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
4	Unit 5 JOBS	Language Development / Watch and Listen	事前学習:Unit 5の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
5	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 1	事前学習:Unit 6の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
6	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 2	事前学習:Unit 6の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
7	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Language Development / Watch and Listen	事前学習:Unit 6の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
8	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 1	事前学習:Unit 7の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
9	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 2	事前学習:Unit 7の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
10	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Language Development / Watch and Listen	事前学習:Unit 7の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
11	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 1	事前学習:Unit 8の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
12	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 2	事前学習:Unit 8の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
13	Unit 8 TRANSPORTATION	Language Development / Watch and Listen	事前学習:Unit 8の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
14	Unit 5-8	Online Workbookによる総復習	事前学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 5からUnit 8の総復習	事前学習:Unit 5-8まで復習すること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)

関連科目	基礎英語 I a			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	テキストで扱っているトピックをもとに、クラスメートの意見から得られる気づきや、そして自分はどう思うかという点について、改めて深めていきたいと考えています。お互いが自由に発言しやすい環境を築くことで、新たな視点や考え方に触れる機会が増え、より豊かな学びにつなげていきましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考				

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名(英文)	Basic English IIa
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	⑦⑧
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1320c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbookについての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにアクセスし登録すること(0.5時間)
2	Unit 5 JOBS	Reading 1	事前学習:Unit 5の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
3	Unit 5 JOBS	Reading 2	事前学習:Unit 5の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
4	Unit 5 JOBS	Language Development / Watch and Listen	事前学習:Unit 5の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
5	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 1	事前学習:Unit 6の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
6	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 2	事前学習:Unit 6の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
7	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Language Development / Watch and Listen	事前学習:Unit 6の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
8	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 1	事前学習:Unit 7の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
9	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 2	事前学習:Unit 7の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
10	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Language Development / Watch and Listen	事前学習:Unit 7の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
11	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 1	事前学習:Unit 8の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
12	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 2	事前学習:Unit 8の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
13	Unit 8 TRANSPORTATION	Language Development / Watch and Listen	事前学習:Unit 8の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
14	Unit 5-8	Online Workbookによる総復習	事前学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 5からUnit 8の総復習	事前学習:Unit 5-8まで復習すること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)

関連科目	基礎英語 I a			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考				

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名(英文)	Basic English IIa
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	⑨⑩
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北川 朗子
ディプロマポリシー(DP)	DP1⑩, DP8Δ		
科目ナンバリング	GEN1320c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbookについての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにアクセスし登録すること(0.5時間)
2	Unit 5 JOBS	Reading 1	事前学習:Unit 5の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
3	Unit 5 JOBS	Reading 2	事前学習:Unit 5の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
4	Unit 5 JOBS	Language Development / Watch and Listen	事前学習:Unit 5の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
5	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 1	事前学習:Unit 6の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
6	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 2	事前学習:Unit 6の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
7	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Language Development / Watch and Listen	事前学習:Unit 6の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
8	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 1	事前学習:Unit 7の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
9	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 2	事前学習:Unit 7の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
10	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Language Development / Watch and Listen	事前学習:Unit 7の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
11	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 1	事前学習:Unit 8の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
12	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 2	事前学習:Unit 8の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
13	Unit 8 TRANSPORTATION	Language Development / Watch and Listen	事前学習:Unit 8の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
14	Unit 5-8	Online Workbookによる総復習	事前学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 5からUnit 8の総復習	事前学習:Unit 5-8まで復習すること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)

関連科目	基礎英語 I a			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	テキストで扱っているトピックをもとに、クラスメートの意見から得られる気づきや、そして自分はどう思うかという点について、改めて深めていきたいと考えています。お互いが自由に発言しやすい環境を築くことで、新たな視点や考え方に触れる機会が増え、より豊かな学びにつなげていきましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名(英文)	Basic English IIa
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	⑪⑫
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1320c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbookについての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにアクセスし登録すること(0.5時間)
2	Unit 5 JOBS	Reading 1	事前学習:Unit 5の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
3	Unit 5 JOBS	Reading 2	事前学習:Unit 5の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
4	Unit 5 JOBS	Language Development / Watch and Listen	事前学習:Unit 5の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
5	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 1	事前学習:Unit 6の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
6	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 2	事前学習:Unit 6の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
7	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Language Development / Watch and Listen	事前学習:Unit 6の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
8	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 1	事前学習:Unit 7の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
9	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 2	事前学習:Unit 7の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
10	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Language Development / Watch and Listen	事前学習:Unit 7の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
11	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 1	事前学習:Unit 8の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
12	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 2	事前学習:Unit 8の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
13	Unit 8 TRANSPORTATION	Language Development / Watch and Listen	事前学習:Unit 8の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
14	Unit 5 から 8	Online Workbookによる総復習	事前学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 5からUnit 8の総復習	事前学習:Unit 5から8まで復習すること(0.5時間) 事後学習:Online Workbookにて学習した内容を復習すること(0.5時間)

				習すること (0.5 時間)
関連科目	基礎英語 I a			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考				

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	⑦
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	シャーフ ジョージ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 1 I'm a student.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 1 I'm a student.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 2 What's your phone number?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 2 What's your phone number?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 3 That's my wallet!	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 3 That's my wallet!	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 1-3	Video: The Sloth Calendar Reading: Famous Names, Great Jobs	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 4 Do you like K-pop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 4 Do you like K-pop?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 5 What do you do for fun?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 5 What do you do for fun?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 6 Can you speak Chinese?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 6 Can you speak Chinese?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話 II
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Tests 50% Homework 25% Mini-presentations 10% Participation 15%			
学生への メッセージ	Attending classes regularly and participating in class discussions will help students' English to improve and will help them achieve good scores on tests and homework.			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	⑧
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction Getting to Know You	Lecture. Exchanging information. Pair Work Group Work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
2	Useful classroom language.	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
3	Exchanging personal academic information.	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
4	Personal details.	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
5	Personal positions.	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
6	Describing and asking about personal positions.	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
7	Review.	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
8	Test, feedback and review.	Review. Test. Feedback.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
9	Music.	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
10	Expressing likes and dislikes.	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
11	Leisure activities.	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
12	What you do for fun?	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
13	What you can and cannot do.	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
14	Expressing abilities.	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
15	Test, feedback, review.	Test. Lecture. Feedback	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour

関連科目	英語基礎会話 II
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart choice (4th edition student book with online practice) STARTER	Ken Wilson	Oxford University Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Grades will be determined by, answering questions in class, tasks done in class and for homework, small quizzes, pair speaking tasks, cooperation, teamwork, and bearing. 80%
-----------	---

	Test(s) 20%.
学生への メッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good L u c k!
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	⑨
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5 時間)
2	Unit 1 I'm a student.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
3	Unit 1 I'm a student.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
4	Unit 2 What's your phone number?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
5	Unit 2 What's your phone number?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
6	Unit 3 That's my wallet!	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
7	Unit 3 That's my wallet!	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
8	BONUS Unit 1-3	Video: The Sloth Calendar Reading: Famous Names, Great Jobs	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
9	Unit 4 Do you like K-pop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
10	Unit 4 Do you like K-pop?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
11	Unit 5 What do you do for fun?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
12	Unit 5 What do you do for fun?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
13	Unit 6 Can you speak Chinese?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
14	Unit 6 Can you speak Chinese?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)

関連科目	英語基礎会話 II
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter</td> <td>Ken Wilson, Thomas Healy</td> <td>Oxford University Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%																
学生への メッセージ	Let's enjoy learning English conversation!																
担当者の 研究室等 備考	7号館2階(非常勤講師室)																

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	⑩
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松本 裕也
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 1 I'm a student.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 1 I'm a student.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 2 What's your phone number?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 2 What's your phone number?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 3 That's my wallet!	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 3 That's my wallet!	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 1-3	Video: The Sloth Calendar Reading: Famous Names, Great Jobs	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 4 Do you like K-pop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 4 Do you like K-pop?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 5 What do you do for fun?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 5 What do you do for fun?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 6 Can you speak Chinese?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 6 Can you speak Chinese?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話 II
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	・テストの点数だけを基準に成績はつきません。アクティビティへの積極的な参加、講義に対する質問など、努力する姿勢が評価対象の中心です。			
担当者の 研究室等 備考	7号館2階（非常勤講師室）			

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	与那嶺 裕紀
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 1 I'm a student.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 1 I'm a student.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 2 What's your phone number?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 2 What's your phone number?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 3 That's my wallet!	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 3 That's my wallet!	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 1-3	Video: The Sloth Calendar Reading: Famous Names, Great Jobs	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 4 Do you like K-pop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 4 Do you like K-pop?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 5 What do you do for fun?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 5 What do you do for fun?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 6 Can you speak Chinese?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 6 Can you speak Chinese?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話 II
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter</td> <td>Ken Wilson, Thomas Healy</td> <td>Oxford University Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%																
学生への メッセージ	英語の学習を自分でやってみたい、いつかは必要だと考えている、など意外と英語が気になっている人は多いもの。でも、なかなか自分で何から始めたらいいか、わからないのも事実です。だからこそ、この授業でそのきっかけをつかんでほしいと思っています。また、英語学習にチャレンジしていく中で、何かおもしろいと思う部分を一緒に見つけていきましょう。																
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）																
備考																	

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1 年	クラス	⑫
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤原 久仁子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5 時間)
2	Unit 1 I'm a student.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
3	Unit 1 I'm a student.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
4	Unit 2 What's your phone number?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
5	Unit 2 What's your phone number?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
6	Unit 3 That's my wallet!	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
7	Unit 3 That's my wallet!	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
8	BONUS Unit 1-3	Video: The Sloth Calendar Reading: Famous Names, Great Jobs	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
9	Unit 4 Do you like K-pop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
10	Unit 4 Do you like K-pop?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
11	Unit 5 What do you do for fun?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
12	Unit 5 What do you do for fun?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
13	Unit 6 Can you speak Chinese?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
14	Unit 6 Can you speak Chinese?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくる。(0.5 時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5 時間)

関連科目	英語基礎会話 II
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業貢献度 50%、学期末テスト 50%。テストは教科書のみ持ち込み可とします。			
学生への メッセージ	単語を覚えたり文法を理解することも大事ですが、頭の中にある英語を実際に使えるようにすることも大切です。この授業では皆さんがこれまでよりも話せるようになった、と実感してくれるような授業にしたいと思います。			
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)			
備考				

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松本 裕也
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 1 Nice to meet you!	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 1 Nice to meet you!	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 2 What do you do?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 2 What do you do?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 3 Do you like noodles?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 3 Do you like noodles?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 1-3	Video: Volcano Adventure Reading: CITY NEWS	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 4 How often do you exercise?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 4 How often do you exercise?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 5 I'm listening to music.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 5 I'm listening to music.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 6 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 6 Where were you yesterday?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話 II
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Level 1	Ken Wilson	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	・テストの点数だけを基準に成績はつきません。アクティビティへの積極的な参加、講義に対する質問など、努力する姿勢が評価対象の中心です。			
担当者の 研究室等 備考	7号館2階（非常勤講師室）			

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤原 久仁子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ることを。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 1 Nice to meet you!	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 1 Nice to meet you!	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 2 What do you do?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 2 What do you do?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 3 Do you like noodles?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 3 Do you like noodles?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 1-3	Video: Volcano Adventure Reading: CITY NEWS	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 4 How often do you exercise?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 4 How often do you exercise?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 5 I'm listening to music.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 5 I'm listening to music.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 6 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 6 Where were you yesterday?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話 II
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Level 1	Ken Wilson	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業貢献度 50%、学期末テスト 50%。テストは教科書のみ持ち込み可とします。			
学生への メッセージ	単語を覚えたり文法を理解することも大事ですが、頭の中にある英語を実際に使えるようにすることも大切です。この授業では皆さんがこれまでよりも話せるようになった、と実感してくれるような授業にしたいと思います。			
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)			
備考				

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	与那嶺 裕紀
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 1 Nice to meet you!	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 1 Nice to meet you!	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 2 What do you do?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 2 What do you do?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 3 Do you like noodles?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 3 Do you like noodles?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 1-3	Video: Volcano Adventure Reading: CITY NEWS	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 4 How often do you exercise?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 4 How often do you exercise?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 5 I'm listening to music.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 5 I'm listening to music.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 6 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 6 Where were you yesterday?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話 II
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Level 1	Ken Wilson	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	英語の学習を、自分で頑張ってみたい、いつかは必要だと考えている、など意外と英語が気になっている人は多いもの。でも、なかなか自分で何から始めたらいいか、がわからないのも事実です。だからこそ、この授業でそのきっかけをつかんでほしいと思っています。また、英語学習にチャレンジしていく中で、何かおもしろいと思える部分と一緒に見つけていきましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大井 良友
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 1 Nice to meet you!	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 1 Nice to meet you!	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 2 What do you do?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 2 What do you do?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 3 Do you like noodles?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 3 Do you like noodles?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 1-3	Video: Volcano Adventure Reading: CITY NEWS	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 4 How often do you exercise?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 4 How often do you exercise?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 5 I'm listening to music.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 5 I'm listening to music.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 6 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 6 Where were you yesterday?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話 II
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Level 1	Ken Wilson	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	授業の進め方などの詳細は初回授業にて説明するので必ず出席すること。 また、初回授業から教科書を使用するので、予め入手しておくこと。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction Getting to Know You	Lecture. Exchanging information. Pair Work Group Work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
2	Useful classroom language.	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
3	Exchanging personal academic information.	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
4	Personal details.	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
5	Personal positions.	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
6	Describing and asking about personal positions.	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
7	Review.	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
8	Test, feedback and review.	Review. Test. Feedback.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
9	Music.	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
10	Expressing likes and dislikes.	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
11	Leisure activities.	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
12	What you do for fun?	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
13	What you can and cannot do.	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
14	Expressing abilities.	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
15	Test, feedback, review.	Test. Lecture. Feedback	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour

関連科目	英語基礎会話 II
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart choice (4th edition student book with online practice) STARTER	Ken Wilson	Oxford University Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Grades will be determined by, answering questions in class, tasks done in class and for homework, small quizzes, pair speaking tasks, cooperation, teamwork, and bearing. 80%
-----------	---

	Test(s) 20%.
学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	シャーフ ジョージ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1321c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice の登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 1 I'm a student.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 1 I'm a student.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 2 What's your phone number?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 2 What's your phone number?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 3 That's my wallet!	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 3 That's my wallet!	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 1-3	Video: The Sloth Calendar Reading: Famous Names, Great Jobs	事前学習：Unit 1 から 3 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 4 Do you like K-pop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 4 Do you like K-pop?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 5 What do you do for fun?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 5 What do you do for fun?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 6 Can you speak Chinese?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 6 Can you speak Chinese?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から Unit 6 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practice にアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話 II
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Tests 50% Homework 25% Mini-presentations 10% Participation 15%			
学生への メッセージ	Attending classes regularly and participating in class discussions will help students' English to improve and will help them achieve good scores on tests and homework.			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	⑦
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	シャーフ ジョージ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ることを。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceの登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 7 What's she wearing?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 7 What's she wearing?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 8 Are there any chairs?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 8 Are there any chairs?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 9 The bank is on the corner.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 9 The bank is on the corner.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 7-9	Video: The Jack Sparrow House	事前学習：Unit 7から9までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 10 Do we have any coffee?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 10 Do we have any coffee?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 11 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 11 Where were you yesterday?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 12 What did you do last weekend?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 12 What did you do last weekend?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話Ⅰ
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Tests 50% Homework 25% Mini-presentations 10% Participation 15%			
学生への メッセージ	Attending classes regularly and participating in class discussions will help students' English to improve and will help them achieve good scores on tests and homework.			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	⑧
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	11 Summer Vacation	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
2	Clothing	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
3	What people are doing.	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
4	Household items.	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
5	Describing a room.	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
6	Directions and locations.	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
7	Giving and following directions.	Test Review	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
8	Review. Test.	Test Review	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
9	Food and drink	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
10	Count and non-count items.	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
11	Every day places and what you do there.	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
12	Discussion about the past.	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
13	Leisure activities.	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
14	Enjoyable experiences.	Test Review	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
15	Test/ Review	Test/ Review	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour

関連科目	英語基礎会話Ⅰ
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice (4th edition student book with online practice) STARTER	Kevin Wilson.	Oxford, University Press
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	Grades will be determined by, answering questions in class, tasks done in class and for homework, small quizzes, pair speaking tasks, cooperation, teamwork, and bearing. 80%
-----------	---

	Test(s) 20%.
学生へのメッセージ	このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な語彙の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。 皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	⑨
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceの登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 7 What's she wearing?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 7 What's she wearing?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 8 Are there any chairs?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 8 Are there any chairs?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 9 The bank is on the corner.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 9 The bank is on the corner.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 7-9	Video: The Jack Sparrow House	事前学習：Unit 7から9までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 10 Do we have any coffee?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 10 Do we have any coffee?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 11 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 11 Where were you yesterday?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 12 What did you do last weekend?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 12 What did you do last weekend?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話Ⅰ
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	Let's continue to enjoy learning English conversation!			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考				

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	⑩
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松本 裕也
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ることを。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceの登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 7 What's she wearing?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 7の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 7 What's she wearing?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 7の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 8 Are there any chairs?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 8の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 8 Are there any chairs?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 8の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 9 The bank is on the corner.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 9の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 9 The bank is on the corner.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 9の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 7-9	Video: The Jack Sparrow House	事前学習：Unit 7から9までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 10 Do we have any coffee?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 10の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 10 Do we have any coffee?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 10の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 11 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 11の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 11 Where were you yesterday?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 11の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 12 What did you do last weekend?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 12の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 12 What did you do last weekend?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 12の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話Ⅰ
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	・テストの点数だけを基準に成績はつきません。アクティビティへの積極的な参加、講義に対する質問など、努力する姿勢が評価対象の中心です。			
担当者の 研究室等 備考	7号館2階（非常勤講師室）			

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	与那嶺 裕紀
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ることを。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceの登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 7 What's she wearing?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 7の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 7 What's she wearing?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 7の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 8 Are there any chairs?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 8の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 8 Are there any chairs?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 8の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 9 The bank is on the corner.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 9の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 9 The bank is on the corner.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 9の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 7-9	Video: The Jack Sparrow House	事前学習：Unit 7から9までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 10 Do we have any coffee?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 10の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 10 Do we have any coffee?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 10の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 11 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 11の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 11 Where were you yesterday?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 11の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 12 What did you do last weekend?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 12の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 12 What did you do last weekend?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 12の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話Ⅰ
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	英語の学習を、自分で頑張りたい、いつかは必要だと考えている、など意外と英語が気になっている人は多いもの。でも、なかなか自分で何から始めたらいいか、がわからないのも事実です。だからこそ、この授業でそのきっかけをつかんでほしいと思っています。また、英語学習にチャレンジしていく中で、何かおもしろいと思える部分を一緒に見つけていきましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	⑫
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤原 久仁子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceの登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 7 What's she wearing?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 7 What's she wearing?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 8 Are there any chairs?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 8 Are there any chairs?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 9 The bank is on the corner.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 9 The bank is on the corner.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 7-9	Video: The Jack Sparrow House	事前学習：Unit 7から9までの内容を復習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 10 Do we have any coffee?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 10 Do we have any coffee?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 11 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 11 Where were you yesterday?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 12 What did you do last weekend?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 12 What did you do last weekend?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話Ⅰ
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業中の演習問題への取り組み、発言等の授業貢献度 50%、テスト（筆記かスピーキングかは応相談）50%をベースに、総合的に判断します。			
学生への メッセージ	覚える英語から使える英語へ。一緒に取り組みましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松本 裕也
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ることを。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceの登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 7 Which one is cheaper?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 7の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 7 Which one is cheaper?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 7の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 8 They're very friendly.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 8の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 8 They're very friendly.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 8の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 9 You can visit the zoo.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 9の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 9 You can visit the zoo.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 9の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 7-9	Video: Second-hand or Tradition Reading: English Chat	事前学習：Unit 7から9までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 10 Is there a coffee shop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 10の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 10 Is there a coffee shop?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 10の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 11 I had a good time.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 11の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 11 I had a good time.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 11の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 12 I'm going to go by car.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 12の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 12 I'm going to go by car.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 12の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話Ⅰ
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Level 1	Ken Wilson	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	・テストの点数だけを基準に成績はつきません。アクティビティへの積極的な参加、講義に対する質問など、努力する姿勢が評価対象の中心です。			
担当者の 研究室等 備考	7号館2階（非常勤講師室）			

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	花房 ともえ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ることを。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceの登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 7 Which one is cheaper?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 7 Which one is cheaper?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 8 They're very friendly.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 8 They're very friendly.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 9 You can visit the zoo.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 9 You can visit the zoo.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 7 ~ 9	Video: Second-hand or Tradition Reading: English Chat	事前学習：Unit 7から9までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 10 Is there a coffee shop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 10 Is there a coffee shop?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 11 I had a good time.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 11 I had a good time.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 12 I'm going to go by car.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 12 I'm going to go by car.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話Ⅰ
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Level 1	Ken Wilson	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業中のテスト・発言・討論、宿題・課題・提出物等 (100%)			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)			
備考				

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	与那嶺 裕紀
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ることを。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceの登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 7 Which one is cheaper?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 7 Which one is cheaper?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 8 They're very friendly.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 8 They're very friendly.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 9 You can visit the zoo.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 9 You can visit the zoo.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 7 - 9	Video: Second-hand or Tradition Reading: English Chat	事前学習：Unit 7から9までの内容を復習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 10 Is there a coffee shop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 10 Is there a coffee shop?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 11 I had a good time.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 11 I had a good time.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 12 I'm going to go by car.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 12 I'm going to go by car.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話Ⅰ
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Level 1	Ken Wilson	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等 備考	7号館2階(非常勤講師室)			

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安田 朱里
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceの登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
2	Unit 7 Which one is cheaper?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
3	Unit 7 Which one is cheaper?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 7の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
4	Unit 8 They're very friendly.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
5	Unit 8 They're very friendly.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 8の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
6	Unit 9 You can visit the zoo.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
7	Unit 9 You can visit the zoo.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 9の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
8	BONUS Unit 7 - 9	Video: Second-hand or Tradition Reading: English Chat	事前学習：Unit 7から9までの内容を復習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
9	Unit 10 Is there a coffee shop?	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
10	Unit 10 Is there a coffee shop?	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 10の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
11	Unit 11 I had a good time.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
12	Unit 11 I had a good time.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 11の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
13	Unit 12 I'm going to go by car.	Vocabulary / Conversation / Language Practice	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
14	Unit 12 I'm going to go by car.	Pronunciation / Listening / Reading / Speaking	事前学習：Unit 12の内容を予習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習してくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)

関連科目	英語基礎会話Ⅰ
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Level 1	Ken Wilson	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%			
学生への メッセージ	英語を身につけると、得ることがたくさんあります。例えば、世界中のニュースをリアルタイムで見聞きしたり、海外の人と直接交流したりでき、日本語のみでは得られない知識や情報を得ることができます。使える英語を少しずつ着実に身につけていきましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	11 Summer Vacation	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
	2	Clothing	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
	3	What people are doing.	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
	4	Household items.	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
	5	Describing a room.	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
	6	Directions and locations.	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
	7	Giving and following directions.	Test Review	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
	8	Review. Test.	Test Review	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
	9	Food and drink	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
	10	Count and non-count items.	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
	11	Every day places and what you do there.	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
	12	Discussion about the past.	Vocabulary Building Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
	13	Leisure activities.	Explanation of Grammar, Group-work, Listening, Speaking, Pair-work.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
	14	Enjoyable experiences.	Test Review	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour
	15	Test/ Review	Test/ Review	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。Review the materials of the week. 1 hour

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice (4th edition student book with online practice) STARTER	Kevin Wilson.	Oxford, University Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Grades will be determined by, answering questions in class, tasks done in class and for homework, small quizzes, pair speaking tasks, cooperation, teamwork, and bearing. 80%
-----------	---

	Test(s) 20%.
学生へのメッセージ	このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な語彙の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。 皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	シャーフ ジョージ
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP8Δ		
科目ナンバリング	GEN1322c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ることを。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Smart Choice Online Practice についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceの登録の仕方を確認すること。(0.5時間)
	2	Unit 7 What's she wearing?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 7の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
	3	Unit 7 What's she wearing?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 7の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
	4	Unit 8 Are there any chairs?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 8の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
	5	Unit 8 Are there any chairs?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 8の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
	6	Unit 9 The bank is on the corner.	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 9の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
	7	Unit 9 The bank is on the corner.	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 9の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
	8	BONUS Unit 7-9	Video: The Jack Sparrow House	事前学習：Unit 7から9までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
	9	Unit 10 Do we have any coffee?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 10の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
	10	Unit 10 Do we have any coffee?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 10の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
	11	Unit 11 Where were you yesterday?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 11の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
	12	Unit 11 Where were you yesterday?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 11の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
	13	Unit 12 What did you do last weekend?	Vocabulary / Conversation / Language Practice 1	事前学習：Unit 12の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
	14	Unit 12 What did you do last weekend?	Language Practice 2/ Pronunciation / Listening / Speaking	事前学習：Unit 12の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
	15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 7 から Unit 12 までの内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：Online Practiceにアクセスし、学習した内容を復習すること。(0.5時間)
関連科目	英語基礎会話Ⅰ			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 4th Edition Student Book with Online Practice Starter	Ken Wilson, Thomas Healy	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Tests 50% Homework 25% Mini-presentations 10% Participation 15%			
学生への メッセージ	Attending classes regularly and participating in class discussions will help students' English to improve and will help them achieve good scores on tests and homework.			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	実践英語 I a	科目名 (英文)	Practical English Ia
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	①②③
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	湊 由妃子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN2323c1		

授業概要・目的	1年生で習得した能力から、バラエティに富んだアクティビティーを通して、Reading, Listening, Writing, Speaking の総合的な英語能力をさらに向上させることを目的とする。
到達目標	積極的な学習で、英語の4技能すべてのレベルアップを目指し、TOEIC 試験にも役立つ能力をつけることを目標とする。 小テストを随時実施し、語彙力を高めることも目標とする。
授業方法と留意点	語学の授業であるため、学生主導ですすめていく。訳出、練習問題、音読などすべて学生に指名するので、予習をして積極的に参加してもらいたい。 教科書を忘れたままの着席は欠席とする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC や英検受験に役立つ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit1 Occupations 多様な職業に関する表現を学び、職業に関するリスニング	教科書 pp.10-13 Listening と Conversation の練習問題	当該範囲の復習と予習
3	Unit 1 Occupations 文法、too`to, enough`to, 接続詞についてと職業に関する英文を読む	教科書 pp.14-19 Reading と Grammar, Writing の練習問題	当該範囲の復習と予習
4	Unit 2 At the Dinner Table 食事、食事の動作に関する表現とリスニング	Unit1の単語テスト 教科書 pp.20-23 Listening と Conversation の練習問題	当該範囲の復習と予習
5	Unit 2 At the Dinner Table 助動詞の復習と食事に関する英文 Reading	教科書 pp.24-29 Reading と Grammar, Writing の練習問題	当該範囲の復習と予習
6	Unit 3 Sports スポーツに関する表現とリスニング	Unit 2の単後テスト 教科書 pp.30-33 Listeing と Conversation の練習問題	当該範囲の復習と予習
7	Unit 3 Sports 頻度を表す副詞と語句の復習とスポーツに関する英文 Reading	教科書 pp.34-39 Reading, Grammar, Writing の練習問題	当該範囲の復習と予習
8	Unit 4 Health 健康に関する表現とリスニング	Unit 3の単語テスト 教科書 pp.40-43 Listening と Conversation の練習問題	当該範囲の復習と予習
9	Unit 4 Health 相関接続詞の復習と健康に関する英文 Reading	教科書 pp.44-49 Reading, Grammar, Writing の練習問題	当該範囲の復習と予習
10	Unit 5 What's on your Playlist? 音楽の好みやジャンルに関する表現とリスニング	Unit 4の単後テスト 教科書 pp.50-53 Listening と Conversation の練習問題	当該範囲の復習と予習
11	Unit 5 What's on your Playlist? 相関接続詞の復習と音楽に関する英文 Reading	教科書 pp.54-59 Reading, Grammar, Writing の練習問題	当該範囲の復習と予習
12	Unit 6 At the Movies 映画に関する表現とリスニング	Unit 5 単語テスト 教科書 pp.60-63 Listening と Conversation の練習問題	当該範囲の復習と予習
13	Unit 6 At the Movies 知覚動詞と再帰代名詞の復習と映画に関する英文 Reading	教科書 pp.64-69 Reading, Grammar, Writing の練習問題	当該範囲の復習と予習
14	Unit1~Unit6の Review	教科書 pp.70-73の練習問題	前期学習範囲の復習
15	前期学習内容の復習とまとめ	前期学習範囲の復習と確認のためのまとめ	テストのための準備

	めのテスト	とめのテスト	
関連科目	他の英語科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Live Escalate Book 2: Trekking	Teruhiko Kadoyama/Live ABC editors
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	平常点とまとめのテストの総合評価とする。 詳しくは第1回目の授業でプリントを配布し説明する。		
学生への メッセージ	授業にはマナーを守り積極的に参加してください。		
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室		
備考	事前・事後学習は総計15時間とする。		

科目名	実践英語 I a	科目名 (英文)	Practical English Ia
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	⑦⑧⑨
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	関山 博久
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN2323c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の概要に関する説明	テキストの予習 (30分)
2	Unit 1 (Travel) 前半	新出語彙の確認 文法・リスニング問題演習 音読とシャドーイング スピーキング活動	シャドーイング課題 (30分) テキストの予習・復習 (30分)
3	Unit 1 (Travel) 後半	リーディング・ライティング・リスニング問題演習 音読とシャドーイング	シャドーイング課題 (30分) テキストの予習・復習 (30分)
4	Unit 2 (Dining Out) 前半	新出語彙の確認 文法・リスニング問題演習 音読とシャドーイング スピーキング活動	シャドーイング課題 (30分) テキストの予習・復習 (30分)
5	Unit 2 (Dining Out) 後半	リーディング・ライティング・リスニング問題演習 音読とシャドーイング	シャドーイング課題 (30分) テキストの予習・復習 (30分)
6	Unit 3 (Shopping) 前半	新出語彙の確認 文法・リスニング問題演習 音読とシャドーイング スピーキング活動	シャドーイング課題 (30分) テキストの予習・復習 (30分)
7	中間テスト	中間テストの実施	中間テストの勉強 (90分)
8	Unit 3 (Shopping) 後半	中間テストのフィードバック リーディング・ライティング・リスニング問題演習 音読とシャドーイング	シャドーイング課題 (30分) テキストの予習・復習 (30分)
9	Unit 4 (Entertainment) 前半	新出語彙の確認 文法・リスニング問題演習 音読とシャドーイング スピーキング活動	シャドーイング課題 (30分) テキストの予習・復習 (30分)
10	Unit 4 (Entertainment) 後半	リーディング・ライティング・リスニング問題演習 音読とシャドーイング	シャドーイング課題 (30分) テキストの予習・復習 (30分)
11	Unit 5 (Advertising) 前半	新出語彙の確認 文法・リスニング問題演習 音読とシャドーイング スピーキング活動	シャドーイング課題 (30分) テキストの予習・復習 (30分)
12	Unit 5 (Advertising) 後半	リーディング・ライティング・リスニング問題演習 音読とシャドーイング	シャドーイング課題 (30分) テキストの予習・復習 (30分)
13	Unit 6 (Events) 前半	新出語彙の確認 文法・リスニング問題演習 音読とシャドーイング スピーキング活動	シャドーイング課題 (30分) テキストの予習・復習 (30分)
14	まとめテスト	まとめテストの実施	まとめテストの勉強 (90分)
15	前期の振り返り	まとめテストのフィードバック 前期学習事項の総括	これまでの総復習 (30分)

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST : BEGINNER	早川幸治 / 岸洋一	金星堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%		
学生への メッセージ			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7号館 2階)		
備考			

科目名	実践英語Ⅱa	科目名(英文)	Practical English IIa
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	①②③④⑤⑥
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	湊 由妃子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GEN2324c1		

授業概要・目的	1年生で習得した能力から、バラエティに富んだアクティビティを通して、Reading, Listening, Writing, Speaking の総合的な英語能力をさらに向上させることを目的とする。
到達目標	積極的な学習で、英語の4技能すべてのレベルアップを目指し、TOEIC 試験にも役立つ能力をつけることを目標とする。 小テストを随時実施し、語彙力を高めることも目標とする。
授業方法と留意点	語学の授業であるため、学生主導ですすめていく。訳出、練習問題、音読などすべて学生に指名するので、予習をして積極的に参加してもらいたい。 教科書を忘れたままの着席は欠席とする。
科目学習の効果(資格)	TOEIC や英検受験に役立つ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Back to School リスニング、会話、英作で後期授業への導入	リスニングと英作問題を指名しながらすすめていく。
2	Unit 7 Technology in Daily Life 現代のテクノロジーに関する表現とリスニング	教科書 pp.74-77 リスニングと Conversation の練習問題	当該範囲の復習と予習
3	Unit 7 Technology in Daily Life 直接目的語と間接目的語、また接続詞 however を学習し、テクノロジーに関する英文 Reading	教科書 pp.78-83 Reading, Grammar, Writing の練習問題	当該範囲の復習と予習
4	Unit 8 Social Network SNSでの出会いに関する表現とリスニング	Unit7の単語テスト 教科書 pp.84-87 リスニングと Conversation の練習問題	当該範囲の復習と予習
5	Unit 8 Social Network 名詞節の復習と SNS に関する英文 Reading	教科書 pp.88-93 Reading, Grammar, Writing の練習問題	当該範囲の復習と予習
6	Unit 9 Looking on the Bright Side 前向き、積極的になる効用に関する表現とリスニング	Unit 8 の単語テスト 教科書 pp.94-97 リスニングと Conversation の練習問題	当該範囲の復習と予習
7	Unit 9 Looking on the Bright Side 連結動詞と分詞を復習し、positive thinking についての英文 Reading	教科書 pp.98-103 Reading, Grammar, Writing の練習問題	当該範囲の復習と予習
8	Unit 10 Love Affairs 恋愛、結婚に関する表現とリスニング	Unit 9 の単語テスト 教科書 pp.104-107 リスニングと Conversation の練習問題	当該範囲の復習と予習
9	Unit 10 Love Affairs 関係代名詞の復習と結婚に関する英文 Reading	教科書 pp.108-113 Reading, Grammar, Writing の練習問題	当該範囲の復習と予習
10	Unit 11 Storytelling 物語に関する表現とリスニング	Unit10の単語テスト 教科書 pp.114-117 リスニングと Conversation の練習問題	当該範囲の復習と予習
11	Unit 11 Storytelling 関係代名詞の制限、非制限用法の復習と短い英文童話 Reading	教科書 pp.118-123 Reading, Grammar, Writing の練習問題	当該範囲の復習と予習
12	Unit 12 The Power of Words 言葉の力に関する表現とリスニング	Unit11の単語テスト 教科書 pp.124-127 リスニングと Conversation の練習問題	当該範囲の復習と予習
13	Unit 12 The Power of Words 形容詞の用法を学習し、言葉についての英文 Reading	教科書 pp.128-133 Reading, Grammar, Writing の練習問題	当該範囲の復習と予習
14	Unit 7-12 の Review	教科書 pp.134-137 の練習問題	後期学習範囲の復習
15	後期学習内容の復習とまとめ	後期学習範囲の復習と確認のためのまとめ	テストのための準備

		めのテスト	とめのテスト	
関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Live Escalate Book 2: Trekking	Teruhiko Kadoyama/Live ABC editors	成美堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点とまとめのテストの総合評価とする。 詳しくは第1回目の授業でプリントを配布し説明する。			
学生への メッセージ	授業にはマナーを守り積極的に参加してください。			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	事前・事後学習は総計15時間とする			

科目名	実践英語Ⅱa	科目名 (英文)	Practical English IIa
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	⑦⑧⑨⑩⑪⑫
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	関山 博久
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP8Δ		
科目ナンバリング	GEN2324c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の概要に関する説明	テキストの予習 (30分)
2	Unit 7 (Daily Life) 前半	新出語彙の確認 文法・リスニング問題演習 音読とシャドーイング スピーキング活動	シャドーイング課題 (30分) テキストの予習・復習 (30分)
3	Unit 7 (Daily Life) 後半	リーディング・ライティング・リスニング問題演習 音読とシャドーイング	シャドーイング課題 (30分) テキストの予習・復習 (30分)
4	Unit 8 (Media) 前半	新出語彙の確認 文法・リスニング問題演習 音読とシャドーイング スピーキング活動	シャドーイング課題 (30分) テキストの予習・復習 (30分)
5	Unit 8 (Media) 後半	リーディング・ライティング・リスニング問題演習 音読とシャドーイング	シャドーイング課題 (30分) テキストの予習・復習 (30分)
6	Unit 9 (Recruiting) 前半	新出語彙の確認 文法・リスニング問題演習 音読とシャドーイング スピーキング活動	シャドーイング課題 (30分) テキストの予習・復習 (30分)
7	中間テスト	中間テストの実施	中間テストの勉強 (90分)
8	Unit 9 (Recruiting) 後半	中間テストのフィードバック リーディング・ライティング・リスニング問題演習 音読とシャドーイング	シャドーイング課題 (30分) テキストの予習・復習 (30分)
9	Unit 10 (Production & Sales) 前半	新出語彙の確認 文法・リスニング問題演習 音読とシャドーイング スピーキング活動	シャドーイング課題 (30分) テキストの予習・復習 (30分)
10	Unit 10 (Production & Sales) 後半	リーディング・ライティング・リスニング問題演習 音読とシャドーイング	シャドーイング課題 (30分) テキストの予習・復習 (30分)
11	Unit 11 (Meetings) 前半	新出語彙の確認 文法・リスニング問題演習 音読とシャドーイング スピーキング活動	シャドーイング課題 (30分) テキストの予習・復習 (30分)
12	Unit 11 (Meetings) 後半	リーディング・ライティング・リスニング問題演習 音読とシャドーイング	シャドーイング課題 (30分) テキストの予習・復習 (30分)
13	Unit 12 (Offices) 前半	新出語彙の確認 文法・リスニング問題演習 音読とシャドーイング スピーキング活動	シャドーイング課題 (30分) テキストの予習・復習 (30分)
14	まとめテスト	まとめテストの実施	まとめテストの勉強 (90分)
15	前期の振り返り	まとめテストのフィードバック 前期学習事項の総括	これまでの総復習 (30分)

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST : BEGINNER	早川幸治 / 岸洋一	金星堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表...100%		
学生への メッセージ			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7号館 2階)		
備考			

科目名	日本語基礎	科目名 (英文)	Basic Japanese
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	三次 亜紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GJA1328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。 文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。 数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
2	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
4	【課題1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	事前学習課題：第1回～第3回の内容の復習を行うこと（1時間）
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
7	フィードバック	課題1のフィードバック	事前学習課題：課題1を見直すこと（30分） 事後学習課題：フィードバックを受けて、復習を行うこと（30分）
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
11	【課題2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	事前学習課題：第5回～第10回の復習を行うこと（1時間）
12	レポートの書き方1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
13	フィードバック	課題2のフィードバック	事前学習課題：課題2を見直すこと（30分） 事後学習課題：フィードバックを受けて、復習を行うこと（30分）
14	【レポート】	レポートを提出する	事前学習課題：これまでの復習を行うこと（1時間）
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	事前学習課題：これまでの復習を行うこと（30分） 事後学習課題：講評を受けて、復習を行うこと（30分）

関連科目 すべての授業の日本語による課題作成

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2				
3				

参考書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。			
学生への メッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	事前事後学習の総時間の目安は 15 時間。			

科目名	日本語基礎	科目名 (英文)	Basic Japanese
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	村田 真一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GJA1328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入、授業の概要説明 教科書「はじめに：文章で伝える」 教科書「第1回：文章の書き方1」	文章を書くことと日本語表現を学ぶことについて レポート・論文の基本事項 適切な文章表現についての全般的な説明	【事前学習】 教科書「はじめに：文章で伝える」および「第1回：文章の書き方1」を読む 【事後学習】 教科書「第1回：文章の書き方1」を読み、練習問題に取り組む
2	教科書「第2回：文章の書き方2」	わかりやすい文章の書き方 有効な文章表現 文の作り方とつなぎ方、接続詞の意味	【事前学習】 教科書「第2回：文章の書き方2」を読む 【事後学習】 教科書「第2回：文章の書き方2」を読み、練習問題に取り組む
3	教科書「第3回：事実と意見」	事実と意見の書き分け 事実と意見の関係、事実と意見を文章として表現すること	【事前学習】 教科書「第3回：事実と意見」を読む 【事後学習】 教科書「第3回：事実と意見」を読み、練習問題に取り組む
4	教科書「第4回：課題① 説明文」	必要なことを適切に説明する 課題についての説明、課題の作成と提出	【事前学習】 教科書第4回：「課題① 説明文」を読む 課題①のための資料を整理し理解を深める
5	課題①のフィードバック	課題①の見直しと反省 これまでの授業内容の復習	【事後学習】 フィードバックを踏まえて課題①の文章を見直し、適切な文章表現について考える
6	教科書「第5回：構成」	レポートなどの文章構成を学ぶ 文章構成・段落の意味と役割	【事前学習】 教科書「第5回：構成」を読む 【事後学習】 教科書「第5回：構成」を読み、練習問題に取り組む
7	教科書「第6回：要約」	要旨の要約の作成方法を知る 文章を要約するための考え方	【事前学習】 教科書「第6回：要約」を読む 【事後学習】 教科書「第6回：要約」を読み、練習問題に取り組む
8	教科書「第7回：文章を引用する」	文章を引用する方法を学ぶ 引用することの意味と役割	【事前学習】 教科書「第7回：文章を引用する」を読む 【事後学習】 教科書「第7回：文章を引用する」を読み、練習問題に取り組む
9	教科書「第8回：図表を引用する」	図表を引用する方法を学ぶ 資料を参照することと客観性	【事前学習】 教科書「第8回：図表を引用する」を読む 【事後学習】 教科書「第8回：図表を引用する」を読み、練習問題に取り組む
10	教科書「第9回：意見を述べる」	考察に基づいて意見を述べる 考えを伝えるための文章表現	【事前学習】 教科書「第9回：意見を述べる」を読む 【事後学習】 教科書「第9回：意見を述べる」を読み、練習問題に取り組む
11	教科書「第10回：課題② 論説文」	資料を引用して意見を述べる 課題についての説明、課題の作成と提出	【事前学習】 教科書「第10回：課題② 論説文」を読む 課題②のための資料を整理し理解を深め自身の考えをまとめる
12	課題②のフィードバック	課題②の見直しと反省 これまでの授業内容の復習	【事後学習】 フィードバックを踏まえて課題②の文章を見直し、適切な文章表現について考える
13	教科書「第11回：レポートの書き方1」 教科書「第12回：レポートの書き方2」	レポートの体裁について学ぶ レポート作成の注意点を教える 文章形式の意味と役割 分析・考察の目的・方法を考える レポート課題の提示と説明	【事前学習】 教科書「第11回：レポートの書き方1」および「第12回：レポートの書き方2」を読む
14	レポートの作成	レポートを作成と提出	【事前学習】 レポートのための資料を整理し理解を深め自身の考えをまとめる

	15	レポートのフィードバック 授業全体のまとめ	レポートの見直しと反省 これまでの授業内容の復習 適切な文章を書くための要点	【事後学習】 フィードバックを踏まえてレポートの文章を見直し、適切な文章表現について考える
関連科目	すべての授業の日本語による課題作成			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	摂南大学教育イノベーションセンター
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>課題 2回 (20%×2)、レポート (30%)、授業態度 (呼応状態・積極性) 等 (30%) により評価する。</p> <p>課題・レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。</p> <p>課題・レポートは手書きとし、適切な漢字の使用、誤字の有無等も評価基準に含める。</p> <p>課題・レポートの評価が合格に満たない場合、再提出とする。</p>			
学生への メッセージ	<p>本科目は、日本語の文章表現を学ぶことが目的です。</p> <p>しかし、文章表現は、単に文字を連ね記すことに留まらず、自身の考えを形成し表現するものでもあります。</p> <p>普段から用いている日本語について、あらためてその文章表現への理解を深めることは、思考の幅を広げ整理する能力を身につけることにつながっています。</p> <p>大学での学術的な活動や卒業後の社会で求められる言語能力として、日常的なコミュニケーションツールである会話表現とは異なる、自身の考えを論理的に組み立て他者に説得的に伝える文章表現を学んでください。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	<p>事前事後学習の総時間の目安は15時間、授業各回につき前後の予習復習を含めた1時間程度の自習を求める。</p> <p>教科書のほか適宜に資料等を配布する。</p> <p>授業計画は授業の進行状況によって変更する場合がある。</p> <p>学生各自の自主・自律を重視する。</p>			

科目名	日本語基礎	科目名 (英文)	Basic Japanese
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	渡 勇輝
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GJA1328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。 教科書を用意して受講すること。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
4	【課題1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	事前学習課題：第1回～第3回の内容の復習を行うこと（1時間）
5	フィードバック	課題1のフィードバック	事前学習課題：課題1を見なおすこと（30分） 事後学習課題：フィードバックを受けて、復習を行うこと（30分）
6	構成	レポートの文章構成を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
7	要約	要約の作成方法を学ぶ	事前学習課題：課題1を見なおすこと（30分） 事後学習課題：フィードバックを受けて、復習を行うこと（30分）
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
10	意見を述べる	データに基づいて意見を述べる方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
11	【課題2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	事前学習課題：第5回～第10回の復習を行うこと（1時間）
12	フィードバック	課題2のフィードバック	事前学習課題：課題2を見なおすこと（30分） 事後学習課題：フィードバックを受けて、復習を行うこと（30分）
13	レポートの書き方	レポートの体裁や作成の注意点について学ぶ レポート課題の説明	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
14	【レポート】	レポートを提出する	事前学習課題：これまでの復習を行うこと（1時間）
15	レポートの講評	レポートのフィードバック	事前学習課題：これまでの復習を行うこと（30分） 事後学習課題：講評を受けて、復習を行うこと（30分）

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業態度 (呼应状態・積極性)・小テスト (30%) により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。		
学生への メッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートや論文などで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、適切な文章表現を学びましょう。		
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室		
備考	事前事後学習の総時間の目安は 15 時間です。 提出課題については、授業中にフィードバックを行います。		

科目名	日本語基礎	科目名 (英文)	Basic Japanese
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	ニ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	三次 亜紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GJA1328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。 文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。 数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
2	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
4	【課題1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	事前学習課題：第1回～第3回の内容の復習を行うこと（1時間）
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
7	フィードバック	課題1のフィードバック	事前学習課題：課題1を見直すこと（30分） 事後学習課題：フィードバックを受けて、復習を行うこと（30分）
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
11	【課題2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	事前学習課題：第5回～第10回の復習を行うこと（1時間）
12	レポートの書き方1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
13	フィードバック	課題2のフィードバック	事前学習課題：課題2を見直すこと（30分） 事後学習課題：フィードバックを受けて、復習を行うこと（30分）
14	【レポート】	レポートを提出する	事前学習課題：これまでの復習を行うこと（1時間）
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	事前学習課題：これまでの復習を行うこと（30分） 事後学習課題：講評を受けて、復習を行うこと（30分）

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2				
3				

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。			
学生への メッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	事前事後学習の総時間の目安は 15 時間。			

科目名	日本語基礎	科目名 (英文)	Basic Japanese
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	村田 真一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GJA1328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入、授業の概要説明 教科書「はじめに：文章で伝える」 教科書「第1回：文章の書き方1」	文章を書くことと日本語表現を学ぶことについて レポート・論文の基本事項 適切な文章表現についての全般的な説明	【事前学習】 教科書「はじめに：文章で伝える」および「第1回：文章の書き方1」を読む 【事後学習】 教科書「第1回：文章の書き方1」を読み、練習問題に取り組む
2	教科書「第2回：文章の書き方2」	わかりやすい文章の書き方 有効な文章表現 文の作り方とつなぎ方、接続詞の意味	【事前学習】 教科書「第2回：文章の書き方2」を読む 【事後学習】 教科書「第2回：文章の書き方2」を読み、練習問題に取り組む
3	教科書「第3回：事実と意見」	事実と意見の書き分け 事実と意見の関係、事実と意見を文章として表現すること	【事前学習】 教科書「第3回：事実と意見」を読む 【事後学習】 教科書「第3回：事実と意見」を読み、練習問題に取り組む
4	教科書「第4回：課題① 説明文」	必要なことを適切に説明する 課題についての説明、課題の作成と提出	【事前学習】 教科書第4回：「課題① 説明文」を読む 課題①のための資料を整理し理解を深める
5	課題①のフィードバック	課題①の見直しと反省 これまでの授業内容の復習	【事後学習】 フィードバックを踏まえて課題①の文章を見直し、適切な文章表現について考える
6	教科書「第5回：構成」	レポートなどの文章構成を学ぶ 文章構成・段落の意味と役割	【事前学習】 教科書「第5回：構成」を読む 【事後学習】 教科書「第5回：構成」を読み、練習問題に取り組む
7	教科書「第6回：要約」	要旨の要約の作成方法を知る 文章を要約するための考え方	【事前学習】 教科書「第6回：要約」を読む 【事後学習】 教科書「第6回：要約」を読み、練習問題に取り組む
8	教科書「第7回：文章を引用する」	文章を引用する方法を学ぶ 引用することの意味と役割	【事前学習】 教科書「第7回：文章を引用する」を読む 【事後学習】 教科書「第7回：文章を引用する」を読み、練習問題に取り組む
9	教科書「第8回：図表を引用する」	図表を引用する方法を学ぶ 資料を参照することと客観性	【事前学習】 教科書「第8回：図表を引用する」を読む 【事後学習】 教科書「第8回：図表を引用する」を読み、練習問題に取り組む
10	教科書「第9回：意見を述べる」	考察に基づいて意見を述べる 考えを伝えるための文章表現	【事前学習】 教科書「第9回：意見を述べる」を読む 【事後学習】 教科書「第9回：意見を述べる」を読み、練習問題に取り組む
11	教科書「第10回：課題② 論説文」	資料を引用して意見を述べる 課題についての説明、課題の作成と提出	【事前学習】 教科書「第10回：課題② 論説文」を読む 課題②のための資料を整理し理解を深め自身の考えをまとめる
12	課題②のフィードバック	課題②の見直しと反省 これまでの授業内容の復習	【事後学習】 フィードバックを踏まえて課題②の文章を見直し、適切な文章表現について考える
13	教科書「第11回：レポートの書き方1」 教科書「第12回：レポートの書き方2」	レポートの体裁について学ぶ レポート作成の注意点を教える 文章形式の意味と役割 分析・考察の目的・方法を考える レポート課題の提示と説明	【事前学習】 教科書「第11回：レポートの書き方1」および「第12回：レポートの書き方2」を読む
14	レポートの作成	レポートを作成と提出	【事前学習】 レポートのための資料を整理し理解を深め自身の考えをまとめる

	15	レポートのフィードバック 授業全体のまとめ	レポートの見直しと反省 これまでの授業内容の復習 適切な文章を書くための要点	【事後学習】 フィードバックを踏まえてレポートの文章を見直し、適切な文章表現について考える
関連科目	すべての授業の日本語による課題作成			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	摂南大学教育イノベーションセンター
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>課題 2回 (20%×2)、レポート (30%)、授業態度 (呼应状態・積極性) 等 (30%) により評価する。</p> <p>課題・レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。</p> <p>課題・レポートは手書きとし、適切な漢字の使用、誤字の有無等も評価基準に含める。</p> <p>課題・レポートの評価が合格に満たない場合、再提出とする。</p>			
学生への メッセージ	<p>本科目は、日本語の文章表現を学ぶことが目的です。</p> <p>しかし、文章表現は、単に文字を連ね記すことに留まらず、自身の考えを形成し表現するものでもあります。</p> <p>普段から用いている日本語について、あらためてその文章表現への理解を深めることは、思考の幅を広げ整理する能力を身につけることにつながっています。</p> <p>大学での学術的な活動や卒業後の社会で求められる言語能力として、日常的なコミュニケーションツールである会話表現とは異なる、自身の考えを論理的に組み立て他者に説得的に伝える文章表現を学んでください。</p>			
担当者の 研究室等	7号館 2階 非常勤講師室			
備考	<p>事前事後学習の総時間の目安は 15 時間、授業各回につき前後の予習復習を含めた 1 時間程度の自習を求める。</p> <p>教科書のほか適宜に資料等を配布する。</p> <p>授業計画は授業の進行状況によって変更する場合がある。</p> <p>学生各自の自主・自律を重視する。</p>			

科目名	日本語基礎	科目名 (英文)	Basic Japanese
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	渡 勇輝
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GJA1328a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。 教科書を用意して受講すること。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
4	【課題1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	事前学習課題：第1回～第3回の内容の復習を行うこと（1時間）
5	フィードバック	課題1のフィードバック	事前学習課題：課題1を見なおすこと（30分） 事後学習課題：フィードバックを受けて、復習を行うこと（30分）
6	構成	レポートの文章構成を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
7	要約	要約の作成方法を学ぶ	事前学習課題：課題1を見なおすこと（30分） 事後学習課題：フィードバックを受けて、復習を行うこと（30分）
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
10	意見を述べる	データに基づいて意見を述べる方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
11	【課題2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	事前学習課題：第5回～第10回の復習を行うこと（1時間）
12	フィードバック	課題2のフィードバック	事前学習課題：課題2を見なおすこと（30分） 事後学習課題：フィードバックを受けて、復習を行うこと（30分）
13	レポートの書き方	レポートの体裁や作成の注意点について学ぶ レポート課題の説明	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
14	【レポート】	レポートを提出する	事前学習課題：これまでの復習を行うこと（1時間）
15	レポートの講評	レポートのフィードバック	事前学習課題：これまでの復習を行うこと（30分） 事後学習課題：講評を受けて、復習を行うこと（30分）

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業態度 (呼应状態・積極性)・小テスト (30%) により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。		
学生への メッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートや論文などで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、適切な文章表現を学びましょう。		
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室		
備考	事前事後学習の総時間の目安は 15 時間です。 提出課題については、授業中にフィードバックを行います。		

科目名	日本語表現	科目名 (英文)	Japanese Expression
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	イニ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	三次 亜紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GJA1329a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人が理解し納得できる文章をどう書くか、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワークや文章作成等の課題に取り組む。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	レポートの書き方2	資料引用の復習	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
3	【課題1】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	事前学習課題：これまでの内容の復習を行うこと（1時間）
4	フィードバック ディスカッションの準備	課題1のフィードバック ディスカッションについての説明	事前学習課題：課題1を見直すこと（30分） 事後学習課題：ディスカッションにむけて下調べをしておくこと（30分）
5	ディスカッション	グループでディスカッションを行う	事前学習課題：ディスカッションにむけて下調べをしておくこと（1時間）
6	【課題2】議事録	ディスカッションの内容を文章にまとめる	事前学習課題：ディスカッションの内容を復習すること（1時間）
7	フィードバック プレゼンテーションの準備	課題2のフィードバック プレゼンテーションについての説明	事前学習課題：課題2を見なおすこと（30分） 事後学習課題：プレゼンテーションにむけて下調べをしておくこと（30分）
8	レジュメの書き方	レジュメの書き方を学ぶ	事前学習課題：プレゼンテーションにむけて下調べをしておくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
9	資料作成	プレゼンテーションの資料作成を行う	事前学習課題：プレゼンテーションにむけて下調べをしておくこと（30分） 事後学習課題：プレゼンテーションの練習を行うこと（30分）
10	プレゼンテーション1	グループによる発表・質疑を行う	事前学習課題：プレゼンテーションの練習を行うこと（30分） 事後学習課題：プレゼンテーションの内容を復習すること（30分）
11	プレゼンテーション2	グループによる発表・質疑を行う	事前学習課題：プレゼンテーションの練習を行うこと（30分） 事後学習課題：プレゼンテーションの内容を復習すること（30分）
12	【課題3】報告文	発表した内容を文章にまとめる	事前学習課題：プレゼンテーションの内容を復習すること（1時間）
13	フィードバック	課題3のフィードバック	事前学習課題：課題3を見なおすこと（30分） 事後学習課題：フィードバックを受けて、復習を行うこと（30分）
14	手紙・メールの書き方	手紙やメールの書き方を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
15	ディスカッション	日本語表現について、グループでディスカッションを行う	事前学習課題：これまでの授業を振り返ること（30分）

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	課題 3 回 (20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生への メッセージ	前期「日本語基礎」の内容を踏まえつつ、グループワークを通して日本語の表現力を深めましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	事前事後学習の総時間の目安は 15 時間です。

科目名	日本語表現	科目名 (英文)	Japanese Expression
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	ロホ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村田 真一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GJA1329a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活で必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。 漢字等の日本語語彙に関する小テストを実施する。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入、授業の概要	授業の目的・内容の説明 ディスカッションとプレゼンテーションについて	【事前・事後学習】 前期の復習として、教科書『大学生の日本語表現』や配布資料、課題、レポートを確認する
2	レポートの書き方1 (前期の復習)	引用することの意味と役割 資料を参照することと客観性	【事前・事後学習】 前期の復習として、教科書『大学生の日本語表現』や配布資料、課題、レポートを確認する
3	レポートの書き方2 (前期の復習)	考えを伝えるための文章表現 文章の形式の意味と役割	【事前・事後学習】 前期の復習として、教科書『大学生の日本語表現』や配布資料、課題、レポートを確認する
4	課題①レポートの作成 (前期の復習)	レポートの作成と提出	【事前学習】 レポートのための資料を整理し理解を深め自身の考えをまとめる
5	課題①のフィードバック (前期の復習)	分析・考察の目的と方法を意識する 適切な文章を書くための要点 小テスト1	【事後学習】 フィードバックを踏まえてレポートの文章を見直し、適切な文章表現について考える
6	教科書「第14回：手紙の書き方」、および敬語表現について	手紙の約束事を知る 敬語表現の意味と用法 小テスト2	【事前学習】 教科書「第14回：手紙の書き方」を読み、理解を深める 【事後学習】 敬語表現についての練習問題に取り組む
7	ディスカッション1	グループディスカッションの説明 ディスカッション報告文の説明 設定されたテーマについての資料を整理し理解を深め考えをまとめる 小テスト3	【事後学習】 ディスカッションの事前準備として資料を整理し理解を深め自身の考えをまとめる
8	ディスカッション2	グループを分けとディスカッションを実施 小テスト4	【事前学習】 ディスカッションの事前準備として資料を整理し理解を深め自身の考えをまとめる
9	課題② ディスカッション報告文の作成	ディスカッション報告文の作成と提出 小テスト5	【事前学習】 ディスカッション報告文を作成するための資料・記録を整理し自身の考えをまとめる
10	課題②のフィードバック	ディスカッション報告文についての確認 議論の経過と結論 小テスト6	【事後学習】 ディスカッションとフィードバックを踏まえてプレゼンテーションのために理解を深め自身の考えをまとめる
11	プレゼンテーション準備	各人で作成したプレゼンテーション用レジュメをグループ内で照らし合わせ、グループとしてのプレゼンテーション用レジュメを作成する 小テスト7	【事後学習】 プレゼンテーションのためのレジュメを作成する
12	プレゼンテーション1	グループ毎にプレゼンテーションを行なう	【事前学習】 プレゼンテーションの準備を行なう
13	プレゼンテーション2	グループ毎にプレゼンテーションを行なう	【事後学習】 自グループだけではなく他のグループのプレゼンテーションも踏まえ、適切なプレゼンテーションについて考える
14	課題③ プレゼンテーション報告文の作成	プレゼンテーション報告文の作成と提出	【事前学習】 プレゼンテーション報告文を作成するための資料・記録を整理し自身の考えをまとめる
15	課題③のフィードバック 授業全体のまとめ	プレゼンテーション報告文の確認 適切な文章と報告の作成	【事後学習】 フィードバックを踏まえてプレゼンテーション報告文を見直し、適切な文章表現について考える

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	摂南大学教育イノベーションセンター
2				
3				

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>課題2回(20%×2)、レポート(30%)、授業態度(呼応状態・積極性)・小テスト(30%)により評価する。 課題・レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。 課題・レポートは手書きとし、適切な漢字の使用、誤字の有無等も評価基準に含める。 課題・レポートの評価が合格に満たない場合、再提出とする。</p>			
学生への メッセージ	<p>本科目は、日本語の文章表現を学ぶことが目的です。 しかし、文章表現は、単に文字を連ね記すことに留まらず、自身の考えを形成し表現するものでもあります。 普段から用いている日本語について、あらためてその文章表現への理解を深めることは、思考の幅を広げ整理する能力を身につけることにつながっています。 大学での学術的な活動や卒業後の社会で求められる言語能力として、日常的なコミュニケーションツールである会話表現とは異なる、自身の考えを論理的に組み立て他者に説得的に伝える文章表現を学んでください。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	<p>事前事後学習の総時間の目安は15時間、授業各回につき前後の予習復習を含めた1時間程度の自習を求める。 教科書のほか適宜に資料等を配布する。 文章作成の際には各自適宜に教科書を参照することを求める。 授業計画は授業の進行状況によって変更する場合があります。 学生各自の自主・自律を重視する。</p>			

科目名	日本語表現	科目名 (英文)	Japanese Expression
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	ハへ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	渡 勇輝
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	GJA1329a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス レポートの書き方1	授業の目的、進め方の説明 レポートの書き方の復習	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
2	レポートの書き方2	資料引用の復習	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
3	【課題1】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	事前学習課題：これまでの内容の復習を行うこと（1時間）
4	フィードバック ディスカッションの準備	課題1のフィードバック ディスカッションについての説明	事前学習課題：課題1を見なおすこと（30分） 事後学習課題：ディスカッションにむけて下調べをしておくこと（30分）
5	ディスカッション	グループでディスカッションを行う	事前学習課題：ディスカッションにむけて下調べをしておくこと（1時間）
6	【課題2】議事録	ディスカッションの内容を文章にまとめる	事前学習課題：ディスカッションの内容を復習すること（1時間）
7	フィードバック プレゼンテーションの準備	課題2のフィードバック プレゼンテーションについての説明	事前学習課題：課題2を見なおすこと（30分） 事後学習課題：プレゼンテーションにむけて下調べをしておくこと（30分）
8	レジュメの書き方	レジュメの書き方を学ぶ	事前学習課題：プレゼンテーションにむけて下調べをしておくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
9	資料作成	プレゼンテーションの資料作成を行う	事前学習課題：プレゼンテーションにむけて下調べをしておくこと（30分） 事後学習課題：プレゼンテーションの練習を行うこと（30分）
10	プレゼンテーション1	グループによる発表・質疑を行う	事前学習課題：プレゼンテーションの練習を行うこと（30分） 事後学習課題：プレゼンテーションの内容を復習すること（30分）
11	プレゼンテーション2	グループによる発表・質疑を行う	事前学習課題：プレゼンテーションの練習を行うこと（30分） 事後学習課題：プレゼンテーションの内容を復習すること（30分）
12	【課題3】報告文	発表した内容を文章にまとめる	事前学習課題：プレゼンテーションの内容を復習すること（1時間）
13	フィードバック	課題3のフィードバック	事前学習課題：課題3を見なおすこと（30分） 事後学習課題：フィードバックを受けて、復習を行うこと（30分）
14	資料収集の方法	文献の探索について学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
15	手紙・メールの書き方	手紙やメールの書き方を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業態度(呼応状態・積極性)・小テスト(30%)により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。		
学生への メッセージ	前期「日本語基礎」の内容を踏まえつつ、グループワークを通して日本語の表現力を深めましょう。		
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室		
備考	事前事後学習の総時間の目安は15時間です。 提出課題については、授業中にフィードバックを行います。		

科目名	データサイエンス基礎	科目名 (英文)	Basic Data Science
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP8△		
科目ナンバリング	GMA1330a1		

授業概要・目的	「数理・データサイエンス・AI」は現代の「読み・書き・そろばん」であり、デジタル社会において学ぶべき教養である。本講義ではその基礎として、データ分析の歴史、背景や現状について知り、データの種類・解析方法や AI に必要な技術、その応用例などを様々な事例を通して学び理解する。また、エクセルを用いて実際にデータを処理し、その活用方法を身に付けることを目的とする。
到達目標	データの種類や処理の目的を理解できると共に、データサイエンス・AI の基本的な使い方、およびその際に注意すべきことを理解できるようになること。
授業方法と留意点	本講義はオンデマンド形式の講義です。毎週、動画の視聴とレポート提出、演習課題提出、確認テストが必須ですので、計画的にこなしてください。
科目学習の効果 (資格)	「データサイエンティスト検定 リテラシーレベル」や「基本情報処理技術者」の資格取得に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス データサイエンスとは	<ul style="list-style-type: none"> 大学のシステム (moodle, Teams, メール, OneDrive) の利用方法について 本講義の受講方法、注意点など データサイエンス, AI とは 	事後：動画視聴, 課題レポート・演習課題の提出, 確認テスト (1時間)
2	社会で起きている変化(1)	<ul style="list-style-type: none"> 日本企業の国際競争力低下 情報通信メディアの普及 DX (デジタル・トランスフォーメーション) 演習「Excel の基本的な操作(1)」 	事前：授業内容の予習 (0.5時間) 事後：課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
3	社会で起きている変化(2)	<ul style="list-style-type: none"> デジタル社会の提言 Society5.0 演習「Excel の基本的な操作(2)」 	事前：授業内容の予習 (0.5時間) 事後：課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
4	社会で活用されているデータ(1)	<ul style="list-style-type: none"> データの種類 1次データ, 2次データ, メタデータ オープンデータ 演習「時系列データの可視化(1)」 	事前：授業内容の予習 (0.5時間) 事後：課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
5	社会で活用されているデータ(2)	<ul style="list-style-type: none"> 構造化データ, 非構造化データ テキストデータ, 画像・音声データ アノテーション 演習「時系列データの可視化(2)」 	事前：授業内容の予習 (0.5時間) 事後：課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
6	データ・AI の活用領域	<ul style="list-style-type: none"> データサイエンスの活用事例 研究開発, マーケティング, 品質管理におけるデータ分析 演習「平均の算出とその可視化」 	事前：授業内容の予習 (0.5時間) 事後：課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
7	データ・AI 利活用のための技術(1)	<ul style="list-style-type: none"> データの一次分析と可視化 言語処理, 画像処理, 音声処理技術について 演習「標準偏差の算出とその可視化」 	事前：授業内容の予習 (0.5時間) 事後：課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
8	データ・AI 利活用のための技術(2)	<ul style="list-style-type: none"> データ解析 (予測, グループングパターン発見, 最適化) 特化型 AI と汎用 AI 自動機械学習 演習「大量のデータを扱う方法(1)」 	事前：授業内容の予習 (0.5時間) 事後：課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
9	データ・AI 利活用の現場(1)	<ul style="list-style-type: none"> データサイエンスのサイクル 製造業のデータ・AI 活用 演習「大量のデータを扱う方法(2)」 	事前：授業内容の予習 (0.5時間) 事後：課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
10	データ・AI 利活用の現場(2)	<ul style="list-style-type: none"> 小売業のデータ・AI 活用 サービス業のデータ・AI 活用 公共・インフラのデータ・AI 活用 演習「基本統計量の算出と箱ひげ図(1)」 	事前：授業内容の予習 (0.5時間) 事後：課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
11	データ・AI 利活用の現場(3)	<ul style="list-style-type: none"> データ・AI 活用による新しいビジネス領域 演習「基本統計量の算出と箱ひげ図(2)」 	事前：授業内容の予習 (0.5時間) 事後：課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
12	データ・AI 利活用の最新動向	<ul style="list-style-type: none"> AI などを活用した新しいビジネス AI 最新技術の活用例 演習「度数分布表とヒストグラムの作成」 	事前：授業内容の予習 (0.5時間) 事後：課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
13	データ・AI を扱う上での留意事項(1)	<ul style="list-style-type: none"> ELSI とは何か データの倫理 個人情報とプライバシー 演習「散布図の作成と相関係数の算出」 	事前：授業内容の予習 (0.5時間) 事後：課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
14	データ・AI を扱う上での留意事項(2)	<ul style="list-style-type: none"> バイアス 社会的合意の形成に向けて 演習「定性データの扱い方とクロス集計」 	事前：授業内容の予習 (0.5時間) 事後：課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
15	データを守る上での留意事項	<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティとは 情報セキュリティ脅威に関する事例 データの守り方 演習「総合演習」 	事前：授業内容の予習 (0.5時間) 事後：課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)

関連科目	情報リテラシー			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	AI データサイエンスリテラシー入門	吉岡剛志他	技術評論社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	オンデマンド視聴の達成率：40% 課題レポート：20% 演習課題：20% 確認テスト：20%			
学生への メッセージ	昨今のデジタル社会において必須であるデータの扱い方について学ぶことができます。オンデマンド講義のため、計画的な動画視聴が必要です。疑問点は放置せず積極的に質問することで速やかに解消してください。			
担当者の 研究室等	寺内研究室（11号館10階） 米本研究室（7号館5階）			
備考				

科目名	データサイエンス基礎	科目名 (英文)	Basic Data Science
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	新居 英志
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP8△		
科目ナンバリング	GMA1330a1		

授業概要・目的	「数理・データサイエンス・AI」は現代の「読み・書き・そろばん」であり、デジタル社会において学ぶべき教養である。本講義ではその基礎として、データ分析の歴史、背景や現状について知り、データの種類・解析方法や AI に必要な技術、その応用例などを様々な事例を通して学び理解する。また、エクセルを用いて実際にデータを処理し、その活用方法を身に付けることを目的とする。
到達目標	データの種類や処理の目的を理解できると共に、データサイエンス・AI の基本的な使い方、およびその際に注意すべきことを理解できるようになること。
授業方法と留意点	本講義はオンデマンド形式の講義です。毎週、動画の視聴とレポート提出、演習課題提出、確認テストが必須ですので、計画的にこなしてください。
科目学習の効果 (資格)	「データサイエンティスト検定 リテラシーレベル」や「基本情報処理技術者」の資格取得に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス データサイエンスとは	<ul style="list-style-type: none"> 大学のシステム (moodle, Teams, メール, OneDrive) の利用方法について 本講義の受講方法, 注意点など データサイエンス, AI とは 	事後: 動画視聴, 課題レポート・演習課題の提出, 確認テスト (1時間)
2	社会で起きている変化(1)	<ul style="list-style-type: none"> 日本企業の国際競争力低下 情報通信メディアの普及 DX (デジタル・トランスフォーメーション) 演習「Excel の基本的な操作(1)」 	事前: 授業内容の予習 (0.5時間) 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
3	社会で起きている変化(2)	<ul style="list-style-type: none"> デジタル社会の提言 Society5.0 演習「Excel の基本的な操作(2)」 	事前: 授業内容の予習 (0.5時間) 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
4	社会で活用されているデータ(1)	<ul style="list-style-type: none"> データの種類 1次データ, 2次データ, メタデータ オープンデータ 演習「時系列データの可視化(1)」 	事前: 授業内容の予習 (0.5時間) 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
5	社会で活用されているデータ(2)	<ul style="list-style-type: none"> 構造化データ, 非構造化データ テキストデータ, 画像・音声データ アノテーション 演習「時系列データの可視化(2)」 	事前: 授業内容の予習 (0.5時間) 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
6	データ・AI の活用領域	<ul style="list-style-type: none"> データサイエンスの活用事例 研究開発, マーケティング, 品質管理におけるデータ分析 演習「平均の算出とその可視化」 	事前: 授業内容の予習 (0.5時間) 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
7	データ・AI 利活用のための技術(1)	<ul style="list-style-type: none"> データの一次分析と可視化 言語処理, 画像処理, 音声処理技術について 演習「標準偏差の算出とその可視化」 	事前: 授業内容の予習 (0.5時間) 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
8	データ・AI 利活用のための技術(2)	<ul style="list-style-type: none"> データ解析 (予測, グループングパターン発見, 最適化) 特化型 AI と汎用 AI 自動機械学習 演習「大量のデータを扱う方法(1)」 	事前: 授業内容の予習 (0.5時間) 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
9	データ・AI 利活用の現場(1)	<ul style="list-style-type: none"> データサイエンスのサイクル 製造業のデータ・AI 活用 演習「大量のデータを扱う方法(2)」 	事前: 授業内容の予習 (0.5時間) 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
10	データ・AI 利活用の現場(2)	<ul style="list-style-type: none"> 小売業のデータ・AI 活用 サービス業のデータ・AI 活用 公共・インフラのデータ・AI 活用 演習「基本統計量の算出と箱ひげ図(1)」 	事前: 授業内容の予習 (0.5時間) 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
11	データ・AI 利活用の現場(3)	<ul style="list-style-type: none"> データ・AI 活用による新しいビジネス領域 演習「基本統計量の算出と箱ひげ図(2)」 	事前: 授業内容の予習 (0.5時間) 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
12	データ・AI 利活用の最新動向	<ul style="list-style-type: none"> AI などを活用した新しいビジネス AI 最新技術の活用例 演習「度数分布表とヒストグラムの作成」 	事前: 授業内容の予習 (0.5時間) 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
13	データ・AI を扱う上での留意事項(1)	<ul style="list-style-type: none"> ELSI とは何か データの倫理 個人情報とプライバシー 演習「散布図の作成と相関係数の算出」 	事前: 授業内容の予習 (0.5時間) 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
14	データ・AI を扱う上での留意事項(2)	<ul style="list-style-type: none"> バイアス 社会的合意の形成に向けて 演習「定性データの扱い方とクロス集計」 	事前: 授業内容の予習 (0.5時間) 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
15	データを守る上での留意事項	<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティとは 情報セキュリティ脅威に関する事例 データの守り方 演習「総合演習」 	事前: 授業内容の予習 (0.5時間) 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)

関連科目	情報リテラシー			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	AI データサイエンスリテラシー入門	吉岡剛志他	技術評論社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	オンデマンド視聴の達成率：40% 課題レポート：20% 演習課題：20% 確認テスト：20%			
学生への メッセージ	昨今のデジタル社会において必須であるデータの扱い方について学ぶことができます。オンデマンド講義のため、計画的な動画視聴が必要です。疑問点は放置せず積極的に質問することで速やかに解消してください。			
担当者の 研究室等	寺内研究室（11号館10階） 米本研究室（7号館5階）			
備考				

科目名	データサイエンス基礎	科目名 (英文)	Basic Data Science
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	米本 涼
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP8△		
科目ナンバリング	GMA1330a1		

授業概要・目的	「数理・データサイエンス・AI」は現代の「読み・書き・そろばん」であり、デジタル社会において学ぶべき教養である。本講義ではその基礎として、データ分析の歴史、背景や現状について知り、データの種類・解析方法やAIに必要な技術、その応用例などを様々な事例を通して学び理解する。また、エクセルを用いて実際にデータを処理し、その活用方法を身に付けることを目的とする。
到達目標	データの種類や処理の目的を理解できると共に、データサイエンス・AIの基本的な使い方、およびその際に注意すべきことを理解できるようになること。
授業方法と留意点	本講義はオンデマンド形式の講義です。毎週、動画の視聴とレポート提出、演習課題提出、確認テストが必須ですので、計画的にこなしてください。
科目学習の効果 (資格)	「データサイエンティスト検定 リテラシーレベル」や「基本情報処理技術者」の資格取得に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス データサイエンスとは	<ul style="list-style-type: none"> 大学のシステム (moodle, Teams, メール, OneDrive) の利用方法について 本講義の受講方法, 注意点など データサイエンス, AI とは 	事後: 動画視聴, 課題レポート・演習課題の提出, 確認テスト (1時間)
2	社会で起きている変化(1)	<ul style="list-style-type: none"> 日本企業の国際競争力低下 情報通信メディアの普及 DX (デジタル・トランスフォーメーション) 演習「Excelの基本的な操作(1)」 	事前: 授業内容の予習 (0.5時間) 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
3	社会で起きている変化(2)	<ul style="list-style-type: none"> デジタル社会の提言 Society5.0 演習「Excelの基本的な操作(2)」 	事前: 授業内容の予習 (0.5時間) 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
4	社会で活用されているデータ(1)	<ul style="list-style-type: none"> データの種類 1次データ, 2次データ, メタデータ オープンデータ 演習「時系列データの可視化(1)」 	事前: 授業内容の予習 (0.5時間) 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
5	社会で活用されているデータ(2)	<ul style="list-style-type: none"> 構造化データ, 非構造化データ テキストデータ, 画像・音声データ アノテーション 演習「時系列データの可視化(2)」 	事前: 授業内容の予習 (0.5時間) 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
6	データ・AIの活用領域	<ul style="list-style-type: none"> データサイエンスの活用事例 研究開発, マーケティング, 品質管理におけるデータ分析 演習「平均の算出とその可視化」 	事前: 授業内容の予習 (0.5時間) 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
7	データ・AI利活用のための技術(1)	<ul style="list-style-type: none"> データの一次分析と可視化 言語処理, 画像処理, 音声処理技術について 演習「標準偏差の算出とその可視化」 	事前: 授業内容の予習 (0.5時間) 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
8	データ・AI利活用のための技術(2)	<ul style="list-style-type: none"> データ解析 (予測, グループングパターン発見, 最適化) 特化型AIと汎用AI 自動機械学習 演習「大量のデータを扱う方法(1)」 	事前: 授業内容の予習 (0.5時間) 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
9	データ・AI利活用の現場(1)	<ul style="list-style-type: none"> データサイエンスのサイクル 製造業のデータ・AI活用 演習「大量のデータを扱う方法(2)」 	事前: 授業内容の予習 (0.5時間) 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
10	データ・AI利活用の現場(2)	<ul style="list-style-type: none"> 小売業のデータ・AI活用 サービス業のデータ・AI活用 公共・インフラのデータ・AI活用 演習「基本統計量の算出と箱ひげ図(1)」 	事前: 授業内容の予習 (0.5時間) 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
11	データ・AI利活用の現場(3)	<ul style="list-style-type: none"> データ・AI活用による新しいビジネス領域 演習「基本統計量の算出と箱ひげ図(2)」 	事前: 授業内容の予習 (0.5時間) 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
12	データ・AI利活用の最新動向	<ul style="list-style-type: none"> AIなどを活用した新しいビジネス AI最新技術の活用例 演習「度数分布表とヒストグラムの作成」 	事前: 授業内容の予習 (0.5時間) 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
13	データ・AIを扱う上での留意事項(1)	<ul style="list-style-type: none"> ELSIとは何か データの倫理 個人情報とプライバシー 演習「散布図の作成と相関係数の算出」 	事前: 授業内容の予習 (0.5時間) 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
14	データ・AIを扱う上での留意事項(2)	<ul style="list-style-type: none"> バイアス 社会的合意の形成に向けて 演習「定性データの扱い方とクロス集計」 	事前: 授業内容の予習 (0.5時間) 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)
15	データを守る上での留意事項	<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティとは 情報セキュリティ脅威に関する事例 データの守り方 演習「総合演習」 	事前: 授業内容の予習 (0.5時間) 事後: 課題レポートの提出, 確認テストの実施 (0.5時間)

関連科目	情報リテラシー			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	AI データサイエンスリテラシー入門	吉岡剛志他	技術評論社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	オンデマンド視聴の達成率：40% 課題レポート：20% 演習課題：20% 確認テスト：20%			
学生への メッセージ	昨今のデジタル社会において必須であるデータの扱い方について学ぶことができます。オンデマンド講義のため、計画的な動画視聴が必要です。疑問点は放置せず積極的に質問することで速やかに解消してください。			
担当者の 研究室等	寺内研究室（11号館10階） 米本研究室（7号館5階）			
備考				

科目名	情報リテラシー	科目名 (英文)	Information Literacy
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP8△		
科目ナンバリング	GMA1331a1		

授業概要・目的	大学生で要求される情報リテラシー能力 (文書作成、表計算、プレゼンテーション) の修得、社会人としての情報モラルの修得および自分と自分が所属する組織を守る情報セキュリティに関する理解を目的とする。
到達目標	現代社会における情報モラルと情報セキュリティの必要性を認識し、対応力を身につける。 Word で見栄えの良い文書を作成できる、データ活用のしやすい表計算シートを作成できる、ターゲットとなる聴衆を意識したスライドを作成できる、課題に対してオフィスアプリケーションを利用するシーンを想定できるようになること。
授業方法と留意点	「情報のモラルとセキュリティ」について具体的な事例を用いた学習により知識を獲得する。 情報処理演習室にて演習形式で授業を行う。 なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果 (資格)	MOS (Microsoft Office Specialist) 資格 (民間資格) や情報処理関連資格の基礎的技能や知識が得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	【オリエンテーション】 大学生としての情報倫理 摂南大学の ICT 環境 インターネットの利用	モラルとセキュリティに関する質問 OneDrive の使い方 Moodle への登録 出欠管理システム ポータルサイト メールシステム インターネット検索 タイピング練習	事前: 情報モラルとセキュリティのテキストに目を通す (30 分) 事後: 事後課題の完成 (30 分)
2	Windows 基本操作 【Word】 Word の初歩	個人情報の適切な取り扱い 用語解説 IME の使い方 文書を作成する 文書内を移動する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
3	【Word】 文書の作成と管理 表の作成、文書の編集	デジタル時代の著作権 (1) 文書の書式を設定する 文書のオプションとカスタマイズ 文字列や段落の挿入と書式設定 文字列や段落の並び替えとグループ化	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
4	【Word】 グラフィック要素の挿入と編集	デジタル時代の著作権 (2) グラフィック要素を挿入する グラフィック要素を書式設定する 図形・数式の挿入・編集	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
5	【Word】 アウトラインと長文作成	ネット社会に潜む危険と対策 (1) アウトラインの設定・編集 長文作成のための機能	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
6	【Word】 レイアウトの変更とセクション設定 段組みを使った文書作成	ネット社会に潜む危険と対策 (2) 文書のレイアウトとセクション 段組みを使った文書	事前: 文書作成機能の復習 (1 時間)
7	【PowerPoint】 スライドの作成	メールによるコミュニケーション スライドの作成 グラフィック要素の挿入と書式設定 アニメーションの設定 スライドの切り替え	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
8	【PowerPoint】 プレゼンテーション演習	発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前: 発表練習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
9	【Excel】 Excel の概要 基礎スキル	Web によるコミュニケーション (1) セルへの入力、シートの編集、計算とセル参照、基本関数	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
10	【Excel】 グラフの作成と設定	Web によるコミュニケーション (2) グラフの種類とパーツ グラフを作成する グラフを書式設定する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
11	【Excel】 表の視覚化と詳細設定	Web によるコミュニケーション (3) 条件付き書式の設定と修正 スパークラインの設定 表の詳細設定	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
12	【Excel】 関数の利用	モバイル機器の活用と管理 さまざまな関数を利用する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
13	【Excel】 データ集計とピボットテーブル	情報モラルとセキュリティ ピボットテーブルの利用	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
14	【Excel】 データベースとしての使い方 Excel の表・グラフの利用	データベースとしての表の操作 Excel の表やグラフを Word で利用する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
15	【Excel】 マクロ: 操作の自動化	情報モラルとセキュリティのまとめ マクロの記録と編集、再利用	事前: 今までの諸機能の復習 (1 時間)

関連科目	データサイエンス基礎
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	30 時間アカデミック Office2019	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版
	2	<改訂 4 版>情報モラル & 情報セキュリティ	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	演習課題(60%)、プレゼンやタイピング等の操作スキル(40%)を総合して評価する。			
学生への メッセージ	とにかく使ってください。「考えるより慣れろ」です。 疑問を放置しないこと。何でも質問してください。			
担当者の 研究室等	新居研究室 (7 号館 5 階)			
備考	授業時間外に質問したい場合は、メールあるいは Microsoft Teams のこの授業のチームの質問チャンネル、または Teams チャットで質問してください。			

科目名	情報リテラシー	科目名 (英文)	Information Literacy
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP8△		
科目ナンバリング	GMA1331a1		

授業概要・目的	大学生で要求される情報リテラシー能力 (文書作成、表計算、プレゼンテーション) の修得、社会人としての情報モラルの修得および自分と自分が所属する組織を守る情報セキュリティに関する理解を目的とする。
到達目標	現代社会における情報モラルと情報セキュリティの必要性を認識し、対応力を身につける。 Word で見栄えの良い文書を作成できる、データ活用のしやすい表計算シートを作成できる、ターゲットとなる聴衆を意識したスライドを作成できる、課題に対してオフィスアプリケーションを利用するシーンを想定できるようになること。
授業方法と留意点	「情報のモラルとセキュリティ」について具体的な事例を用いた学習により知識を獲得する。 情報処理演習室にて演習形式で授業を行う。 なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果 (資格)	MOS (Microsoft Office Specialist) 資格 (民間資格) や情報処理関連資格の基礎的技能や知識が得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Windows 基本操作 【Word】 Word の初歩	個人情報の適切な取り扱い 用語解説 IME の使い方 文書を作成する 文書内を移動する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
3	【Word】 文書の作成と管理 表の作成、文書の編集	デジタル時代の著作権 (1) 文書の書式を設定する 文書のオプションとカスタマイズ 文字列や段落の挿入と書式設定 文字列や段落の並び替えとグループ化	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
4	【Word】 グラフィック要素の挿入と編集	デジタル時代の著作権 (2) グラフィック要素を挿入する グラフィック要素を書式設定する 図形・数式の挿入・編集	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
5	【Word】 アウトラインと長文作成	ネット社会に潜む危険と対策 (1) アウトラインの設定・編集 長文作成のための機能	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
6	【Word】 レイアウトの変更とセクション設定 段組みを使った文書作成	ネット社会に潜む危険と対策 (2) 文書のレイアウトとセクション 段組みを使った文書	事前: 文書作成機能の復習 (1 時間)
7	【PowerPoint】 スライドの作成	メールによるコミュニケーション スライドの作成 グラフィック要素の挿入と書式設定 アニメーションの設定 スライドの切り替え	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
8	【PowerPoint】 プレゼンテーション演習	発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前: 発表練習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
9	【Excel】 Excel の概要 基礎スキル	Web によるコミュニケーション (1) セルへの入力、シートの編集、計算とセル参照、基本関数	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
10	【Excel】 グラフの作成と設定	Web によるコミュニケーション (2) グラフの種類とパーツ グラフを作成する グラフを書式設定する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
11	【Excel】 表の視覚化と詳細設定	Web によるコミュニケーション (3) 条件付き書式の設定と修正 スパークラインの設定 表の詳細設定	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
12	【Excel】 関数の利用	モバイル機器の活用と管理 さまざまな関数を利用する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
13	【Excel】 データ集計とピボットテーブル	情報モラルとセキュリティ ピボットテーブルの利用	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
14	【Excel】 データベースとしての使い方 Excel の表・グラフの利用	データベースとしての表の操作 Excel の表やグラフを Word で利用する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
15	【Excel】 マクロ: 操作の自動化	情報モラルとセキュリティのまとめ マクロの記録と編集、再利用	事前: 今までの諸機能の復習 (1 時間)

関連科目	データサイエンス基礎
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	30 時間アカデミック Office2019	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版
	2	<改訂4版>情報モラル & 情報セキュリティ	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	演習課題(60%)、プレゼンやタイピング等の操作スキル(40%)を総合して評価する。			
学生への メッセージ	とにかく使ってください。「考えるより慣れろ」です。 疑問を放置しないこと。何でも質問してください。			
担当者の 研究室等	新居研究室 (7号館5階)			
備考	授業時間外に質問したい場合は、メールあるいは Microsoft Teams のこの授業のチームの質問チャンネル、または Teams チャットで質問してください。			

科目名	情報リテラシー	科目名 (英文)	Information Literacy
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	新居 英志
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP8△		
科目ナンバリング	GMA1331a1		

授業概要・目的	大学生で要求される情報リテラシー能力 (文書作成、表計算、プレゼンテーション) の修得、社会人としての情報モラルの修得および自分と自分が所属する組織を守る情報セキュリティに関する理解を目的とする。
到達目標	現代社会における情報モラルと情報セキュリティの必要性を認識し、対応力を身につける。 Word で見栄えの良い文書を作成できる、データ活用のしやすい表計算シートを作成できる、ターゲットとなる聴衆を意識したスライドを作成できる、課題に対してオフィスアプリケーションを利用するシーンを想定できるようになること。
授業方法と留意点	「情報のモラルとセキュリティ」について具体的な事例を用いた学習により知識を獲得する。 情報処理演習室にて演習形式で授業を行う。 なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果 (資格)	MOS (Microsoft Office Specialist) 資格 (民間資格) や情報処理関連資格の基礎的技能や知識が得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	【オリエンテーション】 大学生としての情報倫理 摂南大学の ICT 環境 インターネットの利用	モラルとセキュリティに関する質問 OneDrive の使い方 Moodle への登録 出欠管理システム ポータルサイト メールシステム インターネット検索 タイピング練習	事前: 情報モラルとセキュリティのテキストに目を通す (30 分) 事後: 事後課題の完成 (30 分)
2	Windows 基本操作 【Word】 Word の初歩	個人情報の適切な取り扱い 用語解説 IME の使い方 文書を作成する 文書内を移動する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
3	【Word】 文書の作成と管理 表の作成、文書の編集	デジタル時代の著作権 (1) 文書の書式を設定する 文書のオプションとカスタマイズ 文字列や段落の挿入と書式設定 文字列や段落の並び替えとグループ化	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
4	【Word】 グラフィック要素の挿入と編集	デジタル時代の著作権 (2) グラフィック要素を挿入する グラフィック要素を書式設定する 図形・数式の挿入・編集	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
5	【Word】 アウトラインと長文作成	ネット社会に潜む危険と対策 (1) アウトラインの設定・編集 長文作成のための機能	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
6	【Word】 レイアウトの変更とセクション設定 段組みを使った文書作成	ネット社会に潜む危険と対策 (2) 文書のレイアウトとセクション 段組みを使った文書	事前: 文書作成機能の復習 (1 時間)
7	【PowerPoint】 スライドの作成	メールによるコミュニケーション スライドの作成 グラフィック要素の挿入と書式設定 アニメーションの設定 スライドの切り替え	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
8	【PowerPoint】 プレゼンテーション演習	発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前: 発表練習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
9	【Excel】 Excel の概要 基礎スキル	Web によるコミュニケーション (1) セルへの入力、シートの編集、計算とセル参照、基本関数	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
10	【Excel】 グラフの作成と設定	Web によるコミュニケーション (2) グラフの種類とパーツ グラフを作成する グラフを書式設定する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
11	【Excel】 表の視覚化と詳細設定	Web によるコミュニケーション (3) 条件付き書式の設定と修正 スパークラインの設定 表の詳細設定	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
12	【Excel】 関数の利用	モバイル機器の活用と管理 さまざまな関数を利用する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
13	【Excel】 データ集計とピボットテーブル	情報モラルとセキュリティ ピボットテーブルの利用	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
14	【Excel】 データベースとしての使い方 Excel の表・グラフの利用	データベースとしての表の操作 Excel の表やグラフを Word で利用する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
15	【Excel】 マクロ: 操作の自動化	情報モラルとセキュリティのまとめ マクロの記録と編集、再利用	事前: 今までの諸機能の復習 (1 時間)

関連科目	データサイエンス基礎
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	30 時間アカデミック Office2019	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版
	2	<改訂 4 版>情報モラル & 情報セキュリティ	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	演習課題(60%)、プレゼンやタイピング等の操作スキル(40%)を総合して評価する。			
学生への メッセージ	とにかく使ってください。「考えるより慣れろ」です。 疑問を放置しないこと。何でも質問してください。			
担当者の 研究室等	新居研究室 (7 号館 5 階)			
備考	授業時間外に質問したい場合は、メールあるいは Microsoft Teams のこの授業のチームの質問チャンネル、または Teams チャットで質問してください。			

科目名	数学基礎	科目名 (英文)	Basic Mathematics
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	ニ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	黒木 和雄
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	GMA1332a1		

授業概要・目的	本科目の目的は、学生同士または学生と教員で「(数学の) 分からない」を共有し、他者と協働して問題を解決することです。授業では、問題を解くだけでなく、他者と協働で解説を作成する(分かりやすく作り替える)機会を設けます。文系理系、数学の得意不得意に関わらず、他者と協働で分かりやすい解説を模索することで、新たな視点で知識を再確認できるとともに、自身の理解を深めていくことが期待されます。
到達目標	この授業を通じて ・基礎的な数学的知識、数的能力、論理的思考力を身につける ・自身の知識を他者に分かりやすく伝える力を身につける(または向上させる)ことができる。
授業方法と留意点	プリントを用いた講義・演習が中心。また、授業の進捗に合わせて適宜グループワークを実施する。 基本的な授業の流れ: ①「基本事項の確認・補足・解説」→②「演習問題に取り組む」→③「グループワーク」
科目学習の効果(資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学的素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 確認テスト	・授業概要の説明 ・確認テストの実施	事後学習: Moodleによる復習課題(30分)
2	方程式(1)	・文章の数式化(1) ・等式の基本法則 ・方程式の導き方、解き方、応用	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
3	方程式(2)	・文章の数式化(2) ・連立方程式の導き方、解き方、応用	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
4	割合と比(1)	・割合(1) ・売買損益	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
5	割合と比(2)	・割合(2) ・濃度、応用問題	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
6	速さと速度(1)	・速さ(1) ・速さと時間	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
7	速さと速度(2)	・速さ(2) ・応用問題	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
8	中間試験	・中間試験の実施 ・グループワーク課題のフィードバック	事前学習: 第7回までの授業で取り組んだ問題を解き直すこと(1時間) 事後学習: 中間試験のふりかえり(15分)
9	場合の数と確率(1)	・数え上げの原則 ・並べ方、選び方 ・順列、組合せ	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
10	場合の数と確率(2)	・さまざまな確率 ・確率の計算	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
11	集合	・集合とベン図 ・集合と表	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
12	推論(1)	・定量的順序関係 ・定性的順序関係	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
13	推論(2)	・対応関係 ・位置関係	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
14	総復習	・復習、補足	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
15	最終試験	・最終試験の実施 ・グループワーク課題のフィードバック	事前学習: 第14回までの授業で取り組んだ問題を解き直すこと(1時間) 事後学習: 最終試験のふりかえり(15分)

関連科目	数的能力開発 I
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	「演習・課題50%」と「中間・最終試験50%」の合計によって評価する。
----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	数学については各自さまざまな思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加してください。どのような些細なことでも構いませんので、遠慮することなくいつでも質問してください。授業時間内で理解できなかった場合は、「ラーニングセンター(学習セッション)」を積極的に利用して、授業内容をしっかり理解していくようにしてください。
-----------	--

担当者の研究室等	ラーニングセンター(2号館2階)
----------	------------------

備考	
----	--

科目名	数学基礎	科目名 (英文)	Basic Mathematics
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森 亜貴
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	GMA1332a1		

授業概要・目的	本科目の目的は、学生同士または学生と教員で「(数学の) 分からない」を共有し、他者と協働して問題を解決することです。授業では、問題を解くだけでなく、他者と協働で解説を作成する(分かりやすく作り替える)機会を設けます。文系理系、数学の得意不得意に関わらず、他者と協働で分かりやすい解説を模索することで、新たな視点で知識を再確認できるとともに、自身の理解を深めていくことが期待されます。
到達目標	この授業を通じて ・基礎的な数学的知識、数的能力、論理的思考力を身につける ・自身の知識を他者に分かりやすく伝える力を身につける(または向上させる)ことができる。
授業方法と留意点	プリントを用いた講義・演習が中心。また、授業の進捗に合わせて適宜グループワークを実施する。 基本的な授業の流れ: ①「基本事項の確認・補足・解説」→②「演習問題に取り組む」→③「グループワーク」
科目学習の効果(資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学的素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 確認テスト	・授業概要の説明 ・確認テストの実施	事後学習: Moodleによる復習課題(30分)
2	方程式(1)	・文章の数式化(1) ・等式の基本法則 ・方程式の導き方、解き方、応用	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
3	方程式(2)	・文章の数式化(2) ・連立方程式の導き方、解き方、応用	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
4	割合と比(1)	・割合(1) ・売買損益	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
5	割合と比(2)	・割合(2) ・濃度、応用問題	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
6	速さと速度(1)	・速さ(1) ・速さと時間	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
7	速さと速度(2)	・速さ(2) ・応用問題	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
8	中間試験	・中間試験の実施 ・グループワーク課題のフィードバック	事前学習: 第7回までの授業で取り組んだ問題を解き直すこと(1時間) 事後学習: 中間試験のふりかえり(15分)
9	場合の数と確率(1)	・数え上げの原則 ・並べ方、選び方 ・順列、組合せ	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
10	場合の数と確率(2)	・さまざまな確率 ・確率の計算	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
11	集合	・集合とベン図 ・集合と表	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
12	推論(1)	・定量的順序関係 ・定性的順序関係	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
13	推論(2)	・対応関係 ・位置関係	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
14	総復習	・復習、補足	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
15	最終試験	・最終試験の実施 ・グループワーク課題のフィードバック	事前学習: 第14回までの授業で取り組んだ問題を解き直すこと(1時間) 事後学習: 最終試験のふりかえり(15分)

関連科目	数的能力開発 I
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	「演習・課題50%」と「中間・最終試験50%」の合計によって評価する。
----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	数学については各自さまざまな思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加してください。どのような些細なことでも構いませんので、遠慮することなくいつでも質問してください。授業時間内で理解できなかった場合は、「ラーニングセンター(学習セッション)」を積極的に利用して、授業内容をしっかり理解していくようにしてください。
-----------	--

担当者の研究室等	ラーニングセンター(2号館2階)
----------	------------------

備考	
----	--

科目名	数学基礎	科目名 (英文)	Basic Mathematics
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西脇 純一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	GMA1332a1		

授業概要・目的	本科目の目的は、学生同士または学生と教員で「(数学の) 分からない」を共有し、他者と協働して問題を解決することです。授業では、問題を解くだけでなく、他者と協働で解説を作成する(分かりやすく作り替える)機会を設けます。文系理系、数学の得意不得意に関わらず、他者と協働で分かりやすい解説を模索することで、新たな視点で知識を再確認できるとともに、自身の理解を深めていくことが期待されます。
到達目標	この授業を通じて ・基礎的な数学的知識、数的能力、論理的思考力を身につける ・自身の知識を他者に分かりやすく伝える力を身につける(または向上させる)ことができる。
授業方法と留意点	プリントを用いた講義・演習が中心。また、授業の進捗に合わせて適宜グループワークを実施する。 基本的な授業の流れ: ①「基本事項の確認・補足・解説」→②「演習問題に取り組む」→③「グループワーク」
科目学習の効果(資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学的素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 確認テスト	・授業概要の説明 ・確認テストの実施	事後学習: Moodleによる復習課題(30分)
2	方程式(1)	・文章の数式化(1) ・等式の基本法則 ・方程式の導き方、解き方、応用	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
3	方程式(2)	・文章の数式化(2) ・連立方程式の導き方、解き方、応用	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
4	割合と比(1)	・割合(1) ・売買損益	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
5	割合と比(2)	・割合(2) ・濃度、応用問題	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
6	速さと速度(1)	・速さ(1) ・速さと時間	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
7	速さと速度(2)	・速さ(2) ・応用問題	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
8	中間試験	・中間試験の実施 ・グループワーク課題のフィードバック	事前学習: 第7回までの授業で取り組んだ問題を解き直すこと(1時間) 事後学習: 中間試験のふりかえり(15分)
9	場合の数と確率(1)	・数え上げの原則 ・並べ方、選び方 ・順列、組合せ	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
10	場合の数と確率(2)	・さまざまな確率 ・確率の計算	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
11	集合	・集合とベン図 ・集合と表	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
12	推論(1)	・定量的順序関係 ・定性的順序関係	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
13	推論(2)	・対応関係 ・位置関係	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
14	総復習	・復習、補足	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
15	最終試験	・最終試験の実施 ・グループワーク課題のフィードバック	事前学習: 第14回までの授業で取り組んだ問題を解き直すこと(1時間) 事後学習: 最終試験のふりかえり(15分)

関連科目	数的能力開発 I
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	「演習・課題50%」と「中間・最終試験50%」の合計によって評価する。
----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	数学については各自さまざまな思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加してください。どのような些細なことでも構いませんので、遠慮することなくいつでも質問してください。授業時間内で理解できなかった場合は、「ラーニングセンター(学習セッション)」を積極的に利用して、授業内容をしっかり理解していくようにしてください。
-----------	--

担当者の研究室等	ラーニングセンター(2号館2階)
----------	------------------

備考	
----	--

科目名	数学基礎	科目名 (英文)	Basic Mathematics
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	黒木 和雄
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	GMA1332a1		

授業概要・目的	本科目の目的は、学生同士または学生と教員で「(数学の) 分からない」を共有し、他者と協働して問題を解決することです。授業では、問題を解くだけでなく、他者と協働で解説を作成する(分かりやすく作り替える)機会を設けます。文系理系、数学の得意不得意に関わらず、他者と協働で分かりやすい解説を模索することで、新たな視点で知識を再確認できるとともに、自身の理解を深めていくことが期待されます。
到達目標	この授業を通じて ・基礎的な数学的知識、数的能力、論理的思考力を身につける ・自身の知識を他者に分かりやすく伝える力を身につける(または向上させる)ことができる。
授業方法と留意点	プリントを用いた講義・演習が中心。また、授業の進捗に合わせて適宜グループワークを実施する。 基本的な授業の流れ: ①「基本事項の確認・補足・解説」→②「演習問題に取り組む」→③「グループワーク」
科目学習の効果(資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学的素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 確認テスト	・授業概要の説明 ・確認テストの実施	事後学習: Moodleによる復習課題(30分)
2	方程式(1)	・文章の数式化(1) ・等式の基本法則 ・方程式の導き方、解き方、応用	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
3	方程式(2)	・文章の数式化(2) ・連立方程式の導き方、解き方、応用	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
4	割合と比(1)	・割合(1) ・売買損益	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
5	割合と比(2)	・割合(2) ・濃度、応用問題	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
6	速さと速度(1)	・速さ(1) ・速さと時間	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
7	速さと速度(2)	・速さ(2) ・応用問題	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
8	中間試験	・中間試験の実施 ・グループワーク課題のフィードバック	事前学習: 第7回までの授業で取り組んだ問題を解き直すこと(1時間) 事後学習: 中間試験のふりかえり(15分)
9	場合の数と確率(1)	・数え上げの原則 ・並べ方、選び方 ・順列、組合せ	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
10	場合の数と確率(2)	・さまざまな確率 ・確率の計算	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
11	集合	・集合とベン図 ・集合と表	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
12	推論(1)	・定量的順序関係 ・定性的順序関係	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
13	推論(2)	・対応関係 ・位置関係	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
14	総復習	・復習、補足	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
15	最終試験	・最終試験の実施 ・グループワーク課題のフィードバック	事前学習: 第14回までの授業で取り組んだ問題を解き直すこと(1時間) 事後学習: 最終試験のふりかえり(15分)

関連科目	数的能力開発 I
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	「演習・課題50%」と「中間・最終試験50%」の合計によって評価する。
----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	数学については各自さまざまな思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加してください。どのような些細なことでも構いませんので、遠慮することなくいつでも質問してください。授業時間内で理解できなかった場合は、「ラーニングセンター(学習セッション)」を積極的に利用して、授業内容をしっかり理解していくようにしてください。
-----------	--

担当者の研究室等	ラーニングセンター(2号館2階)
----------	------------------

備考	
----	--

科目名	数学基礎	科目名 (英文)	Basic Mathematics
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森 亜貴
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	GMA1332a1		

授業概要・目的	本科目の目的は、学生同士または学生と教員で「(数学の) 分からない」を共有し、他者と協働して問題を解決することです。授業では、問題を解くだけでなく、他者と協働で解説を作成する(分かりやすく作り替える)機会を設けます。文系理系、数学の得意不得意に関わらず、他者と協働で分かりやすい解説を模索することで、新たな視点で知識を再確認できるとともに、自身の理解を深めていくことが期待されます。
到達目標	この授業を通じて ・基礎的な数学的知識、数的能力、論理的思考力を身につける ・自身の知識を他者に分かりやすく伝える力を身につける(または向上させる)ことができる。
授業方法と留意点	プリントを用いた講義・演習が中心。また、授業の進捗に合わせて適宜グループワークを実施する。 基本的な授業の流れ: ①「基本事項の確認・補足・解説」→②「演習問題に取り組む」→③「グループワーク」
科目学習の効果(資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学的素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 確認テスト	・授業概要の説明 ・確認テストの実施	事後学習: Moodleによる復習課題(30分)
2	方程式(1)	・文章の数式化(1) ・等式の基本法則 ・方程式の導き方、解き方、応用	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
3	方程式(2)	・文章の数式化(2) ・連立方程式の導き方、解き方、応用	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
4	割合と比(1)	・割合(1) ・売買損益	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
5	割合と比(2)	・割合(2) ・濃度、応用問題	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
6	速さと速度(1)	・速さ(1) ・速さと時間	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
7	速さと速度(2)	・速さ(2) ・応用問題	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
8	中間試験	・中間試験の実施 ・グループワーク課題のフィードバック	事前学習: 第7回までの授業で取り組んだ問題を解き直すこと(1時間) 事後学習: 中間試験のふりかえり(15分)
9	場合の数と確率(1)	・数え上げの原則 ・並べ方、選び方 ・順列、組合せ	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
10	場合の数と確率(2)	・さまざまな確率 ・確率の計算	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
11	集合	・集合とベン図 ・集合と表	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
12	推論(1)	・定量的順序関係 ・定性的順序関係	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
13	推論(2)	・対応関係 ・位置関係	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
14	総復習	・復習、補足	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
15	最終試験	・最終試験の実施 ・グループワーク課題のフィードバック	事前学習: 第14回までの授業で取り組んだ問題を解き直すこと(1時間) 事後学習: 最終試験のふりかえり(15分)

関連科目	数的能力開発 I
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	「演習・課題50%」と「中間・最終試験50%」の合計によって評価する。
----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	数学については各自さまざまな思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加してください。どのような些細なことでも構いませんので、遠慮することなくいつでも質問してください。授業時間内で理解できなかった場合は、「ラーニングセンター(学習セッション)」を積極的に利用して、授業内容をしっかり理解していくようにしてください。
-----------	--

担当者の研究室等	ラーニングセンター(2号館2階)
----------	------------------

備考	
----	--

科目名	数学基礎	科目名 (英文)	Basic Mathematics
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西脇 純一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	GMA1332a1		

授業概要・目的	本科目の目的は、学生同士または学生と教員で「(数学の) 分からない」を共有し、他者と協働して問題を解決することです。授業では、問題を解くだけでなく、他者と協働で解説を作成する(分かりやすく作り替える)機会を設けます。文系理系、数学の得意不得意に関わらず、他者と協働で分かりやすい解説を模索することで、新たな視点で知識を再確認できるとともに、自身の理解を深めていくことが期待されます。
到達目標	この授業を通じて ・基礎的な数学的知識、数的能力、論理的思考力を身につける ・自身の知識を他者に分かりやすく伝える力を身につける(または向上させる)ことができる。
授業方法と留意点	プリントを用いた講義・演習が中心。また、授業の進捗に合わせて適宜グループワークを実施する。 基本的な授業の流れ: ①「基本事項の確認・補足・解説」→②「演習問題に取り組む」→③「グループワーク」
科目学習の効果(資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学的素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 確認テスト	・授業概要の説明 ・確認テストの実施	事後学習: Moodleによる復習課題(30分)
2	方程式(1)	・文章の数式化(1) ・等式の基本法則 ・方程式の導き方、解き方、応用	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
3	方程式(2)	・文章の数式化(2) ・連立方程式の導き方、解き方、応用	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
4	割合と比(1)	・割合(1) ・売買損益	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
5	割合と比(2)	・割合(2) ・濃度、応用問題	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
6	速さと速度(1)	・速さ(1) ・速さと時間	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
7	速さと速度(2)	・速さ(2) ・応用問題	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
8	中間試験	・中間試験の実施 ・グループワーク課題のフィードバック	事前学習: 第7回までの授業で取り組んだ問題を解き直すこと(1時間) 事後学習: 中間試験のふりかえり(15分)
9	場合の数と確率(1)	・数え上げの原則 ・並べ方、選び方 ・順列、組合せ	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
10	場合の数と確率(2)	・さまざまな確率 ・確率の計算	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
11	集合	・集合とベン図 ・集合と表	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
12	推論(1)	・定量的順序関係 ・定性的順序関係	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
13	推論(2)	・対応関係 ・位置関係	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
14	総復習	・復習、補足	事前学習: Moodleによる予習課題(15分) 事後学習: Moodleによる復習課題(45分)
15	最終試験	・最終試験の実施 ・グループワーク課題のフィードバック	事前学習: 第14回までの授業で取り組んだ問題を解き直すこと(1時間) 事後学習: 最終試験のふりかえり(15分)

関連科目	数的能力開発 I
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	「演習・課題50%」と「中間・最終試験50%」の合計によって評価する。
----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	数学については各自さまざまな思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加してください。どのような些細なことでも構いませんので、遠慮することなくいつでも質問してください。授業時間内で理解できなかった場合は、「ラーニングセンター(学習ステーション)」を積極的に利用して、授業内容をしっかり理解していくようにしてください。
-----------	---

担当者の研究室等	ラーニングセンター(2号館2階)
----------	------------------

備考	
----	--

科目名	キャリア基礎	科目名 (英文)	Basic Career Planning
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵, 加野 佑弥, 坂口 有崇, 水野 武
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	GCA1333a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 <p>よくなることが期待される。 なお、講義は担当講師の人材業界での業務及び起業経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs. 4-4 SDGs. 8-6</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	<p>講義には積極的な態度で受講すること。 なお、学籍番号により担当教員が異なるため、各自自身の担当教員・クラスを確認すること。 また、教員により課題の提出方法が異なることもあるので注意すること。 課題については授業内にフィードバックする。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？ ・公と私について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(事前：0.5時間)
2	さあ始めよう！大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・学ぶためのスキルを身につける 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶ意味について考えること(事前：0.5時間) 	
3	社会化と大学-摂南大学を知る-	<ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・社会化について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること(0.5時間) ・大学の中にある「機会」の活用の仕方考えること(事後：0.5時間) ・大学生活での目標を考えること(0.5時間) 	
4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定された個人ワークに取り組むこと(事後：2時間) 	
5	SDGsについて考えよう グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsに対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsとは何かについて予習しておくこと(事前：0.5時間) ・グループで課題に取り組むこと(2時間) 	
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で求められる人材について考えること(事後：0.5時間) 	
7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> ・GDPから見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(事後：0.5時間) 	
8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(事後：0.5時間) 	
9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを20個挙げる ・ペアワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(事前：0.5時間) 	
10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(事後：0.5時間) 	
11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCAサイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を実践する方法を考えること(事後：0.5時間) 	
12	ビブリオバトル	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(事前：1時間) 	
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること(事前：0.5時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5時間) 	
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5時間) 	
15	講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> ・講義4で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5時間) ・期末レポートを作成すること(1.5時間) 	

関連科目
キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップ
エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点 (30%)、グループ課題(20%)、最終レポート (50%) で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	石井 三恵 (7号館5階) 水野 武 (7号館3階) 坂口 有芸 (7号館5階) 加野 佑弥 (7号館5階)			
備考	必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 なお、課題の提出方法は教員により異なる (Moodle か Web フォルダー等) ので、各教員の指示に従うこと。			

科目名	キャリアデザイン	科目名 (英文)	Career Design
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山 孝文
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	GCA2334a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。 SDGs. 4-4 SDGs. 8-6
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。 講義内で行われるグループディスカッションを通じて、他者理解及びコミュニケーションの必要性を理解する。(DP1)
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果 (資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・大学生生活 1 年目で経験したことを思い出しておくこと(事前: 1 時間) ・配布したレジュメを見直すこと(事後: 0.5 時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・人はなぜ働くのかについて仕事をしている一にインタビューしてまとめ、グループ討議の準備をしておくこと(事後: 2 時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・グループ討議の内容を振り返ること(0.5 時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べる(事後: 0.5 時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べる(0.5 時間)
6	自分を知る①	・特性と心がけ、自己 PR の組み立て方を学ぶ	・自身の特性について考えること(事前: 0.5 時間) ・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること(事後 1.5 時間)
7	自分を知る②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・自身の学生生活を振り返ること(事前: 0.5 時間) ・配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること(1.0 時間)
8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の習慣について振り返ること(事後: 0.5 時間)
9	自分を高める②	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の取り組むべきことについて考えること(事後: 0.5 時間)
10	自分を高める③	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること(1.5 時間)
11	自分を知る③	・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する	・自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える(事前: 0.5 時間) ・自身の「やる気の源泉」を言語化すること(0.5 時間)
12	社会を知る⑤	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直し、自らの将来について考えること(0.5 時間)
13	自分を高める⑤	・講義⑨⑩⑪の実践報告の共有と発表	・発表及びグループ討議の準備をしておくこと(事前: 1.5 時間)
14	社会を知る⑥	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・日本を取り巻く課題について調べる(事前: 0.5 時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(0.5 時間)

関連科目	キャリア基礎、インターンシップ
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。
-----------	---

学生への	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加す
------	---

メッセージ	ること。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 3号館 3階 横山孝文
備考	

科目名	スポーツ科学実習 I	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	⑦⑧⑨⑩⑪⑫
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	竹澤 健介, 小林 直生, 福本 直子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	GPH1337a1		

授業概要・目的
生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。
本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
SDGs-3、4、5

到達目標
この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップ、リーダーを支援する能力を培うことができるようになることが期待される。(DP1)

授業方法と留意点
実技形式で行う。
開講種目は、以下のとおりである。
・屋内種目 (バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど)
・屋外種目 (サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど)
※1 各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。
※2 第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。
※3 悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。

科目学習の効果 (資格)
基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	・ガイダンス	・履修上の注意やコース種目分け	事前：授業概要・目的などを学習する (30分)	事後：本実習の理解を深める (30分)
2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30分)	事後：自身の体力についての振り返り (30分)
3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30分)	事後：自身の体力についての振り返り (30分)
4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく (30分)	事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る (30分)
5	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
6	・基本技術 (基礎編1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
7	・基本技術 (基礎編2) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
8	・基本技術 (応用編1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
9	・基本技術 (応用編2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：全授業の総括 (30分)

関連科目
生涯スポーツ実習、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクスサイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)
対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25%
※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。

学生へのメッセージ
授業1回目 (ガイダンス) は、総合体育館2階アリーナに集合してください。(更衣不要)
実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)

担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）を準備する

科目名	スポーツ科学実習 I	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	①②③④⑤⑥
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	竹澤 健介, 小林 直生, 福本 直子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	GPH1337a1		

授業概要・目的
生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。
本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
SDGs-3、4、5

到達目標
この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップ、リーダーを支援する能力を培うことができるようになることが期待される。(DP1)

授業方法と留意点
実技形式で行う。
開講種目は、以下のとおりである。
・屋内種目 (バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど)
・屋外種目 (サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど)
※1 各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。
※2 第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。
※3 悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。

科目学習の効果 (資格)
基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	・ガイダンス	・履修上の注意やコース種目分け	事前：授業概要・目的などを学習する (30分)	事後：本実習の理解を深める (30分)
2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30分)	事後：自身の体力についての振り返り (30分)
3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30分)	事後：自身の体力についての振り返り (30分)
4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく (30分)	事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る (30分)
5	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
6	・基本技術 (基礎編1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
7	・基本技術 (基礎編2) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
8	・基本技術 (応用編1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
9	・基本技術 (応用編2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：全授業の総括 (30分)

関連科目
生涯スポーツ実習、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクスササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)
対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25%
※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。

学生へのメッセージ
授業1回目 (ガイダンス) は、総合体育館2階アリーナに集合してください。(更衣不要)
実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)

担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）を準備する

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	⑦⑧⑨⑩⑪⑫
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	竹澤 健介, 福本 直子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	GPH1338a1		

授業概要・目的
生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。
本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
SDGs-3、4、5

到達目標
この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップ、リーダーを支援する能力を培うことができるようになることが期待される。(DP1)

授業方法と留意点
実技形式で行う。
開講種目は、以下のとおりである。
・屋内種目 (バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど)
・屋外種目 (サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど)
※1 各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。
※2 第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。
※3 悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。

科目学習の効果 (資格)
基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	・ガイダンス	・履修上の注意やコース種目分け	事前：授業概要・目的などを学習する (30分)	事後：本実習の理解を深める (30分)
2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30分)	事後：自身の体力についての振り返り (30分)
3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30分)	事後：自身の体力についての振り返り (30分)
4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく (30分)	事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る (30分)
5	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
6	・基本技術 (基礎編1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
7	・基本技術 (基礎編2) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
8	・基本技術 (応用編1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
9	・基本技術 (応用編2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：全授業の総括 (30分)

関連科目
生涯スポーツ実習、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクスササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)
対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25%
※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。

学生へのメッセージ
授業1回目 (ガイダンス) は、総合体育館2階アリーナに集合してください。(更衣不要)
実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)

担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）を準備する

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science II
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	①②③④⑤⑥
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	竹澤 健介, 福本 直子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	GPH1338a1		

授業概要・目的
生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。
本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
SDGs-3、4、5

到達目標
この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップ、リーダーを支援する能力を培うことができるようになることが期待される。(DP1)

授業方法と留意点
実技形式で行う。
開講種目は、以下のとおりである。
・屋内種目 (バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど)
・屋外種目 (サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど)
※1 各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。
※2 第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。
※3 悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。

科目学習の効果 (資格)
基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・履修上の注意やコース種目分け	事前：授業概要・目的などを学習する (30分) 事後：本実習の理解を深める (30分)
2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30分) 事後：自身の体力についての振り返り (30分)
3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30分) 事後：自身の体力についての振り返り (30分)
4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく (30分) 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る (30分)
5	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
6	・基本技術 (基礎編1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
7	・基本技術 (基礎編2) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
8	・基本技術 (応用編1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
9	・基本技術 (応用編2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：全授業の総括 (30分)

関連科目
生涯スポーツ実習、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクスササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)
対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25%
※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。

学生へのメッセージ
授業1回目(ガイダンス)は、総合体育館2階アリーナに集合してください。(更衣不要)
実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)

担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）を準備する

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	①②③④⑤⑥
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	寺内 睦博, 金 政芸, 菅波 昌広, 萩原 佐織, 森 類臣, 山田 逸成, 横山 孝文, 米本 涼, 羅 鵬飛
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	GKY1339a1		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身につけることを目指します。
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 (2)ABDによる読書法を身につけている。 (3)チームワーク能力を身につけ、対話を通じた協働学習をすることができる。 (4)SDGsとUNAIについて基礎的な知識を身につけている。 (5)読書が好きで、意義を理解して読書習慣を身につけている。 (6)コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。 (7)自主的、計画的に学ぶ学習習慣を身につけている。
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術を修得します。教養の入門書として一般書を教材として、ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や ICT ツールを活用して、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を一方的に伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることが特徴です。したがって、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の基礎知識、ABD 法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法、自主学習の習慣などが身につく。学習における ICT ツールの活用方法を知ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 『おとなの教養』序章 私たちはどこから来て、何処へ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で、どのような力が身につくのか「教養とは何か?」、理解度確認クイズ、振り返り ABDの体験	事前学習:『おとなの教養』 序章を読みまとめる (4時間以上)
2	教養入門:第一章 宗教	教科書の紹介、概要 チーム作り、授業の約束事 ABDによる学習の進め方の説明 ABD法に挑戦「第一章 宗教」 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第一章を読みまとめる (4時間以上)
3	教養入門:第三章 人類の旅路	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第三章を読みまとめる (4時間以上)
4	教養入門:第四章 人間と病気	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第四章を読み事前学習シートを作成する (4時間以上)
5	教養入門:第五章 経済	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習:教科書 第五章 (4時間以上)
6	教養入門:中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事前学習:中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案を作成する (2時間以上) 事後学習:第1回レポート (2時間以上)
7	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGsの概要 SDGsとは何か 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:SDGsとは何か、指定した資料を調べる (4時間以上)
8	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGsを考える ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:SDGsとは何か、図書館、ネット等で調べる。自分の意見を持つ。(4時間以上)
9	世界を知る教養:国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:UNAIとは何かを調べる (2時間以上) 事後学習:第2回レポート (2時間以上)
10	自分を知る教養:岸見著『アドラー性格を変える心理学』序章 「性格は変わらない」は本当か? 第一章 虚栄心・嫉妬・憎しみ	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:『アドラー性格を変える心理学』序章・第一章を読み事前学習シートを作成する (4時間以上)
11	自分を知る教養:第二章 控え目・不安・臆病	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第二章を読み事前学習シートを作成する (4時間以上)
12	自分を知る教養:第三章 快活・かたくな・気分屋	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第三章を読み事前学習シートを作成する (4時間以上)
13	自分を知る教養:第四章 怒り・悲しみ・羞恥心	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習:教科書 第四章を読み事前学習シートを作成する (4時間以上)
14	自分を知る教養:中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事前学習:中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (2時間以上)

			事後学習：第3回レポート (2時間以上)	
15	大学教養入門：まとめ	グループワーク「教養とは何か？」 事後アンケート	事前学習：中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (4時間以上)	
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版
	2	アドラー性格を変える心理学	岸見一郎	NHK 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み・ディスカッション 15% ・プレゼン相互評価・グループポスター 15% ・レポート 15% ・振り返りシート・個人ポスター・メモ 20% ・クイズ 15% ・事前学習シート 15% ・ファイリング 5% <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、原則として出席率80%以上の学生を合格者の対象とする。</p>			
学生への メッセージ	この科目は摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部 of 学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。			
担当者の 研究室等	寺内 睦博 (11号館10F), 森 類臣 (7号館5F), 金 政芸 (11号館8F), 菅波 昌広 (2号館2F), 萩原 佐織 (11号館9F), 山田 逸成 (1号館5F), 横山 孝文 (3号館3F), 米本 涼 (7号館5F), 羅 鵬飛 (1号館7F)			
備考	この科目は、入学式〜キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけることもできます。			

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	1年	クラス	⑦⑧⑨⑩⑪⑫
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	新居 英志, 有馬 善一, 大月 庄治, 片岡 雅世, 菅波 昌広, 湯浅 恵造, 横山 孝文, 米本 涼, 若城 康伸
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	GKY1339a1		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身につけることを目指します。
到達目標	(1) 大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 (2) ABDによる読書法を身につけている。 (3) チームワーク能力を身につけ、対話を通じた協働学習をすることができる。 (4) SDGs と UNAI について基礎的な知識を身につけている。 (5) 読書が好きで、意義を理解して読書習慣を身につけている。 (6) コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。 (7) 自主的、計画的に学ぶ学習習慣を身につけている。
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術を修得します。教養の入門書として一般書を教材として、ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や ICT ツールを活用して、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を一方向的に伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることが特徴です。したがって、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の基礎知識、ABD 法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法、自主学習の習慣などが身につく。学習における ICT ツールの活用方法を知ることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 『おとなの教養』序章 私たちはどこから来て、何処へ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で、どのような力が身につくのか 「教養とは何か?」、理解度確認クイズ、振り返り ABD の体験	事前学習: 『おとなの教養』 序章を読みまとめる (4 時間以上)
2	教養入門: 第一章 宗教	教科書の紹介、概要 チーム作り、授業の約束事 ABD による学習の進め方の説明 ABD 法に挑戦「第一章 宗教」 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 教科書 第一章を読みまとめる (4 時間以上)	
3	教養入門: 第三章 人類の旅路	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 教科書 第三章を読みまとめる (4 時間以上)	
4	教養入門: 第四章 人間と病気	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 教科書 第四章を読み事前学習シートを作成する (4 時間以上)	
5	教養入門: 第五章 経済	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習: 教科書 第五章 (4 時間以上)	
6	教養入門: 中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案を作成する (2 時間以上) 事後学習: 第 1 回レポート (2 時間以上)	
7	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGs の概要 SDGs とは何か 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: SDGs とは何か、指定した資料を調べる (4 時間以上)	
8	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGs を考える ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: SDGs とは何か、図書館、ネット等で調べる。自分の意見を持つ。(4 時間以上)	
9	世界を知る教養: 国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: UNAI とは何かを調べる (2 時間以上) 事後学習: 第 2 回レポート (2 時間以上)	
10	自分を知る教養: 岸見著『アドラー性格を変える心理学』序章 「性格は変わらない」は本当か? 第一章 虚栄心・嫉妬・憎しみ	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 『アドラー性格を変える心理学』序章・第一章を読み事前学習シートを作成する (4 時間以上)	
11	自分を知る教養: 第二章 控え目・不安・臆病	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 教科書 第二章を読み事前学習シートを作成する (4 時間以上)	
12	自分を知る教養: 第三章 快活・かたくな・気分屋	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 教科書 第三章を読み事前学習シートを作成する (4 時間以上)	
13	自分を知る教養: 第四章 怒り・悲しみ・羞恥心	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習: 教科書 第四章を読み事前学習シートを作成する (4 時間以上)	
14	自分を知る教養: 中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (2 時間以上)	

			事後学習：第3回レポート (2時間以上)	
15	大学教養入門：まとめ	グループワーク「教養とは何か？」 事後アンケート	事前学習：中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (4時間以上)	
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版
	2	アドラー性格を変える心理学	岸見一郎	NHK 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み・ディスカッション 15% ・プレゼン相互評価・グループポスター 15% ・レポート 15% ・振り返りシート・個人ポスター・メモ 20% ・クイズ 15% ・事前学習シート 15% ・ファイリング 5% <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、原則として出席率80%以上の学生を合格者の対象とする。</p>			
学生への メッセージ	この科目は摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部 of 学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。			
担当者の 研究室等	寺内 睦博 (11号館10F), 森 類臣 (7号館5F), 金 政芸 (11号館8F), 菅波 昌広 (2号館2F), 萩原 佐織 (11号館9F), 山田 逸成 (1号館5F), 横山 孝文 (3号館3F), 米本 涼 (7号館5F), 羅 鵬飛 (1号館7F)			
備考	この科目は、入学式〜キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけることもできます。			

科目名	数的能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Mathematical Ability I
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	GKY2341a1		

授業概要・目的	<p>数的分野 (算数・数学) を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。</p> <p>数的能力の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。</p>
到達目標	<p>授業で取り組んだ数理問題が概ね解ける。</p> <p>ものごとを論理的に考える習慣がついている。</p>
授業方法と留意点	<p>まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。</p> <p>毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。</p>
科目学習の効果 (資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	事前：シラバスを熟読する (10分) 事後：実力テストを振り返り、自身の強化ポイントを把握する (30分)
2	計数問題①	割合と比	事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)
3	計数問題②	割合の応用問題	事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)
4	計数問題③	損益算	事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)
5	計数問題④	速度算①	事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)
6	計数問題⑤	速度算②	事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)
7	総復習①	計数問題復習	事前：学習範囲の問題を確認し、理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)
8	中間テスト	中間テスト	事前：今まで学習した問題全てを復習しておく (100分) 事後：自身の弱点を把握し、今後に向けての自主学習計画を立案する (60分)
9	論理問題①	集合	事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)
10	論理問題②	場合の数	事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)
11	論理問題③	確率	事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)
12	論理問題④	表の読み取り	事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)
13	論理問題⑤	推論①	事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)
14	論理問題⑥	推論②	事前：学習範囲の問題を確認し、大まかなテーマ理解度を把握しておく (15分) 事後：講義で取り扱った問題を復習し、考え方や解法を習得する (30分以上)
15	総復習②	論理問題復習	事前：学習範囲の問題を確認し、理解度を把握しておく (15分) 事後：今まで学習した問題全てを復習しておく (145分以上)

関連科目	キャリアデザイン、就職実践基礎			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点(授業内課題および態度): 40%、中間テスト・最終テスト: 50%、SmartSPI: 10% ※第1回の平常点は、実力テスト(点数は成績に影響しない)を実施するため8点(成績の8%)とする			
学生への メッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週1時間程度の予習復習を必ず行ってください。			
担当者の 研究室等	ラーニングセンター(2号館2階) 7号館3階 全学教育機構			
備考	授業で実施する小テストや中間テストの解答・解説はmoodleに掲示、あるいは次回授業内などで実施する予定です。 テキストのほか、一冊ノートを作ることを奨励します。			

科目名	日本語読解 F I	科目名 (英文)	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01314a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。 																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有) ・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・小テストのFB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち</td> <td>授業の進め方の説明 読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>渡り鳥はなぜ迷わない？</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>フリーズする脳</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「科学」の定義①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「科学」の定義②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>現代の若者のマナー①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>現代の若者のマナー②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>親孝行な男の子</td> <td>読解、内容理解、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>言語と文化①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>言語と文化②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ローソクの進化①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ローソクの進化②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>「割り勘」は当然？①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>「割り勘」は当然？②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習	9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認	13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語読解 F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	日本語読解 F II	科目名 (英文)	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△○: DP8○		
科目ナンバリング	FF02315a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。 																																																																		
授業方法及び留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有) ・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・小テストのFB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の進め方の説明 読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>統計と数字①</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめ (話す)</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>統計と数字②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>背理法①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>背理法②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>「待つ」こと①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>「待つ」こと②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ついでに何を？①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ついでに何を？②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ウイルス発見！①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ウイルス発見！②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>大学で学ぶこと①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>大学で学ぶこと②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>何のために「学ぶ」のか</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	2	統計と数字①	読解、内容理解、内容をまとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習	3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	4	背理法①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	6	「待つ」こと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認	8	ついでに何を？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	9	ついでに何を？②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認	10	ウイルス発見！①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ウイルス発見！②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	統計と数字①	読解、内容理解、内容をまとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
4	背理法①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
6	「待つ」こと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認																																																																
8	ついでに何を？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	ついでに何を？②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認																																																																
10	ウイルス発見！①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ウイルス発見！②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語読解 F I																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	日本語表現作文F I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△○: DP8○		
科目ナンバリング	FF01318a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> レポート・論文の文体で書ける。 読んだ内容を要約できる。 段落分けして書ける。 経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。 																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 主に講義形式で行う。 授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。 Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語表現作文F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語表現作文FⅡ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ○,Ⅳ○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:EO,C科:Ⅲ○,Ⅵ○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△○:DP8○		
科目ナンバリング	FF02319a1		

授業概要・目的	この授業では、実際にレポートを作成することを通して、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・レポート・論文の書き方を守って書ける。 ・アウトラインに沿って書ける。 ・信頼性の高い資料を集められる。 																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。 ・オンライン授業になった場合、プリントはパワーポイントに変更する。 ・提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果(資格)	レポートが書けるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 前期の復習</td> <td>授業についての説明 前期の学習内容についての復習</td> <td>前期で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポートの言葉と表現</td> <td>レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>レポートの構成</td> <td>レポートの構成を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>テーマ決め・資料収集</td> <td>テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ</td> <td>資料を集める</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>資料を整理する</td> <td>集めた資料を整理する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>アウトライン</td> <td>レポートのアウトラインを作成する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>序論①</td> <td>序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>序論②</td> <td>序論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>本論①</td> <td>本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>本論②</td> <td>本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>本論③</td> <td>本論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>結論①</td> <td>結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>結論②</td> <td>結論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>まとめ①</td> <td>レポートを推敲し、完成稿を作成する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ②</td> <td>作成したレポートを元に発表を行う</td> <td>発表のFBを元に復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使用したプリントを使い復習	2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める	5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使用したプリントを使い復習	6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使用したプリントを使い復習	7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	8	序論②	序論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	11	本論③	本論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	結論②	結論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使用したプリントを使い復習	15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のFBを元に復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める																																																																
5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	序論②	序論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	本論③	本論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	結論②	結論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のFBを元に復習																																																																
関連科目	日本語表現作文FⅠ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(60%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう！																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語文法 F I	科目名 (英文)	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A○, A 科 : C○, M 科 : B2○, E 科 : E○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1○, DP7△, DP8△, D 科 : DP1○, S 科 : DP1○, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1○, DP8○, W 科 : DP1○, DP7○, N 科 : DP1○, DP8△○ : DP8○		
科目ナンバリング	FF01316a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。																																																																		
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 ・Teams を使用する場合、授業内プリントはパワーポイントに変更する。 ・小テストのFB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち</td> <td>授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>渡り鳥はなぜ迷わない?</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>フリーズする脳</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「科学」の定義①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「科学」の定義②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>現代の若者のマナー①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>現代の若者のマナー②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>親孝行な男の子</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>言語と文化①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>言語と文化②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ローソクの進化①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ローソクの進化②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>「割り勘」は当然?①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>「割り勘」は当然?②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	13	「割り勘」は当然?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	14	「割り勘」は当然?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	渡り鳥はなぜ迷わない?	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	「割り勘」は当然?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	「割り勘」は当然?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語文法 F II、日本語読解 F I																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語文法FⅡ	科目名(英文)	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ○,Ⅳ○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:EO,C科:Ⅲ○,Ⅵ○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△0:DP8○		
科目ナンバリング	FF02317a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 オンライン授業に変更になった場合、プリントの代わりにパワーポイントを使用する。 小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。
科目学習の効果(資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
	5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	8	ついでに何をします?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	ついでに何をします?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	ウイルス発見!①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	11	ウイルス発見!②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語文法FⅠ、日本語読解FⅡ
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認(復習)。目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本事情 F I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01312a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	映画 1 : テーマ「大学生生活」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画 1 : テーマ「大学生生活」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画 1 : テーマ「大学生生活」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
5	映画 2 : テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
6	映画 2 : テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画 2 : テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
9	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
10	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
12	映画について発表 (1)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間)
13	映画について発表 (2)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間) (計 2 時間)
14	映画について発表 (3)	発表、質疑応答	原稿修正、レポート (計 2 時間)
15	総まとめ	ディスカッション	サイトに投稿する (計 2 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映像作品を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本事情 F II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△○: DP8○		
科目ナンバリング	FF02313a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画・ドラマなどの映像作品を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映像作品の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・各映像作品について次のように進めます。(1) 映像作品についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映像作品の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	1 : テーマ「家族」	映像作品についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	1 : テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	1 : テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
5	2 : テーマ「教育」	映像作品についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
6	2 : テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	2 : テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
9	3 : テーマ「言葉」	映像作品についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
10	3 : テーマ「言葉」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	3 : テーマ「言葉」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
12	日本での経験	内容について検討	テーマを考える、内容について調べる (計 1.5 時間)
13	日本での経験	ディスカッション、文章作成	受講生の文章にコメントする (計 1.5 時間)
14	日本での経験	作文内容についてグループワーク、文章修正	文章修正、発表準備 (計 1.5 時間)
15	発表 (新聞に投稿する)	発表、質疑応答、	文章修正、投稿する (計 1.5 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本語総合 F I	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8○, W 科: DP1◎, DP7○, N 科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01320a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。			
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。			
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。			
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。			
担当者の研究室等	鎌田講師室 (2号館2階)			
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。			

科目名	日本語総合FⅡ	科目名(英文)	Comprehensive Japanese FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー(DP)	V科:III○,IV○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:EO,C科:III○,VI○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△0:DP8○		
科目ナンバリング	FF02321a1		

授業概要・目的	発表に適したレジユメの作成方法を学ぶ。 アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	資料を読み、内容を理解し、他者にわかりやすく発表できる。 発表に適した資料を作成することができる 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	様々な文章を読み、その内容をレジユメにまとめ、口頭で発表する。 課題のフィードバックは授業中に行う。

科目学習の 効果(資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業概要説明 ウォーミングアップ</td> <td>授業の進め方、自己紹介 レジユメ作成について</td> <td>自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>トピック1</td> <td>他者にわかりやすいレジユメ</td> <td>レジユメ作成</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>トピック2-1</td> <td>文章を読み、レジユメを作成する</td> <td>レジユメ作成</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>トピック2-2</td> <td>作成したレジユメを用い、発表する</td> <td>発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>トピック2-3</td> <td>作成したレジユメの改善</td> <td>よりよい発表のために必要なことをまとめる</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>トピック3-1</td> <td>文章を読み、レジユメを作成する</td> <td>レジユメ作成</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>トピック3-2</td> <td>作成したレジユメを用い、発表する</td> <td>発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>トピック3-3</td> <td>作成したレジユメの改善</td> <td>よりよい発表のために必要なことをまとめる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>トピック4-1</td> <td>ABDについて</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>トピック4-2</td> <td>本を読み、発表用資料を作成する</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>トピック4-3</td> <td>資料を用い、発表する</td> <td>発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>トピック5-1</td> <td>文章を読み、レジユメを作成する</td> <td>レジユメ作成</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>トピック5-2</td> <td>作成したレジユメを用い、発表する</td> <td>発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>トピック5-3</td> <td>作成したレジユメの改善</td> <td>よりよい発表のために必要なことをまとめる</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>これまでの授業のふりかえり、今後に向けて</td> <td>注意点を復習する</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 レジユメ作成について	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する	2	トピック1	他者にわかりやすいレジユメ	レジユメ作成	3	トピック2-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成	4	トピック2-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	5	トピック2-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる	6	トピック3-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成	7	トピック3-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	8	トピック3-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる	9	トピック4-1	ABDについて	授業で使用した語彙を復習し、覚える	10	トピック4-2	本を読み、発表用資料を作成する	授業で使用した語彙を復習し、覚える	11	トピック4-3	資料を用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	12	トピック5-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成	13	トピック5-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	14	トピック5-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる	15	まとめ	これまでの授業のふりかえり、今後に向けて	注意点を復習する
	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																													
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 レジユメ作成について	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する																																																													
	2	トピック1	他者にわかりやすいレジユメ	レジユメ作成																																																													
	3	トピック2-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成																																																													
	4	トピック2-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																													
	5	トピック2-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる																																																													
	6	トピック3-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成																																																													
	7	トピック3-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																													
	8	トピック3-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる																																																													
	9	トピック4-1	ABDについて	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																													
	10	トピック4-2	本を読み、発表用資料を作成する	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																													
	11	トピック4-3	資料を用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																													
	12	トピック5-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成																																																													
	13	トピック5-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																													
	14	トピック5-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる																																																													
15	まとめ	これまでの授業のふりかえり、今後に向けて	注意点を復習する																																																														

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業において課される課題30%、授業への取り組み30%、発表40%で判断する。
----------	---

学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
-----------	---

担当者の研究室等	鎌田講師室(2号館2階)
----------	--------------

備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	--------------------

科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△○: DP8○		
科目ナンバリング	FF01322a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。 ハンドアウトを使用する。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	依頼メールの書き方の復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習
	7	中間試験 話し方1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
	9	話し方3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	自己PRに必要な項目を復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	自己PRに必要な形式、書き方の復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	自己PRの書き方の復習
	15	期末試験 総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語 F II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み、課題の提出物等 (40%)、定期試験 (60%) により総合的に判断する。
-----------	---

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 またその際に必要な表現をしっかりと確認してください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	専門日本語 F II	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	乾 友紀
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF02323a1		

授業概要・目的	日本での就職活動及びビジネス場面において必要な表現や文型、言葉遣い等について学び、メールやエントリーシート、電話応対、プレゼンテーションなどで求められる日本語力を身につける。留学生が日本で働く上で直面しそうな問題を想定してその対処について考える。
到達目標	就職活動やビジネス場面で必要な日本語表現を使用することができる。 異文化接触場面における課題に対処することができる。
授業方法と留意点	教師が準備した資料をもとに講義、ディスカッション、ロールプレイ等を行う。
科目学習の効果 (資格)	日本の就職活動及びビジネス日本語・ビジネスマナーについて知識を得ることによって、日本企業で働く上で求められる知識や日本語力を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 授業の説明 日本語のレベルチェック	授業の説明 日本語レベルチェックテストの実施
2	日本の就職活動の流れ 日本の企業文化	日本の就職活動について概観し、企業文化について学ぶ	授業で提示した課題
3	就職活動における (目上の人に対する) メール の書き方	就職活動における (目上の人に対する) メール の書き方を学ぶ	語彙、表現力の復習 授業で提示した課題
4	エントリーシート (履歴書、自己 PR、志望動機) の書き方	エントリーシートの書き方を学ぶ	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
5	集団面接 (グループディスカッション)	グループディスカッション	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
6	個人面接における日本語表現	面接での受け答えに使用する日本語を学ぶ	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
7	異文化コミュニケーション (間接的な表現)	異文化コミュニケーションについて学ぶ	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
8	初対面での日本語表現	自己紹介をする、名刺交換をする	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
9	電話応対における日本語表現	電話応対に使用する日本語を学ぶ	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
10	アドバイスをする / 受ける時の日本語表現	アドバイスをする / 受ける時の日本語表現を学ぶ	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
11	会議に参加する時の日本語表現	会議で使用する日本語報告をする・自分の意見を述べる) を学ぶ	語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
12	依頼をする時の日本語表現	依頼をする時の日本語表現を学ぶ	語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
13	許可を求める時の日本語表現	許可を求める時の日本語表現を学ぶ	語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
14	発表準備	資料作成	発表資料を作成する
15	発表	授業を通して学んだ知識やスキルについて発表する	今学期に学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語 F I
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み及び課題の提出物 (50%)、小テスト (30%)、発表 (20%)により総合的に判断する。
学生へのメッセージ	授業では積極的に発言することが求められます。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	(1) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 (2) 受講生数や授業進度、参加学生のニーズによって授業内容を変更することがある。 (3) 授業外の質問等には、メールで対応する。

科目名	日本語会話 F I	科目名 (英文)	Japanese Conversation FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	角田 麻美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01324a1		

授業概要・目的	この授業では身の回りの出来事やニュースなどを題材にし、身近な話題を分かりやすく人に伝えるとともにテーマに基づいて意見交換ができるように、日本語の表現力やコミュニケーションスキルを高めることを目的とします。 また、大学生活で必要となるプレゼンテーション能力の習得も目指します。																																																																		
到達目標	1. 身の回りの出来事やニュースを分かりやすく説明することができる 2. テーマに関する自分の意見を、根拠を示しながら述べるができる 3. 自分と異なる意見を聞き、それを取り入れながら話を進めることができる 4. 集めた情報を整理してプレゼンテーションを行うことができる 5. プレゼンテーションに対して適切なコメントを返すことができる																																																																		
授業方法と留意点	ペアワークやグループワーク等、受講生同士が話すことを中心に進めます。 教員は適宜フィードバックを行います。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 自己紹介</td> <td>授業の進め方と評価の説明 自己紹介</td> <td>自己紹介の準備 自分の興味や関心について話せるようにしておく</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ディスカッションの基本</td> <td>ディスカッションの表現や進め方を学ぶ</td> <td>授業内で指示する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ディスカッション①</td> <td>ペアワーク/グループワーク</td> <td>授業内で指示する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ディスカッション②</td> <td>ペアワーク/グループワーク</td> <td>授業内で指示する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ディスカッション③</td> <td>ペアワーク/グループワーク</td> <td>授業内で指示する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ディスカッション④</td> <td>ペアワーク/グループワーク</td> <td>授業内で指示する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>中間課題の準備</td> <td>資料作成</td> <td>発表の練習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>中間課題</td> <td>発表</td> <td>発表の振り返り</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>プレゼンテーションの基本</td> <td>プレゼンテーションの技法や構成を学ぶ</td> <td>授業内で指示する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>プレゼンテーション①</td> <td>ペアワーク/グループワーク</td> <td>授業内で指示する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>プレゼンテーション②</td> <td>ペアワーク/グループワーク</td> <td>授業内で指示する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>プレゼンテーション③</td> <td>ペアワーク/グループワーク</td> <td>授業内で指示する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>プレゼンテーション④</td> <td>ペアワーク/グループワーク</td> <td>授業内で指示する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>最終課題の準備</td> <td>資料作成</td> <td>発表の練習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>最終課題</td> <td>発表</td> <td>発表の振り返り</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 自己紹介	授業の進め方と評価の説明 自己紹介	自己紹介の準備 自分の興味や関心について話せるようにしておく	2	ディスカッションの基本	ディスカッションの表現や進め方を学ぶ	授業内で指示する	3	ディスカッション①	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する	4	ディスカッション②	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する	5	ディスカッション③	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する	6	ディスカッション④	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する	7	中間課題の準備	資料作成	発表の練習	8	中間課題	発表	発表の振り返り	9	プレゼンテーションの基本	プレゼンテーションの技法や構成を学ぶ	授業内で指示する	10	プレゼンテーション①	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する	11	プレゼンテーション②	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する	12	プレゼンテーション③	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する	13	プレゼンテーション④	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する	14	最終課題の準備	資料作成	発表の練習	15	最終課題	発表	発表の振り返り
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 自己紹介	授業の進め方と評価の説明 自己紹介	自己紹介の準備 自分の興味や関心について話せるようにしておく																																																																
2	ディスカッションの基本	ディスカッションの表現や進め方を学ぶ	授業内で指示する																																																																
3	ディスカッション①	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する																																																																
4	ディスカッション②	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する																																																																
5	ディスカッション③	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する																																																																
6	ディスカッション④	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する																																																																
7	中間課題の準備	資料作成	発表の練習																																																																
8	中間課題	発表	発表の振り返り																																																																
9	プレゼンテーションの基本	プレゼンテーションの技法や構成を学ぶ	授業内で指示する																																																																
10	プレゼンテーション①	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する																																																																
11	プレゼンテーション②	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する																																																																
12	プレゼンテーション③	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する																																																																
13	プレゼンテーション④	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する																																																																
14	最終課題の準備	資料作成	発表の練習																																																																
15	最終課題	発表	発表の振り返り																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業への出席および取り組み 30%、中間課題 30%、最終課題 40%で評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等により内容や進度を調整することがあります。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語会話 F II	科目名 (英文)	Japanese Conversation FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: E o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, DP8 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 Δ0 : DP8 o		
科目ナンバリング	FF02325a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 オンライン授業になった場合は授業中はカメラを ON にすることを求めます。 カメラのない学生は、必ず事前に用意をしておくこと。 課題のフィードバックは授業中に行う。 ノートパソコンかタブレットを持参すること。(持っていなければスマートフォンでも可)
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 口頭発表は、最終授業日に行なう。

科目名	日本語文法R	科目名 (英文)	Japanese Grammar R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0: DP8○		
科目ナンバリング	RRE1329a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 オンライン授業に変更になった場合、プリントの代わりにパワーポイントを使用する。 小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
	5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語文法 F I、日本語読解 F II
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週1時間。
----	--

科目名	日本事情 R I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RI
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	RRE1326a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	映画 1 : テーマ「大学生生活」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画 1 : テーマ「大学生生活」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画 1 : テーマ「大学生生活」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
5	映画 2 : テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
6	映画 2 : テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画 2 : テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
9	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
10	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
12	映画について発表 (1)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間)
13	映画について発表 (2)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間) (計 2 時間)
14	映画について発表 (3)	発表、質疑応答	原稿修正、レポート (計 2 時間)
15	総まとめ	ディスカッション	サイトに投稿する (計 2 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映像作品を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本事情R II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RII
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー(DP)	V科:III○,IV○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:EO,C科:III○,VI○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△0:DP8○		
科目ナンバリング	RRE2327a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画・ドラマなどの映像作品を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映像作品の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・各映像作品について次のように進めます。(1)映像作品についての情報・その他背景知識について説明 (2)映像作品の場面をいくつか視聴・内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3)テーマについてディスカッション (4)「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	1 : テーマ「家族」	映像作品についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	1 : テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	1 : テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
5	2 : テーマ「教育」	映像作品についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
6	2 : テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	2 : テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
9	3 : テーマ「言葉」	映像作品についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
10	3 : テーマ「言葉」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	3 : テーマ「言葉」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
12	日本での経験	内容について検討	テーマを考える、内容について調べる (計 1.5 時間)
13	日本での経験	ディスカッション、文章作成	受講生の文章にコメントする (計 1.5 時間)
14	日本での経験	作文内容についてグループワーク、文章修正	文章修正、発表準備 (計 1.5 時間)
15	発表 (新聞に投稿する)	発表、質疑応答、	文章修正、投稿する (計 1.5 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本語総合R	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	RRE1331a1		

授業概要・目的	発表に適したレジユメの作成方法を学ぶ。 アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	資料を読み、内容を理解し、他者にわかりやすく発表できる。 発表に適した資料を作成することができる 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	様々な文章を読み、その内容をレジユメにまとめ、口頭で発表する。 課題のフィードバックは授業中に行う。

科目学習の 効果 (資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業概要説明 ウォーミングアップ</td> <td>授業の進め方、自己紹介 レジユメ作成について</td> <td>自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>トピック 1</td> <td>他者にわかりやすいレジユメ</td> <td>レジユメ作成</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>トピック 2-1</td> <td>文章を読み、レジユメを作成する</td> <td>レジユメ作成</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>トピック 2-2</td> <td>作成したレジユメを用い、発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>トピック 2-3</td> <td>作成したレジユメの改善</td> <td>よりよい発表のために必要なことをまとめる</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>トピック 3-1</td> <td>文章を読み、レジユメを作成する</td> <td>レジユメ作成</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>トピック 3-2</td> <td>作成したレジユメを用い、発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>トピック 3-3</td> <td>作成したレジユメの改善</td> <td>よりよい発表のために必要なことをまとめる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>トピック 4-1</td> <td>ABDについて</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>トピック 4-2</td> <td>本を読み、発表用資料を作成する</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>トピック 4-3</td> <td>資料を用い、発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>トピック 5-1</td> <td>文章を読み、レジユメを作成する</td> <td>レジユメ作成</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>トピック 5-2</td> <td>作成したレジユメを用い、発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>トピック 5-3</td> <td>作成したレジユメの改善</td> <td>よりよい発表のために必要なことをまとめる</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>これまでの授業のふりかえり、今後に向けて</td> <td>注意点を復習する</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 レジユメ作成について	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する	2	トピック 1	他者にわかりやすいレジユメ	レジユメ作成	3	トピック 2-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成	4	トピック 2-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	5	トピック 2-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる	6	トピック 3-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成	7	トピック 3-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	8	トピック 3-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる	9	トピック 4-1	ABDについて	授業で使用した語彙を復習し、覚える	10	トピック 4-2	本を読み、発表用資料を作成する	授業で使用した語彙を復習し、覚える	11	トピック 4-3	資料を用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	12	トピック 5-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成	13	トピック 5-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	14	トピック 5-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる	15	まとめ	これまでの授業のふりかえり、今後に向けて	注意点を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 レジユメ作成について	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する																																																														
2	トピック 1	他者にわかりやすいレジユメ	レジユメ作成																																																														
3	トピック 2-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成																																																														
4	トピック 2-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
5	トピック 2-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる																																																														
6	トピック 3-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成																																																														
7	トピック 3-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
8	トピック 3-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる																																																														
9	トピック 4-1	ABDについて	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
10	トピック 4-2	本を読み、発表用資料を作成する	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
11	トピック 4-3	資料を用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
12	トピック 5-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成																																																														
13	トピック 5-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
14	トピック 5-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる																																																														
15	まとめ	これまでの授業のふりかえり、今後に向けて	注意点を復習する																																																														

関連科目	
------	--

教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、発表 40%で判断する。
-----------	--

学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
-----------	---

担当者の研究室等	鎌田講師室 (2号館2階)
----------	---------------

備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。
----	----------------------

科目名	専門日本語R	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△○: DP8○		
科目ナンバリング	RRE1332a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。 ハンドアウトを使用する。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	依頼メールの書き方の復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習
	7	中間試験 話し方1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
	9	話し方3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	自己PRに必要な項目を復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	自己PRに必要な形式、書き方の復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	自己PRの書き方の復習
	15	期末試験 総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語FII
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み、課題の提出物等 (40%)、定期試験 (60%) により総合的に判断する。
-----------	---

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 またその際に必要な表現をしっかりと確認してください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本語会話R	科目名 (英文)	Japanese Conversation R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	RRE1333a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 オンライン授業になった場合は授業中はカメラをONすることを求めます。 カメラのない学生は、必ず事前に用意をしておくこと。 課題のフィードバックは授業中に行う。 ノートパソコンかタブレットを持参すること。(持っていなければスマートフォンでも可)
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	7号館 2階 非常勤講師室
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 口頭発表は、最終授業日に行なう。

科目名	教育経営論	科目名 (英文)	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目では、現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識、および学校や教育行政の組織構造・機能・関係に関する基礎的知識を身につけ、経営の観点から理解するとともに、そこに内在する課題を理解します。そのために、公教育システムに関してなじみの深い事象を参照し、その原理や構造・機能、それに関する政策や法制度、理論や論争、実態や課題を検討していきます。
到達目標	私たちにとってはあたりまえで意識することもないうような、学校教育を中心とした公教育システムのあり方について視野が広がり、理解が深まります。例えば「学校では何を学ぶのか」「学校ではどのように教えられるのか」という内容・方法的な事柄についても、さまざまな制度やその運用によって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がり理解できるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」 「学習する権利」	テキスト第 6 章を読んでくる。
3	教育を受ける権利の保障	教育権論争について簡単なグループワーク 公教育の制度原理	教育権についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
4	学校体系のしくみ	段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	テキスト第 4 章を読んでくる。
5	学校体系の現代的課題	「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク 選別・分離と接続・統合	教育の制度原理についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
6	教育条件整備の法制度と新しい動向	「選抜・選別」について簡単なグループワーク 公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか	学校の機能に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
7	中央教育行政の組織構造	各省庁・審議会	テキスト第 8 章を読んでくる。
8	地方教育行政の組織構造	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 首長部局と教育委員会	テキスト第 9 章を読んでくる。
9	中央・地方教育行政の関係構造	教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク 監督行政と指導行政 教育行政関係の新しい動向	教育委員会制度の動向に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
10	指導行政と教育内容行政	学習指導要領、研究指定・研究開発、教科書行政	テキスト第 11 章を読んでくる。
11	教育課程経営	学力低下論争をめぐる簡単なグループワーク カリキュラムマネジメント 学力論争と教育評価論	学力低下論争に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第 15 章を読んでくる。
12	人事行政と教職員管理	教職員の資格・身分・服務管理、教育労働管理	テキスト第 10 章を読んでくる。
13	学校の組織管理と組織編制	教職員配置、学校・学級の「適正規模」「適正配置」 学校評議員制度、学校運営協議会制度	テキスト第 16 章、第 19 章を読んでくる。
14	学校経営の組織構造	学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク 学校の組織特性、学校経営の組織と過程 (学校と地域との連携含む)	学校統廃合に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第 14 章を読んでくる。
15	学校の安全管理と安全教育	安全管理の領域 安全教育の方法	テキスト第 18 章を読んでくる。

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公教育経営概説 (改訂版)	堀内孜	学術図書出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー10%。定期試験を受験しなかった場合は評価をしません。		
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。		
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室		
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあります。リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。		

科目名	教育原理	科目名 (英文)	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語るすることができます。しかし、「教育とは一体何だろう？」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないのでしょうか。</p> <p>この授業では、「教育とは一体何だろう？」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。</p> <p>これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。</p> <p>授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく、生徒と一緒に「創る」立場からの能動的な学びを期待します。</p>
到達目標	<p>教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。</p>
授業方法と留意点	<p>本授業は「教育とは何か？」という本質的な問いについて受講者のみなさん一人一人が考え、自身の教育観を再構築していけるようにします。</p> <p>具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話やグループワークなどを通して教育についての学びを進めていきます。</p> <p>そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、教育について多面的・多角的に考えることができるように配慮します。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状 の取得 (3) 学芸員資格 の取得に必要です。</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目：教育の基礎的理解に関する科目</p> <p>各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	(事前) テキスト P.3 を精読しておく。 (事後) 「教育とは一体何だろう」という問いについて自分の考えをまとめておく。
2	教育の基礎理論①：教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	(事前) テキスト P.59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の必要性について自分の考えを整理しておく。
3	教育の基礎理論②：教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	(事前) テキスト P.59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の目的について自分の考えを整理しておく。
4	教育の基礎理論③：子どもの発見	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	(事前) テキスト P.76～85 を精読しておく。 (事後) 子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。
5	教育の基礎理論④：教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	(事前) テキスト P.69～73 を精読しておく。 (事後) 教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。
6	教育の基礎理論⑤：近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	(事前) テキスト P.93～97 を精読しておく。 (事後) 近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。
7	教育の基礎理論⑥：家庭と教育	家庭において子どもはどのように扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。	(事前) テキスト P.86～90 を精読しておく。 (事後) 家庭における教育について整理しておく。
8	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ その1	「教育とは何か」について、コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの教育思想から考察する。	(事前) コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの人物像について調べる。 (事後) 4名の教育思想について整理しておく。
9	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ その2	前回取り上げた教育思想家4名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	(事前) 第8回で取り上げた4名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物1名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 (事後) 授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
10	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ その1	「教育とは何か」について、フレーベル・デューイ・モンテッソーリの教育思想から考察する。	(事前) フレーベル・デューイ・モンテッソーリの人物像について調べる。 (事後) 3名の教育思想について整理しておく。
11	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ その2	前回取り上げた教育思想家4名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	(事前) 第10回で取り上げた3名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物1名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 (事後) 授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
12	現代の教育理論：20世紀の教育理論	20世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P.29～32 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
13	現在の教育課題①：学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P.50～54 を精読しておく。 (事後) 学力問題について整理しておく。
14	現在の教育課題②：生涯学習の思想	現在の教育課題の一つである生涯学習について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P.147～151 を精読しておく。 (事後) 生涯学習の思想について整理しておく。
15	まとめ：今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。	(事前) テキスト P.169～178 を精読しておく。 (事後) 「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみる大切です。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	哲学する教育原理	伊藤潔志 編著	教育情報出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）	文部科学省	東山書房
	2	高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）	文部科学省	東山書房
	3	哲学する学校経営	伊藤潔志 編著	教育情報出版
評価方法 （基準）	<p>毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート（One Page Portfolio シート）の内容や授業中の学習の様子（60%）や学期末試験の結果（40%）等をもとに総合的に評価します。</p> <p>また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。</p>			
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 7 号館 4 階（谷口研究室）			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。			

科目名	教育心理学	科目名 (英文)	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学校での教育活動において教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになることを目標とする。
到達目標	① 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につける。 ② 各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。 ③ 教育心理学の基本的な考え方、基礎的な知識を得ることができる。 ④ 日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができる。
授業方法と留意点	講義中心で行う。事前に資料を moodle 上で配付するので、各自入手しておくこと。 必要に応じて、簡易実験やグループディスカッション等を行う。
科目学習の効果 (資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」10単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と	教育に対して心理学ができること、発達と教育	テキスト第0章1・第8章、配付資料による本時の予習と復習
2	こどもの発達1	乳幼児期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第9章、配付資料による本時の予習と復習
3	こどもの発達2	児童期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第10章・第11章、配付資料による本時の予習と復習
4	こどもの発達3	青年期①.....運動発達・言語発達・認知発達	テキスト第10章・第11章・第12章、配付資料による本時の予習と復習
5	こどもの発達4	青年期②.....社会性の発達	テキスト第10章・第11章・第12章、配付資料による本時の予習と復習
6	学習を支える認知機能1	思考.....人間の思考の特徴、メタ認知の機能と発達	テキスト第7章1、配付資料による本時の予習と復習
7	学習を支える認知機能2	言語.....言語の機能、言語理解・言語産出とその発達	テキスト第11章、配付資料による本時の予習と復習
8	学習を支える認知機能3	記憶.....記憶のメカニズムと発達	テキスト第4章・第5章、配付資料による本時の予習と復習
9	こどもの学び1	さまざまな学習①.....学習とは何か、主な学習理論の概観、条件づけ	テキスト第1章、配付資料による本時の予習と復習
10	こどもの学び2	さまざまな学習②.....観察学習、自己制御学習	テキスト第1章・第6章、配付資料による本時の予習と復習
11	学習を支える動機づけ1	意欲とは何か.....動機づけ過程、動機づけ理論	テキスト第2章・第3章、配付資料による本時の予習と復習
12	学習を支える動機づけ2	さまざまな意欲.....外発的動機づけ・内発的動機づけ、その他の視点、意欲の発達	テキスト第2章・第3章、配付資料による本時の予習と復習
13	学習を支える動機づけ3	意欲を育む.....こどもの発達と意欲、意欲を育む教育のあり方、学習と評価	テキスト第2章・第3章、配付資料による本時の予習と復習
14	学校における人間関係	教師-生徒の関係、生徒-生徒の関係、教師-教師の関係、集団としての学級	テキスト第0章2・第10章、配付資料による本時の予習と復習
15	個に応じた教育	個人差の理解と教育.....ATI、学習方略	テキスト第0章3・第6章・第7章2、配付資料による本時の予習と復習

関連科目	教職課程におけるすべての科目
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	絶対役立つ教育心理学—実践の理論、理論を实践—	藤田哲也 (編著)	ミネルヴァ書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	小テスト 30%、期末試験 70%
-----------	-------------------

学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 (吉田研究室)
----------	---------------

備考	Teams コード 火曜 5 限： o3hr1s8 木曜 1 限： 9oex0u1 木曜 5 限： j4uz0u4 金曜 5 限： 8h3rwzd
----	---

Moodle コース名と登録キー
火曜 5 限：2024 教育心理学（火 5）あるいは 24 教心（火 5） 2024EPTUE5
木曜 1 限：2024 教育心理学（木 1）あるいは 24 教心（木 1） 2024EPTHU1
木曜 5 限：2024 教育心理学（木 5）あるいは 24 教心（木 5） 2024EPTHU5
金曜 5 限：2024 教育心理学（金 5）あるいは 24 教心（金 5） 2024EPFRI5
・事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	教育課程論	科目名 (英文)	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鎌田 祥輝
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育課程 (カリキュラム) は、「子どもたちの成長と発達に必要な文化を組織した、全体的な計画とそれに基づく実践と評価を統合した営み」とされる。カリキュラムは、学習指導要領や教科書に示された教育内容を組織したものであるのみならず、子どもたちが実際に獲得した内容を含む概念である。そのため、子どもたちの学習経験を見取り、学習改善を行うために教育評価も欠かせない。本講義では、学習指導要領の変遷についての知識を修得するのみならず、カリキュラム編成を行う上で基盤となる原理や方法を理解することを求める。これらの理解を踏まえ、各自が取得を目指す免許教科の単元計画を構想できるようになることを目指す。
到達目標	(1) 教育課程やカリキュラムをめぐる基礎的な知識を修得している。 (2) カリキュラム編成の基本原則・編成方法を踏まえ、関連する他の教科・領域・学年の系統性を意識したカリキュラム編成を行うことができる。
授業方法と留意点	(1) 配布資料を中心に進める講義形式を基本とする。例外的に、各自が作成したカリキュラム編成レポートを持ち寄り、相互批評を行うグループワークを実施する回がある。その際には事前の準備が求められる。 (2) 期末課題の準備として、各自が取得を目指す免許教科の教科書を少なくとも1冊は入手すること (栄養教諭の場合は、関連する教科の教科書に目を通すこと)。 (3) 現行学習指導要領 (本文・解説) は文部科学省 HP からダウンロードすること。 (4) 授業資料は印刷して配布するほか、オンライン上で共有する。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション: 教育課程・カリキュラムとは何か	教育課程 (カリキュラム) とは何かを理解するとともに、カリキュラムをめぐる論点を概観する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
2	教育評価とは何か	教育評価の歴史を概観し、評定 (成績づけ) とは異なる教育評価の意義を学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
3	教育評価と教育目標	カリキュラム編成の要となる教育目標にまつわる論点を概観する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
4	学力評価の方法論	学力を把握するための様々な方法について学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
5	現行学習指導要領の特質をふまえたカリキュラム編成の方法	現行学習指導要領の特質、および、今求められているカリキュラムのあり方とその編成の方法を学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
6	カリキュラム編成原理1: 経験主義	経験主義カリキュラムの思想と実例を扱い、経験主義の特徴と課題を考察する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
7	カリキュラム編成原理2: 系統主義	系統主義カリキュラムの思想と実例を扱い、系統主義の特徴と課題を考察する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
8	日本における学習指導要領の歴史1	本講義の前半で学習したカリキュラム編成原理と結びつけながら、戦後～1980年代の学習指導要領の歴史と特徴を概観する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
9	日本における学習指導要領の歴史2	本講義の前半で学習したカリキュラム編成原理と結びつけながら、1990年代～現在の学習指導要領の歴史と特徴を概観する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
10	教育課程の思想と構造: 領域論、履修原理	教育課程を領域化する際に問われる問題、教育課程の履修原理に関する問題を学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
11	カリキュラム編成レポートの相互批評会	各自が作成したカリキュラム編成レポートを持ち寄り、相互批評を行おう。	授業終了時に示す文献を読む (1時間) カリキュラム編成レポートを作成する (20時間)
12	総合的な学習 (探究) の時間のカリキュラム	領域としての「総合的な学習 (探究) の時間」の意義とカリキュラムの事例を紹介する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
13	カリキュラム・マネジメントの意義と評価	カリキュラム・マネジメントの意義や重要性を確認する。カリキュラム評価の基礎的な考え方を概観する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
14	カリキュラム・マネジメントの具体例: 同和・人権教育	同和・人権教育や外国につながる子どもたちへの取り組みを取り上げ、現前の問題に取り組む学校のカリキュラムを学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む (1時間) カリキュラム編成レポートを改稿し提出する (10時間)
15	総括: 教育課程をめぐる論点	教育課程をめぐる論点をあらためて取り上げ、講義全体の振り返りをおこなう。	授業終了時に示す文献を読む (1時間) 定期試験に向けた準備をする (15時間)

関連科目 同時期開講の教育方法論と密接にリンクしている。教育課程論では一単元のカリキュラム編成を、教育方法論ではその単元に含まれる一時間の授業の指導案作成を求める。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の教育課程（第5版）	田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵	有斐閣
	2	新しい教育評価入門（増補版）	西岡加名恵・石井英真・田中耕治編	有斐閣
	3	新訂学習指導要領は国民形成の設計書	水原克敏・高田文子・遠藤宏美・八木美保子	東北大学出版会
評価方法 （基準）	<p>(1) 期末試験（50%）：教育課程にまつわる基礎的知識の修得を問う。</p> <p>(2) 授業内課題：カリキュラム編成レポート（50%）：各自が選んだ単元のカリキュラム編成を行う。現在求められるカリキュラムの在り方を踏まえているかどうか、教育目標と評価課題の妥当性、相互批評で出された意見を踏まえた改善を規準として評価する。</p> <p>評価基準（ループリック）の詳細は講義内で提示する。</p>			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館3階 鎌田研究室			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。 授業計画に記載している授業テーマは、授業の進捗状況や学生の関心に依りて変更することがある。			

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	科目名 (英文)	Methodolgy of Special Activities and Integrated Studies
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦 正典
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的
 特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。
 総合的な学習(探求)の時間の理論と指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探究的な学びの過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。

到達目標
 1 教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。
 2 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。
 3 合意形成に向けた学級での話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。
 4 総合的な学習(探求)の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成することの重要性について理解している。
 5 主体的・対話的で深い学びを実現する総合的な学習(探求)の時間の単元計画を作成することの重要性、探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立て、児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。

授業方法と留意点
 講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グルーワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。

科目学習の効果(資格)
 教職科目 特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法は、教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・特別活動及び総合的な学習(探求)の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第1章、講義資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料を参考に復習をする(2時間)。
2	特別活動の目標・内容・方法	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動	特別活動テキスト第2章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料を参考に復習する(2時間)。
3	学級活動・ホームルーム活動1	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり 個人ワーク:学級活動の年間計画の作成	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
4	学級活動・ホームルーム活動2	学級活動の実際と合意形成 グルーワーク:学級開きと年間計画の作成	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
5	生徒会活動・児童会活動	生徒会(児童会)活動の歴史・目標・内容。 学級経営に役立つワーク	特別活動テキスト第3章第2節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料を参考に復習をする(2時間)。
6	学校行事	学校行事の歴史・種類・内容・観点 グルーワーク:学校行事の思い出	特別活動テキスト第3章第3節を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
7	特別活動の指導計画の作成にあたっての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。(ABDによる)	教科書第4章第1節を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
8	特別活動の内容の取扱いについての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。(ABDによる)	教科書第4章第2節を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
9	特別活動の歴史	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、時代背景との関係 個別ワーク:戦後の特別活動の歴史をまとめる	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
10	外国における特別活動 特別活動の指導を担当する教師	諸外国ではどのような特別活動が行われているか理解する。 個別ワーク:特別活動を指導する教師に必要な力	特別活動テキスト第4章第4節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
11	総合的な学習(探求)の時間の目標・内容・原理	総合的な学習(探求)の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 グルーワーク:総合的な学習の思い出	総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
12	総合的な学習(探求)の時間の指導計画	全体計画、年間計画、単元計画の作成 学校現場で役立つワーク1	総合的な学習の時間のテキスト第5章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
13	探究的な学習の過程について	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び 学校現場で役立つワーク2	総合的な学習の時間のテキスト第2・7章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
14	総合的な学習(探求)の時間の評価	カリキュラムマネジメントの考え方による全体計画、年間計画、単元計画の評価、生徒の学習状況の評価 学校現場で役立つワーク3	総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
15	補足とまとめ/最終レポートについて	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。 個別ワーク:総合的な学習の時間を指導する教師に必要な力	・第1回目から14回目までの配布資料に目を通して全体を復習しておく。 ・課題に沿ったレポートを作成する。

関連科目
 すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことと関連づけるとともに、教育方法論、生徒指導論、道徳教育論、教育

	社会学などの学習につなげることが大切である。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示	文部科学省	東山書房
	2	中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 平成29年告示	文部科学省	東山書房
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示	文部科学省	東京書籍
	2	高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編 平成29年告示	文部科学省	学校図書
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加状況及び課題 (40%)、中間レポート (30%)、最終レポート (30%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだと言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するという事に尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス7号館3F松浦研究室			
備考	授業外学習総時間を60時間とする。			

科目名	教育方法論	科目名 (英文)	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鎌田 祥輝
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育方法の基礎的な知識・技術を修得し、今求められる教育・学びのあり方を踏まえた授業をデザインし、実践できるようになることを目的とする。受講生には学習指導案を作成するとともに、10分間の模擬授業の実施を求める。模擬授業の相互批評を体験することで、模擬授業による効果的なリフレクションの方法を学ぶ。これにより今後、受講生が自主的・主体的に授業を構想・実践し省察することを通して、教師として授業の力量を高めていけるようになることを目指す。
到達目標	(1) 教育方法の基礎的な知識・技術を修得している。 (2) 今求められる教育・学びのあり方を踏まえ、授業をデザインし、実践することができる。 (3) 模擬授業で起きた出来事をもとに省察し、授業を改善することができる。
授業方法と留意点	(1) 講義は対面で実施する。 (2) 前半は講義を中心とするが、受講生に発言を求めることがある。また、模擬授業検討会のあり方や授業観察の方法論を、授業記録・授業映像を用いて実践しながら学ぶ。後半は、受講生全員に学習指導案の作成と10分間の模擬授業の実施を求める。模擬授業は教師役として実施するだけでなく、生徒役として授業を受けて疑問や感想を出し、振り返ることも大切である。 (3) 授業資料は印刷して配布するほか、オンライン上で共有する。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育の方法及び技術術（情報機器及び教材の活用を含む。）

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション:授業とは何か	授業という営みの本質や、教師として授業の力量を高める方法論を概観する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)
2	今求められる教育・学びの在り方とは	社会の変化や教育政策の動向などを踏まえ、これからの社会を担う子どもたちに求められる学力や授業・学びのあり方を概観する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)	
3	教育目標の明確化と教育評価	教育目標を明確化する意味、目標に対応させた評価を指導や学習に活かす方法を学ぶ。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)	
4	教材研究の方法論	教材研究とは何か、すぐれた教材とはどのようなものかを、実例を通して学ぶ。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)	
5	学習のための空間作り	教室空間のデザインや ICT 活用を含む学習ツールの活用など、学習のための空間作りについて概観する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)	
6	技とテクノロジーの活用	板書、ノート指導、情報機器活用といった指導技術や、情報活用能力育成を志向する指導のあり方について学ぶ。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)	
7	学習指導案の意義と指導案作成	学習指導案を作成する意義や授業の構想力を高める指導案のあり方を学ぶ。また、指導案作成を書く際のポイントを紹介する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間) 模擬授業に向けて指導案作成と授業の練習を行う(10時間)	
8	模擬授業・検討会のあり方	授業で起きた出来事をもとに省察し、授業づくりの考え方を学ぶような模擬授業検討会のあり方を学び、実際に体験する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間) 模擬授業に向けて指導案作成と授業の練習を行う(10時間)	
9	授業観察の方法と授業をみる視点	授業観察の際、授業をどのような視点で検討すれば良いか、またどのような記録を残せばよいかを学ぶ。授業ビデオを用いて授業記録をとる練習を行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間) 模擬授業に向けて指導案作成と授業の練習を行う(10時間)	
10	模擬授業・検討会：教育目標・評価に着目して	模擬授業とリフレクションを実施する。特に目標と評価の対応に着目した振り返りを行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)	
11	模擬授業・検討会：教材に着目して	模擬授業とリフレクションを実施する。特に教材の活用(デジタル教材を含む)に着目した振り返りを行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)	
12	模擬授業・検討会：学習空間に着目して	模擬授業とリフレクションを実施する。特に学習のための空間作りに着目した振り返りを行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)	
13	模擬授業・検討会：技とテクノロジーの活用に着目して	模擬授業とリフレクションを実施する。特に指導技術や ICT 活用に着目した振り返りを行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)	
14	実践記録と力量形成	実践記録を読むこと・書くことを通して、教師として授業の力量を高めるための方法を学ぶ。実践記録を読み、考察する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)	
15	総括：教師としての力量形成	教師として授業の力量を高める方法論を、これまでの講義を振り返りながら総括する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間) 模擬授業の振り返りを踏まえて指導案を改稿する(15時間)	

関連科目 同時期開講の教育課程論と密接にリンクしている。教育課程論では1単元のカリキュラム編成を、教育方法論ではその単元に含まれる一時間の授業の指導案作成を求める。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	授業づくりの深め方	石井英真	ミネルヴァ書房
	2	授業づくりの考え方	渡辺貴裕	くろしお出版
	3	時代を拓いた教師たち	田中耕治編著	日本標準
評価方法 (基準)	(1) 模擬授業（学習指導案作成を含む）（50%）：学習指導案作成、および10分間の模擬授業を実施する。 (2) コメントカード・小課題（20%）：講義・模擬授業・検討会の振り返りを毎回の講義後に記入する。 (3) 授業内課題（30%）：模擬授業でうけた意見をもとに、学習指導案を改稿し提出する。 ※評価基準・規準（ルーブリック）は講義内で提示する。			
学生への メッセージ	授業のお知らせはTeamsを通して連絡します。必ずTeamsに登録してください。			
担当者の 研究室等	7号館3階(鎌田研究室)			
備考	事前・事後学習総時間を60時間とする。 受講生の人数により、模擬授業・検討会の実施日が増減する可能性がある。			

科目名	生徒指導論 (進路指導を含む)	科目名 (英文)	Studies of Guidance and Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西村 晃一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>昨年、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し続けている。いじめ・暴力行為・不登校・中途退学・自殺など多岐にわたり、課題が山積している。本講義では、生徒指導および進路指導について理解を深める。理論と実践の往還を重視し、具体的な事象を取り上げながら授業を展開することで、生徒指導の諸課題に対応し、進路指導を通じたキャリア教育の実現に寄与する。</p>
到達目標	<p>本講義を通して、生徒指導および進路指導の意義を理解する。児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題について研鑽を重ね、学校現場の問題点について主体的に考える素養を養う。また、進路指導では広くキャリア発達の視点から学び、将来教員になった際、子どもたちの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる力を培うことを目標とする。</p>
授業方法と留意点	<p>授業は対面形式で行う。PowerPointを用いながら授業を展開し、毎時間課題を提示する。また、Teamsのファイルより、各資料を共有する。本講義は、アクティブ・ラーニングを採用しているため、ディスカッションやKJ法、ロールプレイを通して理論と実践の往還を目指す。加えて、授業では教科書を使用するため、毎時間持参すること。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導及びキャリア教育の理論及び方法</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 生徒指導の基礎	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導の定義と目的 生徒指導の構造 (2軸3類4層構造) チーム支援による組織的対応 	教科書P.12～38 学習課題：子どもの権利条約
2	生徒指導と教育課程	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の発達を支える教育課程 教科、道徳科、総合的な学習 (探求) の時間、特別活動の各領域と生徒指導との関連 	教科書P.39～67 学習課題：探求学習の4STEP
3	チーム学校による生徒指導体制	<ul style="list-style-type: none"> チーム学校における学校組織と生徒指導体制 生徒指導と教育相談が一体となったチーム支援 	教科書P.68～118 学習課題：チーム学校
4	個別の課題に対する生徒指導：いじめ	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止対策推進法 いじめに関する生徒指導の重層的支援構造 関係機関等との連携体制 	教科書P.119～140 学習課題：いじめの定義と関係法規
5	個別の課題に対する生徒指導：暴力行為	<ul style="list-style-type: none"> 暴力行為に対する対応指針 暴力行為に関する生徒指導の重層的支援構造 関係機関等との連携体制 	教科書P.141～152 学習課題：暴力行為の定義
6	個別の課題に対する生徒指導：少年非行	<ul style="list-style-type: none"> 少年法と児童福祉法 少年非行の基本的な対応 喫煙、飲酒、薬物乱用 特定少年 	教科書P.153～170 学習課題：犯罪白書
7	個別の課題に対する生徒指導：児童虐待	<ul style="list-style-type: none"> 児童福祉法、児童虐待の防止に関する法律 学校の体制 虐待対応に対するアセスメント 	教科書P.171～188 学習課題：児童虐待の定義と虐待事例
8	個別の課題に対する生徒指導：自殺	<ul style="list-style-type: none"> 自殺対策基本法 自殺防止のための学校の組織体制と計画 関係機関との連携に基づく自殺予防の体制 	教科書P.189～208 学習課題：自殺の動向
9	個別の課題に対する生徒指導：中途退学、インターネットに関わる問題	<ul style="list-style-type: none"> 中途退学の関係法規と基本方針 インターネット問題への組織的取組 各課題に対する重層的支援構造 	教科書P.209～220, P.240～254 学習課題：インターネットトラブル
10	個別の課題に対する生徒指導：不登校	<ul style="list-style-type: none"> 不登校に関する関係法規と基本方針 不登校対応に求められる学校の組織的体制と計画 関係機関との連携体制 	教科書P.221～239 学習課題：不登校の定義、教育機会確保法
11	個別の課題に対する生徒指導：多様な背景を持つ児童生徒	<ul style="list-style-type: none"> 性に関する課題 発達障害に関する課題 支援を要する家庭状況 外国人児童生徒 	教科書P.255～289 学習課題：性的マイノリティ
12	進路指導とキャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育とは何か 進路指導とキャリア教育の歴史的背景 	キャリア教育の手引き (配布資料) 学習課題：4領域8能力
13	進路指導：キャリア教育を通して育成すべき「4領域8能力」	<ul style="list-style-type: none"> 4領域8能力 基礎的、汎用的能力 	キャリア教育の手引き (配布資料) 学習課題：キャリア教育
14	進路指導：中学校・高等学校における実践	<ul style="list-style-type: none"> 中学校におけるキャリア発達 高等学校におけるキャリア発達 校種間連携 	キャリア教育の手引き (配布資料) 学習課題：生徒指導と進路指導
15	生徒指導と進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導の諸課題 進路指導とキャリア教育の結び付き 総括 	学習課題：第1～14回で最も関心のあるトピックを1つ挙げて論述

関連科目	「教育の基礎的理解に関する科目」全般に関連する。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	生徒指導提要	文部科学省	東洋館出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）	文部科学省	
	2	高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）	文部科学省	
	3	生徒指導提要	文部科学省	
評価方法 （基準）	期末試験 60%，毎時間の課題・レポート 40%とする。			
学生への メッセージ	生徒指導とは、児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のことである。ゆえに、学生自身が自発的・主体的に学び、豊かな人間性を養う必要がある。本講義では、双方向の学習を取り入れている。積極的な参加を期待している。			
担当者の 研究室等	7号館3階 西村研究室			
備考	本講義は、複数の曜日時限が設けられている。必ず、自身が履修登録をしている曜日時限の Teams コードに登録すること。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度である。			

科目名	教師論	科目名 (英文)	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようにになっているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分どのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等 についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性 (1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性 (2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性 (3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性 (4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	文献・映像に基づく教師像の 探究 (1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	文献・映像に基づく教師像の 探究 (2)	「不良教師」と「熱血教師」(文献・映像 に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	文献・映像に基づく教師像の 探究 (3)	「人間教師」と「プロ教師」(文献・映像 に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	文献・映像に基づく教師像の 探究 (4)	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料
11	教員の役割・職務 (1)	学校・教室における指導者の視点からみた 教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
12	教員の役割・職務 (2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の 役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
13	教員の役割・職務 (3)	学校内外の連携の視点からみた教員の 役割・職務 (チーム学校運営への対応を 含む)	「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する 配布資料
14	教員の役割・職務 (4)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務 (5)	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	教員の勤務実態とメンタルヘルスに関する配布資料

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー 10%。定期試験を受験しなかった場合は評価不能 (評定なし) とします。

学生へのメッセージ 教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。
遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。

担当者の研究室等	朝日研究室；寝屋川キャンパス7号館3階
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ60時間程度です。

科目名	地域連携教育活動 I	科目名 (英文)	Community-Based Education Support Activities I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 朝日 素明, 鎌田 祥輝, 谷口 雄一, 西村 晃一, 松浦 正典
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	大学近隣の学校で、年間を通じて授業補助、学習支援、学校行事、課外活動等幅広く体験し、自己の適性を把握する機会をもち、人間的成長や社会意識の向上、教員としての愛情と使命感を深めることを目指す。																																																																		
到達目標	① 実際の教育現場を知る。 ② 自身の能力や適性を考え課題を自覚する。 ③ 社会的倫理観を確立する ④ 相手に合わせたコミュニケーションがとれる。 ⑤ ものごとを多面的に考察できる。																																																																		
授業方法と留意点	本科目はサービスマニエールの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。 活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・部活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ、年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。 原則として、はじめて「地域連携教育活動 I」を履修する学生を対象とする。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>事前指導 1</td> <td>活動についての心構え、活動内容の確認、活動計画作成準備。</td> <td>学外での活動に際し、活動内容や活動計画の内容を考える。(3時間程度)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>事前指導 2</td> <td>学校という教育現場、現在の児童・生徒について。マナーの確認。</td> <td>教育現場や児童、生徒への対応やマナーについて調べてくる。(3時間程度)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>事前指導 3</td> <td>「守秘義務」についての確認。</td> <td>守秘義務とは何かを調べてくる。(3時間程度)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>活動準備</td> <td>受け入れ校と協議し、活動計画を作成する。</td> <td>受入先との協議を行い、活動計画の素案を考えてくる。(3時間程度)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>活動 1~25</td> <td>受け入れ校にて活動 (日誌・活動時間票の提出)</td> <td>各種活動の事前準備および活動後の報告書(日誌等)の作成</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>活動報告会</td> <td>学外での活動をまとめ、報告会で発表する。</td> <td>事前：報告会での発表準備(3時間程度)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	事前指導 1	活動についての心構え、活動内容の確認、活動計画作成準備。	学外での活動に際し、活動内容や活動計画の内容を考える。(3時間程度)	2	事前指導 2	学校という教育現場、現在の児童・生徒について。マナーの確認。	教育現場や児童、生徒への対応やマナーについて調べてくる。(3時間程度)	3	事前指導 3	「守秘義務」についての確認。	守秘義務とは何かを調べてくる。(3時間程度)	4	活動準備	受け入れ校と協議し、活動計画を作成する。	受入先との協議を行い、活動計画の素案を考えてくる。(3時間程度)	5	活動 1~25	受け入れ校にて活動 (日誌・活動時間票の提出)	各種活動の事前準備および活動後の報告書(日誌等)の作成	6	活動報告会	学外での活動をまとめ、報告会で発表する。	事前：報告会での発表準備(3時間程度)	7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	事前指導 1	活動についての心構え、活動内容の確認、活動計画作成準備。	学外での活動に際し、活動内容や活動計画の内容を考える。(3時間程度)																																																																
2	事前指導 2	学校という教育現場、現在の児童・生徒について。マナーの確認。	教育現場や児童、生徒への対応やマナーについて調べてくる。(3時間程度)																																																																
3	事前指導 3	「守秘義務」についての確認。	守秘義務とは何かを調べてくる。(3時間程度)																																																																
4	活動準備	受け入れ校と協議し、活動計画を作成する。	受入先との協議を行い、活動計画の素案を考えてくる。(3時間程度)																																																																
5	活動 1~25	受け入れ校にて活動 (日誌・活動時間票の提出)	各種活動の事前準備および活動後の報告書(日誌等)の作成																																																																
6	活動報告会	学外での活動をまとめ、報告会で発表する。	事前：報告会での発表準備(3時間程度)																																																																
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	すべての科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、評価する。なお、評価割合はそれぞれ20%である。																																																																		
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室)、7号館3階(鎌田研究室)、7号館4階(谷口研究室)、7号館3階(西村研究室)、7号館3階(松浦研究室)、7号館3階(吉田研究室)																																																																		
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等にかかなりの時間を要します。1回の活動に対して、それぞれ1、2時間は必要です。																																																																		

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名 (英文)	Community-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 朝日 素明, 鎌田 祥輝, 谷口 雄一, 西村 晃一, 松浦 正典
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「地域連携教育活動Ⅰ」と異なる、あるいは同じ大学近隣の学校で、年間を通じて授業補助、学習支援、学校行事、課外活動等幅広く体験し、自己の適性を把握する機会をもち、人間的成長や社会意識の向上、教員としての愛情と使命感を深めることを目指す。																																																																		
到達目標	① 「地域連携教育活動Ⅰ」を受け、その体験をもとにさらに学びを深める。 ② 実際の教育現場を知る。 ③ 自身の能力や適性を考え課題を自覚する。 ④ 社会的倫理観を確立する ⑤ 相手に合わせたコミュニケーションがとれる。 ⑥ ものごとを多面的に考察できる。																																																																		
授業方法と留意点	本科目はサービスラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。 活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ、年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。 原則として、「地域連携教育活動Ⅰ」を履修した学生を対象とする。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>事前指導 1</td> <td>活動についての心構え、活動内容の確認、活動計画作成準備。</td> <td>学外での活動に際し、活動内容や活動計画の内容を考える。(3時間程度)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>事前指導 2</td> <td>学校という教育現場、現在の児童・生徒について。マナーの確認。</td> <td>教育現場や児童、生徒への対応やマナーについて調べてくる。(3時間程度)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>事前指導 3</td> <td>「守秘義務」についての確認。</td> <td>守秘義務とは何かを調べてくる。(3時間程度)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>活動準備</td> <td>受け入れ校と協議し、活動計画を作成する。</td> <td>受入先との協議を行い、活動計画の素案を考えてくる。(3時間程度)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>活動 1～25</td> <td>受け入れ校にて活動 (日誌・活動時間票の提出)</td> <td>各種活動の事前準備および活動後の報告書 (日誌等) の作成</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>活動報告会</td> <td>学外での活動をまとめ、報告会で発表する。</td> <td>事前：報告会での発表準備 (3時間程度)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	事前指導 1	活動についての心構え、活動内容の確認、活動計画作成準備。	学外での活動に際し、活動内容や活動計画の内容を考える。(3時間程度)	2	事前指導 2	学校という教育現場、現在の児童・生徒について。マナーの確認。	教育現場や児童、生徒への対応やマナーについて調べてくる。(3時間程度)	3	事前指導 3	「守秘義務」についての確認。	守秘義務とは何かを調べてくる。(3時間程度)	4	活動準備	受け入れ校と協議し、活動計画を作成する。	受入先との協議を行い、活動計画の素案を考えてくる。(3時間程度)	5	活動 1～25	受け入れ校にて活動 (日誌・活動時間票の提出)	各種活動の事前準備および活動後の報告書 (日誌等) の作成	6	活動報告会	学外での活動をまとめ、報告会で発表する。	事前：報告会での発表準備 (3時間程度)	7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	事前指導 1	活動についての心構え、活動内容の確認、活動計画作成準備。	学外での活動に際し、活動内容や活動計画の内容を考える。(3時間程度)																																																																
2	事前指導 2	学校という教育現場、現在の児童・生徒について。マナーの確認。	教育現場や児童、生徒への対応やマナーについて調べてくる。(3時間程度)																																																																
3	事前指導 3	「守秘義務」についての確認。	守秘義務とは何かを調べてくる。(3時間程度)																																																																
4	活動準備	受け入れ校と協議し、活動計画を作成する。	受入先との協議を行い、活動計画の素案を考えてくる。(3時間程度)																																																																
5	活動 1～25	受け入れ校にて活動 (日誌・活動時間票の提出)	各種活動の事前準備および活動後の報告書 (日誌等) の作成																																																																
6	活動報告会	学外での活動をまとめ、報告会で発表する。	事前：報告会での発表準備 (3時間程度)																																																																
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	すべての科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、活動報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、評価する。なお、評価割合はそれぞれ20%である。																																																																		
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館3階 (朝日研究室)、7号館3階 (鎌田研究室)、7号館4階 (谷口研究室)、7号館3階 (西村研究室)、7号館3階 (松浦研究室)、7号館3階 (吉田研究室)																																																																		
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等かなりの時間を要します。1回の活動に対して、それぞれ1、2時間は必要です。																																																																		

科目名	教育における情報通信技術の活用	科目名 (英文)	ICT for Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本 はる美
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育現場における情報通信技術の活用について、その歴史的経緯と今後のあり方について理解し、情報モラルと情報活用能力を活用した指導方法、評価方法などについて学修することで、担当教員に必要となる基礎的知識や資質を養う。また、情報通信技術を用いて模擬授業を行い、授業を展開できる能力を身につけることを目指す。
到達目標	教育現場における情報通信技術の活用と意義を理解し、教員に求められる幅広い知識を身につけるとともに、情報通信技術を活用した教育指導技術の向上を図る。また、授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して、授業での情報通信技術の活用や授業準備、学習評価などで必要となる技能について身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。
授業方法と留意点	授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して、授業での情報通信技術の活用や授業準備、学習評価などで必要となる技能について身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。
科目学習の効果 (資格)	【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：情報通信技術を活用した教育の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	情報通信技術の歴史的経緯 教育現場における情報通信技術の活用のあり方	事前：情報通信技術とは何かを調べる (120分) 事後：これまでに受けた授業で情報通信技術を使った例と簡単な説明を考える (120分)
2	教育分野で情報通信技術を活用するための意義と役割	デジタル教材や遠隔授業などの活用事例の紹介 情報セキュリティとデータの活用、校務の活用への推進	事前：情報通信技術を活用した授業事例のメリットと課題を書き出す (120分) 事後：デジタル教材や遠隔授業についてまとめる (120分)
3	情報セキュリティ、情報モラル、情報活用能力	ICT環境と情報セキュリティ 情報モラルの教育 オフィスソフトの活用	事前：大学のICT環境と教育ツールについてまとめる (120分) 事後：授業で出された課題の取り組み (120分)
4	ICT環境の整備と教育データの活用	学習者の多様性に対応するためのツールや機能の活用 教育データ等を使った指導や学習評価への活用	事前：アクセシビリティについて調べる (120分) 事後：授業で出された課題の取り組み (120分)
5	デジタル教材と遠隔授業の研究	情報通信技術を活用した教材と指導法の作成 遠隔授業への活用	事前：デジタル教材の内容を計画する (120分) 事後：作成したデジタル教材の修正をする (120分)
6	デジタル教材の研究 (グループ)	情報通信技術を活用した教材と指導法の検討	事前：指導法を作成する (120分) 事後：作成した指導法の見直しをする (120分)
7	模擬授業 (グループ)	情報通信技術を活用した指導の実践	事前：模擬授業の練習をする (120分) 事後：模擬授業を振り返る (120分)
8	模擬授業の振り返り	情報通信技術を活用した教材と模擬授業の評価	事前：模擬授業の課題を考える (120分) 事後：模擬授業の振り返りと課題 (120分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	情報リテラシー科目
------	-----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	改訂4版 情報モラル&情報セキュリティ	株式会社通ラーニングメディア	FOM出版
2	ICT活用指導力アップ 教育の情報化 教員になるための情報教育入門	梅田恭子他	実教出版
3	ICT活用の理論と実践 DX時代の教師をめざして	稲垣忠・佐藤和紀	北大路書房

評価方法 (基準)	授業中の課題とレポート (60%)、授業中に作成した教材と模擬授業の教材と発表 (40%) をもとに総合して評価する
-----------	--

学生へのメッセージ	各自のITスキルを使って教育にどれだけ活用するかが重要ですので、主体的に学習に取り組んでください。
-----------	---

担当者の研究室等備考	11号館8階 橋本研究室
------------	--------------

科目名	大学教養実践	科目名 (英文)	Practical Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	新居 英志, 加野 佑弥, 坂口 有芸, 森 亜貴, 米本 涼
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1458a1, L科: LKY1360a1, D科・S科: IKY1367a1, J科: JKY1369a1, W科: WKY1348a1		

授業概要・目的
この科目は、チームで協働して読書を行い、プレゼンテーションと対話を通じて、学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です。前期開講の大学教養入門のステップアップの講座としての位置づけです。
本科目の目的は、大学生として必要な教養として、文学、社会学や経済学の入門的知識を身につけ、その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します。そして、知識としての教養を実社会での実践にむすびつけることを目指します。

- 到達目標**
- (1) 大学生として必要な教養レベルを身につけ、実践的に討議することができる。
 - (2) ABDによる読書法の基礎（要約、プレゼンテーション、対話）を身に付けている。
 - (3) 自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができる。
 - (4) チームワーク能力やリーダーシップを身に付けている。
 - (5) わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる。
 - (6) テーマにそった対話（感想、質疑応答）を行うことができる。
 - (7) 自主学習の習慣を身に付けている。

授業方法と留意点
授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。大学生として必要な教養を身につけ、身につけた教養、知識をもとに、社会課題の解決策を協働学習により検討します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。

科目学習の効果 (資格)
大学生に必要な教養の知識が身につく、それを元に社会課題について討議できる。 ABD や QFT 等の協働学習の方法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 私たちはいま、どこにいるのか？	アイスブレイク 事前アンケート 授業のルール 解説（教科書、ABDとは） 協働学習（p.18-47：要約、プレゼン、対話）、振り返りシート	『おとなの教養2』序章を読み、事前学習シートを作成する。
2	私たちはいま、どこにいるのか？ 第一章「AIとビッグデータ」	チーム分け、役割分担、確認試験 解説（振り返りシート） 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習（要約、プレゼン、対話） 振り返りシート	教科書第一章を読み、事前学習シートを作成する。
3	私たちはいま、どこにいるのか？ 第二章「キャッシュレス社会と仮想通貨」	解説（事前学習シート）、確認試験 協働学習（要約、プレゼン、対話） 振り返りシート	教科書第二章を読み、事前学習シートを作成する。
4	私たちはいま、どこにいるのか？ 第三章「想像の共同体」	解説（事前学習シート）、確認試験 協働学習（要約、プレゼン、対話） 投票と表彰、振り返りシート	教科書第三章を読み、事前学習シートを作成する。 ポスター・プレゼンの準備を行う（2時間程度）
5	私たちはいま、どこにいるのか？ 中間発表1回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート	教科書第四章～第六章を読み、事前学習シートを作成する。 事後学習：第1回レポート
6	説明力を鍛えるヒント： 第一章「間違いだらけの数学観」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	『数学的思考法』第一章を読み、事前学習シートを作成する。
7	説明力を鍛えるヒント： 第二章「試行錯誤という思考法」	QFT（質問づくり） 協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	教科書第二章を読み、事前学習シートを作成する。
8	説明力を鍛えるヒント： 第三章「数学的思考のヒント」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	教科書第三章を読み、事前学習シートを作成する。
9	説明力を鍛えるヒント： 第四章「論理的な説明の鍵」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	教科書第四章を読み、事前学習シートを作成する。
10	説明力を鍛えるヒント 中間発表2回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート	ポスター・プレゼンの準備を行う（2時間程度） 事後学習：第2回レポート
11	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習（要約、プレゼン、対話） 振り返りシート	『星の王子さま』1～10章を読み、事前学習シート（要約、感想）を作成する（2時間程度）
12	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習（要約、プレゼン、対話） 振り返りシート	教科書 11～20章を読み、事前学習シートを作成する
13	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説、確認試験 協働学習（要約、プレゼン、対話） 振り返りシート	教科書 21～27章を読み、事前学習シートを作成する
14	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説、確認試験 協働学習（要約、プレゼン、対話）	教科書あとがきを読み、事前学習シートを作成する

			QFT (中間発表のテーマ出し) 振り返りシート																	
	15	教養として文学作品に触れる：中間発表3回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート 事後アンケート	ポスター・プレゼンの準備を行う (2時間程度) 事後学習：第3回レポート																
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>おとなの教養2</td> <td>池上彰</td> <td>NHK 出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>星の王子さま</td> <td>サン＝テグジュペリ</td> <td>新潮文庫</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>数学的思考法—説明力を鍛えるヒント</td> <td>芳沢 光雄</td> <td>講談社現代新書</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	おとなの教養2	池上彰	NHK 出版	2	星の王子さま	サン＝テグジュペリ	新潮文庫	3	数学的思考法—説明力を鍛えるヒント	芳沢 光雄	講談社現代新書
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	おとなの教養2	池上彰	NHK 出版																	
2	星の王子さま	サン＝テグジュペリ	新潮文庫																	
3	数学的思考法—説明力を鍛えるヒント	芳沢 光雄	講談社現代新書																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み 15% ・プレゼン 15% ・レポート 20% ・振り返りシート 15% ・クイズ 15% ・事前学習シート 15% ・ファイリング 5% <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。</p>																			
学生への メッセージ	この授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎、コミュニケーション力、ファシリテーション力、と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。																			
担当者の 研究室等	【寝屋川キャンパス】 坂口有芸(7号館5F)，新居英志(7号館5F)，森亜貴(2号館2Fラーニングセンター)．加野佑弥(7号館5階)，米本研究室(7号館5階)																			
備考	この科目は前期の大学教養入門と同じスタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。この授業は原則的に対面で実施します。やむを得ず、遠隔授業やハイブリッドで実施する場合も顔が見えることを出席の条件とします。																			

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村 忠
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~1JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	社会人に必要とされる基礎学力の修得を目指し総合的に学習します。基礎学力の中でも数的能力・言語能力は社会人として仕事をする上で必須のもので、早めに取り組むことを推奨します。この授業では、数的能力・言語能力を幅広く扱いますが、特に日常生活・仕事での活用頻度が高く、かつ採用試験での高いハードルとなる「数的能力の強化」をメインに取り組みます。講師は広告・出版業界や教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達すること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	基礎数学をメインに学習します。授業は実践形式で、様々な問題にチャレンジした上で解説を聴講し理解を深めます。採用試験 (SPI や玉手箱等の総合適性検査) 対応力をつけるために、予習・復習を確実にを行い疑問を残さないよう心がけてください。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力を獲得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと (目安: 30分)・実力テストを復習しておくこと (目安: 30分)
2	数的思考①	割合の活用① 方程式立式・割合計算の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	数的思考②	割合の活用② 濃度算・仕事算・損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	資料解釈①	言語理解 (文章読解) 表・資料の読み取り① 基礎問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	資料解釈②	表・資料の読み取り② 応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	資料解釈③	表・資料の読み取り③ 実践問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと (目安: 2.5時間)

関連科目 コミュニケーション能力開発、数的能力開発

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選! 数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 小テスト (30%)、中間テスト (20%)、期末テスト (40%)、SmartSPI (10%)

学生へのメッセージ 数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。

担当者の研究室等 寝屋川キャンパス 7号館3階 全学教育機構

備考

科目名	海外語学研修	科目名 (英文)	Overseas Language Training
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	ブルボット サジヤト
ディプロマポリシー (DP)	DP1⑩, DP8Δ		
科目ナンバリング	GEN1327c1		

<p>授業概要・目的</p>	<p>本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程 (GCMP) の必修科目の一つである。GCMP は、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン (地球市民) の育成を目指す副専攻である。GCMP は、国連が定める持続可能な開発目標 (SDGs) 目標 4.7 「2030 年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」に資するものである。</p> <p>本科目の受講生は、グローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習 (応用) での学びに生かすことが期待される。</p> <p>なお、本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程 (GCMP) の履修者を想定し、GCMP の必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習 (入門)」と「海外語学研修」は目標や学習内容を共有する。</p>																
<p>到達目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。 ・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 ・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。 ・事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。TOEIC (英語の場合) の得点アップなど、客観的指標での成果も得る。 ・英語力または現地言語の能力が不十分、現地事情の理解が不十分などの理由で、「理想とするレベルでの相互理解や信頼関係の構築には至らなかった」という挫折体験も得る。挫折体験と、その体験を帰国後の学びに生かすための計画を自身の言葉で説明できる。 <p>※以上に加え、各派遣先に特化した到達目標を設定する場合がある。</p>																
<p>授業方法と留意点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前授業、現地派遣、事後授業の 3 つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5 限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合 (アルバイト、旅行等) による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 ・グローバル・シチズンシップ副専攻課程を履修する学生の履修を想定しているが、そうでない学生が本科目を単独で履修することもできる。 ・年度末にあたる 2～3 月に現地派遣される海外派遣プログラムに参加する場合、単位が認定される年度は翌年度となる。 																
<p>授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題</p>	<p>年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会～事前授業～現地派遣～事後授業のサイクルが、年間 2 回実施される。() 内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の 2～3 月になる場合のスケジュールである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集説明会：4 月中旬 (9 月下旬～10 月上旬) ・事前授業 10 回：6 月中下旬～7 月下旬 (11 月～2 月) ・現地派遣：2 週間程度 8 月中旬～9 月上旬 (2 月中下旬～3 月下旬) ・事後授業 5 回 (成果報告会含む)：9 月～10 月中旬 (3 月～4 月下旬) <p>【注意】新型コロナウイルス拡大の影響により、海外に渡航できない場合は、オンラインプログラムでの実施になる予定です。詳細は随時ポータルサイトで連絡します。</p> <p>本科目を受講する学生は、まずグローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのうちいずれかに参加申し込みをしない。各派遣プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の 2～3 月に現地派遣されるプログラムの場合は、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。</p> <p>事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標 (SDGs) についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地が必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、グローバル教育センターが提供する英語ワークショップである ECW (English Conversation Workshop)、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALL の英語 e-learning サービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。</p> <p>派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまってはいけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるよう行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。</p> <p>事後授業では、現地地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとつての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書 (レポート) および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。</p>																
<p>関連科目</p>	<p>グローバル・シチズンシップ論 (入門)、グローバル・シチズンシップ論 (応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習 (応用)、Topics in Global Citizenship (EMI)、摂南大学 PBL プロジェクト I など</p>																
<p>教科書</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
<p>参考書</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2							
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	

	3		
評価方法 (基準)	事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合) 現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)		
学生への メッセージ	在学中に一度は海外に行きましょう。いけるなら二度行きましょう。二度行けるなら、グローバル・シチズンシップ副専攻の入門、応用の実習で二度行きましょう。		
担当者の 研究室等	各海外派遣プログラムに関する相談、グローバル・シチズンシップ副専攻プログラム全体に関する相談は3号館1階グローバル教育センターまで 教員室1 (2号館2階)		
備考			